

石垣市
男女共同参画に関する意識調査

調査結果報告書

令和8年3月

石垣市

- 目 次 -

第1章 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
(1) 個人意識調査	1
(2) 事業所意識調査	1
(3) こども意識調査	1
(4) 市職員意識調査	1
3. 調査結果の見方	2

第2章 調査結果（個人意識調査）

1. 回答者の属性	3
2. 男女平等に関する意識、慣習について	7
3. 家庭生活などについて	15
4. 仕事のことについて	25
5. 女性の活躍について	32
6. 配偶者などからの暴力について	38
7. 性の多様性について	50
8. 男女共同参画行政について	53

第3章 調査結果（事業所意識調査）

1. 事業所の概要について	56
2. 事業所の男女共同参画への取り組みについて	59
3. 仕事のことについて	62
4. ハラスメントについて	65
5. 育児・介護休業について	67
6. 男女共同参画行政について	70

第4章 調査結果（こども意識調査 小学生）

1. 回答者の属性	74
2. 男女の役割などについて	75
3. 将来について	86

第5章 調査結果（こども意識調査 中学生）

1. 回答者の属性	87
2. 男女の役割などについて	88
3. 男女共同参画について	97
4. 将来について	105

第6章 調査結果（市職員意識調査）

1. 回答者の属性	106
2. 男女平等に関する意識、慣習について	109
3. 育児休業・介護休業の取得について	113

第7章 参考資料（各種調査票）

1. 個人意識調査票	134
2. 事業所意識調査票	148
3. こども意識調査票（小学生）	157
4. こども意識調査票（中学生）	160
5. 市職員意識調査票	164

第1章 調査概要

1. 調査目的

第4次石垣市男女共同参画計画を策定するにあたり、市民、事業所の男女共同参画に関する意識や実態、ニーズを把握するとともに、計画の施策を検討するための基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

(1) 個人意識調査

調査対象者	市内在住の20歳以上の男女
調査票配布数	2,000人
調査方法	郵送配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式
調査期間	令和7年9月22日～令和7年10月10日
有効回収数（率）	740票（37.0%）

(2) 事業所意識調査

調査対象者	市内の個人事業所を除く商工会加盟企業
調査票配布数	300社
調査方法	郵送配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式
調査期間	令和7年9月22日～令和7年10月10日
有効回収数（率）	126票（42.0%）

(3) こども意識調査

調査対象者	市内小学5年生、中学2年生
調査票配布数	小学5年生：508名、中学2年生：544人
調査方法	WEB回答方式
調査期間	令和7年9月26日～令和7年10月10日
有効回収数（率）	小学生：322票（63.4%）、中学生：276票（50.7%）

(4) 市職員意識調査

調査対象者	市職員
調査票配布数	1,088人
調査方法	各部署を通じて配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式
調査期間	令和7年9月26日～令和7年10月10日
有効回収数（率）	423票（38.9%）

3. 調査結果の見方

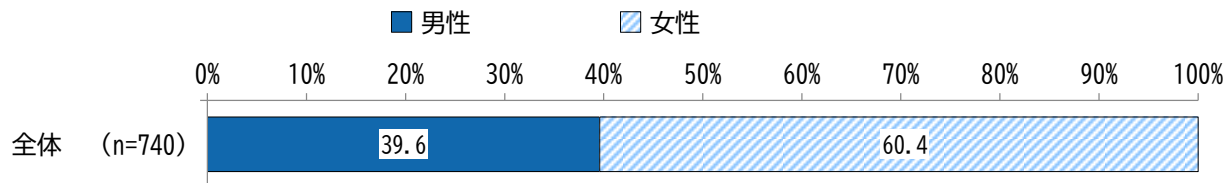
- ・ グラフ・表中の「n」は質問に対する回答者数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合もあります。
- ・ クロス集計表で着目している数値は必ずしも最も高い値ではありません。全体の値を基準に数値の開きが+と-で大きいものを選択して検証しています。

第2章 調査結果（個人意識調査）

1. 回答者の属性

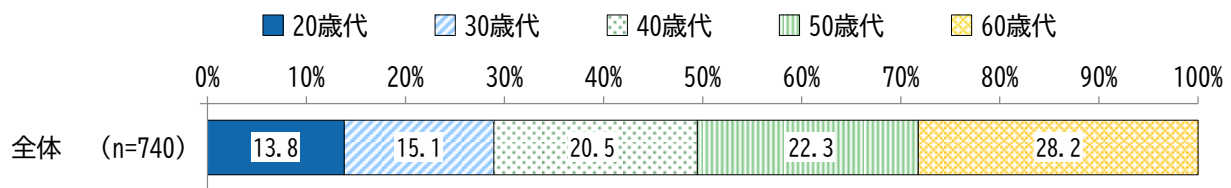
問1 あなたの性別はどちらですか。（自認している性別）（○は1つ）

- 全体では、「女性」が60.4%、「男性」が39.6%となっている。



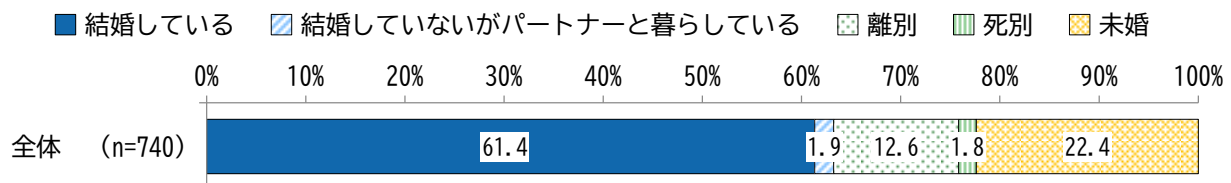
問2 年齢はおいくつですか。（○は1つ）

- 全体では、「60歳代」が28.2%で最も高く、次いで「50歳代」が22.3%、「40歳代」が20.5%となっている。



問3 あなたは、現在結婚していますか。（○は1つ）

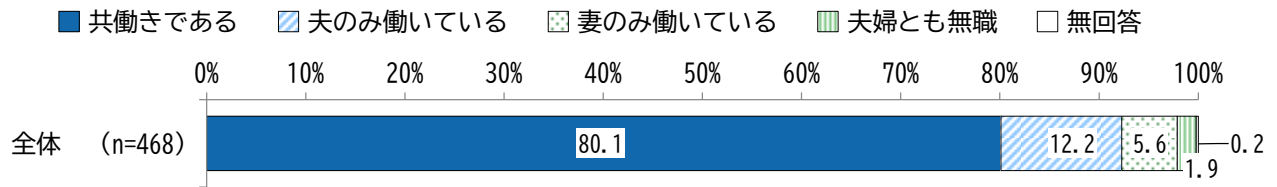
- 全体では、「結婚している」が61.4%で最も高く、次いで「未婚」が22.4%、「離別」が12.6%となっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

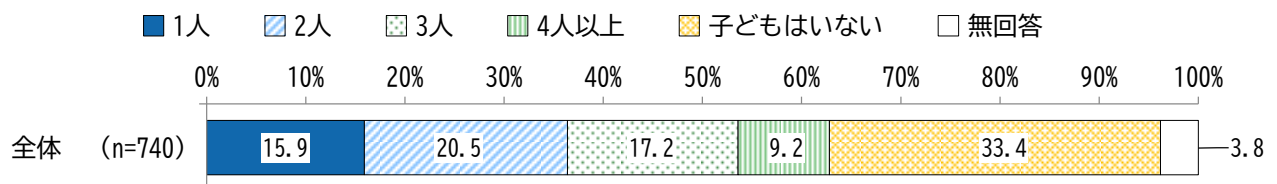
問4 あなたは共働きですか。（出産、育児などで休業中の方は働いているものとみなします）
（○は1つ）

- 全体では、「共働きである」が80.1%、「夫のみ働いている」が12.2%となっている。



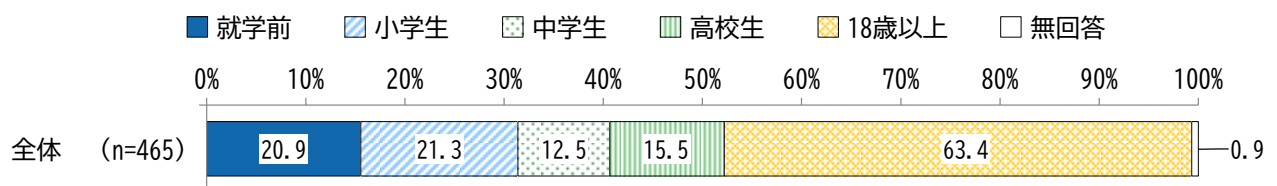
問5 あなたはお子さんがいますか。（○は1つ）

- 全体では、「子どもはいない」が33.4%で最も高く、次いで「2人」が20.5%、「3人」が17.2%となっている。



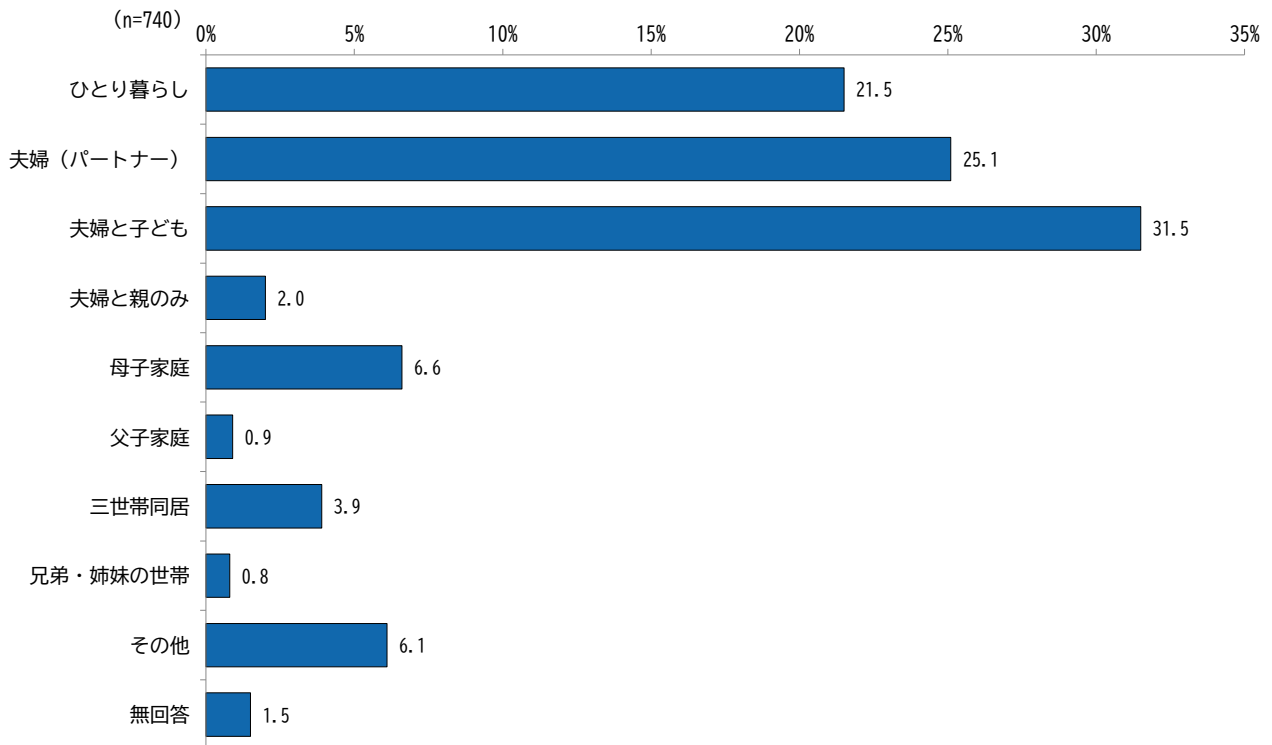
問6 お子さんはどちらにあたりますか。（○はいくつでも）

- 全体では、「18歳以上」が63.4%で最も高く、次いで「小学生」が21.3%、「就学前」が20.9%となっている。



問7 あなたは現在どのような家族構成ですか。（○は1つ）

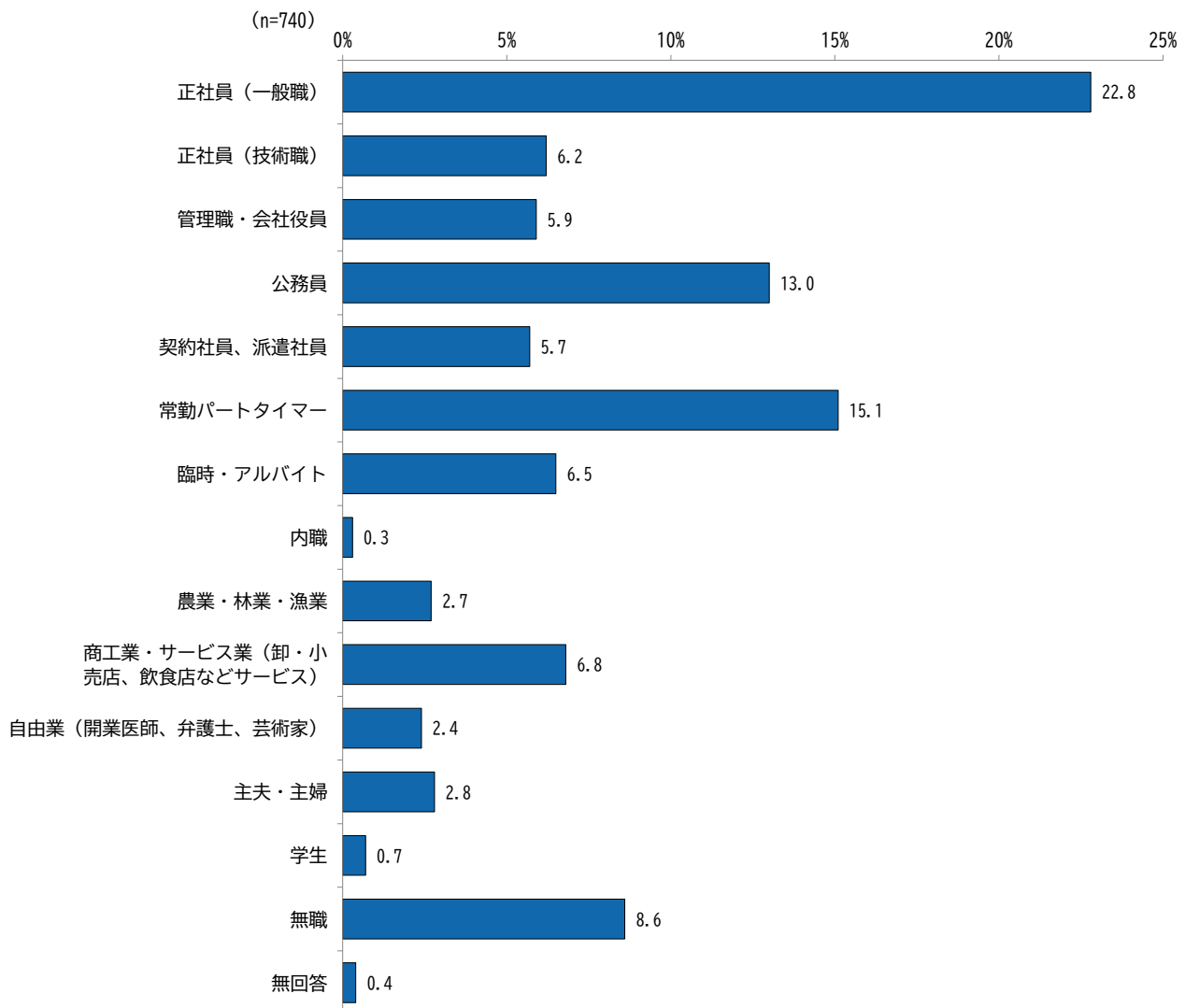
- 全体では、「夫婦と子ども」が31.5%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）」が25.1%、「ひとり暮らし」が21.5%となっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

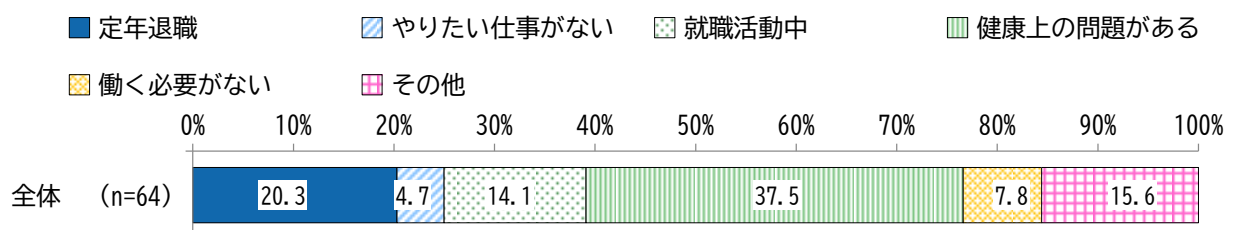
問8 あなたの職業は何ですか。次の1～14の中から1つお選びください。（出産、育児などで休業中の方は働いているものとみなします）（○は1つ）

- 全体では、「正社員（一般職）」が22.8%で最も高く、次いで「常勤パートタイマー」が15.1%、「公務員」が13.0%となっている。



問9 現在、仕事をしていない理由をお答えください。（○は1つ）

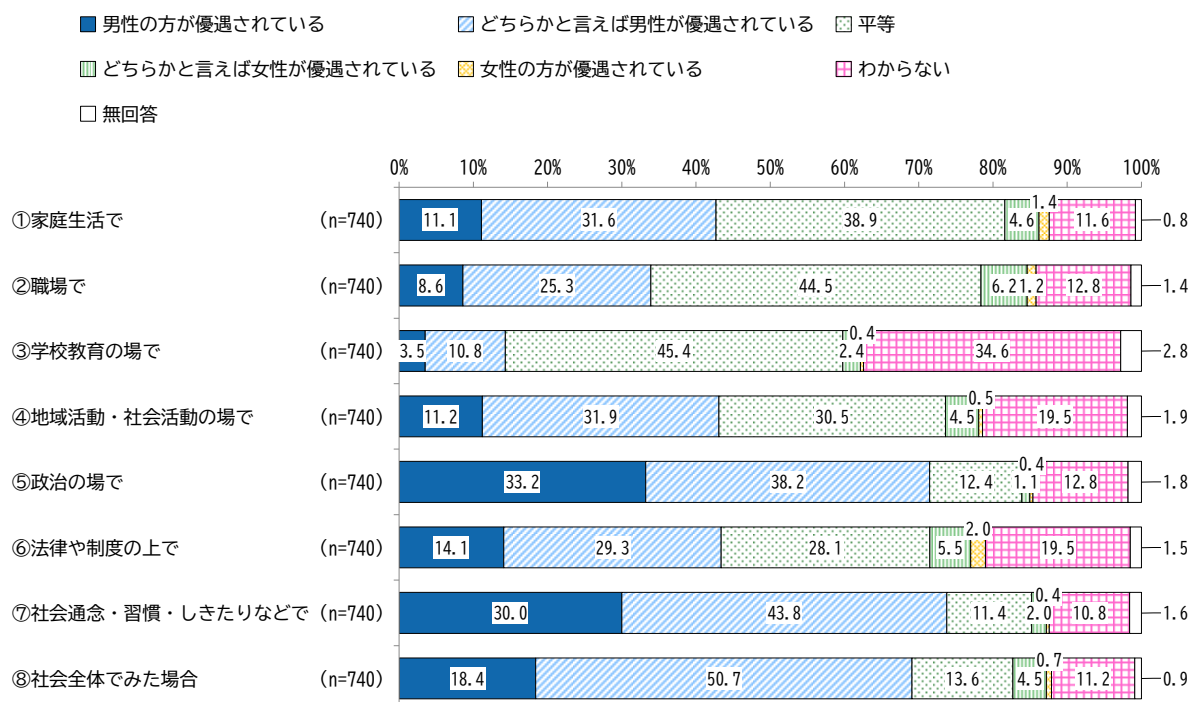
- 全体では、「健康上の問題がある」が37.5%で最も高く、次いで「定年退職」が20.3%、「就職活動中」が14.1%となっている。



2. 男女平等に関する意識、慣習について

問10 あなたは、次にあげる①～⑧の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(〇はそれぞれに1つ)

- 「①家庭生活で」では、「平等」が38.9%で最も高い。性別でみると、男性優遇と感じる回答（「男性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば男性が優遇されている」の合計）は、男性が30.7%、女性が50.5%で19.8ポイントの差がある。
- 「②職場で」では、「平等」が44.5%で最も高い。
- 「③学校教育の場で」では、「平等」が45.4%で最も高い。
- 「④地域活動・社会活動の場で」では、「平等」が30.5%で最も高い。性別でみると、男性優遇と感じる回答は、男性が30.3%、女性が51.5%で21.2ポイントの差がある。
- 「⑤政治の場で」では、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が38.2%で最も高い。性別でみると、男性優遇と感じる回答は、男性が59.7%、女性が79.2%で19.5ポイントの差がある。
- 「⑥法律や制度の上で」では、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が29.3%で最も高い。性別でみると、男性優遇と感じる回答は、男性が30.7%、女性が51.7%で21.0ポイントの差がある。
- 「⑦社会通念・習慣・しきたりなどで」では、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が43.8%で最も高い。
- 「⑧社会全体でみた場合」では、「どちらかといえは男性が優遇されている」が50.7%と最も高くなっている。性別でみると、男性優遇と感じる回答は、男性が59.7%、女性が75.1%で15.4ポイントの差がある。



第2章 調査結果（個人意識調査）

① 家庭生活で

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	740	82	234	288	34	10	86	6
	100.0	11.1	31.6	38.9	4.6	1.4	11.6	0.8
性別	男性	293	18	72	144	19	5	34
		100.0	6.1	24.6	49.1	6.5	1.7	11.6
女性	447	64	162	144	15	5	52	5
		100.0	14.3	36.2	32.2	3.4	1.1	11.6
年齢	20歳代	102	5	21	55	5	2	14
		100.0	4.9	20.6	53.9	4.9	2.0	13.7
	30歳代	112	8	40	40	6	2	16
		100.0	7.1	35.7	35.7	5.4	1.8	14.3
	40歳代	152	18	46	64	8	4	12
		100.0	11.8	30.3	42.1	5.3	2.6	7.9
50歳代	165	17	53	65	8	2	19	1
		100.0	10.3	32.1	39.4	4.8	1.2	11.5
60歳代	209	34	74	64	7	-	25	5
		100.0	16.3	35.4	30.6	3.3	-	12.0

② 職場で

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	740	64	187	329	46	9	95	10
	100.0	8.6	25.3	44.5	6.2	1.2	12.8	1.4
性別	男性	293	21	57	150	31	6	26
		100.0	7.2	19.5	51.2	10.6	2.0	8.9
女性	447	43	130	179	15	3	69	8
		100.0	9.6	29.1	40.0	3.4	0.7	15.4
年齢	20歳代	102	7	19	52	5	3	15
		100.0	6.9	18.6	51.0	4.9	2.9	14.7
	30歳代	112	10	28	41	16	-	16
		100.0	8.9	25.0	36.6	14.3	-	14.3
	40歳代	152	17	30	68	13	3	20
		100.0	11.2	19.7	44.7	8.6	2.0	13.2
50歳代	165	8	46	86	9	2	13	1
		100.0	4.8	27.9	52.1	5.5	1.2	7.9
60歳代	209	22	64	82	3	1	31	6
		100.0	10.5	30.6	39.2	1.4	0.5	14.8

③ 学校教育の場で

(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	26	80	336	18	3	256	21
		100.0	3.5	10.8	45.4	2.4	0.4	34.6	2.8
性別	男性	293	8	21	155	11	3	89	6
		100.0	2.7	7.2	52.9	3.8	1.0	30.4	2.0
性別	女性	447	18	59	181	7	-	167	15
		100.0	4.0	13.2	40.5	1.6	-	37.4	3.4
年齢	20歳代	102	5	10	42	8	1	34	2
		100.0	4.9	9.8	41.2	7.8	1.0	33.3	2.0
	30歳代	112	2	8	57	-	1	44	-
		100.0	1.8	7.1	50.9	-	0.9	39.3	-
	40歳代	152	4	10	80	5	1	50	2
		100.0	2.6	6.6	52.6	3.3	0.7	32.9	1.3
年齢	50歳代	165	4	25	77	2	-	55	2
		100.0	2.4	15.2	46.7	1.2	-	33.3	1.2
年齢	60歳代	209	11	27	80	3	-	73	15
		100.0	5.3	12.9	38.3	1.4	-	34.9	7.2

④ 地域活動・社会活動の場で

(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	83	236	226	33	4	144	14
		100.0	11.2	31.9	30.5	4.5	0.5	19.5	1.9
性別	男性	293	20	69	127	23	2	47	5
		100.0	6.8	23.5	43.3	7.8	0.7	16.0	1.7
性別	女性	447	63	167	99	10	2	97	9
		100.0	14.1	37.4	22.1	2.2	0.4	21.7	2.0
年齢	20歳代	102	15	19	35	4	1	26	2
		100.0	14.7	18.6	34.3	3.9	1.0	25.5	2.0
	30歳代	112	14	33	32	5	-	27	1
		100.0	12.5	29.5	28.6	4.5	-	24.1	0.9
	40歳代	152	19	41	50	8	1	32	1
		100.0	12.5	27.0	32.9	5.3	0.7	21.1	0.7
年齢	50歳代	165	12	64	48	11	-	26	4
		100.0	7.3	38.8	29.1	6.7	-	15.8	2.4
年齢	60歳代	209	23	79	61	5	2	33	6
		100.0	11.0	37.8	29.2	2.4	1.0	15.8	2.9

第2章 調査結果（個人意識調査）

⑤ 政治の場で

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	246	283	92	8	3	95	13
		100.0	33.2	38.2	12.4	1.1	0.4	12.8	1.8
性別	男性	293	77	98	61	6	3	44	4
		100.0	26.3	33.4	20.8	2.0	1.0	15.0	1.4
性別	女性	447	169	185	31	2	-	51	9
		100.0	37.8	41.4	6.9	0.4	-	11.4	2.0
年齢	20歳代	102	39	25	20	-	1	17	-
		100.0	38.2	24.5	19.6	-	1.0	16.7	-
	30歳代	112	47	39	13	1	1	11	-
		100.0	42.0	34.8	11.6	0.9	0.9	9.8	-
	40歳代	152	57	52	19	1	1	21	1
		100.0	37.5	34.2	12.5	0.7	0.7	13.8	0.7
年齢	50歳代	165	51	74	16	1	-	19	4
		100.0	30.9	44.8	9.7	0.6	-	11.5	2.4
年齢	60歳代	209	52	93	24	5	-	27	8
		100.0	24.9	44.5	11.5	2.4	-	12.9	3.8

⑥ 法律や制度の上で

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	104	217	208	41	15	144	11
		100.0	14.1	29.3	28.1	5.5	2.0	19.5	1.5
性別	男性	293	20	70	113	24	12	52	2
		100.0	6.8	23.9	38.6	8.2	4.1	17.7	0.7
性別	女性	447	84	147	95	17	3	92	9
		100.0	18.8	32.9	21.3	3.8	0.7	20.6	2.0
年齢	20歳代	102	16	18	33	5	5	24	1
		100.0	15.7	17.6	32.4	4.9	4.9	23.5	1.0
	30歳代	112	18	25	26	10	4	29	-
		100.0	16.1	22.3	23.2	8.9	3.6	25.9	-
	40歳代	152	26	41	43	8	4	29	1
		100.0	17.1	27.0	28.3	5.3	2.6	19.1	0.7
年齢	50歳代	165	19	62	47	11	1	23	2
		100.0	11.5	37.6	28.5	6.7	0.6	13.9	1.2
年齢	60歳代	209	25	71	59	7	1	39	7
		100.0	12.0	34.0	28.2	3.3	0.5	18.7	3.3

⑦ 社会通念・習慣・しきたりなどで

（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	222	324	84	15	3	80	12
		100.0	30.0	43.8	11.4	2.0	0.4	10.8	1.6
性別	男性	293	63	128	52	11	3	32	4
		100.0	21.5	43.7	17.7	3.8	1.0	10.9	1.4
性別	女性	447	159	196	32	4	-	48	8
		100.0	35.6	43.8	7.2	0.9	-	10.7	1.8
年齢	20歳代	102	31	36	16	4	-	15	-
		100.0	30.4	35.3	15.7	3.9	-	14.7	-
	30歳代	112	39	41	16	2	-	14	-
		100.0	34.8	36.6	14.3	1.8	-	12.5	-
	40歳代	152	52	63	17	2	2	15	1
		100.0	34.2	41.4	11.2	1.3	1.3	9.9	0.7
年齢	50歳代	165	45	82	18	3	1	14	2
		100.0	27.3	49.7	10.9	1.8	0.6	8.5	1.2
年齢	60歳代	209	55	102	17	4	-	22	9
		100.0	26.3	48.8	8.1	1.9	-	10.5	4.3

⑧ 社会全体でみた場合

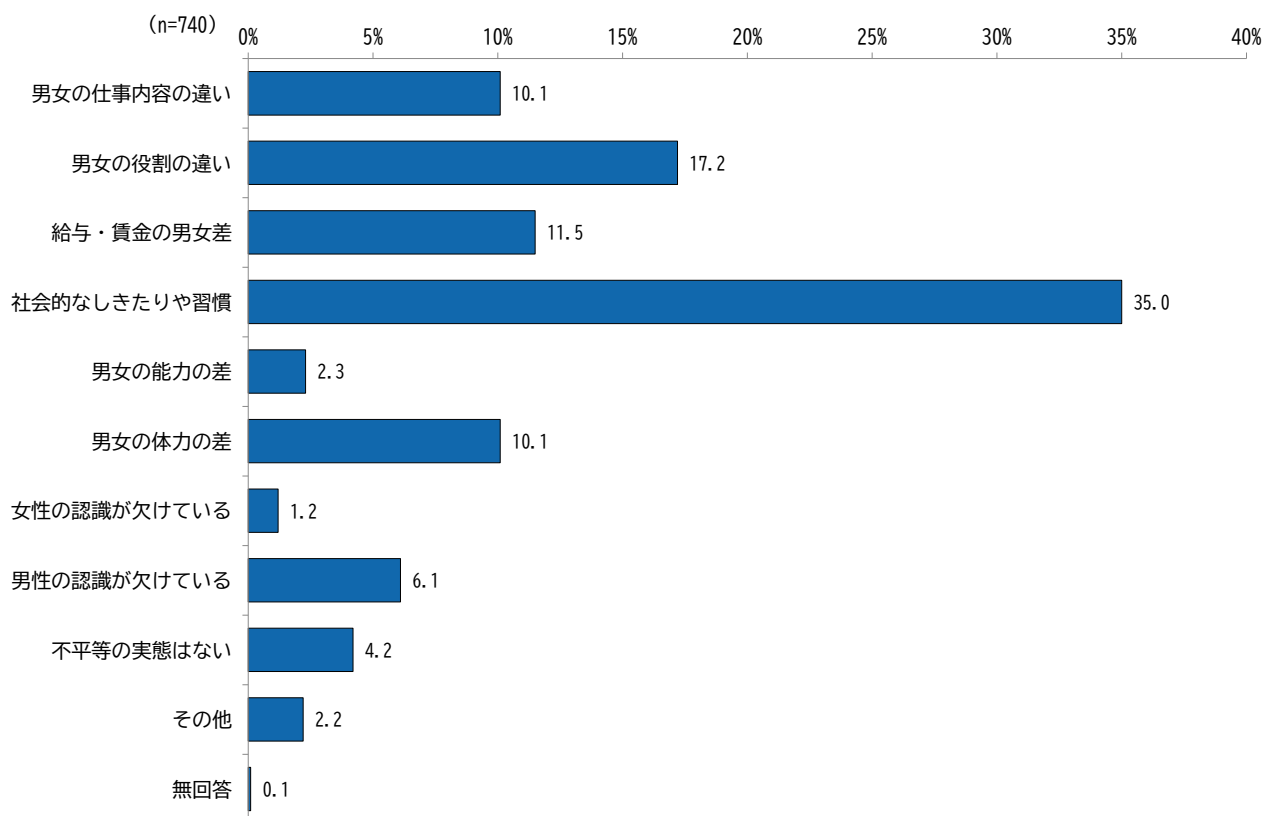
（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 が優遇され ている	平等	どちらかと 言えば女性 が優遇され ている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		740	136	375	101	33	5	83	7
		100.0	18.4	50.7	13.6	4.5	0.7	11.2	0.9
性別	男性	293	34	141	62	22	5	28	1
		100.0	11.6	48.1	21.2	7.5	1.7	9.6	0.3
性別	女性	447	102	234	39	11	-	55	6
		100.0	22.8	52.3	8.7	2.5	-	12.3	1.3
年齢	20歳代	102	17	38	18	10	-	19	-
		100.0	16.7	37.3	17.6	9.8	-	18.6	-
	30歳代	112	30	46	19	3	1	13	-
		100.0	26.8	41.1	17.0	2.7	0.9	11.6	-
	40歳代	152	34	66	23	8	2	18	1
		100.0	22.4	43.4	15.1	5.3	1.3	11.8	0.7
年齢	50歳代	165	23	93	24	9	1	13	2
		100.0	13.9	56.4	14.5	5.5	0.6	7.9	1.2
年齢	60歳代	209	32	132	17	3	1	20	4
		100.0	15.3	63.2	8.1	1.4	0.5	9.6	1.9

第2章 調査結果（個人意識調査）

問11 男女の不平等が生じる原因は何だと思いますか。特に感じることを1つ選んでください。
(○は1つ)

- 全体では、「社会的なしきたりや習慣」が35.0%で最も高く、次いで「男女の役割の違い」が17.2%、「給与・賃金の男女差」が11.5%となっている。
- 性別でみると、男女ともに「社会的なしきたりや習慣」が最も高く、次いで「男女の役割の違い」と続いている。「男女の仕事内容の違い」は、男性が15.7%で、女性の6.5%より9.2ポイント高く、「給与・賃金の男女差」は、女性が13.4%で、男性の8.5%より、4.9ポイント高くなっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

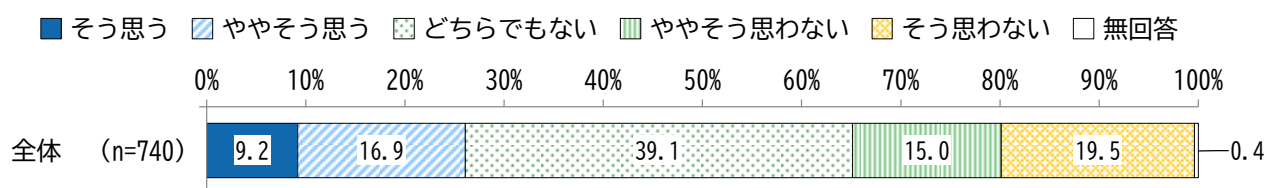
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男女の仕事 内容の違い	男女の役割 の違い	給与・賃金 の男女差	社会的なし きたりや習 慣	男女の能力 の差	男女の体力 の差	女性の認識 が欠けてい る
全体		740 100.0	75 10.1	127 17.2	85 11.5	259 35.0	17 2.3	75 10.1	9 1.2
性別	男性	293 100.0	46 15.7	50 17.1	25 8.5	84 28.7	10 3.4	32 10.9	5 1.7
	女性	447 100.0	29 6.5	77 17.2	60 13.4	175 39.1	7 1.6	43 9.6	4 0.9
年齢	20歳代	102 100.0	14 13.7	14 13.7	10 9.8	32 31.4	5 4.9	14 13.7	2 2.0
	30歳代	112 100.0	5 4.5	22 19.6	14 12.5	47 42.0	2 1.8	11 9.8	1 0.9
	40歳代	152 100.0	9 5.9	36 23.7	17 11.2	58 38.2	4 2.6	14 9.2	3 2.0
	50歳代	165 100.0	19 11.5	24 14.5	12 7.3	59 35.8	2 1.2	16 9.7	2 1.2
	60歳代	209 100.0	28 13.4	31 14.8	32 15.3	63 30.1	4 1.9	20 9.6	1 0.5
		全体（n）	男性の認識 が欠けてい る	不平等の実 態はない	その他	無回答			
全体		740 100.0	45 6.1	31 4.2	16 2.2	1 0.1			
性別	男性	293 100.0	14 4.8	19 6.5	7 2.4	1 0.3			
	女性	447 100.0	31 6.9	12 2.7	9 2.0	-			
年齢	20歳代	102 100.0	3 2.9	5 4.9	3 2.9	-			
	30歳代	112 100.0	3 2.7	3 2.7	4 3.6	-			
	40歳代	152 100.0	8 5.3	2 1.3	1 0.7	-			
	50歳代	165 100.0	15 9.1	11 6.7	4 2.4	1 0.6			
	60歳代	209 100.0	16 7.7	10 4.8	4 1.9	-			

第2章 調査結果（個人意識調査）

問12 あなたは今の石垣市が、性別にかかわらず個性や能力を発揮できる社会だと思いますか。
（○は1つ）

- 全体では、「どちらでもない」が39.1%で最も高く、次いで「そう思わない」が19.5%、「ややそう思う」が16.9%となっている。肯定的な回答（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は26.1%となっている一方、否定的な回答（「そう思わない」、「ややそう思わない」の合計）は34.5%で、肯定よりも否定の方が高くなっている。
- 年齢別でみると、20歳代の肯定的な回答は32.4%で他の年齢より比較的高く、否定的な回答は60歳代が40.7%となっている。



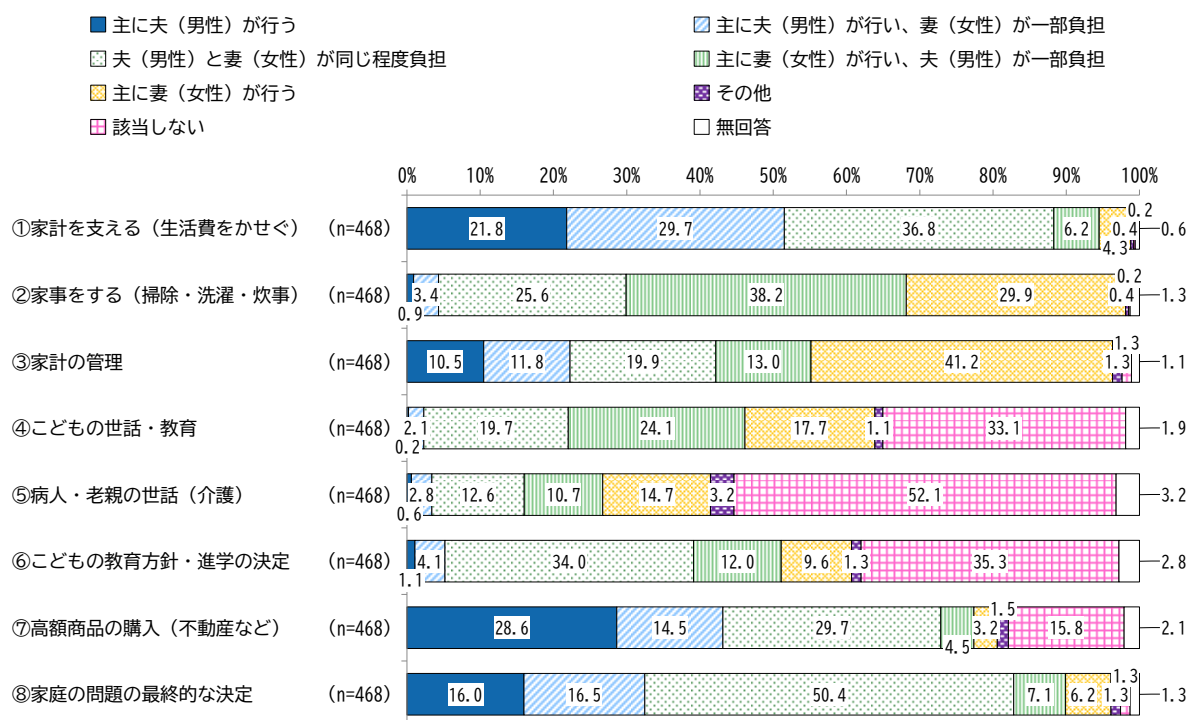
（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない	無回答
全体		740	68	125	289	111	144	3
		100.0	9.2	16.9	39.1	15.0	19.5	0.4
性別	男性	293	36	50	106	50	50	1
		100.0	12.3	17.1	36.2	17.1	17.1	0.3
女性		447	32	75	183	61	94	2
		100.0	7.2	16.8	40.9	13.6	21.0	0.4
年齢	20歳代	102	16	17	48	10	11	-
		100.0	15.7	16.7	47.1	9.8	10.8	-
	30歳代	112	9	22	53	11	17	-
		100.0	8.0	19.6	47.3	9.8	15.2	-
	40歳代	152	15	21	56	30	29	1
		100.0	9.9	13.8	36.8	19.7	19.1	0.7
	50歳代	165	15	33	54	27	35	1
		100.0	9.1	20.0	32.7	16.4	21.2	0.6
	60歳代	209	13	32	78	33	52	1
		100.0	6.2	15.3	37.3	15.8	24.9	0.5

3. 家庭生活などについて

問13 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の事गरを、現在主にどなたが行っていますか。
（〇はそれぞれに1つ）

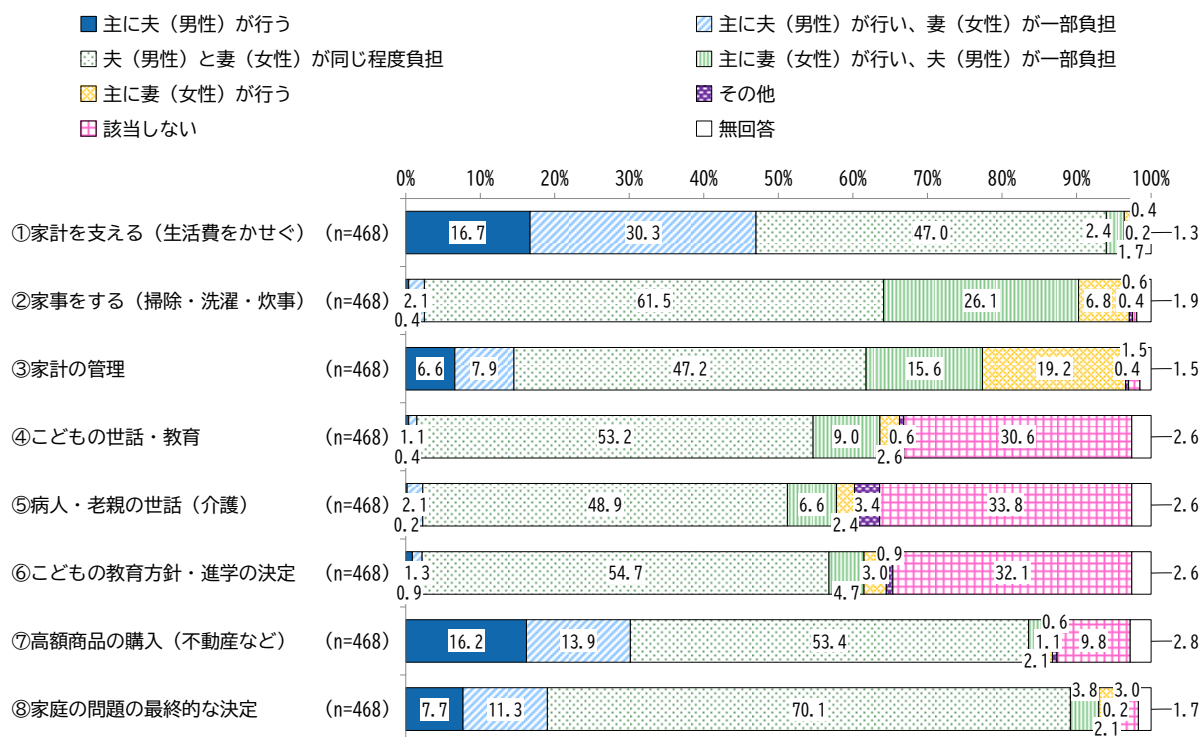
- 「①家計を支える（生活費をかせぐ）」では「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」が36.8%と最も高く、次いで「主に夫（男性）が行い、妻（女性）が一部負担」が29.7%、「主に夫（男性）が行う」が21.8%と続き、経済面では男性側に偏っている傾向がみられる。
- 「②家事をする（掃除・洗濯・炊事）」では、「主に妻（女性）が行う」が29.9%、「主に妻（女性）が行い、夫（男性）が一部負担」が38.2%と合わせて68.1%を占めており、家事は女性側に偏りやすい傾向となっている。
- 「③家計の管理」では、「主に妻（女性）が行う」が41.2%と最も高く、家計管理は女性が担う割合が高くなっている。
- 「④こどもの世話・教育」では、該当する世帯に限れば、「主に妻（女性）が行い、夫（男性）が一部負担」が24.1%と最も高い。
- 「⑤病人・老親の世話（介護）」では、該当する世帯に限れば、「主に妻（女性）が行う」が14.7%で、女性側に負担が偏る傾向がみられる。
- 「⑥こどもの教育方針・進学決定」では、「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」が34.0%と高くなっている。
- 「⑦高額商品の購入（不動産など）」は「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」が29.7%、「主に夫（男性）が行う」が28.6%とほぼ同程度となり、大きな意思決定には男性が関わる割合がやや高い。
- 「⑧家庭の問題の最終的な決定」では、「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」が50.4%と半数を占め、家庭全体の判断は夫婦共同で行われる傾向となっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

問14 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の事がらを、今後主にどなたに行ってもらいたいと思いますか。（〇はそれぞれに1つ）

- 「①家計を支える（生活費をかせぐ）」では、47.0%が「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」を希望しており、現状の36.8%よりも分担を求める傾向がみられる。
- 「②家事をする（掃除・洗濯・炊事）」では、61.5%が「夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担」を希望し、今後は夫婦平等の役割分担を望む意向が強い。
- 「③家計の管理」でも、47.2%が分担を希望し、現状（「主に妻（女性）が行う」が4割）と比べると、妻に偏っていた負担を平準化したいという意識がみられる。
- 「④こどもの世話・教育」では、53.2%が夫婦同程度の負担を希望している。
- 「⑤病人・老親の世話（介護）」でも、48.9%が夫婦共同を望んでおり、介護負担も特定の一方に偏らず分担したいという意向が表れている。
- 「⑥こどもの教育方針・進学の設定」では、54.7%が夫婦での協議を希望しており、現状の34.0%よりも、さらに共同決定を求める動きがみられる。
- 「⑦高額商品の購入（不動産など）」では、53.4%が夫婦での共同判断を希望し、経済的に重要な意思決定ほど共同性が求められている。
- 「⑧家庭の問題の最終的な決定」では、70.1%が夫婦での同程度負担を望んでおり、家庭全体の最終判断について最も強く夫婦の対等な意思決定を求めていることが確認できる。



問15 あなたは、次のような事柄についてどのくらいの時間をかけていますか。①～⑥の各項目において、それぞれおよそ何時間ぐらい時間を割いているか、数字を記入してください。
（※なしの場合は「0」、30 分の場合は「0.5」などをご記入ください）

- 日常生活の時間の使い方についてみると、平日・休日ともに男女で大きな差がみられる。
平日では、家事や育児に割く時間は女性のほうが長く、家事は女性 3.27 時間、男性 1.27 時間、育児は女性 1.90 時間、男性 0.57 時間となっている。一方、就労時間は男性のほうが長く（男性 8.46 時間、女性 7.03 時間）、平日の自由時間は男性が 3.54 時間であるのに対し女性は 2.51 時間と、女性のほうが自由に使える時間が短い。年齢別でみると、30 歳代で家事 3.01 時間、育児 3.14 時間と家事・育児の時間が最も長い。また 50 歳代以降は育児の時間が大幅に減少する一方で、60 歳代では介護時間が相対的に増加する傾向がみられる。
- 休日についても、基本的な傾向は平日と同様で、家事時間は女性 4.04 時間、男性 1.73 時間と女性が大きく上回る。また育児は 20～30 歳代で特に長く、20 歳代で 5.29 時間、30 歳代で 5.51 時間と、休日の多くを育児に充てている様子がうかがえる。一方で、休日の自由時間は男性が 6.66 時間と女性の 4.55 時間より長い。

■平日

(時間)

	全体 (n)	① 家事 (炊事・洗濯・買物など)	② 育児・こどもの学習など	③ 病人・老親などの世話 (介護)	④ 睡眠	⑤ 就労時間 (通勤・休憩時間含む)	⑥ 自由時間 (余暇)
全体	446	2.53	1.41	0.32	6.41	7.56	2.89
性別							
男性	165	1.27	0.57	0.28	6.48	8.46	3.54
女性	281	3.27	1.90	0.35	6.37	7.03	2.51
年齢							
20歳代	33	2.30	3.21	0.04	6.40	7.79	2.52
30歳代	74	3.01	3.14	0.37	6.49	7.00	2.48
40歳代	103	2.48	1.91	0.20	6.50	8.15	2.21
50歳代	108	2.33	0.48	0.27	6.29	8.08	2.97
60歳代	128	2.52	0.10	0.52	6.41	6.87	3.72

■休日

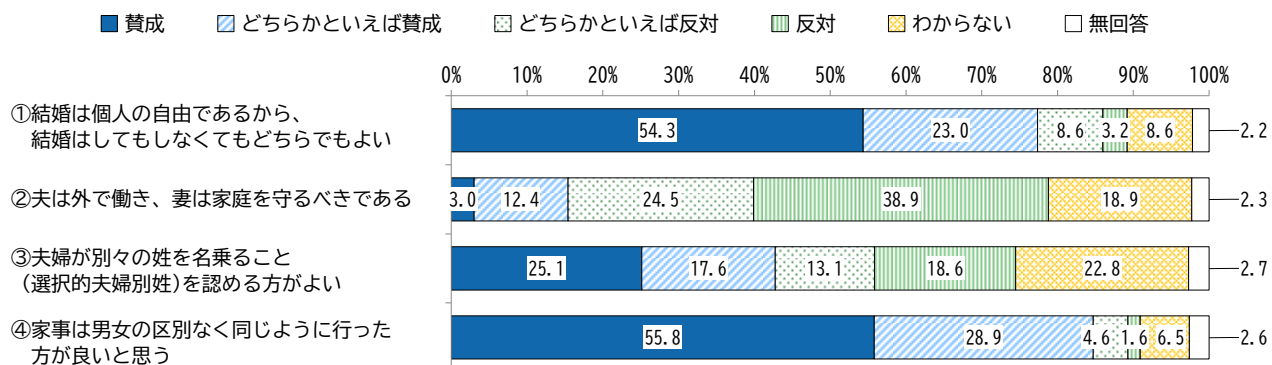
(時間)

	全体 (n)	休日① 家事 (炊事・洗濯・買物など)	休日② 育児・こどもの学習など	休日③ 病人・老親などの世話 (介護)	休日④ 睡眠	休日⑤ 就労時間 (通勤・休憩時間含む)	休日⑥ 自由時間 (余暇)
全体	444	3.18	2.34	0.50	6.89	2.37	5.34
性別							
男性	166	1.73	1.36	0.34	6.98	2.85	6.66
女性	278	4.04	2.90	0.59	6.83	2.08	4.55
年齢							
20歳代	33	2.91	5.29	0.03	7.23	2.91	4.45
30歳代	74	3.74	5.51	0.36	7.03	1.57	4.51
40歳代	102	3.31	3.03	0.25	7.10	2.12	4.83
50歳代	108	3.08	0.74	0.46	6.68	3.11	5.61
60歳代	127	2.90	0.14	0.94	6.72	2.26	6.33

第2章 調査結果（個人意識調査）

問16 結婚や家庭生活に関する①～④のことについて、あなたの考えに近いものを選んでください。
（○はそれぞれに1つ）

- 結婚や家庭生活に関する意識についてみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」という考え方に対しては、賛成的な考え（「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計）が77.3%となっている。年齢別でみると、20歳代で、賛成的な考えが89.3%と最も高い。
- 「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という伝統的な性別役割分業については、反対的な考え（「反対」、「どちらかといえば反対」の合計）が63.4%となっており、賛成的な考えは、15.4%となっている。性別でみると、賛成的な考えは、女性が12.6%、男性が19.8%で7.2ポイントの差がある。反対的な考えは、男性が56.6%、女性が67.8%で11.2ポイントの差がある。
- 「③夫婦が別々の姓を名乗ること（選択的夫婦別姓）を認める方がよい」については、賛成的な考えが42.7%、反対的な考えは31.7%となっている。一方、「わからない」とする回答が22.8%であった。性別でみると、賛成的な考えは、男性が32.4%、女性が49.4%で17ポイントの差があり、反対的な考えは、女性が24.8%、男性が42.4%で17.6ポイントの差がある。
- 「④家事は男女の区別なく同じように行った方がよいと思う」では、賛成的な考えが84.7%と、8割以上が男女平等な家事分担を支持している。



① 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい

(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
全体		740	402	170	64	24	64	16
		100.0	54.3	23.0	8.6	3.2	8.6	2.2
性別	男性	293	138	74	31	15	27	8
		100.0	47.1	25.3	10.6	5.1	9.2	2.7
性別	女性	447	264	96	33	9	37	8
		100.0	59.1	21.5	7.4	2.0	8.3	1.8
年齢	20歳代	102	79	12	3	2	5	1
		100.0	77.5	11.8	2.9	2.0	4.9	1.0
	30歳代	112	75	21	5	1	10	-
		100.0	67.0	18.8	4.5	0.9	8.9	-
	40歳代	152	82	41	8	1	16	4
		100.0	53.9	27.0	5.3	0.7	10.5	2.6
年齢	50歳代	165	75	41	24	6	17	2
		100.0	45.5	24.8	14.5	3.6	10.3	1.2
年齢	60歳代	209	91	55	24	14	16	9
		100.0	43.5	26.3	11.5	6.7	7.7	4.3

② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
全体		740	22	92	181	288	140	17
		100.0	3.0	12.4	24.5	38.9	18.9	2.3
性別	男性	293	15	43	76	90	60	9
		100.0	5.1	14.7	25.9	30.7	20.5	3.1
性別	女性	447	7	49	105	198	80	8
		100.0	1.6	11.0	23.5	44.3	17.9	1.8
年齢	20歳代	102	3	9	24	42	23	1
		100.0	2.9	8.8	23.5	41.2	22.5	1.0
	30歳代	112	6	17	19	48	21	1
		100.0	5.4	15.2	17.0	42.9	18.8	0.9
	40歳代	152	1	20	37	50	41	3
		100.0	0.7	13.2	24.3	32.9	27.0	2.0
年齢	50歳代	165	2	17	44	71	28	3
		100.0	1.2	10.3	26.7	43.0	17.0	1.8
年齢	60歳代	209	10	29	57	77	27	9
		100.0	4.8	13.9	27.3	36.8	12.9	4.3

第2章 調査結果（個人意識調査）

③ 夫婦が別々の姓を名乗ること（選択的夫婦別姓）を認める方がよい

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
全体		740	186	130	97	138	169	20
		100.0	25.1	17.6	13.1	18.6	22.8	2.7
性別	男性	293	54	41	45	79	64	10
		100.0	18.4	14.0	15.4	27.0	21.8	3.4
性別	女性	447	132	89	52	59	105	10
		100.0	29.5	19.9	11.6	13.2	23.5	2.2
年齢	20歳代	102	32	18	5	22	24	1
		100.0	31.4	17.6	4.9	21.6	23.5	1.0
	30歳代	112	34	20	18	22	17	1
		100.0	30.4	17.9	16.1	19.6	15.2	0.9
	40歳代	152	42	27	19	18	41	5
		100.0	27.6	17.8	12.5	11.8	27.0	3.3
年齢	50歳代	165	38	29	17	35	43	3
		100.0	23.0	17.6	10.3	21.2	26.1	1.8
年齢	60歳代	209	40	36	38	41	44	10
		100.0	19.1	17.2	18.2	19.6	21.1	4.8

④ 家事は男女の区別なく同じように行った方がよいと思う

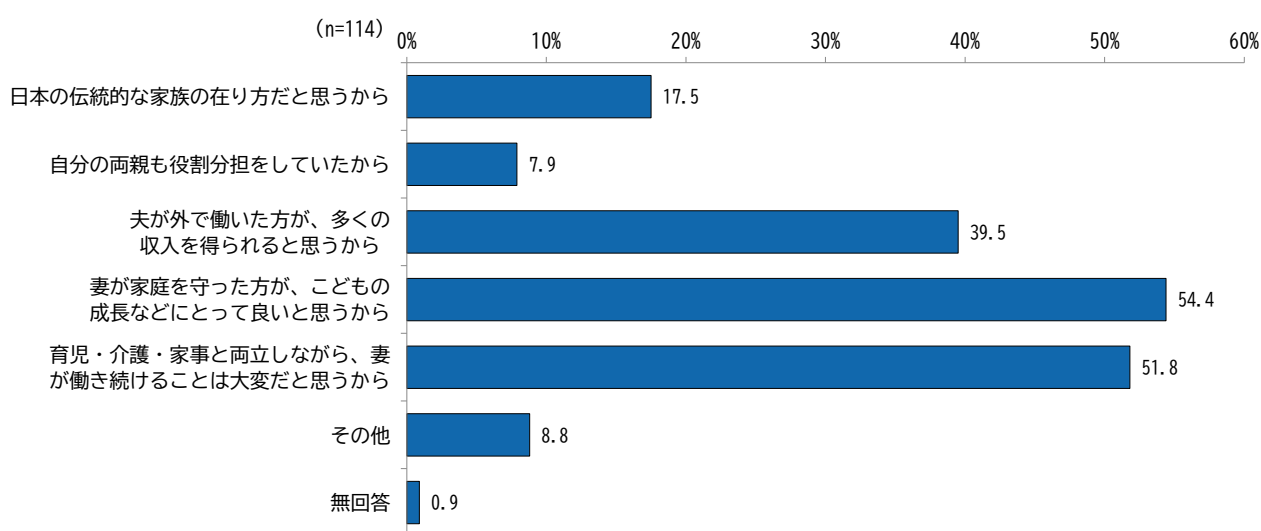
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない	無回答
全体		740	413	214	34	12	48	19
		100.0	55.8	28.9	4.6	1.6	6.5	2.6
性別	男性	293	133	101	17	9	22	11
		100.0	45.4	34.5	5.8	3.1	7.5	3.8
性別	女性	447	280	113	17	3	26	8
		100.0	62.6	25.3	3.8	0.7	5.8	1.8
年齢	20歳代	102	71	17	7	2	4	1
		100.0	69.6	16.7	6.9	2.0	3.9	1.0
	30歳代	112	73	25	5	4	4	1
		100.0	65.2	22.3	4.5	3.6	3.6	0.9
	40歳代	152	94	37	3	1	12	5
		100.0	61.8	24.3	2.0	0.7	7.9	3.3
年齢	50歳代	165	81	59	7	3	12	3
		100.0	49.1	35.8	4.2	1.8	7.3	1.8
年齢	60歳代	209	94	76	12	2	16	9
		100.0	45.0	36.4	5.7	1.0	7.7	4.3

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方への質問

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに賛成の理由（○はいくつでも）

- 賛成する理由については、「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が54.4%で最も高く、次いで「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が51.8%となっている。
- 性別でみると、男性は「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」が58.6%で最も高く、女性は「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が55.4%で最も高い。また、男女ともに「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が4割前後となっている。
- 年齢別でみると、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」が20歳代で41.7%と他年齢より高く、50歳代も同様に36.8%と高くなっている。



(上段：実数、下段：割合)

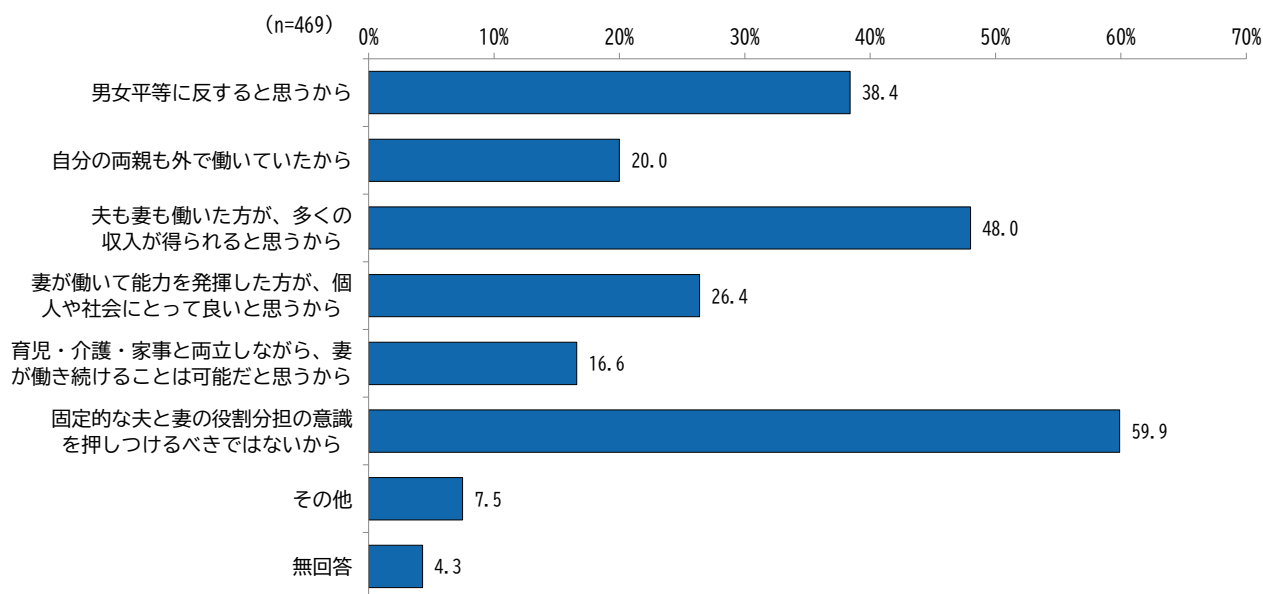
		全体 (n)	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	その他	無回答
全体		114	20	9	45	62	59	10	1
		100.0	17.5	7.9	39.5	54.4	51.8	8.8	0.9
性別	男性	58	11	7	22	34	28	6	1
		100.0	19.0	12.1	37.9	58.6	48.3	10.3	1.7
性別	女性	56	9	2	23	28	31	4	-
		100.0	16.1	3.6	41.1	50.0	55.4	7.1	-
年齢	20歳代	12	5	2	5	4	7	2	-
		100.0	41.7	16.7	41.7	33.3	58.3	16.7	-
	30歳代	23	3	2	8	15	10	2	-
		100.0	13.0	8.7	34.8	65.2	43.5	8.7	-
	40歳代	21	1	-	7	13	10	2	-
		100.0	4.8	-	33.3	61.9	47.6	9.5	-
年齢	50歳代	19	7	3	6	12	10	2	-
		100.0	36.8	15.8	31.6	63.2	52.6	10.5	-
年齢	60歳代	39	4	2	19	18	22	2	1
		100.0	10.3	5.1	48.7	46.2	56.4	5.1	2.6

第2章 調査結果（個人意識調査）

問18 「（夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである）で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方への質問）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに反対の理由（〇はいくつでも）

- 反対する理由については、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が 59.9%で最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が 48.0%、「男女平等に反すると思うから」が 38.4%と続く。
- 性別でみると、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は、女性が 23.8%、男性が 31.3%で 7.5 ポイントの差があり、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は、男性が 50.6%、女性が 65.0%で 14.4 ポイントの差がある。
- 年齢別でみると、20 歳代は「男女平等に反すると思うから」が 43.9%、「自分の両親も外で働いていたから」が 40.9%と他の年齢より比較的高く、共働き家庭のモデルが浸透している様子が見られる。

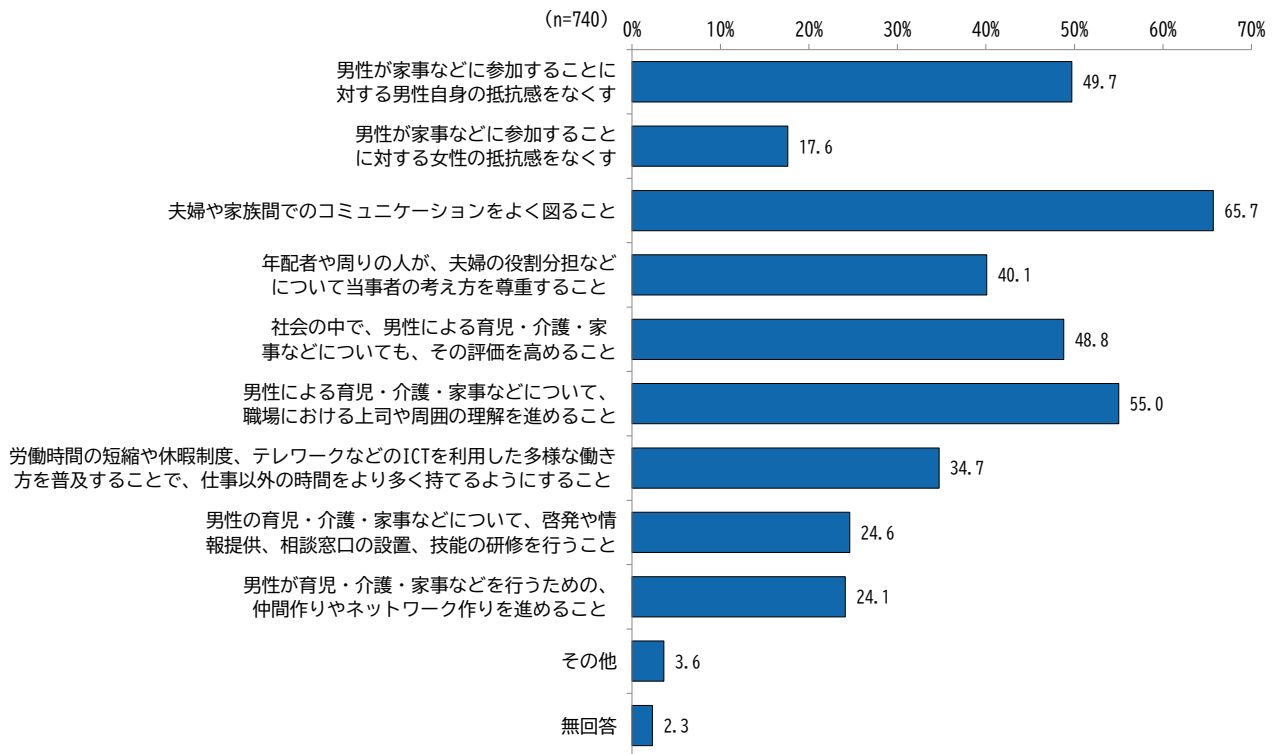


（上段：実数、下段：割合）

	全体 (n)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	その他	無回答
全体	469	180	94	225	124	78	281	35	20
	100.0	38.4	20.0	48.0	26.4	16.6	59.9	7.5	4.3
性別									
男性	166	66	29	76	52	26	84	12	10
	100.0	39.8	17.5	45.8	31.3	15.7	50.6	7.2	6.0
女性	303	114	65	149	72	52	197	23	10
	100.0	37.6	21.5	49.2	23.8	17.2	65.0	7.6	3.3
年齢									
20歳代	66	29	27	30	12	4	43	6	-
	100.0	43.9	40.9	45.5	18.2	6.1	65.2	9.1	-
30歳代	67	21	16	32	19	10	41	5	1
	100.0	31.3	23.9	47.8	28.4	14.9	61.2	7.5	1.5
40歳代	87	34	15	40	25	18	63	6	1
	100.0	39.1	17.2	46.0	28.7	20.7	72.4	6.9	1.1
50歳代	115	44	12	49	20	14	56	10	15
	100.0	38.3	10.4	42.6	17.4	12.2	48.7	8.7	13.0
60歳代	134	52	24	74	48	32	78	8	3
	100.0	38.8	17.9	55.2	35.8	23.9	58.2	6.0	2.2

問19 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 男性が家事や育児、介護、地域活動へ積極的に参加していくために必要なこととしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.7%で最も高く、続いて「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が55.0%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が49.7%となっている。
- 性別でみると、「その他」を除くすべての項目で、女性の回答率が男性を上回っている。「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は特に差が大きく、女性が61.5%で、男性の45.1%より16.4ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、30歳代で「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が66.1%、「労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が45.5%と他の年齢より比較的高く、30歳代では特に職場環境の改善が望まれている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

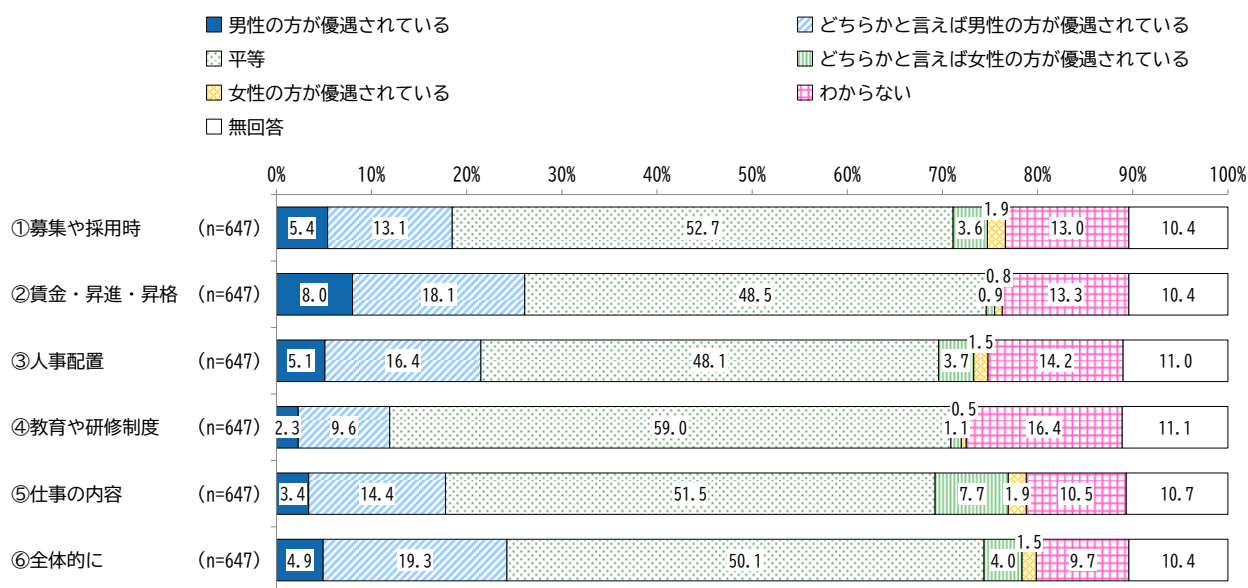
（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による育児・介護・家事などについても、その評価を高めること	男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
全体		740 100.0	368 49.7	130 17.6	486 65.7	297 40.1	361 48.8	407 55.0	257 34.7
性別	男性	293 100.0	133 45.4	46 15.7	190 64.8	82 28.0	122 41.6	132 45.1	90 30.7
	女性	447 100.0	235 52.6	84 18.8	296 66.2	215 48.1	239 53.5	275 61.5	167 37.4
年齢	20歳代	102 100.0	48 47.1	14 13.7	74 72.5	38 37.3	46 45.1	58 56.9	40 39.2
	30歳代	112 100.0	50 44.6	18 16.1	77 68.8	49 43.8	57 50.9	74 66.1	51 45.5
	40歳代	152 100.0	83 54.6	26 17.1	93 61.2	58 38.2	70 46.1	76 50.0	60 39.5
	50歳代	165 100.0	75 45.5	33 20.0	99 60.0	63 38.2	82 49.7	84 50.9	42 25.5
	60歳代	209 100.0	112 53.6	39 18.7	143 68.4	89 42.6	106 50.7	115 55.0	64 30.6
		全体 (n)	男性の育児・介護・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が育児・介護・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること	その他	無回答			
全体		740 100.0	182 24.6	178 24.1	27 3.6	17 2.3			
性別	男性	293 100.0	67 22.9	58 19.8	13 4.4	6 2.0			
	女性	447 100.0	115 25.7	120 26.8	14 3.1	11 2.5			
年齢	20歳代	102 100.0	26 25.5	21 20.6	3 2.9	1 1.0			
	30歳代	112 100.0	27 24.1	26 23.2	4 3.6	-			
	40歳代	152 100.0	37 24.3	36 23.7	5 3.3	4 2.6			
	50歳代	165 100.0	40 24.2	40 24.2	10 6.1	5 3.0			
	60歳代	209 100.0	52 24.9	55 26.3	5 2.4	7 3.3			

4. 仕事のことにについて

問20 あなたの職場では、次にあげる場面で、性別によって差があると思いますか。
(〇はそれぞれに1つ)

- ①～⑥すべての項目で「平等」が最も高い。
- 「①募集や採用時」では、男性優遇と感じる回答（「男性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」の合計）は、男性が21.0%、女性が16.8%で、4.2ポイントの差がある。また、若年層になるほど「平等」の割合が高くなっている。
- 「②賃金・昇進・昇格」では、男性優遇と感じる回答が、40歳代で30.8%と最も高い。
- 「③人事配置」では、女性優遇と感じる回答（「女性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」の合計）は、男性が8.6%、女性が2.9%で、5.7ポイントの差がある。
- 「④教育や研修制度」では、若年層になるほど「平等」の割合が高くなっている。
- 「⑤仕事の内容」では、女性優遇と感じる回答は、男性が12.3%、女性が7.7%で、4.6ポイントの差がある。
- 「⑥全体的に」では、男性優遇と感じる回答は、男性が22.8%、女性が25.2%で、2.4ポイントの差があり、年齢別では、60歳代が27.3%、次いで40歳代が26.6%と高くなっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

① 募集や採用時

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらか と言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらか と言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	647 100.0	35 5.4	85 13.1	341 52.7	23 3.6	12 1.9	84 13.0	67 10.4
性別								
男性	267 100.0	19 7.1	37 13.9	142 53.2	12 4.5	1 0.4	26 9.7	30 11.2
女性	380 100.0	16 4.2	48 12.6	199 52.4	11 2.9	11 2.9	58 15.3	37 9.7
年齢								
20歳代	86 100.0	6 7.0	5 5.8	59 68.6	4 4.7	-	11 12.8	1 1.2
30歳代	99 100.0	4 4.0	12 12.1	58 58.6	4 4.0	1 1.0	15 15.2	5 5.1
40歳代	143 100.0	12 8.4	17 11.9	76 53.1	7 4.9	4 2.8	17 11.9	10 7.0
50歳代	151 100.0	4 2.6	27 17.9	79 52.3	3 2.0	3 2.0	15 9.9	20 13.2
60歳代	168 100.0	9 5.4	24 14.3	69 41.1	5 3.0	4 2.4	26 15.5	31 18.5

② 賃金・昇進・昇格

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらか と言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらか と言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	647 100.0	52 8.0	117 18.1	314 48.5	6 0.9	5 0.8	86 13.3	67 10.4
性別								
男性	267 100.0	18 6.7	41 15.4	145 54.3	4 1.5	4 1.5	25 9.4	30 11.2
女性	380 100.0	34 8.9	76 20.0	169 44.5	2 0.5	1 0.3	61 16.1	37 9.7
年齢								
20歳代	86 100.0	8 9.3	10 11.6	49 57.0	-	2 2.3	16 18.6	1 1.2
30歳代	99 100.0	9 9.1	14 14.1	53 53.5	4 4.0	-	14 14.1	5 5.1
40歳代	143 100.0	16 11.2	28 19.6	71 49.7	2 1.4	3 2.1	13 9.1	10 7.0
50歳代	151 100.0	6 4.0	34 22.5	70 46.4	-	-	21 13.9	20 13.2
60歳代	168 100.0	13 7.7	31 18.5	71 42.3	-	-	22 13.1	31 18.5

③ 人事配置

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		647	33	106	311	24	10	92	71
		100.0	5.1	16.4	48.1	3.7	1.5	14.2	11.0
性別	男性	267	16	33	137	16	7	27	31
		100.0	6.0	12.4	51.3	6.0	2.6	10.1	11.6
性別	女性	380	17	73	174	8	3	65	40
		100.0	4.5	19.2	45.8	2.1	0.8	17.1	10.5
年齢	20歳代	86	3	10	48	4	5	15	1
		100.0	3.5	11.6	55.8	4.7	5.8	17.4	1.2
	30歳代	99	6	18	49	6	2	13	5
		100.0	6.1	18.2	49.5	6.1	2.0	13.1	5.1
	40歳代	143	14	24	69	7	2	17	10
		100.0	9.8	16.8	48.3	4.9	1.4	11.9	7.0
年齢	50歳代	151	3	25	78	6	1	17	21
		100.0	2.0	16.6	51.7	4.0	0.7	11.3	13.9
年齢	60歳代	168	7	29	67	1	-	30	34
		100.0	4.2	17.3	39.9	0.6	-	17.9	20.2

④ 教育や研修制度

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		647	15	62	382	7	3	106	72
		100.0	2.3	9.6	59.0	1.1	0.5	16.4	11.1
性別	男性	267	6	24	166	3	1	36	31
		100.0	2.2	9.0	62.2	1.1	0.4	13.5	11.6
性別	女性	380	9	38	216	4	2	70	41
		100.0	2.4	10.0	56.8	1.1	0.5	18.4	10.8
年齢	20歳代	86	2	4	62	1	-	16	1
		100.0	2.3	4.7	72.1	1.2	-	18.6	1.2
	30歳代	99	3	7	65	2	-	17	5
		100.0	3.0	7.1	65.7	2.0	-	17.2	5.1
	40歳代	143	7	14	91	2	1	18	10
		100.0	4.9	9.8	63.6	1.4	0.7	12.6	7.0
年齢	50歳代	151	-	19	89	1	1	20	21
		100.0	-	12.6	58.9	0.7	0.7	13.2	13.9
年齢	60歳代	168	3	18	75	1	1	35	35
		100.0	1.8	10.7	44.6	0.6	0.6	20.8	20.8

第2章 調査結果（個人意識調査）

⑤ 仕事の内容

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		647	22	93	333	50	12	68	69
		100.0	3.4	14.4	51.5	7.7	1.9	10.5	10.7
性別	男性	267	13	38	135	27	6	18	30
		100.0	4.9	14.2	50.6	10.1	2.2	6.7	11.2
性別	女性	380	9	55	198	23	6	50	39
		100.0	2.4	14.5	52.1	6.1	1.6	13.2	10.3
年齢	20歳代	86	5	5	54	6	2	13	1
		100.0	5.8	5.8	62.8	7.0	2.3	15.1	1.2
	30歳代	99	1	15	54	11	1	11	6
		100.0	1.0	15.2	54.5	11.1	1.0	11.1	6.1
	40歳代	143	10	20	72	12	6	13	10
		100.0	7.0	14.0	50.3	8.4	4.2	9.1	7.0
年齢	50歳代	151	-	23	79	13	2	13	21
		100.0	-	15.2	52.3	8.6	1.3	8.6	13.9
年齢	60歳代	168	6	30	74	8	1	18	31
		100.0	3.6	17.9	44.0	4.8	0.6	10.7	18.5

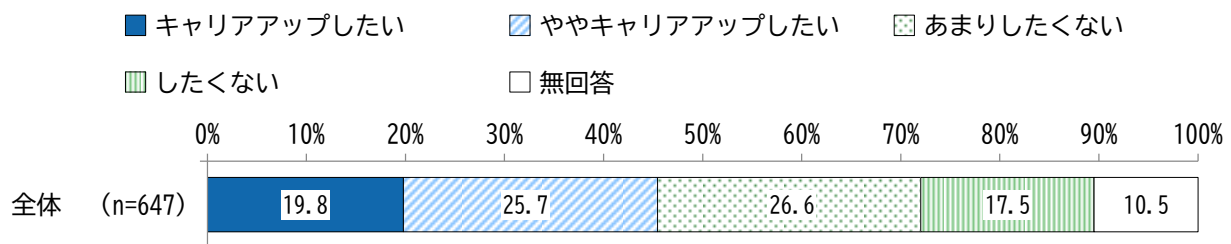
⑥ 全体的に

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体		647	32	125	324	26	10	63	67
		100.0	4.9	19.3	50.1	4.0	1.5	9.7	10.4
性別	男性	267	14	47	137	15	6	18	30
		100.0	5.2	17.6	51.3	5.6	2.2	6.7	11.2
性別	女性	380	18	78	187	11	4	45	37
		100.0	4.7	20.5	49.2	2.9	1.1	11.8	9.7
年齢	20歳代	86	3	13	52	4	1	12	1
		100.0	3.5	15.1	60.5	4.7	1.2	14.0	1.2
	30歳代	99	5	19	55	4	1	10	5
		100.0	5.1	19.2	55.6	4.0	1.0	10.1	5.1
	40歳代	143	9	29	73	8	4	10	10
		100.0	6.3	20.3	51.0	5.6	2.8	7.0	7.0
年齢	50歳代	151	4	29	76	7	2	12	21
		100.0	2.6	19.2	50.3	4.6	1.3	7.9	13.9
年齢	60歳代	168	11	35	68	3	2	19	30
		100.0	6.5	20.8	40.5	1.8	1.2	11.3	17.9

問21 あなたのキャリアアップ（管理職への昇進など）への考えについて教えてください。（○は1つ）

- 全体では、「キャリアアップしたい」19.8%、「ややキャリアアップしたい」25.7%の合計が45.5%、「あまりしたくない」の26.6%、「したくない」17.5%の合計が44.1%となっている。キャリアアップに対する意識は二分しており、年齢によって意識の差が大きい。
- 性別でみると、「キャリアアップしたい」「ややキャリアアップしたい」の合計は、女性が46.0%、男性が44.5%で、1.5ポイントの差がある。
- 年齢別でみると、20歳代は「キャリアアップしたい」が37.2%、「ややキャリアアップしたい」が22.1%で、合計59.3%と高く、キャリア形成への意欲がみられる。30～40歳代も5割前後が前向きである一方、50歳代が37.7%、60歳代が27.4%で割合が低く、とくに60歳代では「したくない」が28.0%と高くなっている。



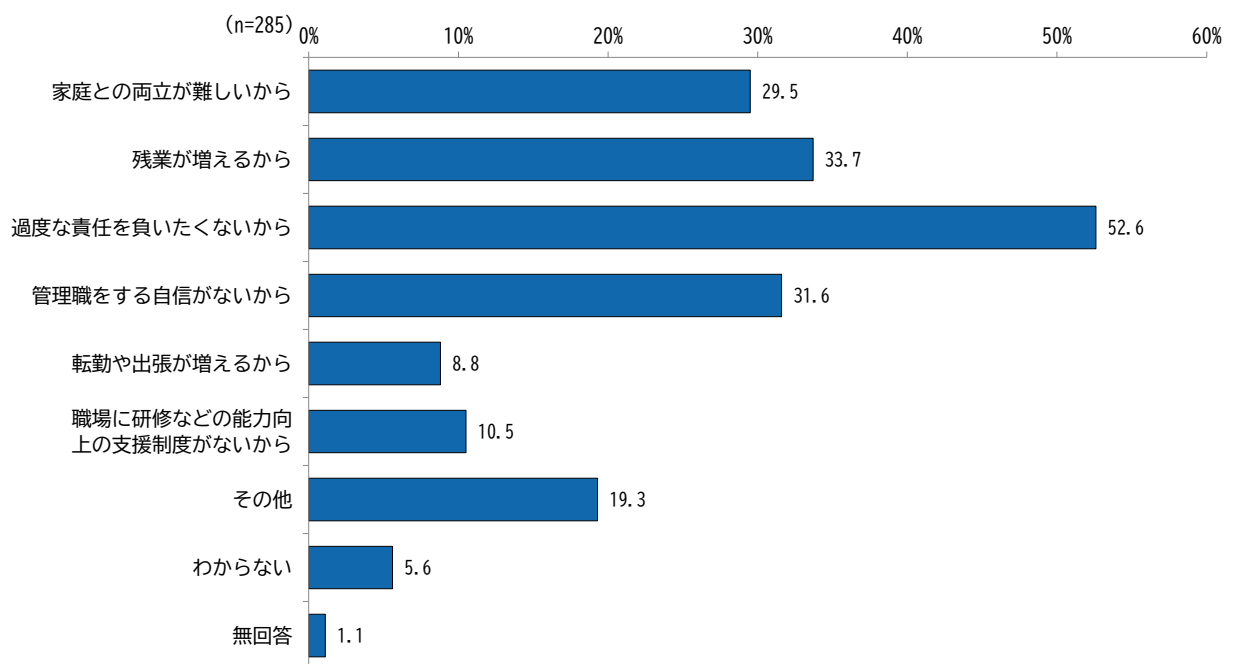
(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	キャリアアップしたい	ややキャリアアップしたい	あまりしたくない	したくない	無回答
全体		647	128	166	172	113	68
		100.0	19.8	25.7	26.6	17.5	10.5
性別	男性	267	50	69	71	44	33
		100.0	18.7	25.8	26.6	16.5	12.4
女性		380	78	97	101	69	35
		100.0	20.5	25.5	26.6	18.2	9.2
年齢	20歳代	86	32	19	27	7	1
		100.0	37.2	22.1	31.4	8.1	1.2
	30歳代	99	23	33	26	12	5
		100.0	23.2	33.3	26.3	12.1	5.1
	40歳代	143	36	48	34	20	5
		100.0	25.2	33.6	23.8	14.0	3.5
50歳代		151	20	37	45	27	22
		100.0	13.2	24.5	29.8	17.9	14.6
60歳代		168	17	29	40	47	35
		100.0	10.1	17.3	23.8	28.0	20.8

第2章 調査結果（個人意識調査）

問22 （問21で「3.（キャリアアップを）あまりしたくない」「4.したくない」と答えた方への質問）
理由をお答えください。（いくつでも）

- 全体では、「過度な責任を負いたくないから」が52.6%で最も高く、次いで「残業が増えるから」が33.7%、「管理職をする自信がないから」が31.6%となっている。
- 性別でみると、「家庭との両立が難しいから」が女性41.8%、男性11.3%で、女性が男性を30.5ポイント高く、女性では、家庭との両立がキャリアアップへの制約として強く認識されていることがうかがえる。
- 年齢別でみると、20～40歳代は「過度な責任を負いたくないから」がいずれも5割以上と高く、とくに20歳代が67.6%で突出している。また、30～40歳代は「家庭との両立が難しいから」（30歳代が44.7%、40歳代が46.3%）も他の年齢より比較的高い。



第2章 調査結果（個人意識調査）

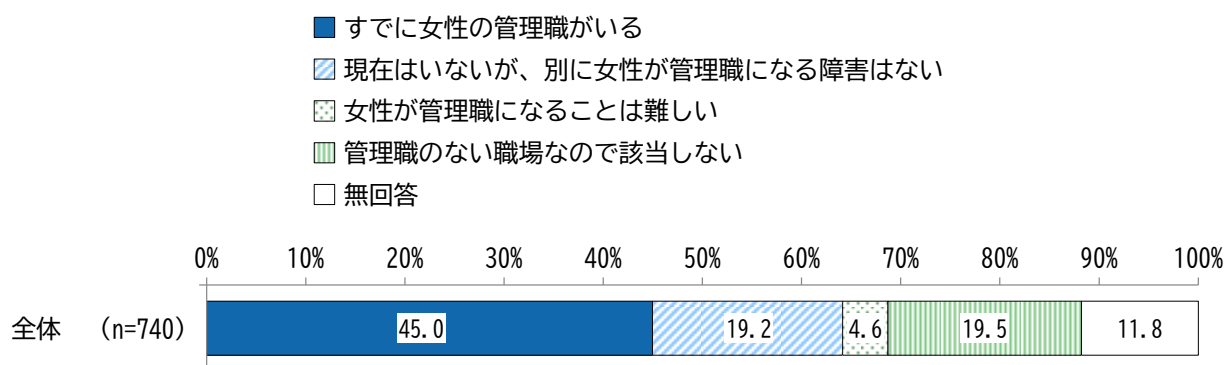
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	家庭との両 立が難しい から	残業が増え るから	過度な責任 を負いたく ないから	管理職をす る自信がな いから	転勤や出張 が増えるか ら	職場に研修 などの能力 向上の支援 制度がない から	その他
全体		285 100.0	84 29.5	96 33.7	150 52.6	90 31.6	25 8.8	30 10.5	55 19.3
性別	男性	115 100.0	13 11.3	39 33.9	62 53.9	30 26.1	7 6.1	8 7.0	25 21.7
	女性	170 100.0	71 41.8	57 33.5	88 51.8	60 35.3	18 10.6	22 12.9	30 17.6
年齢	20歳代	34 100.0	11 32.4	15 44.1	23 67.6	10 29.4	2 5.9	3 8.8	4 11.8
	30歳代	38 100.0	17 44.7	20 52.6	20 52.6	14 36.8	5 13.2	4 10.5	6 15.8
	40歳代	54 100.0	25 46.3	20 37.0	31 57.4	21 38.9	8 14.8	6 11.1	5 9.3
	50歳代	72 100.0	11 15.3	17 23.6	37 51.4	21 29.2	2 2.8	8 11.1	12 16.7
	60歳代	87 100.0	20 23.0	24 27.6	39 44.8	24 27.6	8 9.2	9 10.3	28 32.2
		全体（n）	わからない	無回答					
全体		285 100.0	16 5.6	3 1.1					
性別	男性	115 100.0	9 7.8	1 0.9					
	女性	170 100.0	7 4.1	2 1.2					
年齢	20歳代	34 100.0	2 5.9	-					
	30歳代	38 100.0	2 5.3	-					
	40歳代	54 100.0	3 5.6	1 1.9					
	50歳代	72 100.0	5 6.9	-					
	60歳代	87 100.0	4 4.6	2 2.3					

5. 女性の活躍について

問23 あなたの職場での女性管理職（係長以上）登用状況について、1 つだけ選んでください。
（○は1つ）

- 全体では、「すでに女性の管理職がいる」が45.0%、「管理職のない職場なので該当しない」が19.5%、次いで「現在はいないが、別に女性が管理職になる障害はない」が19.2%となっている。
- 性別でみると、「現在はいないが、別に女性が管理職になる障害はない」は、男性が27.6%、女性が13.6%で、14ポイントの差があり、認識に違いがみられる。
- 年齢別でみると、40歳代では「女性が管理職になることは難しい」が9.9%と、他の年齢より比較的高い。

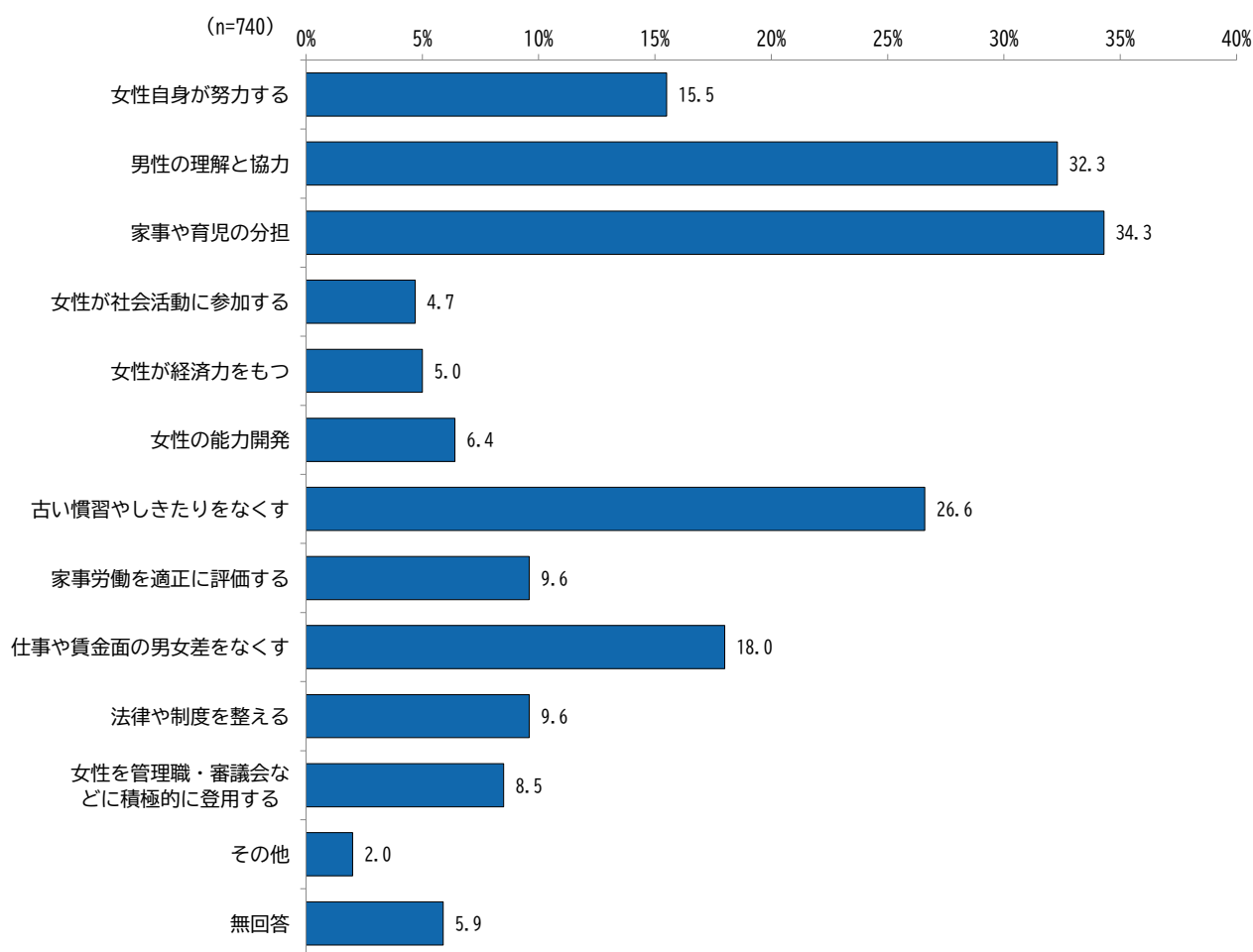


（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	すでに女性の管理職がいる	現在はいないが、別に女性が管理職になる障害はない	女性が管理職になることは難しい	管理職のない職場なので該当しない	無回答
全体		740	333	142	34	144	87
		100.0	45.0	19.2	4.6	19.5	11.8
性別	男性	293	116	81	16	49	31
		100.0	39.6	27.6	5.5	16.7	10.6
女性		447	217	61	18	95	56
		100.0	48.5	13.6	4.0	21.3	12.5
年齢	20歳代	102	50	20	7	16	9
		100.0	49.0	19.6	6.9	15.7	8.8
	30歳代	112	55	21	3	19	14
		100.0	49.1	18.8	2.7	17.0	12.5
	40歳代	152	76	34	15	19	8
		100.0	50.0	22.4	9.9	12.5	5.3
50歳代		165	74	40	3	37	11
		100.0	44.8	24.2	1.8	22.4	6.7
60歳代		209	78	27	6	53	45
		100.0	37.3	12.9	2.9	25.4	21.5

問24 女性の社会進出は進みつつありますが、今後さらに、女性が社会進出するために、特に重要だと思うものを次の中から選んでください。（〇は2つまで）

- 全体では、「家事や育児の分担」が34.3%で最も高く、次いで「男性の理解と協力」が32.3%、「古い慣習やしきたりをなくす」が26.6%となっている。
- 性別でみると、「家事や育児の分担」は、女性が40.5%、男性が24.9%で、15.6ポイントの差がある。また、「女性自身が努力する」は、男性が21.2%、女性が11.9%で、9.3ポイントの差がある。
- 年齢別でみると、20～30歳代で「古い慣習やしきたりをなくす」が他の年齢より比較的高い（20歳代が33.3%、30歳代が31.3%）。



第2章 調査結果（個人意識調査）

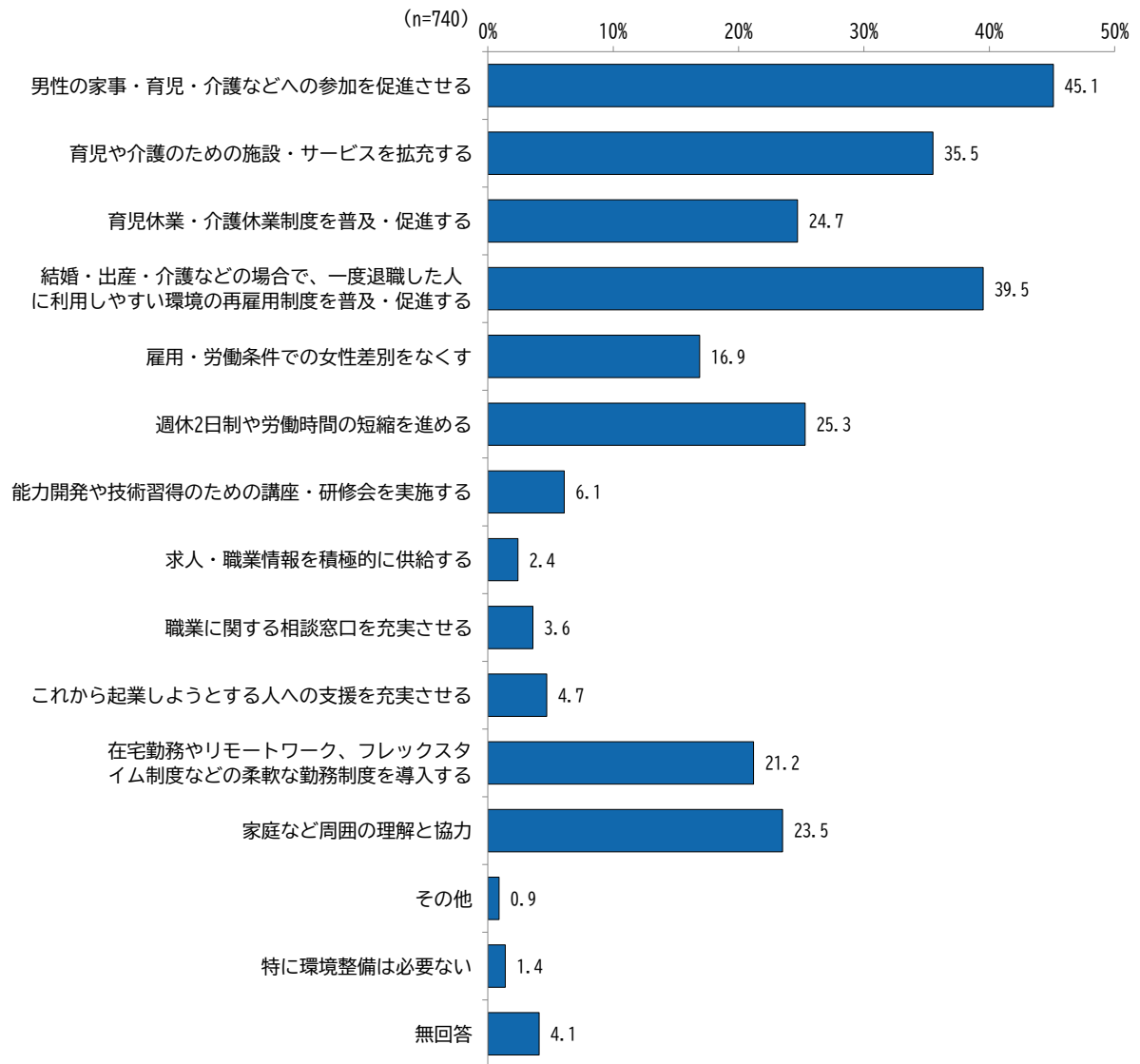
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	女性自身が 努力する	男性の理解 と協力	家事や育児 の分担	女性が社会 活動に参加 する	女性が経済 力をもつ	女性の能力 開発	古い慣習や しきたりを なくす
全体		740 100.0	115 15.5	239 32.3	254 34.3	35 4.7	37 5.0	47 6.4	197 26.6
性別	男性	293 100.0	62 21.2	89 30.4	73 24.9	17 5.8	8 2.7	28 9.6	76 25.9
	女性	447 100.0	53 11.9	150 33.6	181 40.5	18 4.0	29 6.5	19 4.3	121 27.1
年齢	20歳代	102 100.0	13 12.7	34 33.3	31 30.4	5 4.9	6 5.9	5 4.9	34 33.3
	30歳代	112 100.0	20 17.9	27 24.1	44 39.3	4 3.6	8 7.1	6 5.4	35 31.3
	40歳代	152 100.0	22 14.5	46 30.3	70 46.1	7 4.6	10 6.6	10 6.6	37 24.3
	50歳代	165 100.0	25 15.2	58 35.2	53 32.1	7 4.2	5 3.0	10 6.1	49 29.7
	60歳代	209 100.0	35 16.7	74 35.4	56 26.8	12 5.7	8 3.8	16 7.7	42 20.1
		全体（n）	家事労働を 適正に評価 する	仕事や賃金 面の男女差 をなくす	法律や制度 を整える	女性を管理 職・審議会 などに積極 的に登用す る	その他	無回答	
全体		740 100.0	71 9.6	133 18.0	71 9.6	63 8.5	15 2.0	44 5.9	
性別	男性	293 100.0	23 7.8	55 18.8	25 8.5	22 7.5	10 3.4	16 5.5	
	女性	447 100.0	48 10.7	78 17.4	46 10.3	41 9.2	5 1.1	28 6.3	
年齢	20歳代	102 100.0	7 6.9	18 17.6	11 10.8	7 6.9	2 2.0	4 3.9	
	30歳代	112 100.0	11 9.8	18 16.1	8 7.1	9 8.0	3 2.7	8 7.1	
	40歳代	152 100.0	14 9.2	21 13.8	14 9.2	13 8.6	3 2.0	4 2.6	
	50歳代	165 100.0	19 11.5	30 18.2	16 9.7	8 4.8	5 3.0	12 7.3	
	60歳代	209 100.0	20 9.6	46 22.0	22 10.5	26 12.4	2 1.0	16 7.7	

問25 女性が仕事を続けていくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から選んでください。（○は3つまで）

- 全体では、「男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる」が45.1%で最も高く、次いで「結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する」が39.5%、「育児や介護のための施設・サービスを拡充する」が35.5%となっている。
- 性別でみると、女性は「男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる」が47.0%で最も高く、次いで「育児や介護のための施設・サービスを拡充する」が37.8%と続く。男性は、「男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる」、「結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する」が42.3%で、「育児や介護のための施設・サービスを拡充する」が32.1%と続く。また、女性は「在宅勤務やリモートワーク、フレックスタイム制度などの柔軟な勤務制度を導入する」が24.6%で、男性の16.0%より8.6ポイント高く、働き方の柔軟性を求める意識が強い。
- 年齢別でみると、20～30歳代で「結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する」が高く（20歳代で44.1%、30歳代で44.6%）、若年層では、制度を利用しやすい環境があることを重視する傾向が強い。一方、40～60歳代では「家庭など周囲の理解と協力」（40歳代で27.0%、50歳代で26.7%、60歳代で26.3%）が上位にあり、周囲の支援も重視している。また、50歳代では「男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる」が50.3%で最も高く、60歳代では「結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する」が42.1%と高くなっている。

第2章 調査結果（個人意識調査）



第2章 調査結果（個人意識調査）

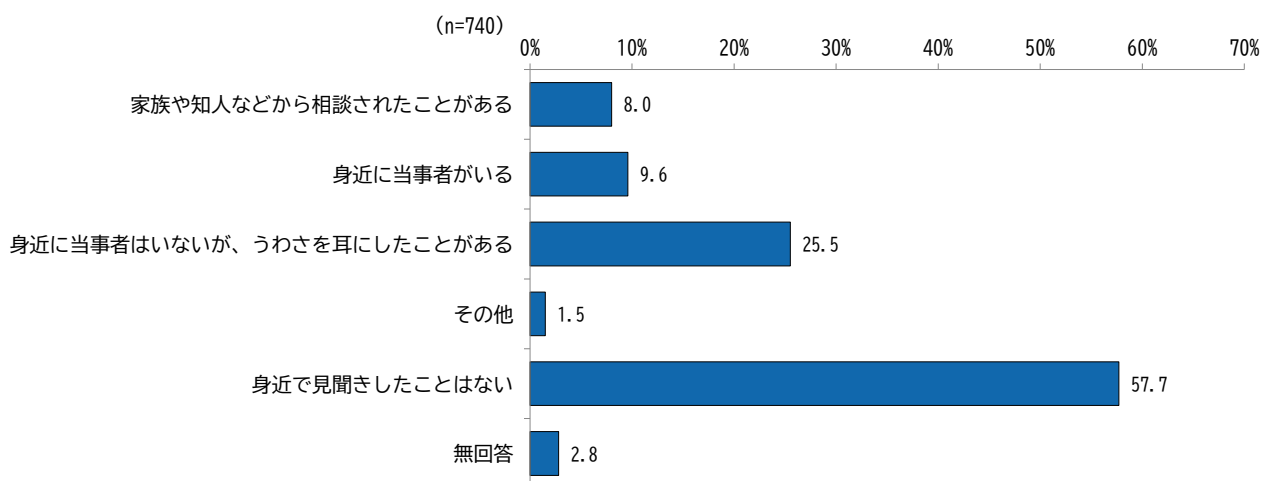
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる	育児や介護のための施設・サービスを拡充する	育児休業・介護休業制度を普及・促進する	結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する	雇用・労働条件での女性差別をなくす	週休2日制や労働時間の短縮を進める	能力開発や技術習得のための講座・研修会を実施する	求人・職業情報を積極的に供給する
全体		740 100.0	334 45.1	263 35.5	183 24.7	292 39.5	125 16.9	187 25.3	45 6.1	18 2.4
性別	男性	293 100.0	124 42.3	94 32.1	75 25.6	124 42.3	56 19.1	64 21.8	18 6.1	7 2.4
	女性	447 100.0	210 47.0	169 37.8	108 24.2	168 37.6	69 15.4	123 27.5	27 6.0	11 2.5
年齢	20歳代	102 100.0	48 47.1	26 25.5	30 29.4	45 44.1	14 13.7	28 27.5	3 2.9	4 3.9
	30歳代	112 100.0	48 42.9	52 46.4	33 29.5	50 44.6	10 8.9	36 32.1	3 2.7	2 1.8
	40歳代	152 100.0	72 47.4	59 38.8	35 23.0	47 30.9	23 15.1	39 25.7	12 7.9	2 1.3
	50歳代	165 100.0	83 50.3	55 33.3	31 18.8	62 37.6	30 18.2	42 25.5	14 8.5	3 1.8
	60歳代	209 100.0	83 39.7	71 34.0	54 25.8	88 42.1	48 23.0	42 20.1	13 6.2	7 3.3
		全体（n）	職業に関する相談窓口を充実させる	これから起業しようとする人への支援を充実させる	在宅勤務やリモートワーク、フレックスタイム制度などの柔軟な勤務制度を導入する	家庭など周囲の理解と協力	その他	特に環境整備は必要ない	無回答	
全体		740 100.0	27 3.6	35 4.7	157 21.2	174 23.5	7 0.9	10 1.4	30 4.1	
性別	男性	293 100.0	11 3.8	11 3.8	47 16.0	72 24.6	5 1.7	4 1.4	11 3.8	
	女性	447 100.0	16 3.6	24 5.4	110 24.6	102 22.8	2 0.4	6 1.3	19 4.3	
年齢	20歳代	102 100.0	2 2.0	4 3.9	24 23.5	19 18.6	1 1.0	1 1.0	3 2.9	
	30歳代	112 100.0	2 1.8	3 2.7	21 18.8	15 13.4	1 0.9	2 1.8	7 6.3	
	40歳代	152 100.0	3 2.0	9 5.9	42 27.6	41 27.0	2 1.3	1 0.7	6 3.9	
	50歳代	165 100.0	7 4.2	9 5.5	30 18.2	44 26.7	3 1.8	3 1.8	5 3.0	
	60歳代	209 100.0	13 6.2	10 4.8	40 19.1	55 26.3	-	3 1.4	9 4.3	

6. 配偶者などからの暴力について

問26 あなたは、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。（○はいくつでも）

- 全体では、「身近で見聞きしたことはない」が 57.7%で最も高く、次いで「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が 25.5%、「身近に当事者がいる」が 9.6%となっている。
- 性別でみると、女性は「身近に当事者がいる」が 11.9%、「家族や知人などから相談されたことがある」が 10.3%で、男性より 5.8～5.9 ポイント高くなっている。一方、「身近で見聞きしたことはない」は、男性が 63.8%で、女性の 53.7%より 10.1 ポイント高く、男性の方があまり見聞きをしていない。
- 年齢別でみると、「身近で見聞きしたことはない」が 20 歳代で 74.5%と最も高く、40～60 歳代では 50%台に下がり、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」（40 歳代 28.9%、50 歳代 27.9%、60 歳代 28.2%）や「家族や知人などから相談されたことがある」（40 歳代 10.5%、50 歳代 7.9%、60 歳代 9.6%）など、身近で何らかの情報に触れている割合が相対的に高い。



第2章 調査結果（個人意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

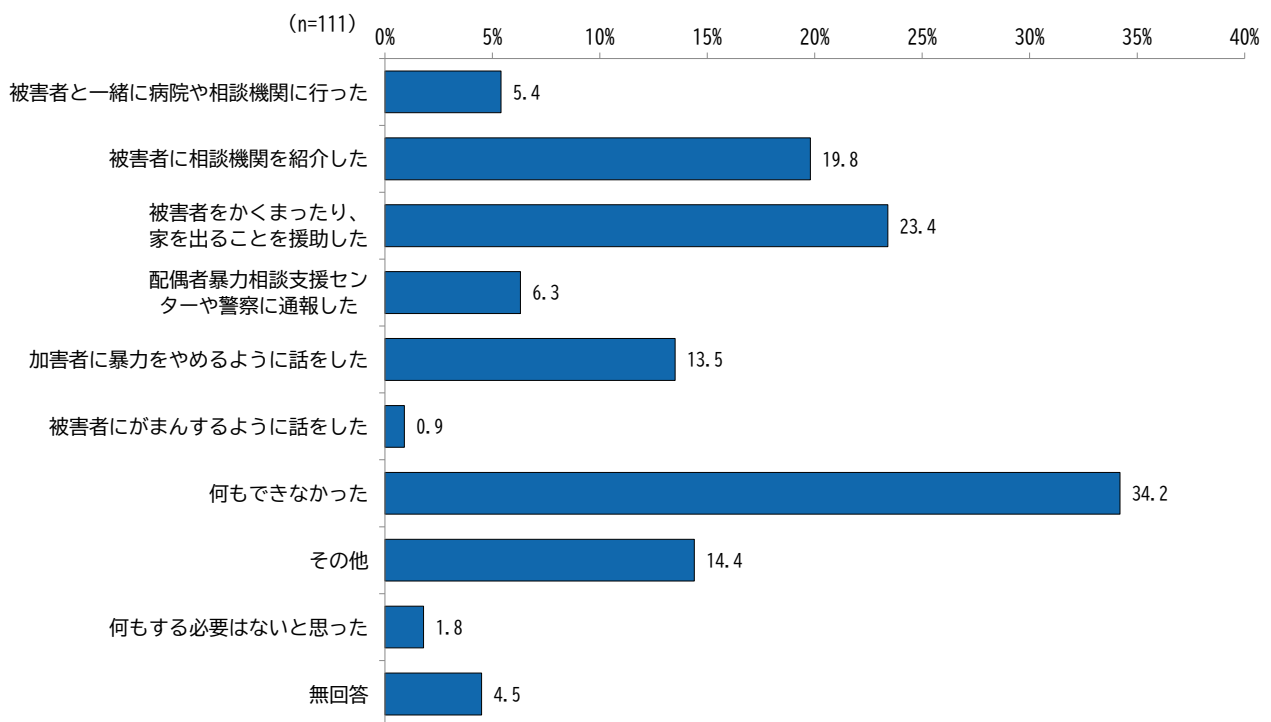
		全体（n）	家族や知人 などから相 談されたこ とがある	身近に当事 者がいる	身近に当事 者はいない が、うわさ を耳にした ことがある	その他	身近で見聞 きたこと はない	無回答
全体		740	59	71	189	11	427	21
		100.0	8.0	9.6	25.5	1.5	57.7	2.8
性別	男性	293	13	18	71	1	187	15
		100.0	4.4	6.1	24.2	0.3	63.8	5.1
性別	女性	447	46	53	118	10	240	6
		100.0	10.3	11.9	26.4	2.2	53.7	1.3
年齢	20歳代	102	5	6	16	1	76	1
		100.0	4.9	5.9	15.7	1.0	74.5	1.0
	30歳代	112	5	12	24	1	74	-
		100.0	4.5	10.7	21.4	0.9	66.1	-
	40歳代	152	16	19	44	2	77	3
		100.0	10.5	12.5	28.9	1.3	50.7	2.0
年齢	50歳代	165	13	13	46	3	95	4
		100.0	7.9	7.9	27.9	1.8	57.6	2.4
年齢	60歳代	209	20	21	59	4	105	13
		100.0	9.6	10.0	28.2	1.9	50.2	6.2

第2章 調査結果（個人意識調査）

問27 （問26で「1. 家族や知人などから相談されたことがある」「2. 身近に当事者がいる」と答えた方への質問）

そのことを知ってどうしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。（いくつでも）

- 全体では、「何もできなかった」が34.2%で最も高く、次いで「被害者をかくまったり、家を出ることを援助した」が23.4%、「被害者に相談機関を紹介した」が19.8%となっている。
- 性別でみると、女性は「被害者に相談機関を紹介した」が22.9%、「被害者をかくまったり、家を出ることを援助した」が26.5%など、支援行動が男性よりも高い傾向がある。一方で男性は「何もできなかった」が39.3%で最も高く、支援行動に結びつきにくい様子が見える。
- 年齢別でみると、50歳代と60歳代で「加害者に暴力をやめるように話をした」（50歳代で18.2%、60歳代で17.1%）が比較的高く、直接的な介入を行った割合が他の年齢より高くなっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

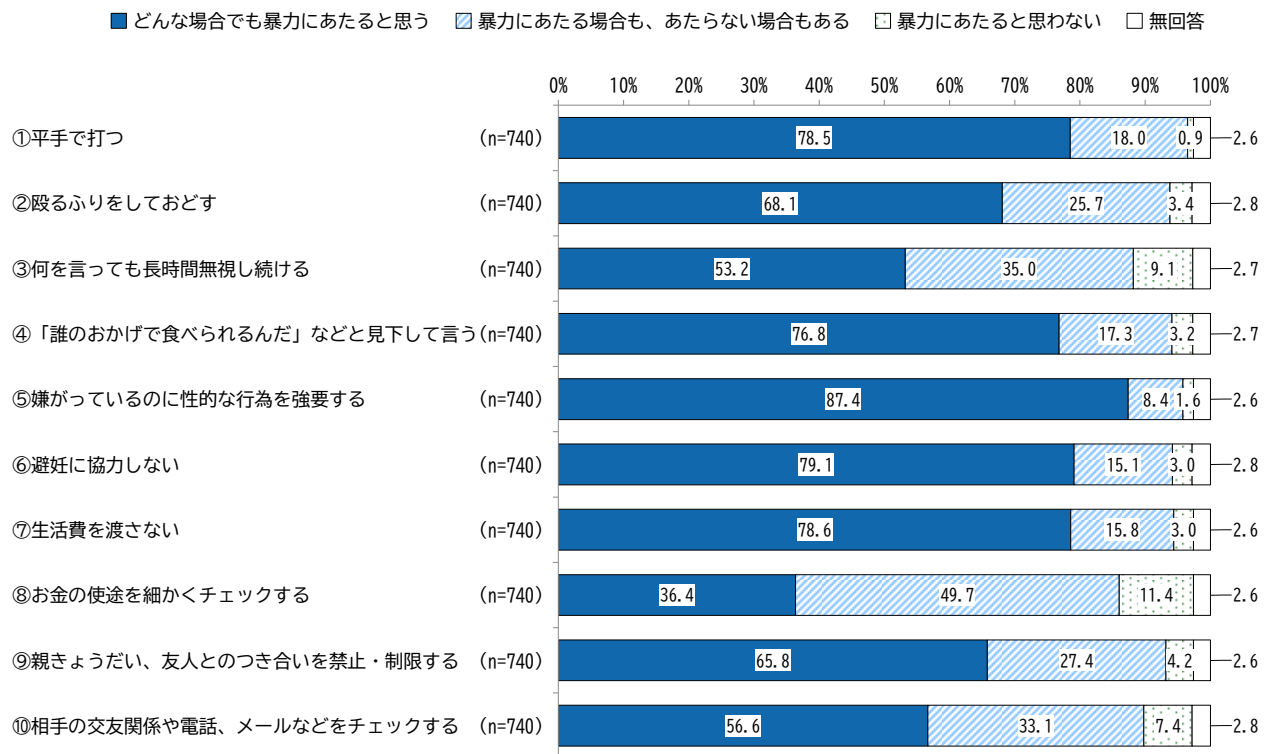
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	被害者と一 緒に病院や 相談機関に 行った	被害者に相 談機関を紹 介した	被害者をか くまったり、家を出 ることを援 助した	配偶者暴力 相談支援セ ンターや警 察に通報し た	加害者に暴 力をやめる ように話を した	被害者がが まんするよ うに話をし た	何もできな かった
全体		111 100.0	6 5.4	22 19.8	26 23.4	7 6.3	15 13.5	1 0.9	38 34.2
性別	男性	28 100.0	1 3.6	3 10.7	4 14.3	-	6 21.4	-	11 39.3
	女性	83 100.0	5 6.0	19 22.9	22 26.5	7 8.4	9 10.8	1 1.2	27 32.5
年齢	20歳代	9 100.0	-	1 11.1	1 11.1	-	4 44.4	-	3 33.3
	30歳代	15 100.0	1 6.7	2 13.3	2 13.3	1 6.7	-	-	6 40.0
	40歳代	30 100.0	2 6.7	5 16.7	6 20.0	1 3.3	1 3.3	-	12 40.0
	50歳代	22 100.0	1 4.5	8 36.4	7 31.8	1 4.5	4 18.2	-	3 13.6
	60歳代	35 100.0	2 5.7	6 17.1	10 28.6	4 11.4	6 17.1	1 2.9	14 40.0
		全体（n）	その他	何もする必 要はないと 思った	無回答				
全体		111 100.0	16 14.4	2 1.8	5 4.5				
性別	男性	28 100.0	4 14.3	1 3.6	1 3.6				
	女性	83 100.0	12 14.5	1 1.2	4 4.8				
年齢	20歳代	9 100.0	1 11.1	-	-				
	30歳代	15 100.0	1 6.7	1 6.7	3 20.0				
	40歳代	30 100.0	7 23.3	1 3.3	-				
	50歳代	22 100.0	4 18.2	-	-				
	60歳代	35 100.0	3 8.6	-	2 5.7				

第2章 調査結果（個人意識調査）

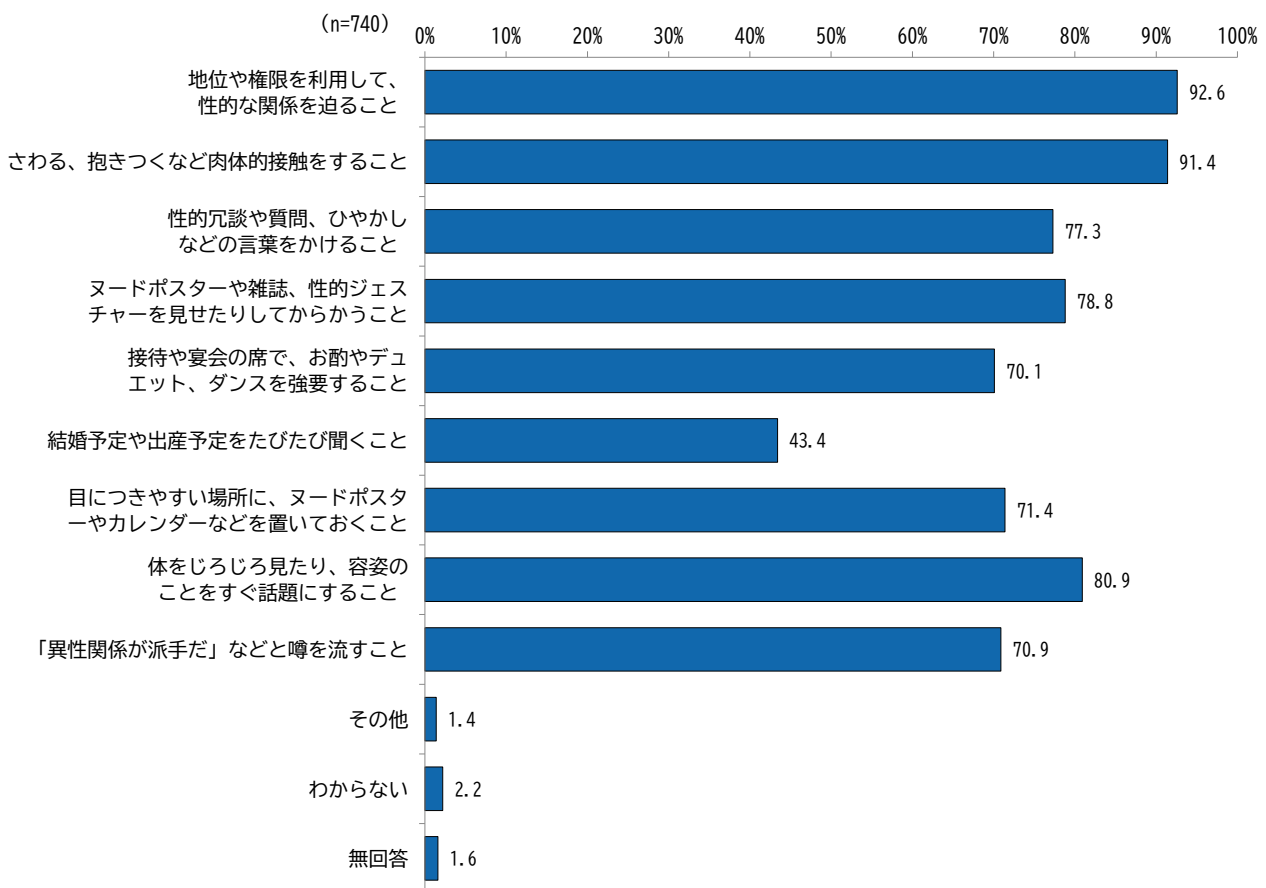
問28 あなたは、夫婦や恋人の間で次の①～⑩のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。（○はそれぞれに1つ）

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答をみると、「⑤嫌がっているのに性的な行為を強要する」が87.4%で最も高く、次いで「⑥避妊に協力しない」が79.1%、「⑦生活費を渡さない」が78.6%、「①平手で打つ」が78.5%となっている。



問29 あなたはセクシュアル・ハラスメントだと思うのは次のどれですか。該当するものすべて選んでください。（○はいくつでも）

- 全体では、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること」が 92.6%で最も高く、次いで「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」が 91.4%、「体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」が 80.9%となっている。
- 性別でみると、「その他」と「わからない」を除く項目では、女性の方が男性よりもハラスメントだと思う割合が高くなっている。特に「体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」は、女性が 85.7%で、男性の 73.7%より 12.0 ポイント高く、『異性関係が派手だ』などと噂を流すことは、女性が 73.4%で、男性の 67.2%より 6.2 ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、若年層（20～40 歳代）は比較的高い割合で多くの行為をハラスメントとして認識している一方、60 歳代では「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」が 35.9%など一部の項目で低く、年齢によってハラスメント認識の広がりには差がみられる。



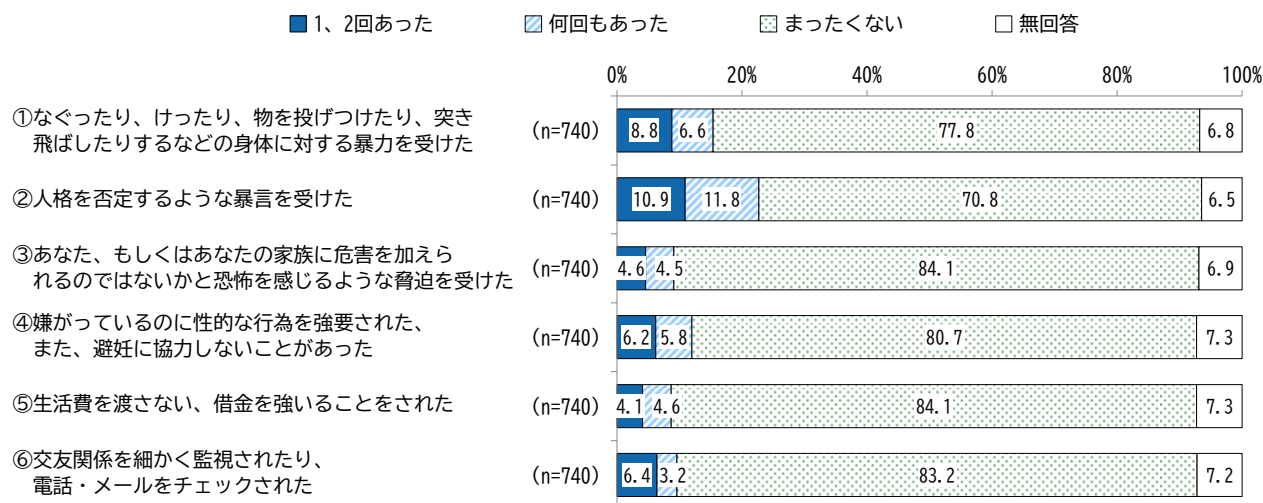
第2章 調査結果（個人意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること	ヌードポスターや雑誌、性的ジェスチャーを見せたりしてからかうこと	接待や宴会の席で、お酌やデュエット、ダンスを強要すること	結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと	目につきやすい場所に、ヌードポスターやカレンダーなどを置いておくこと
全体		740 100.0	685 92.6	676 91.4	572 77.3	583 78.8	519 70.1	321 43.4	528 71.4
性別	男性	293 100.0	269 91.8	263 89.8	214 73.0	223 76.1	196 66.9	118 40.3	199 67.9
	女性	447 100.0	416 93.1	413 92.4	358 80.1	360 80.5	323 72.3	203 45.4	329 73.6
年齢	20歳代	102 100.0	93 91.2	91 89.2	85 83.3	76 74.5	66 64.7	51 50.0	65 63.7
	30歳代	112 100.0	107 95.5	104 92.9	94 83.9	95 84.8	80 71.4	54 48.2	88 78.6
	40歳代	152 100.0	144 94.7	140 92.1	120 78.9	125 82.2	113 74.3	68 44.7	118 77.6
	50歳代	165 100.0	152 92.1	151 91.5	124 75.2	129 78.2	124 75.2	73 44.2	120 72.7
	60歳代	209 100.0	189 90.4	190 90.9	149 71.3	158 75.6	136 65.1	75 35.9	137 65.6
		全体（n）	体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること	「異性関係が派手だ」などと噂を流すこと	その他	わからない	無回答		
全体		740 100.0	599 80.9	525 70.9	10 1.4	16 2.2	12 1.6		
性別	男性	293 100.0	216 73.7	197 67.2	5 1.7	9 3.1	7 2.4		
	女性	447 100.0	383 85.7	328 73.4	5 1.1	7 1.6	5 1.1		
年齢	20歳代	102 100.0	83 81.4	66 64.7	— —	1 1.0	— —		
	30歳代	112 100.0	98 87.5	85 75.9	1 0.9	2 1.8	— —		
	40歳代	152 100.0	125 82.2	117 77.0	2 1.3	— —	— —		
	50歳代	165 100.0	133 80.6	115 69.7	4 2.4	6 3.6	5 3.0		
	60歳代	209 100.0	160 76.6	142 67.9	3 1.4	7 3.3	7 3.3		

問30 あなたは、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手から、次の①～⑥のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれに1つ）

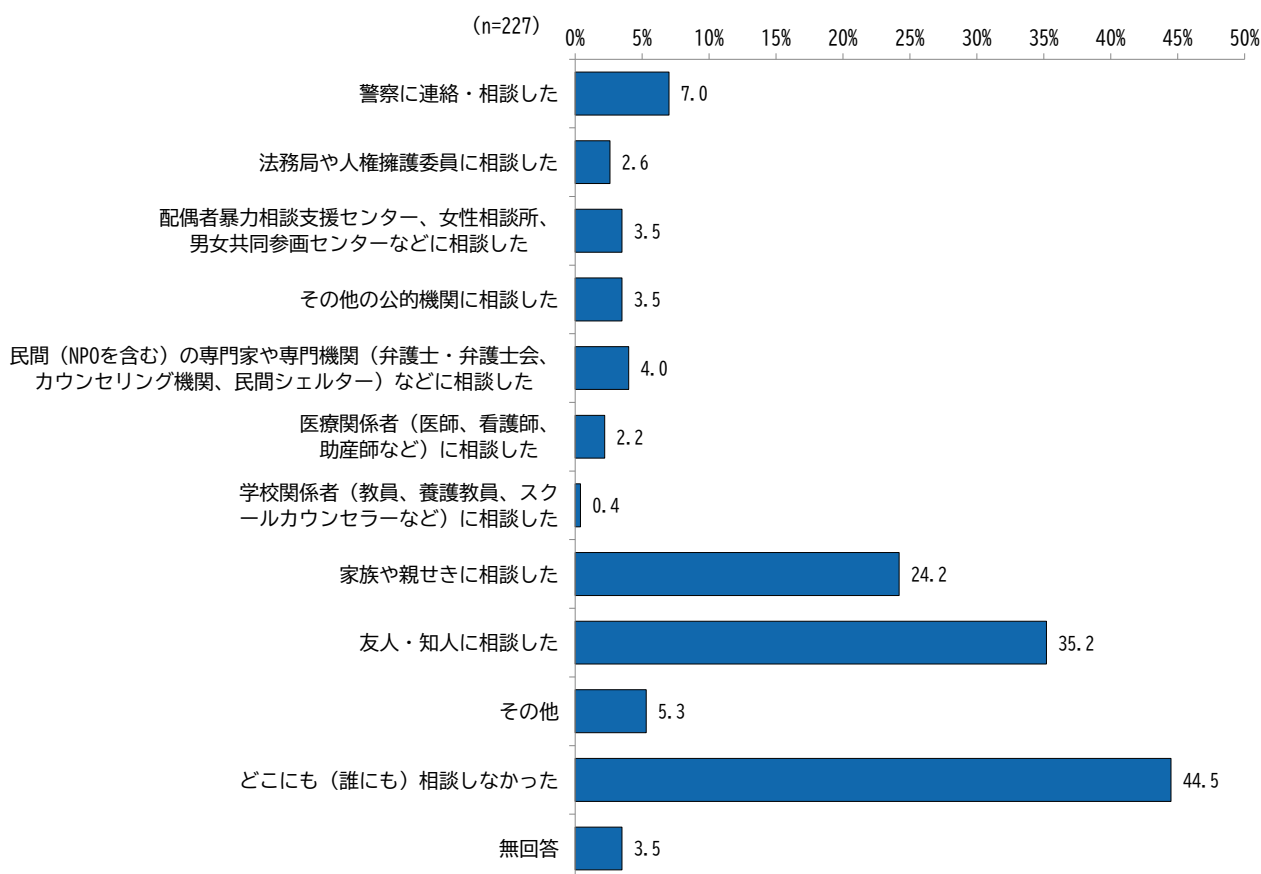
- 全体では、①～⑥いずれの項目も「まったくない」が70～84%台となっている。「②人格を否定するような暴言を受けた」では「1、2回あった」が10.9%、「何回もあった」が11.8%で合計が22.7%と最も高い。



第2章 調査結果（個人意識調査）

問31 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- 全体では、「どこにも（誰にも）相談しなかった」が 44.5%で最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が 35.2%、「家族や親せきに相談した」が 24.2%となっている。
- 性別でみると、男性は「どこにも（誰にも）相談しなかった」が 50.0%で、女性の 42.8%よりも高い。一方で女性は、「友人・知人に相談した」が 36.4%、「家族や親せきに相談した」が 26.0%と男性よりやや高く、身近な人へ打ち明ける傾向が強い。
- 年齢別でみると、20 歳代は「友人・知人に相談した」が 66.7%と突出して高くなっている。30～60 歳代は「どこにも（誰にも）相談しなかった」が 4～5 割台と高くなっている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

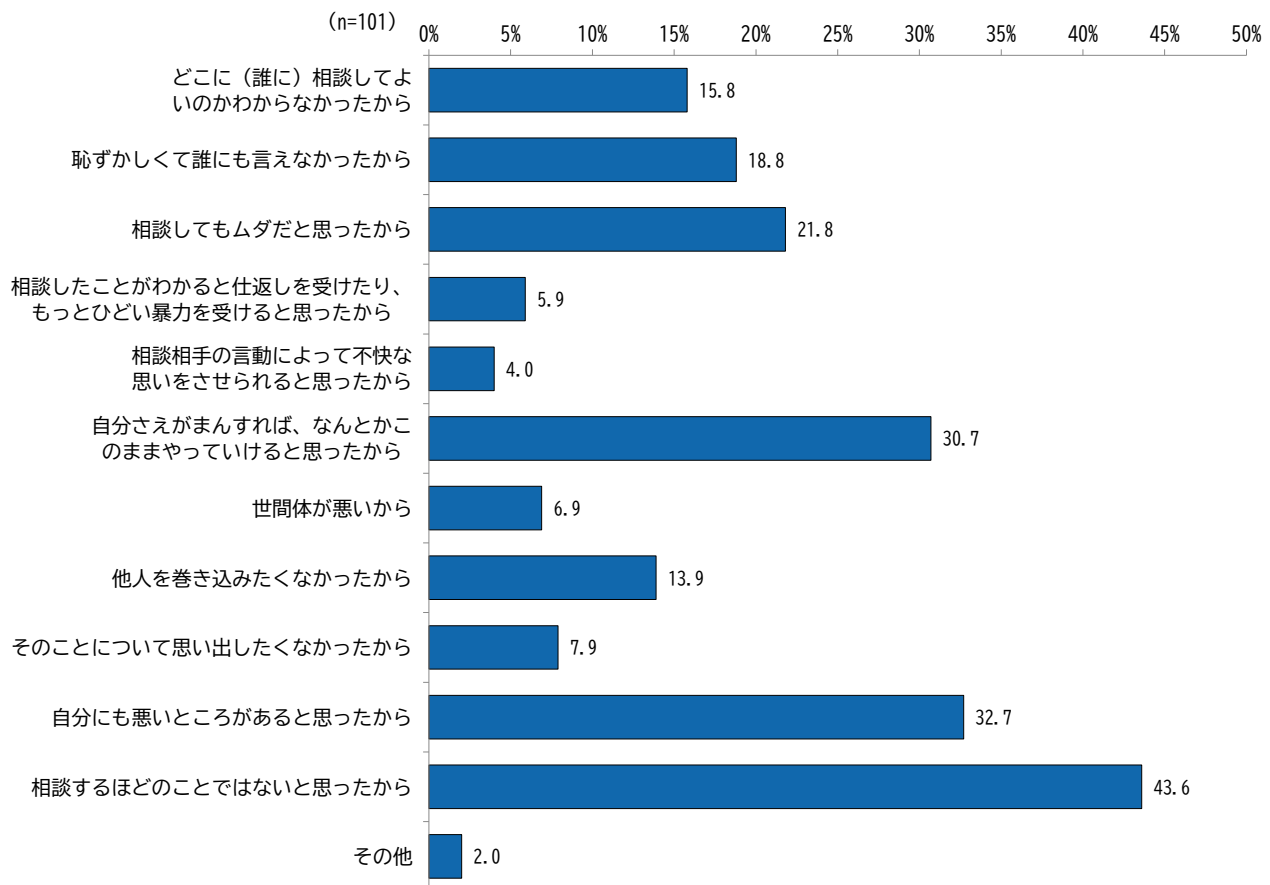
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	警察に連絡・相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	配偶者暴力相談支援センター、女性相談所、男女共同参画センターなどに相談した	その他の公的機関に相談した	民間（NPOを含む）の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルター）などに相談した	医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
全体		227 100.0	16 7.0	6 2.6	8 3.5	8 3.5	9 4.0	5 2.2	1 0.4
性別	男性	54 100.0	6 11.1	1 1.9	1 1.9	2 3.7	-	-	-
	女性	173 100.0	10 5.8	5 2.9	7 4.0	6 3.5	9 5.2	5 2.9	1 0.6
年齢	20歳代	15 100.0	1 6.7	-	-	-	-	-	-
	30歳代	30 100.0	3 10.0	-	1 3.3	-	1 3.3	2 6.7	-
	40歳代	60 100.0	2 3.3	3 5.0	3 5.0	3 5.0	3 5.0	-	1 1.7
	50歳代	52 100.0	4 7.7	2 3.8	2 3.8	3 5.8	3 5.8	2 3.8	-
	60歳代	70 100.0	6 8.6	1 1.4	2 2.9	2 2.9	2 2.9	1 1.4	-
		全体（n）	家族や親せきに相談した	友人・知人に相談した	その他	どこにも（誰にも）相談しなかった	無回答		
全体		227 100.0	55 24.2	80 35.2	12 5.3	101 44.5	8 3.5		
性別	男性	54 100.0	10 18.5	17 31.5	2 3.7	27 50.0	2 3.7		
	女性	173 100.0	45 26.0	63 36.4	10 5.8	74 42.8	6 3.5		
年齢	20歳代	15 100.0	3 20.0	10 66.7	-	5 33.3	-		
	30歳代	30 100.0	5 16.7	9 30.0	3 10.0	16 53.3	-		
	40歳代	60 100.0	14 23.3	23 38.3	5 8.3	27 45.0	1 1.7		
	50歳代	52 100.0	15 28.8	17 32.7	2 3.8	22 42.3	1 1.9		
	60歳代	70 100.0	18 25.7	21 30.0	2 2.9	31 44.3	6 8.6		

第2章 調査結果（個人意識調査）

問32 （問31で「11.どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」と答えた方への質問）
どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- 全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が43.6%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が30.7%となっている。
- 性別でみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が70.4%と突出して高く、相談行動に対してより消極的であることがうかがえる。一方、女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が35.1%、「相談してもムダだと思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」が25.7%と高く、我慢や諦めに基づく理由が目立つ。
- 年齢別でみると、60歳代では「相談するほどのことではないと思ったから」が51.6%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が45.2%と高く、高年齢層ほど、相談をためらう傾向がより強く表れている。



第2章 調査結果（個人意識調査）

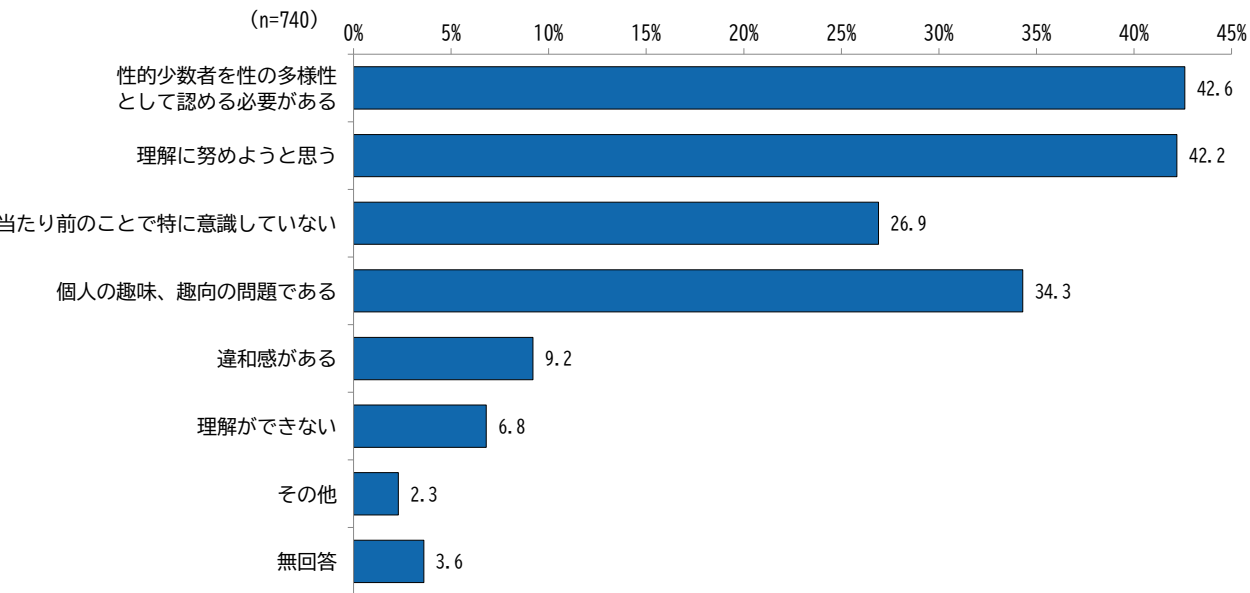
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	どこに（誰に）相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談してもムダだと思ったから	相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられたから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから
全体		101 100.0	16 15.8	19 18.8	22 21.8	6 5.9	4 4.0	31 30.7	7 6.9
性別	男性	27 100.0	4 14.8	2 7.4	3 11.1	-	-	5 18.5	1 3.7
	女性	74 100.0	12 16.2	17 23.0	19 25.7	6 8.1	4 5.4	26 35.1	6 8.1
年齢	20歳代	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0
	30歳代	16 100.0	1 6.3	1 6.3	4 25.0	-	1 6.3	7 43.8	-
	40歳代	27 100.0	7 25.9	5 18.5	5 18.5	2 7.4	1 3.7	10 37.0	3 11.1
	50歳代	22 100.0	4 18.2	3 13.6	5 22.7	1 4.5	-	5 22.7	-
	60歳代	31 100.0	3 9.7	9 29.0	6 19.4	2 6.5	1 3.2	7 22.6	3 9.7
		全体（n）	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出したくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他		
全体		101 100.0	14 13.9	8 7.9	33 32.7	44 43.6	2 2.0		
性別	男性	27 100.0	2 7.4	-	14 51.9	19 70.4	-		
	女性	74 100.0	12 16.2	8 10.8	19 25.7	25 33.8	2 2.7		
年齢	20歳代	5 100.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	-		
	30歳代	16 100.0	3 18.8	-	3 18.8	7 43.8	-		
	40歳代	27 100.0	4 14.8	2 7.4	6 22.2	11 40.7	1 3.7		
	50歳代	22 100.0	4 18.2	2 9.1	9 40.9	9 40.9	-		
	60歳代	31 100.0	2 6.5	4 12.9	14 45.2	16 51.6	1 3.2		

7. 性の多様性について

問33 性の多様性について、どのようなお考えをお持ちですか。（〇はいくつでも）

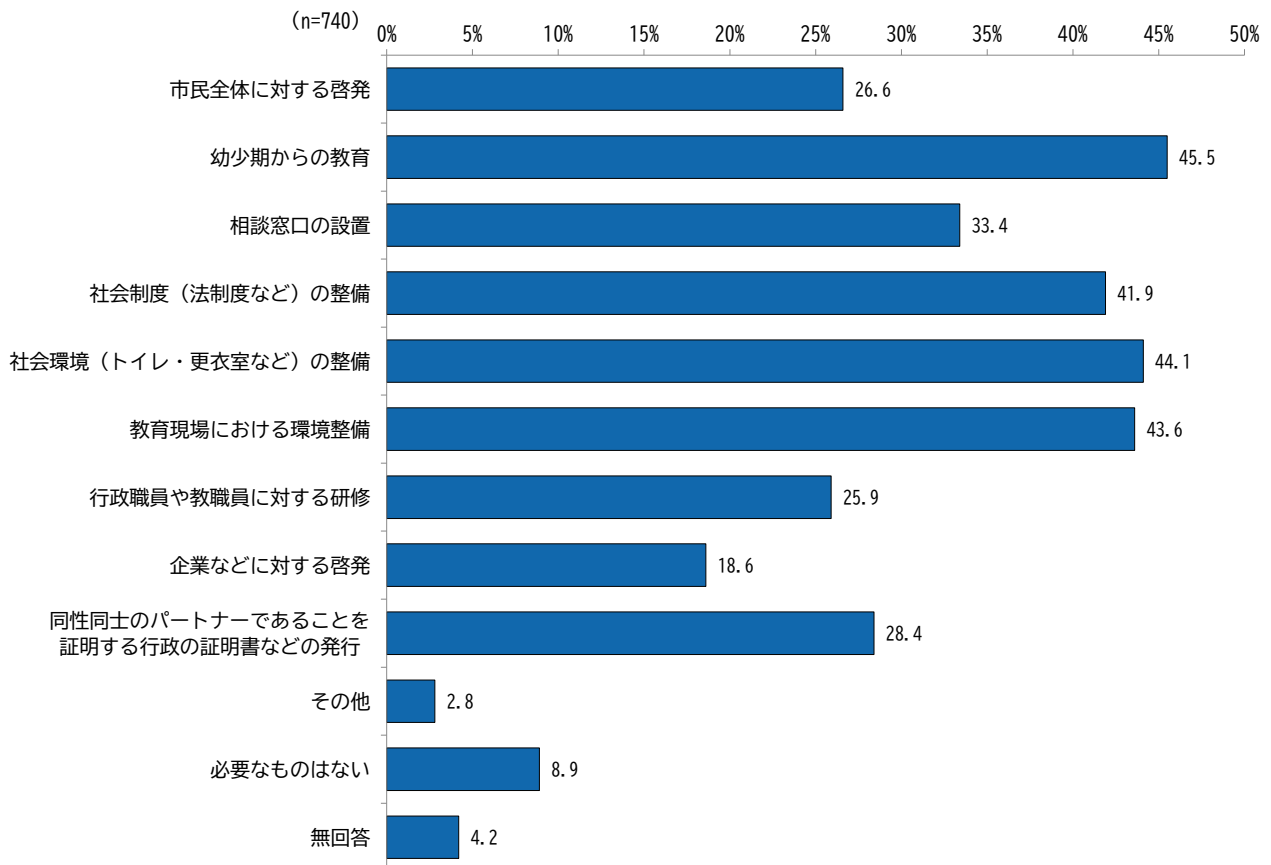
- 全体では、「性的少数者を性の多様性として認める必要がある」が 42.6%で最も高く、次いで「理解に努めようと思う」が 42.2%、「個人の趣味、趣向の問題である」が 34.3%となっている。
- 性別でみると、女性では、「性的少数者を性の多様性として認める必要がある」が 46.5%で、男性の 36.5%よりも 10.0 ポイント高く、男性では、「違和感がある」が 10.9%、「理解ができない」が 8.9%で女性より 2.8～3.5 ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「性的少数者を性の多様性として認める必要がある」は 40 歳代が 55.3%で最も高く、「理解に努めようと思う」は 40 歳代が 48.0%、50 歳代が 46.1%と比較的高い。一方、「違和感がある」は 60 歳代が 12.9%で最も高く、「理解ができない」も 60 歳代が 11.5%で他の年齢を上回っており、高齢層では性の多様性に対する理解が十分に進んでいない傾向がうかがえる。



		(上段：実数、下段：割合)								
		全体 (n)	性的少数者を性の多様性として認める必要がある	理解に努めようと思う	当たり前のことで特に意識していない	個人の趣味、趣向の問題である	違和感がある	理解ができない	その他	無回答
全体		740	315	312	199	254	68	50	17	27
		100.0	42.6	42.2	26.9	34.3	9.2	6.8	2.3	3.6
性別	男性	293	107	125	68	102	32	26	7	15
		100.0	36.5	42.7	23.2	34.8	10.9	8.9	2.4	5.1
	女性	447	208	187	131	152	36	24	10	12
		100.0	46.5	41.8	29.3	34.0	8.1	5.4	2.2	2.7
年齢	20歳代	102	44	37	35	33	4	8	1	3
		100.0	43.1	36.3	34.3	32.4	3.9	7.8	1.0	2.9
	30歳代	112	36	44	34	45	10	3	1	1
		100.0	32.1	39.3	30.4	40.2	8.9	2.7	0.9	0.9
	40歳代	152	84	73	42	54	12	5	6	2
		100.0	55.3	48.0	27.6	35.5	7.9	3.3	3.9	1.3
	50歳代	165	66	76	42	40	15	10	4	6
		100.0	40.0	46.1	25.5	24.2	9.1	6.1	2.4	3.6
	60歳代	209	85	82	46	82	27	24	5	15
		100.0	40.7	39.2	22.0	39.2	12.9	11.5	2.4	7.2

問34 性の多様性に関する取組としてどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「幼少期からの教育」が45.5%で最も高く、次いで「社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」が44.1%、「教育現場における環境整備」が43.6%となっている。
- 性別でみると、女性はほぼすべての項目で男性より高く、特に「社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」が49.9%、「幼少期からの教育」が49.2%、「教育現場における環境整備」が47.2%と高く、環境整備を望む傾向が強い。一方、男性では「必要なものはない」が14.3%で、女性の5.4%より8.9ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、40歳代では「幼少期からの教育」が53.9%、「社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」が52.0%と高くなっている。次いで「教育現場における環境整備」が48.7%、「社会制度（法制度など）の整備」が44.1%で高く、制度面・教育面ともに包括的な整備を求めている。一方、「必要なものはない」が5.3%と低く、40歳代は各年齢の中でも性の多様性に関する取組の必要性を感じている層といえる。



第2章 調査結果（個人意識調査）

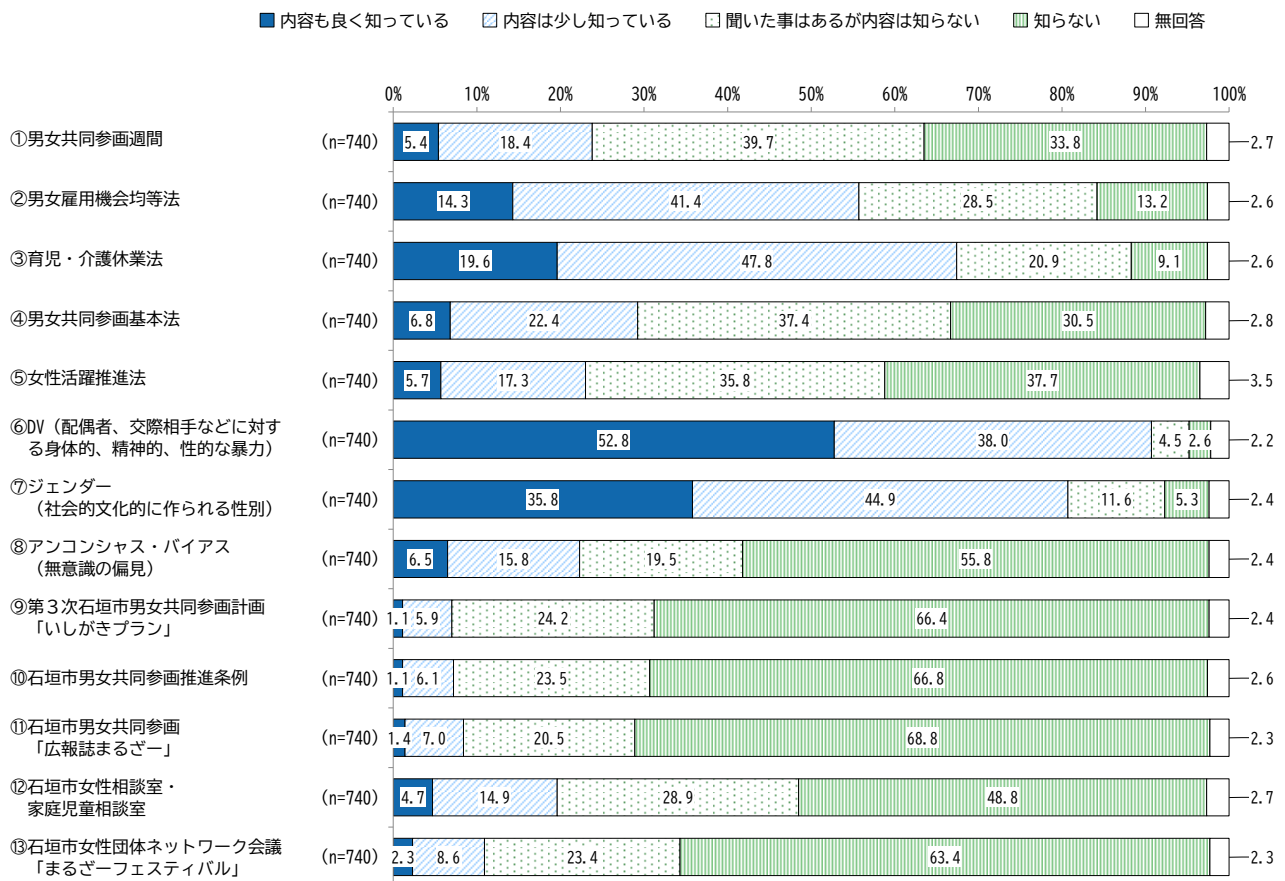
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	市民全体に 対する啓発	幼少期から の教育	相談窓口の 設置	社会制度 （法制度な ど）の整備	社会環境 （トイレ・ 更衣室な ど）の整備	教育現場に おける環境 整備	行政職員や 教職員に対 する研修
全体		740 100.0	197 26.6	337 45.5	247 33.4	310 41.9	326 44.1	323 43.6	192 25.9
性別	男性	293 100.0	75 25.6	117 39.9	85 29.0	112 38.2	103 35.2	112 38.2	63 21.5
	女性	447 100.0	122 27.3	220 49.2	162 36.2	198 44.3	223 49.9	211 47.2	129 28.9
年齢	20歳代	102 100.0	21 20.6	49 48.0	29 28.4	37 36.3	39 38.2	41 40.2	26 25.5
	30歳代	112 100.0	26 23.2	55 49.1	31 27.7	44 39.3	56 50.0	51 45.5	27 24.1
	40歳代	152 100.0	48 31.6	82 53.9	44 28.9	67 44.1	79 52.0	74 48.7	47 30.9
	50歳代	165 100.0	50 30.3	69 41.8	53 32.1	63 38.2	71 43.0	65 39.4	38 23.0
	60歳代	209 100.0	52 24.9	82 39.2	90 43.1	99 47.4	81 38.8	92 44.0	54 25.8
		全体（n）	企業などに 対する啓発	同性同士の パートナー であることを証明する 行政の証明書などの発行	その他	必要なもの はない	無回答		
全体		740 100.0	138 18.6	210 28.4	21 2.8	66 8.9	31 4.2		
性別	男性	293 100.0	49 16.7	65 22.2	8 2.7	42 14.3	18 6.1		
	女性	447 100.0	89 19.9	145 32.4	13 2.9	24 5.4	13 2.9		
年齢	20歳代	102 100.0	15 14.7	36 35.3	1 1.0	14 13.7	2 2.0		
	30歳代	112 100.0	15 13.4	31 27.7	2 1.8	13 11.6	1 0.9		
	40歳代	152 100.0	33 21.7	58 38.2	5 3.3	8 5.3	4 2.6		
	50歳代	165 100.0	26 15.8	40 24.2	5 3.0	10 6.1	9 5.5		
	60歳代	209 100.0	49 23.4	45 21.5	8 3.8	21 10.0	15 7.2		

8. 男女共同参画行政について

問35 あなたは次にあげる言葉を知っていますか。次の①～⑬の言葉について、あてはまるものを選んでください。（〇はそれぞれに1つ）

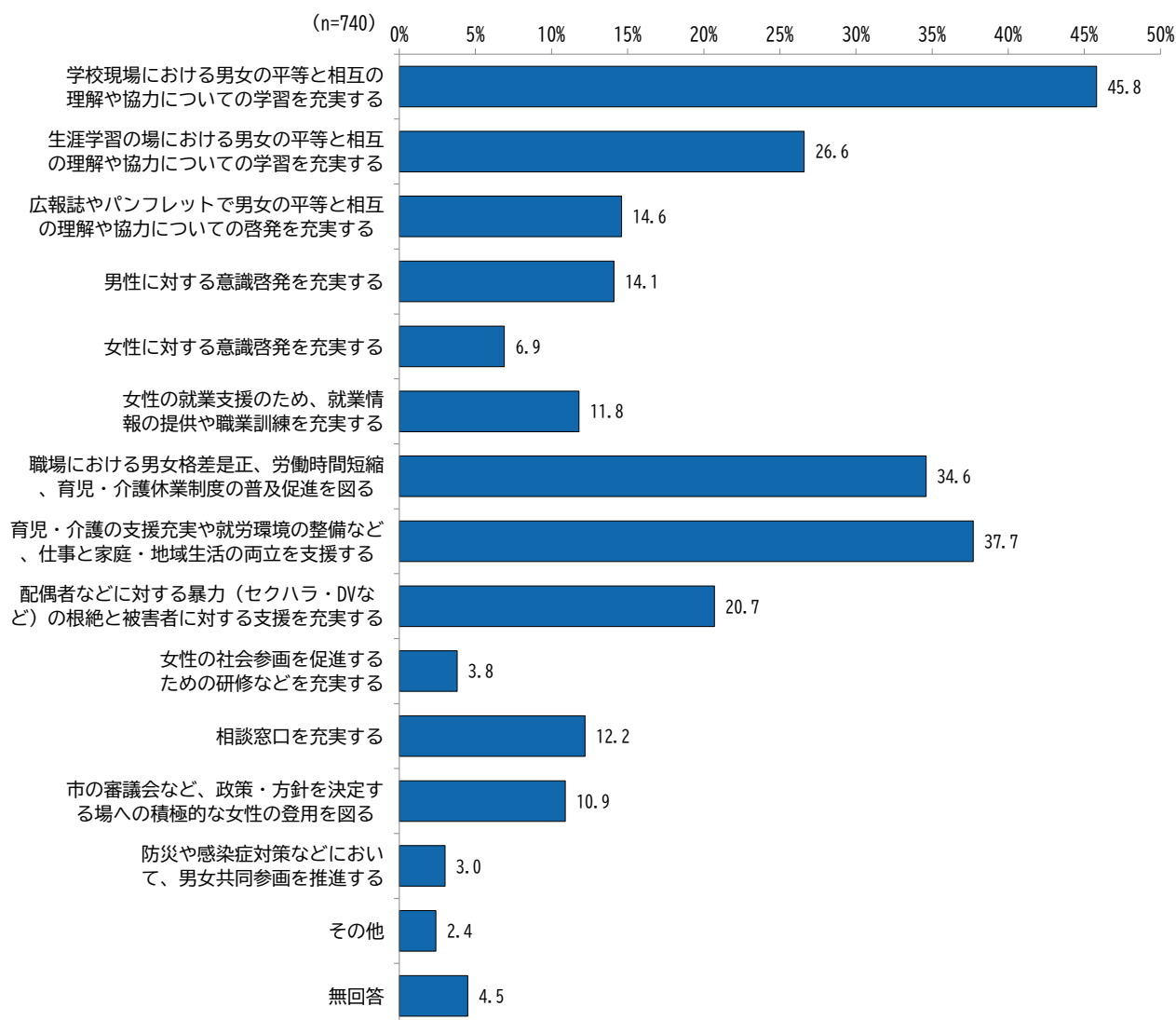
- ①～⑬のうち最も認知度が高いのは「⑥DV（配偶者、交際相手などに対する身体的、精神的、性的な暴力）」で、「内容も良く知っている」が52.8%、「内容は少し知っている」が38.0%で合計90.8%となっている。次いで「⑦ジェンダー（社会的文化的に作られる性別）」が80.7%、「育児・介護休業法」が67.4%、「②男女雇用機会均等法」が55.7%、と続く。一方、「⑨第3次石垣市男女共同参画計画『いしがきプラン』」は7.0%、「⑩石垣市男女共同参画推進条例」が7.2%、「⑪石垣市男女共同参画『広報誌まるざー』」が8.4%など、市独自の制度・施策は認知度が低く、「知らない」がいずれも6割に達している。



第2章 調査結果（個人意識調査）

問36 男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを次の中から選んでください。（○は3つまで）

- 全体では、「学校現場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が45.8%で最も高く、次いで「育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する」が37.7%、「職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る」が34.6%となっている。
- 性別でみると、女性は「育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する」が42.1%、「職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る」が38.7%で男性より比較的高い。一方、男性は「広報誌やパンフレットで男女の平等と相互の理解や協力についての啓発を充実する」が17.1%、「相談窓口を充実する」が14.0%で女性より高く、制度そのものよりも仕組みの理解や情報提供も重視する傾向が表れている。
- 年齢別でみると、「学校現場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」は30歳代が50.9%で最も高く、20歳代が49.0%、50歳代が47.9%と続く。「育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する」は30歳代が43.8%で最も高く、40歳代が41.4%となっている。また、「職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る」は20歳代が38.2%、50歳代が37.6%、60歳代が34.9%と比較的高い。



第2章 調査結果（個人意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

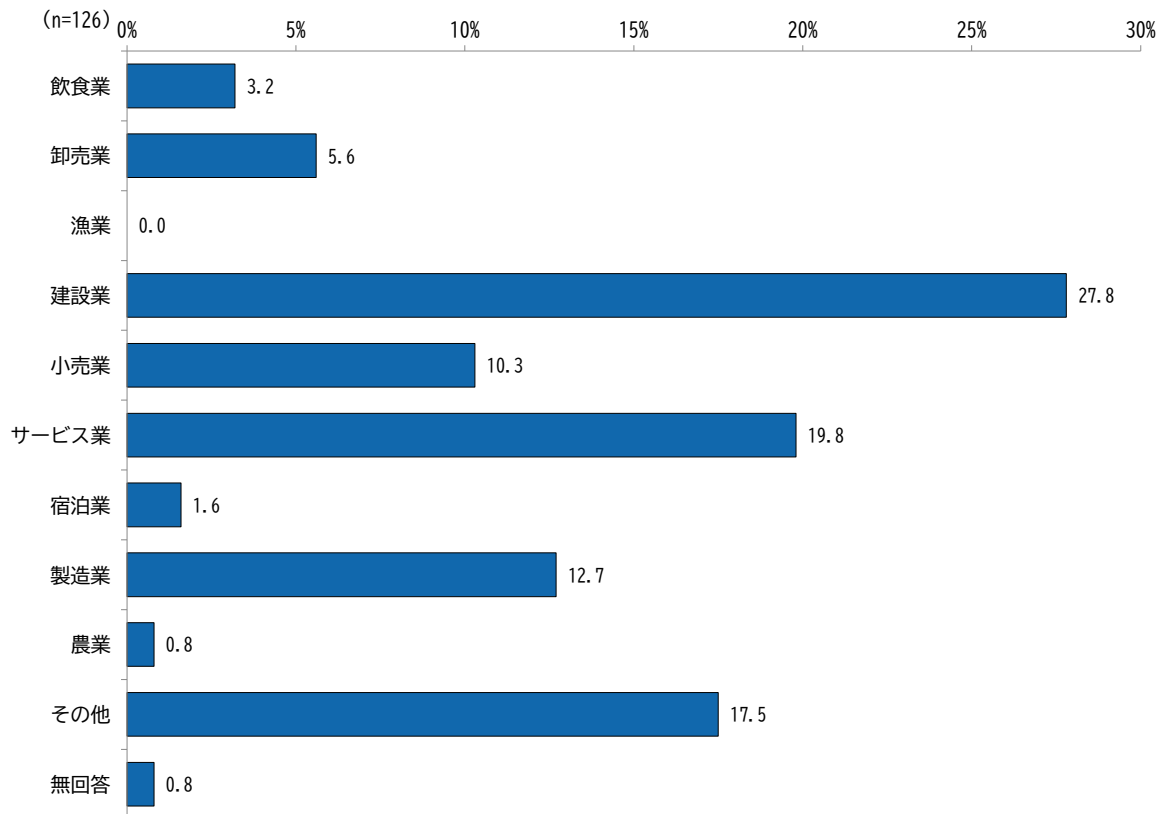
		全体 (n)	学校現場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	生涯学習の場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	広報誌やパンフレットで男女の平等と相互の理解や協力についての啓発を充実する	男性に対する意識啓発を充実する	女性に対する意識啓発を充実する	女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実する	職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る	育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する
全体		740	339	197	108	104	51	87	256	279
		100.0	45.8	26.6	14.6	14.1	6.9	11.8	34.6	37.7
性別	男性	293	134	76	50	46	27	28	83	91
		100.0	45.7	25.9	17.1	15.7	9.2	9.6	28.3	31.1
性別	女性	447	205	121	58	58	24	59	173	188
		100.0	45.9	27.1	13.0	13.0	5.4	13.2	38.7	42.1
年齢	20歳代	102	50	26	14	11	8	6	39	36
		100.0	49.0	25.5	13.7	10.8	7.8	5.9	38.2	35.3
	30歳代	112	57	31	9	15	5	15	38	49
		100.0	50.9	27.7	8.0	13.4	4.5	13.4	33.9	43.8
	40歳代	152	68	42	22	24	12	22	44	63
		100.0	44.7	27.6	14.5	15.8	7.9	14.5	28.9	41.4
年齢	50歳代	165	79	48	33	19	13	16	62	50
		100.0	47.9	29.1	20.0	11.5	7.9	9.7	37.6	30.3
年齢	60歳代	209	85	50	30	35	13	28	73	81
		100.0	40.7	23.9	14.4	16.7	6.2	13.4	34.9	38.8
		全体 (n)	配偶者などに対する暴力（セクハラ・DVなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する	女性の社会参画を促進するための研修などを充実する	相談窓口を充実する	市の審議会など、政策・方針を決定する場への積極的な女性の登用を図る	防災や感染症対策などにおいて、男女共同参画を推進する	その他	無回答	
全体		740	153	28	90	81	22	18	33	
		100.0	20.7	3.8	12.2	10.9	3.0	2.4	4.5	
性別	男性	293	53	7	41	25	9	11	16	
		100.0	18.1	2.4	14.0	8.5	3.1	3.8	5.5	
性別	女性	447	100	21	49	56	13	7	17	
		100.0	22.4	4.7	11.0	12.5	2.9	1.6	3.8	
年齢	20歳代	102	29	3	14	10	3	-	2	
		100.0	28.4	2.9	13.7	9.8	2.9	-	2.0	
	30歳代	112	24	2	12	7	1	6	1	
		100.0	21.4	1.8	10.7	6.3	0.9	5.4	0.9	
	40歳代	152	30	8	14	17	4	3	5	
		100.0	19.7	5.3	9.2	11.2	2.6	2.0	3.3	
年齢	50歳代	165	31	9	24	13	1	6	9	
		100.0	18.8	5.5	14.5	7.9	0.6	3.6	5.5	
年齢	60歳代	209	39	6	26	34	13	3	16	
		100.0	18.7	2.9	12.4	16.3	6.2	1.4	7.7	

第3章 調査結果（事業所意識調査）

1. 事業所の概要について

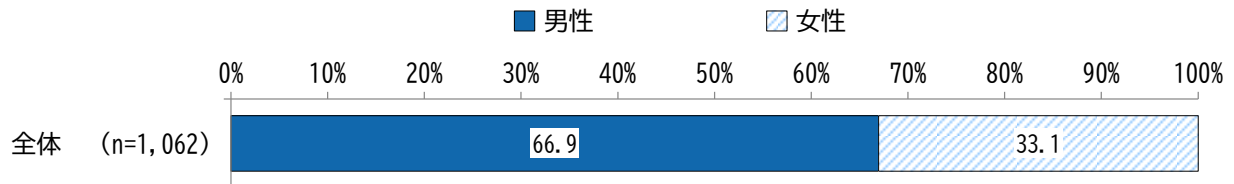
問1 貴事業所の主な業種はなんですか。（〇は1つ）

- 全体では、「建設業」が27.8%で最も高く、次いで「サービス業」が19.8%、「製造業」が12.7%となっている。

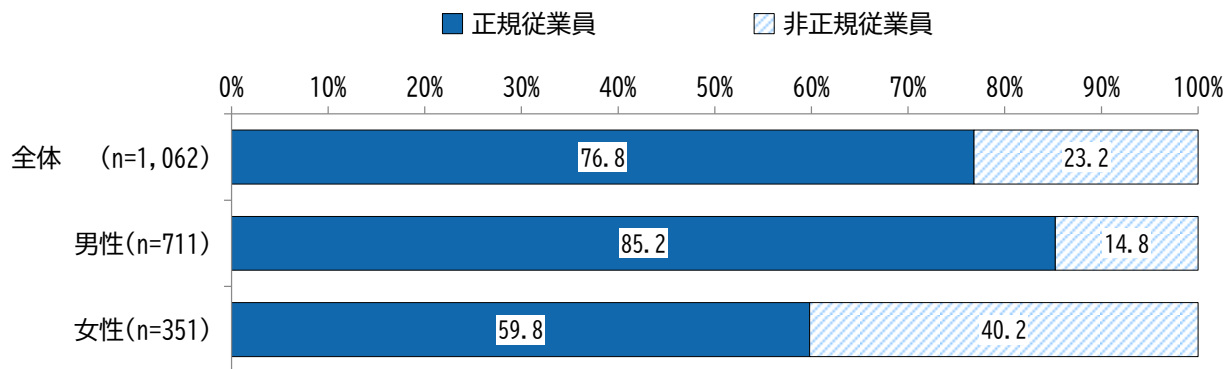


問2 貴事業所の雇用状況と管理職数についてご回答ください。
（いない場合は「0」人と記入してください）

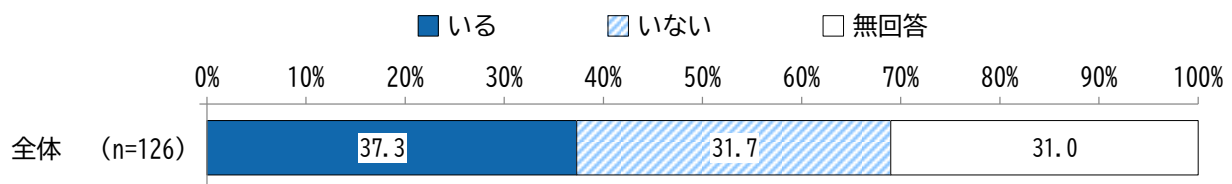
① 男女別従業員割合



② 男女別正規従業員と非正規従業員割合



③ 女性管理職の有無



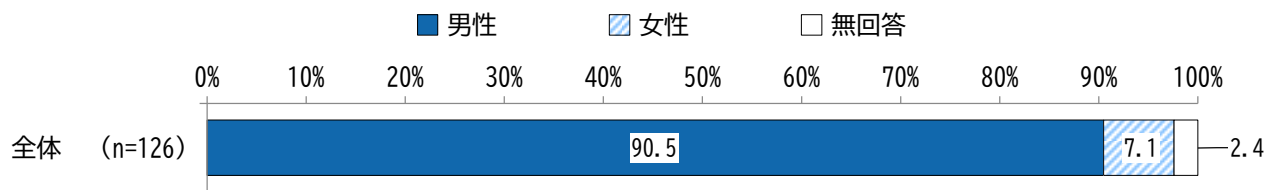
④ 男女別従業員構成割合と管理職の割合

区分	正規従業員	非正規従業員 (パート・アルバイト・ 嘱託・派遣社員)	管理職 (配下の従業員を指揮・ 監督する立場にある役 職)
男性 n=711	606 85.2%	105 14.8%	141 19.8%
女性 n=351	210 59.8%	141 40.2%	42 12.0%
全体 n=1,062	816 76.8%	246 23.2%	183 17.2%

第3章 調査結果（事業所意識調査）

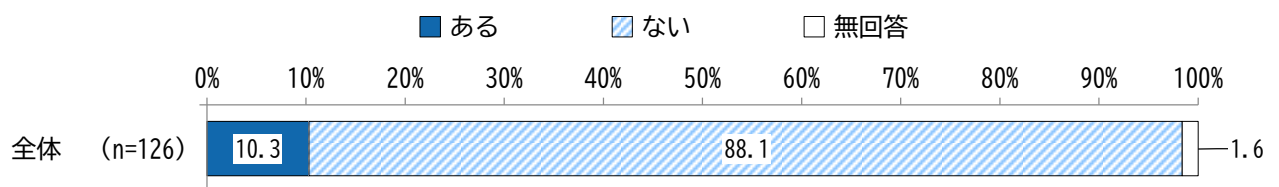
問3 事業主の性別はどちらですか。（○は1つ）

- 全体では、「男性」が90.5%、「女性」が7.1%となっている。



問4 貴事業所には、労働組合がありますか。（○は1つ）

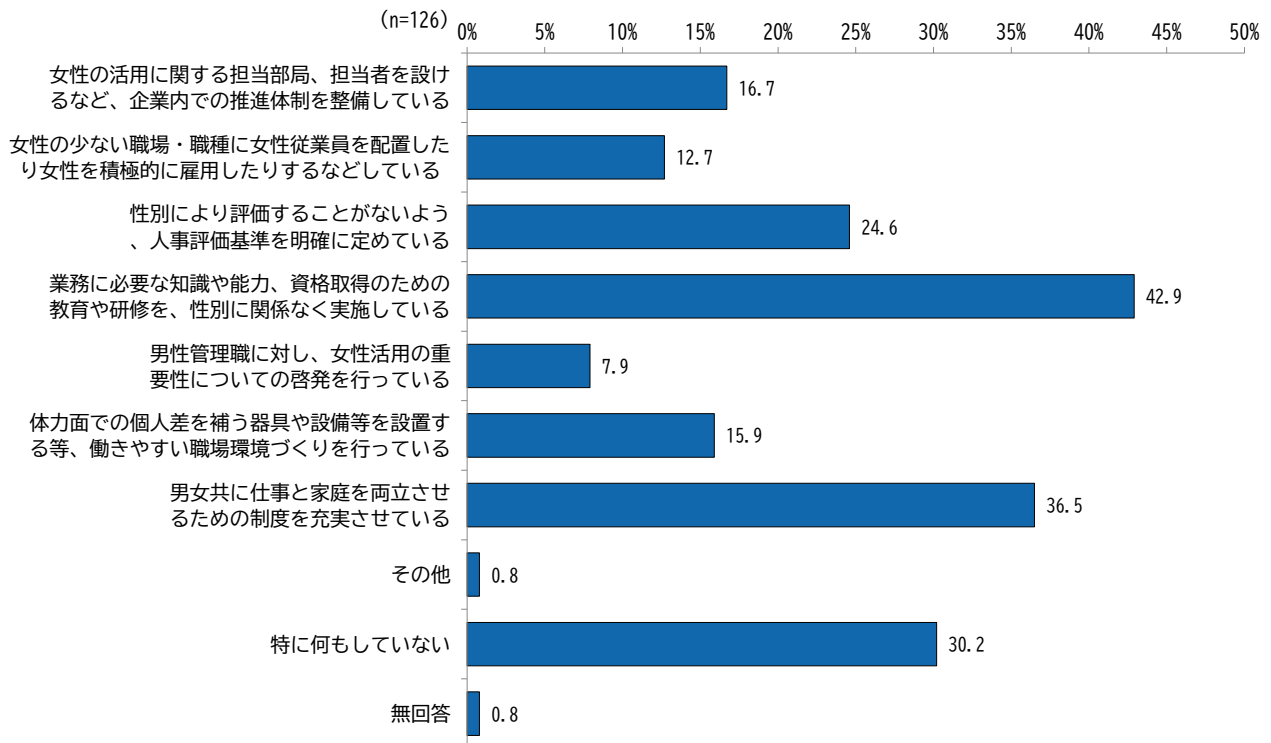
- 全体では、「ない」が88.1%、「ある」が10.3%となっている。



2. 事業所の男女共同参画への取り組みについて

問5 貴事業所では、職場において、女性も男性も平等に働ける環境づくりに向けてどのようなことに取り組んでいますか。（○はいくつでも）

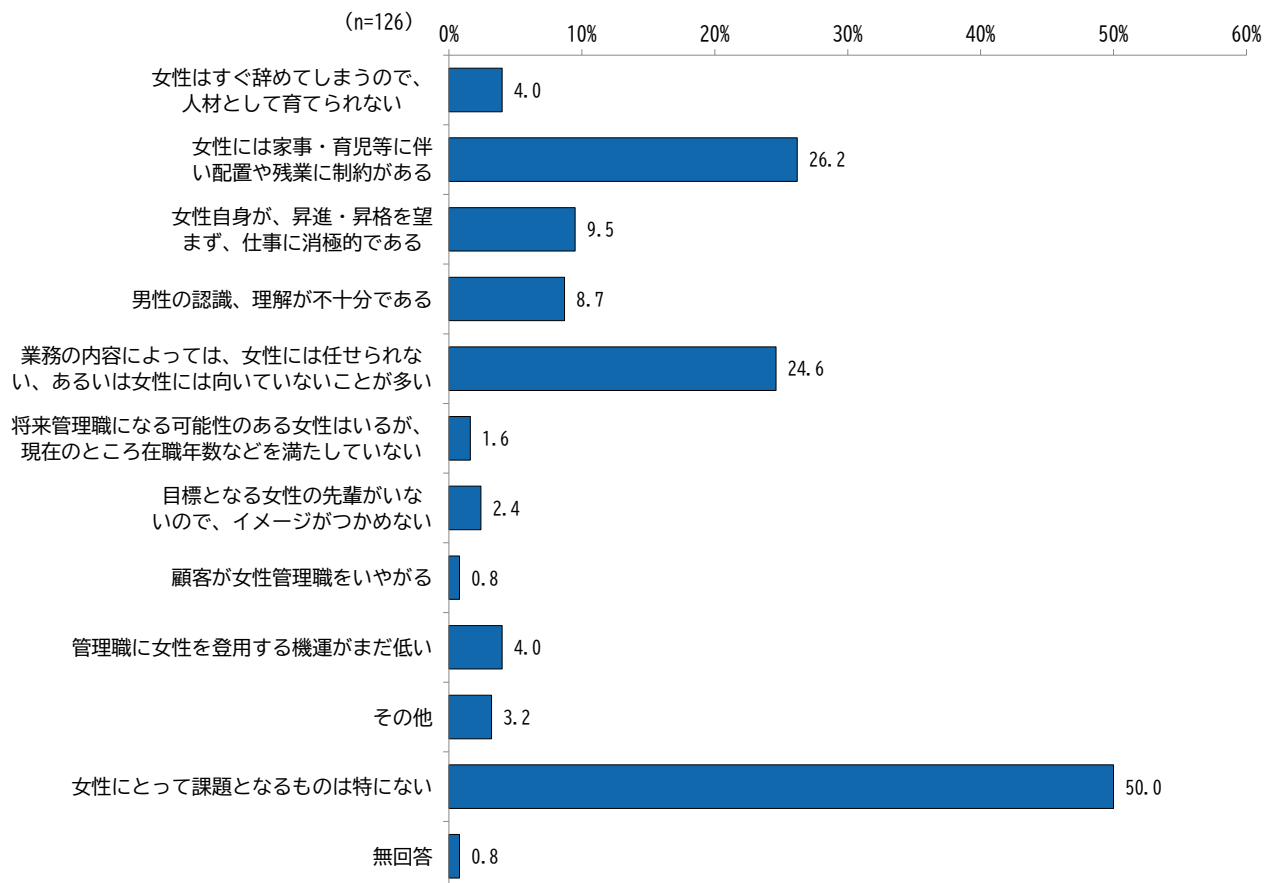
- 全体では、「業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を、性別に関係なく実施している」が42.9%で最も高く、次いで「男女共に仕事と家庭を両立させるための制度を充実させている」が36.5%、「特に何もしていない」が30.2%となっている。



第3章 調査結果（事業所意識調査）

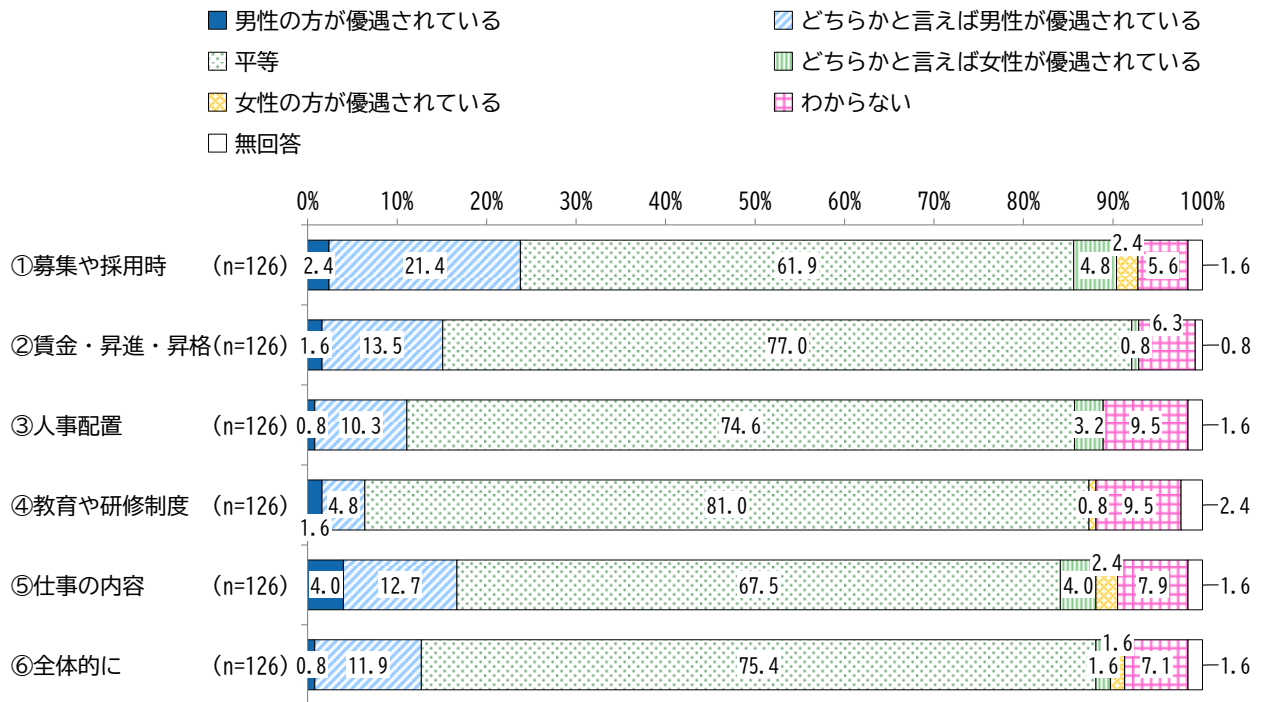
問6 貴事業所では、女性も男性も同じような環境で働いていくために、特に女性にとって課題となっていることは何ですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「女性にとって課題となるものは特にない」が 50.0%で最も高く、次いで「女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある」が 26.2%、「業務の内容によっては、女性には任せられない、あるいは女性には向いていないことが多い」が 24.6%となっている。



問7 貴事業所では、次にあげる面で、性別によって差があると思いますか。（○はそれぞれに1つ）

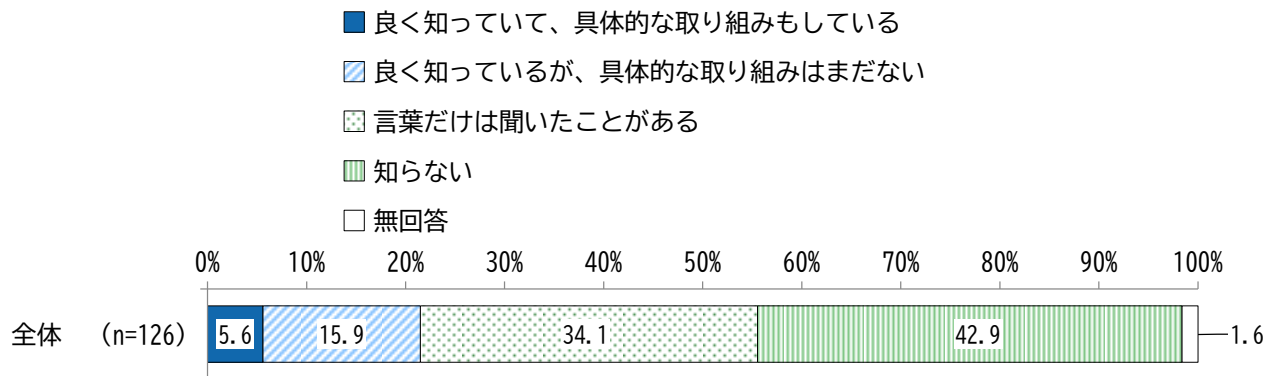
- ①～⑥すべての項目において「平等」が最も高い。「男性の方が優遇されている」「どちらかと言えば男性が優遇されている」の合計は、「①募集や採用時」が23.8%、「②賃金・昇進・昇格」が15.1%、「⑤仕事の内容」が16.7%と高く、性別での差が一定数存在している。



3. 仕事のことにについて

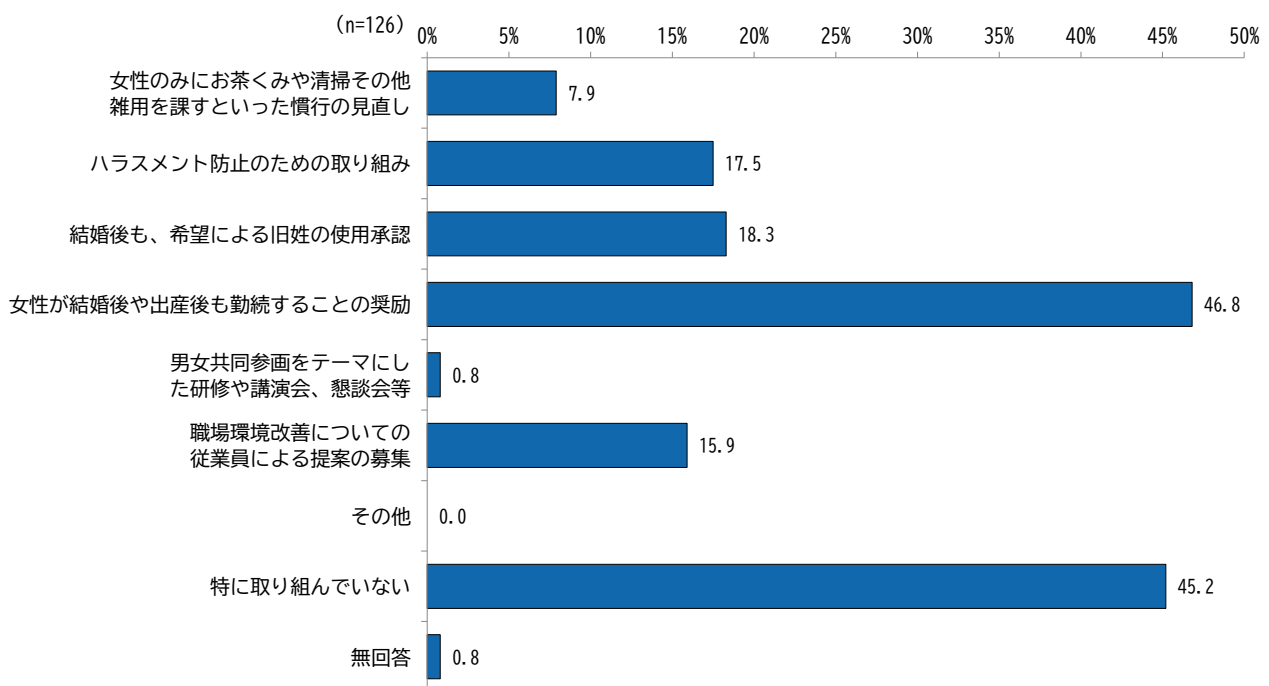
問8 「ポジティブ・アクション」を知っていますか。（○は1つ）

- 全体では、「知らない」が42.9%、「言葉だけは聞いたことがある」が34.1%となっている。「良く知っているが、具体的な取り組みはまだない」は15.9%、「良く知っていて、具体的な取り組みもしている」は5.6%となっており、内容理解や実践に至っている層は少数となっている。



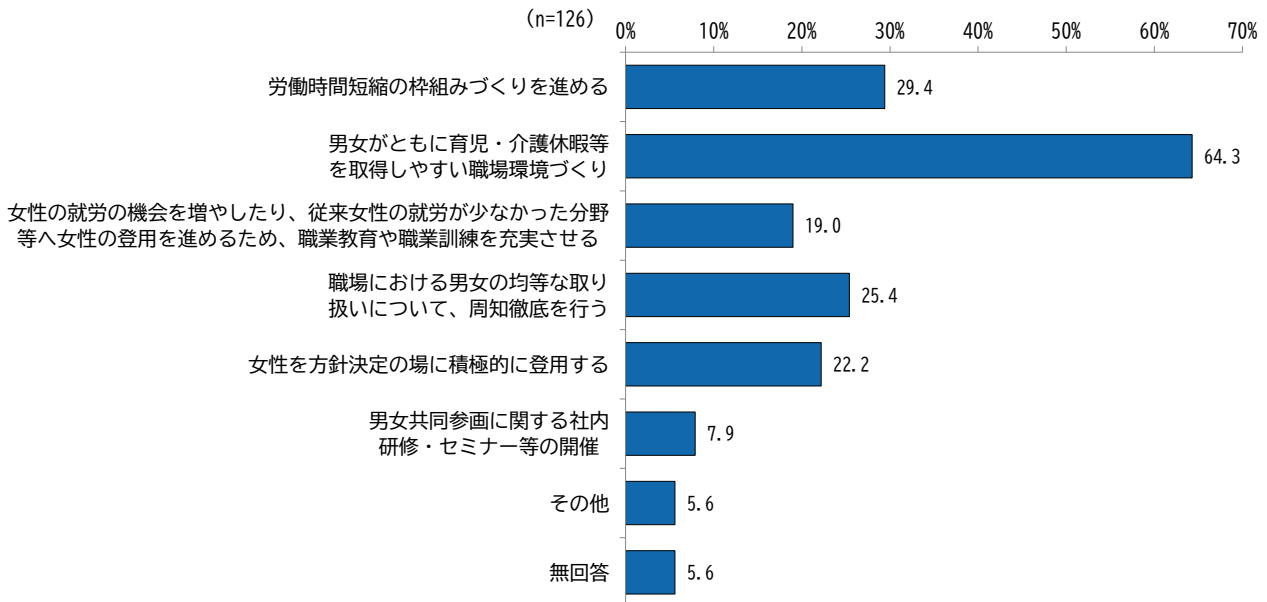
問9 貴事業所では、男女がともに働きやすいような職場環境づくりのために、どのような取り組みを行っていますか。（○はいくつでも）

- 全体では、「女性が結婚後や出産後も勤続することの奨励」が46.8%で最も高く、次いで「特に取り組んでいない」が45.2%、「結婚後も、希望による旧姓の使用承認」が18.3%となっている。



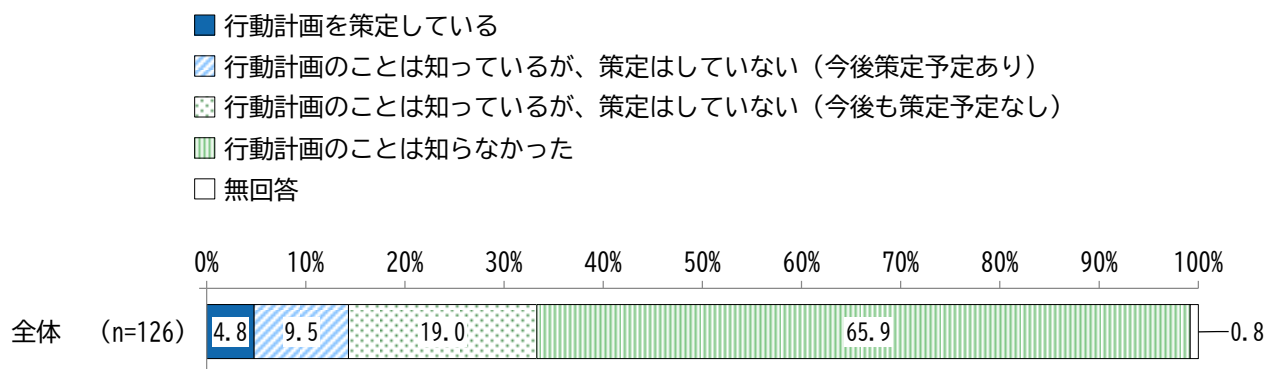
問10 男女共同参画社会を形成していくために、今後、貴事業所としてどのように取り組んでいくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「男女がともに育児・介護休暇等を取得しやすい職場環境づくり」が64.3%で最も高く、次いで「労働時間短縮の枠組みづくりを進める」が29.4%、「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う」が25.4%となっている。



問11 貴事業所では、女性活躍推進法等に基づく「一般事業主行動計画」を策定していますか。
（○は1つ）

- 全体では、「行動計画のことは知らなかった」が65.9%、「行動計画のことは知っているが、策定はしていない（今後も策定予定なし）」が19.0%となっている。「行動計画を策定している」は4.8%にとどまり、認知・策定ともに進んでいない状況が示される。



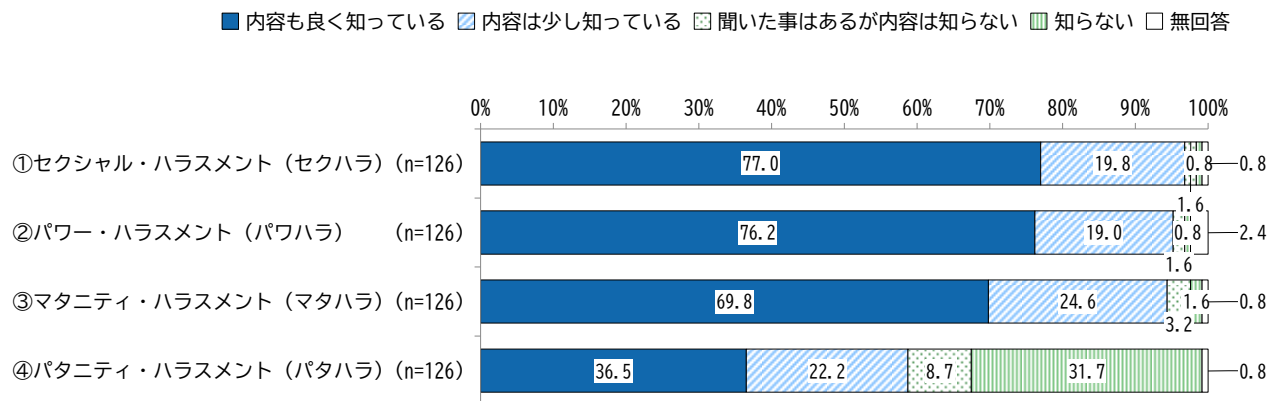
【女性活躍推進法 一般事業主行動計画】

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）により、常時雇用する労働者の数が101人以上の事業主は、女性労働者の活躍推進に関する取組として「一般事業主行動計画」を策定し、公表することが義務づけられています。（労働者100人以下の事業主は努力義務）

4. ハラスメントについて

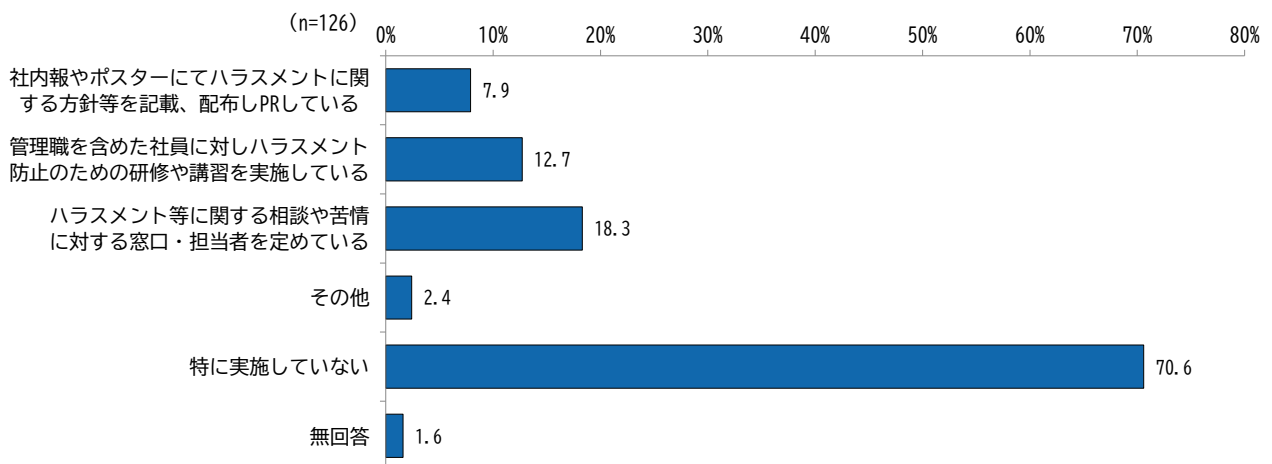
問12 あなたは以下のハラスメントを知っていますか。（○はそれぞれに1つ）

- ①～④のうち「①セクシャル・ハラスメント（セクハラ）」の認知度が最も高く、「内容も良く知っている」が77.0%に達している。次いで「②パワー・ハラスメント（パワハラ）」が76.2%、「③マタニティ・ハラスメント（マタハラ）」が69.8%と続き、主要なハラスメントの概念は比較的浸透している。一方、「④パタニティ・ハラスメント（パタハラ）」は「内容を良く知っている」が36.5%にとどまり、「知らない」も31.7%と高く、他のハラスメントに比べ認知度が低くなっている。



問13 貴事業所では、ハラスメントの防止に向け取り組んでいることはありますか。
（〇はいくつでも）

- 全体では、「特に実施していない」が 70.6%で最も高く、次いで「ハラスメント等に関する相談や苦情に対する窓口・担当者を定めている」が 18.3%、「管理職を含めた社員に対しハラスメント防止のための研修や講習を実施している」が 12.7%、「社内報やポスターにてハラスメントに関する方針等を記載、配布し PR している」が 7.9%でいずれも低水準であり、組織的な防止体制が未整備であることがうかがえる。



5. 育児・介護休業について

問14 貴事業所では、下記の①～④までの各種休業制度の規定がありますか。制度が「ある」場合は、取得できる職員の範囲（正社員、派遣・契約社員、パート・アルバイト）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- 正社員では、「①産前・産後休業制度」が61.9%、「②育児休業制度」が58.7%と相対的に整備されている一方、「③介護休業制度」は43.7%、「④子の看護休暇制度」は40.5%で整備割合はやや低く、制度ごとに導入状況に差がみられる。「ない」と回答した割合は「④子の看護休暇制度」で31.7%と最も高く、制度未整備の領域が一定数存在する。
- 派遣・契約社員やパート・アルバイトへの制度適用割合がいずれも正社員より低く、雇用形態による差が明確である。特に「②育児休業制度」では正社員58.7%に対し、派遣15.9%、パート19.0%と大きな差がある。また、「③介護休業制度」や「④子の看護休暇制度」では「検討中」がそれぞれ22.2%、21.4%と比較的高く、導入途中の事業所が一定数みられる。

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	ある			ない	検討中	無回答
		正社員	派遣・契約社員	パート・アルバイト			
①産前・産後休業制度	126 100.0	78 61.9	22 17.5	27 21.4	23 18.3	17 13.5	5 4.0
②育児休業制度	126 100.0	74 58.7	20 15.9	24 19.0	27 21.4	16 12.7	7 5.6
③介護休業制度	126 100.0	55 43.7	18 14.3	22 17.5	35 27.8	28 22.2	9 7.1
④子の看護休暇制度	126 100.0	51 40.5	17 13.5	23 18.3	40 31.7	27 21.4	10 7.9

第3章 調査結果（事業所意識調査）

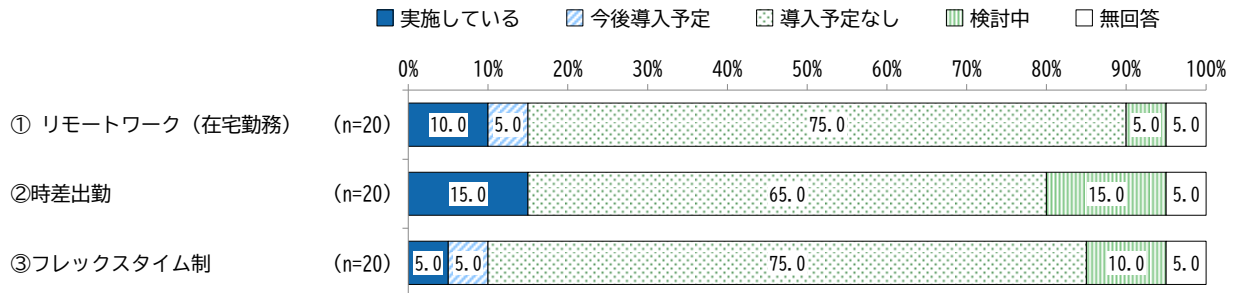
問15 産前・産後休業、育児休業、介護休業の取得状況について、雇用形態別（正規雇用・非正規雇用）及び男女別にお答えください。（0 人の場合は 0 と記入してください。）

- 各休業制度の取得率について、出産した女性従業員のうちすべての従業員が産前・産後休暇を取得している。
- 男性の育児休業取得者は、「正規」が 92.9%で割合が高い。

出産に関すること					
昨年度（令和6年度）中に出産した女性従業員	計 8人	正規 6人	昨年度（令和6年度）中に配偶者が出産した男性従業員	計 22人	正規 19人
		75.0%			86.4%
		非正規 2人			非正規 3人
	25.0%	13.6%			
	うち、産前・産後休暇を取得した女性従業員	計 8人		正規 6人	
75.0%					
非正規 2人					
25.0%					
うち、育児休業を取得した女性従業員	計 7人	正規 5人	うち、育児休業を取得した男性従業員	計 14人	
		71.4%			92.9%
		非正規 2人			非正規 1人
		28.6%			7.1%
介護に関すること					
介護休業を取得した女性従業員	計 11人	正規 8人	介護休業を取得した男性従業員	計 15人	正規 15人
		72.7%			100.0%
		非正規 3人			非正規 0人
		27.3%			0.0%

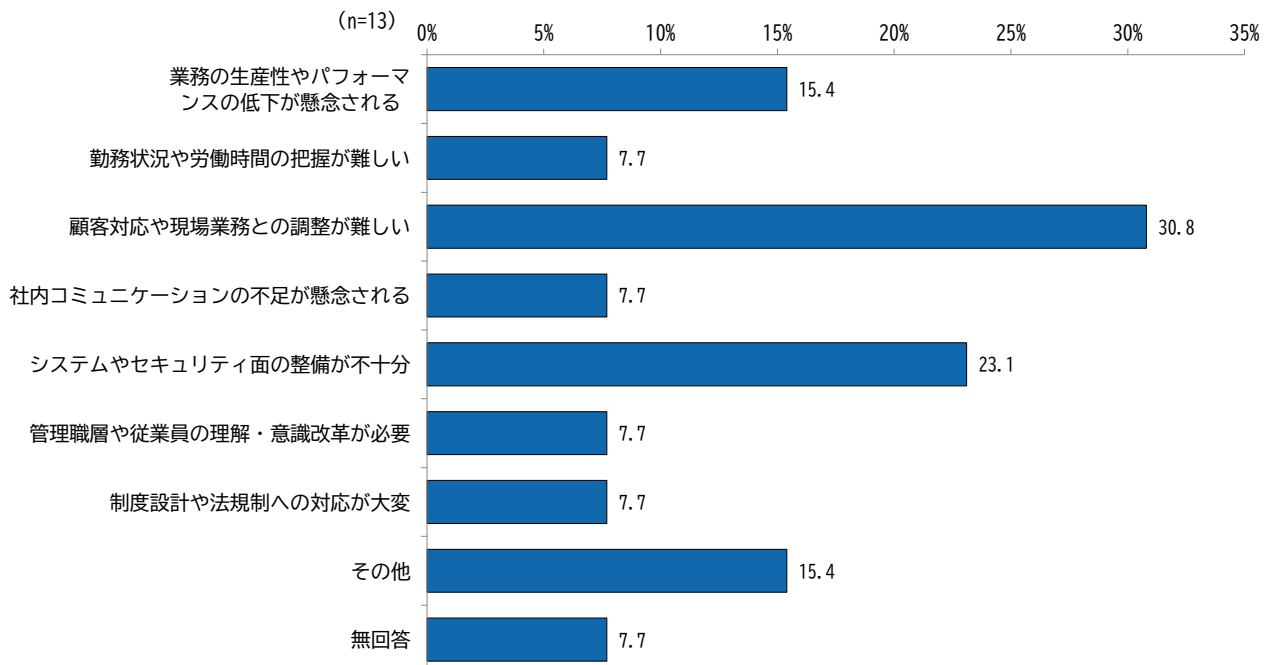
問16 次の多様な働き方の実施状況と今後の導入意向について、次の①～③について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。（○はそれぞれに1つ）

- ①～③いずれの働き方も「導入予定なし」が最も高く、多様な働き方の導入が全体として進んでいない状況が確認される。「検討中」が「②時差出勤」で15.0%、「③フレックスタイム制」で10.0%、「①リモートワーク（在宅勤務）」で5.0%となっており、今後の導入余地が一定程度存在する。



問17 上記の働き方制度を導入・運用する際、どのような課題がありますか。（○はいくつでも）

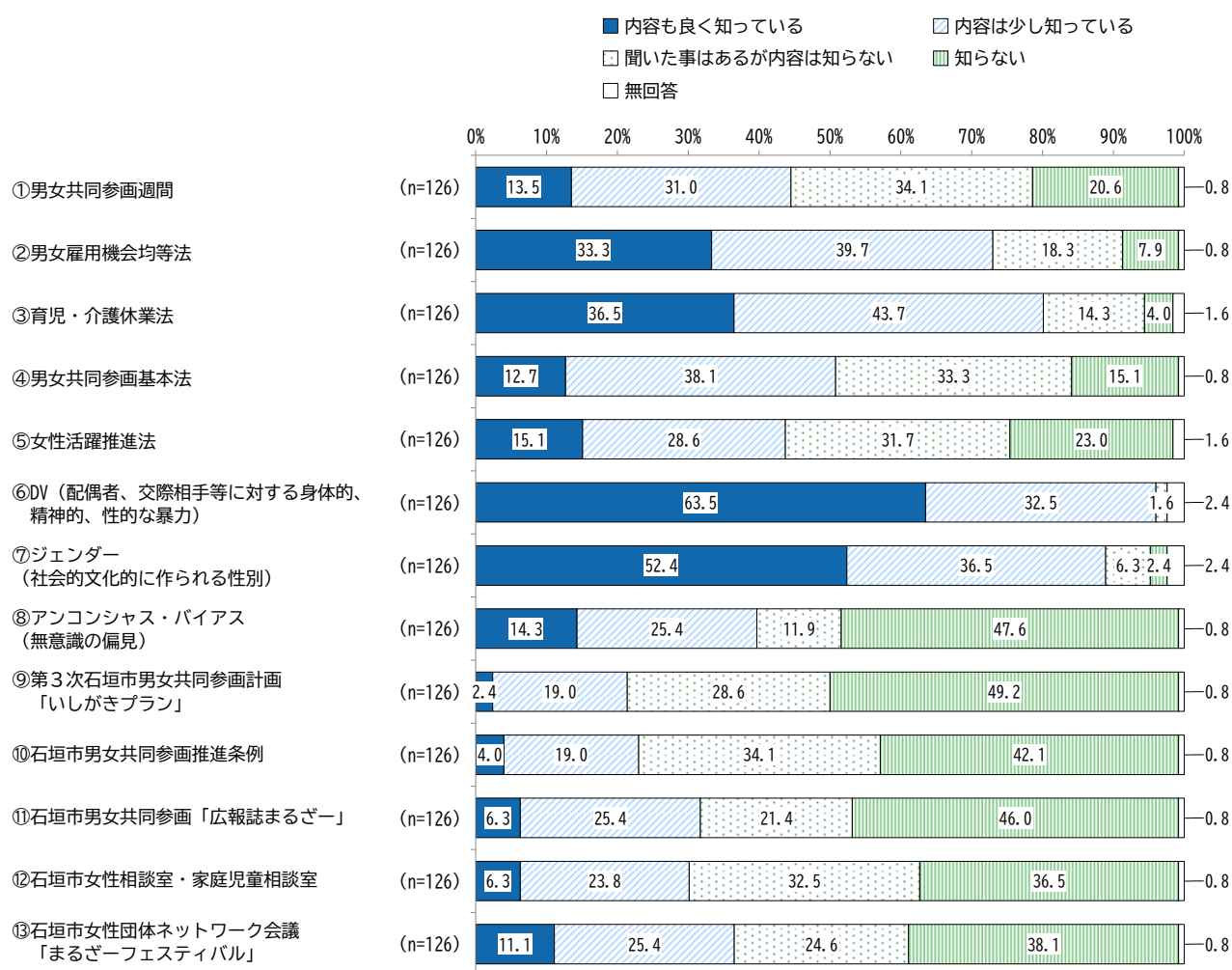
- 全体では、「顧客対応や現場業務との調整が難しい」が30.8%で最も高く、次いで「システムやセキュリティ面の整備が不十分」が23.1%、「業務の生産性やパフォーマンスの低下が懸念される」、「その他」が15.4%となっている。



6. 男女共同参画行政について

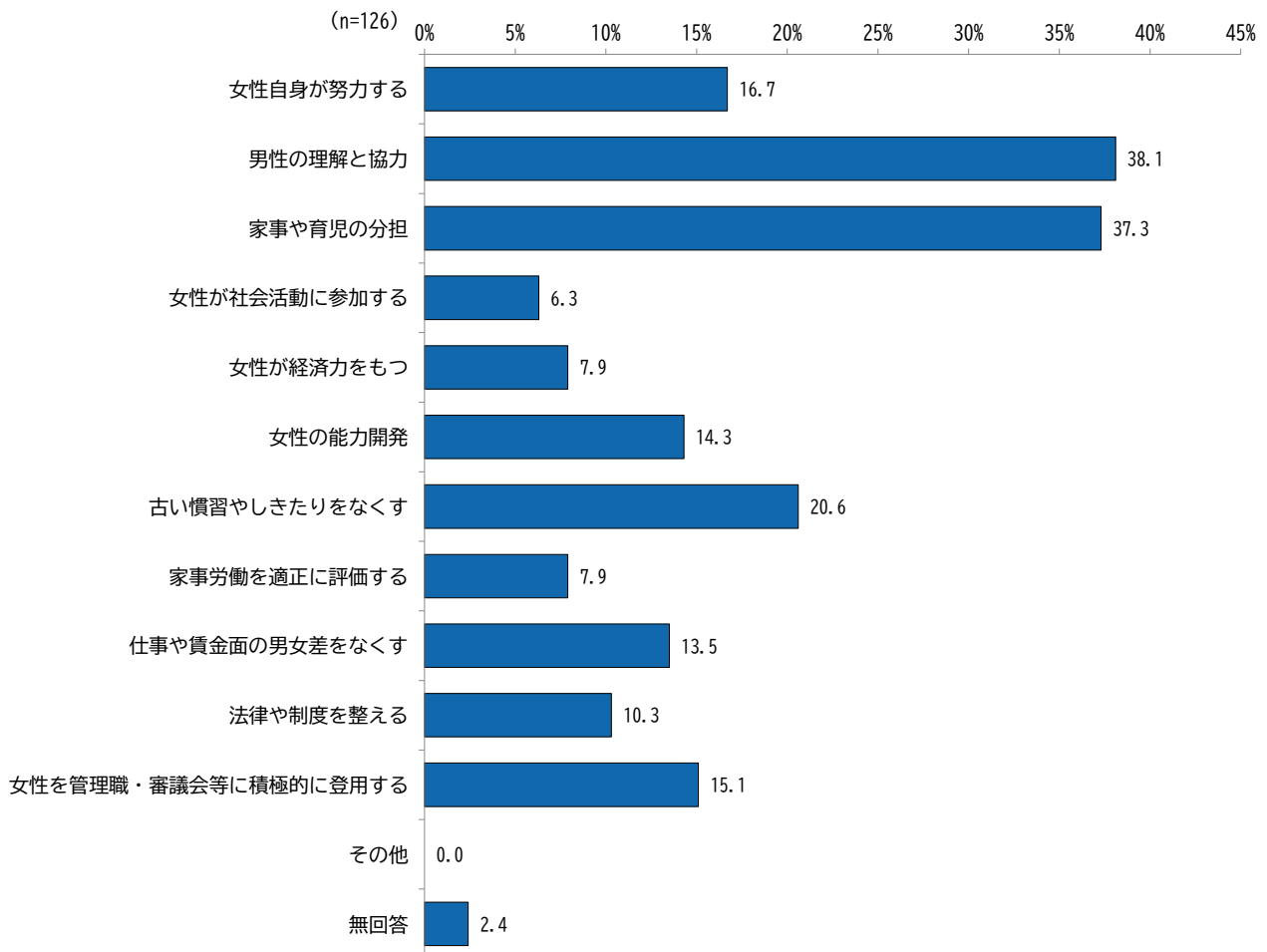
問18 あなたは次にあげる言葉を知っていますか。次の①～⑬の言葉について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。（○はそれぞれに1つ）

- ①～⑬のうち「内容も良く知っている」は、「⑥DV（配偶者、交際相手などに対する身体的、精神的、性的な暴力）（配偶者等からの暴力）」が63.5%と最も高く、次いで「⑦ジェンダー（社会的文化的に作られる性別）」が52.4%、「③育児・介護休業法」が36.5%となっている。一方、「⑪石垣市男女共同参画『広報誌まるざー』」、「⑫石垣市女性相談室・家庭児童相談室」がともに6.3%、「⑩石垣市男女共同参画推進条例」が4.0%、「⑨第3次石垣市男女共同参画計画『いしがきプラン』」が2.4%で10%以下にとどまっている。また、「⑧アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」は「知らない」が47.6%で最も高い。



問19 女性の社会進出は進みつつありますが、今後さらに、女性が社会進出するために、特に重要だと思うものを次の中から選んでください。（○は2つまで）

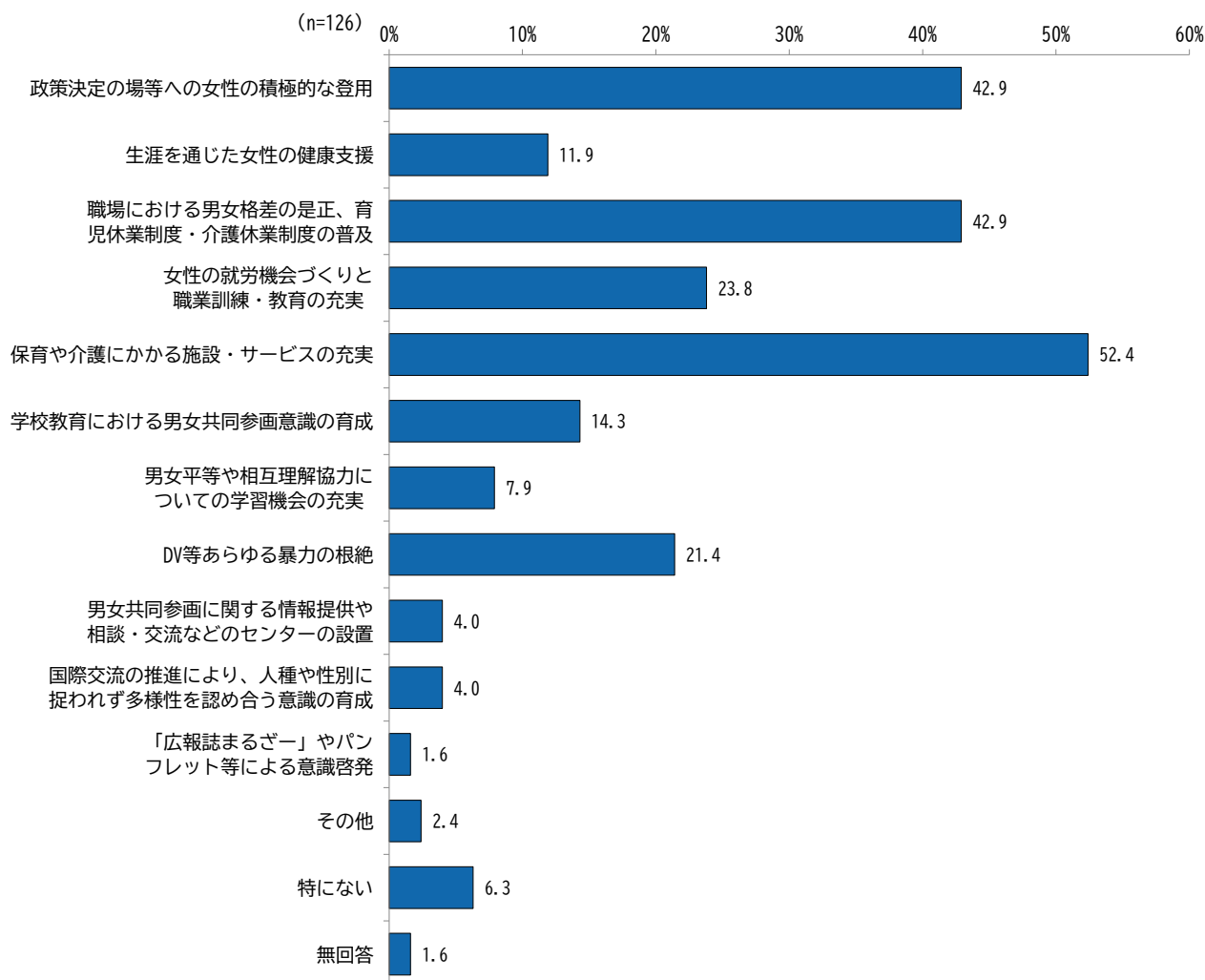
- 全体では、「男性の理解と協力」が38.1%で最も高く、次いで「家事や育児の分担」が37.3%、「古い慣習やしきたりをなくす」が20.6%となっており、男性の意識改革や家庭内での役割分担の見直し、女性の社会進出を進める上で重要であると認識していることがうかがえる。



第3章 調査結果（事業所意識調査）

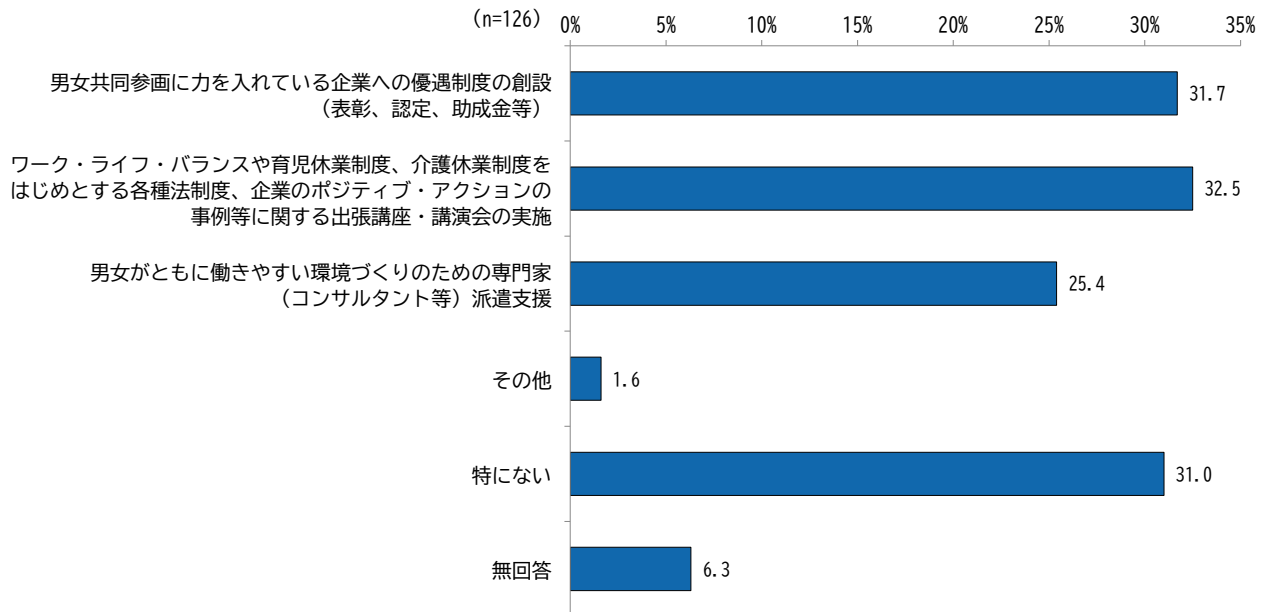
問20 男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを次の中から選んでください。（〇は3つまで）

- 全体では、「保育や介護にかかる施設・サービスの充実」が52.4%で最も高く、次いで「政策決定の場等への女性の積極的な登用」「職場における男女格差の是正、育児休業制度・介護休業制度の普及」が42.9%となっている。また、「女性の就労機会づくりと職業訓練・教育の充実」が23.8%、「DV等あらゆる暴力の根絶」が21.4%で一定の割合で選ばれている。



問21 男女共同参画社会の実現を目指して取り組むうえで、今後、どのような後押し（制度等）があれば、貴事業所として取り組みを推進していくことができると思いますか。
（〇は3つまで）

- 全体では、「ワーク・ライフ・バランスや育児休業制度、介護休業制度をはじめとする各種法制度、企業のポジティブ・アクションの事例等に関する出張講座・講演会の実施」が32.5%で最も高く、次いで「男女共同参画に力を入れている企業への優遇制度の創設（表彰、認定、助成金等）」が31.7%、「特にない」が31.0%となっている。

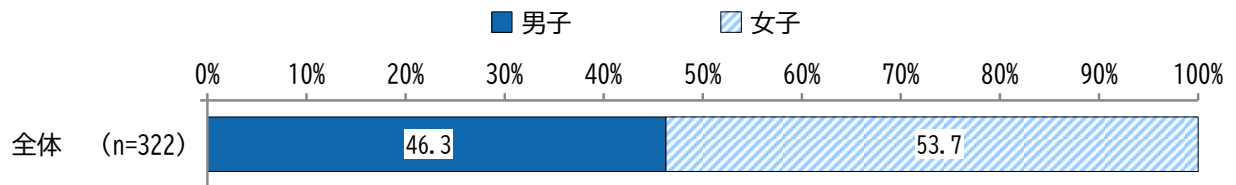


第4章 調査結果（こども意識調査 小学生）

1. 回答者の属性

問1 あなたの性別はどちらですか。（1つ）

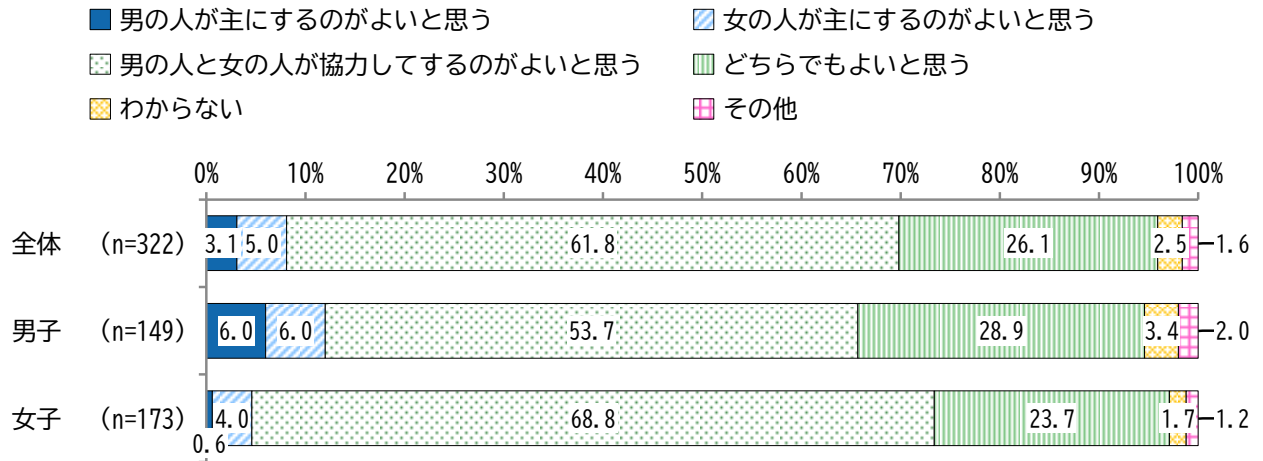
- 全体では、「女子」が53.7%、「男子」が46.3%となっている。



2. 男女の役割などについて

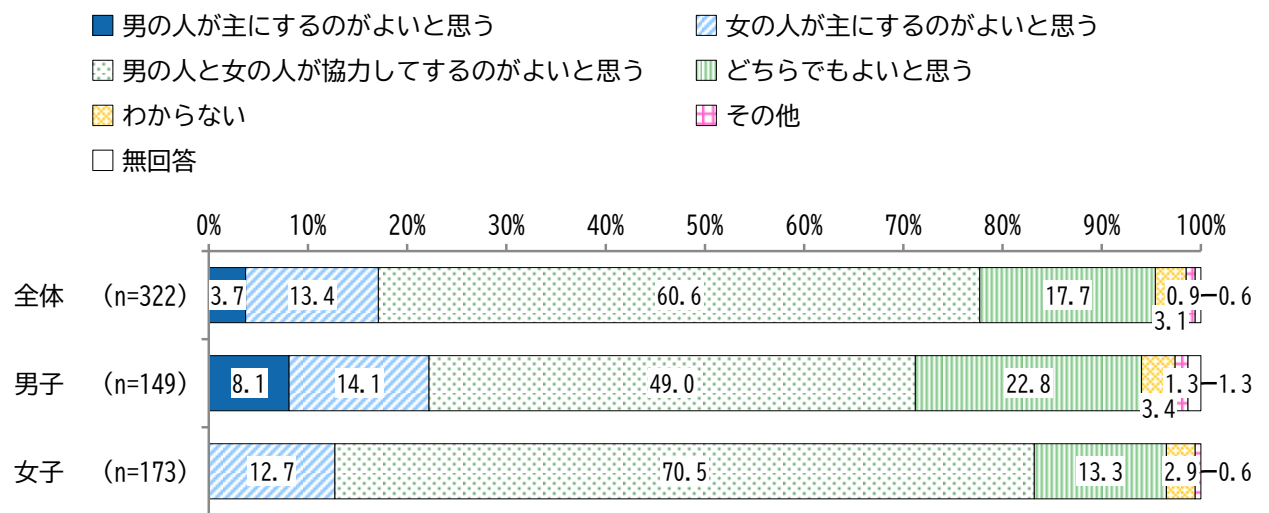
問2 あなたは家で、家事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）

- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 61.8%で最も高く、次いで「どちらでもよいと思う」が 26.1%、「女の人が主にするのがよいと思う」が 5.0%となっている。
- 性別でみると、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」の割合は、女子は 68.8%で男子の 53.7%よりも 15.1 ポイント高く、男子では「どちらでもよいと思う」が 28.9%で、女子の 23.7%より 5.2 ポイント高くなっている。



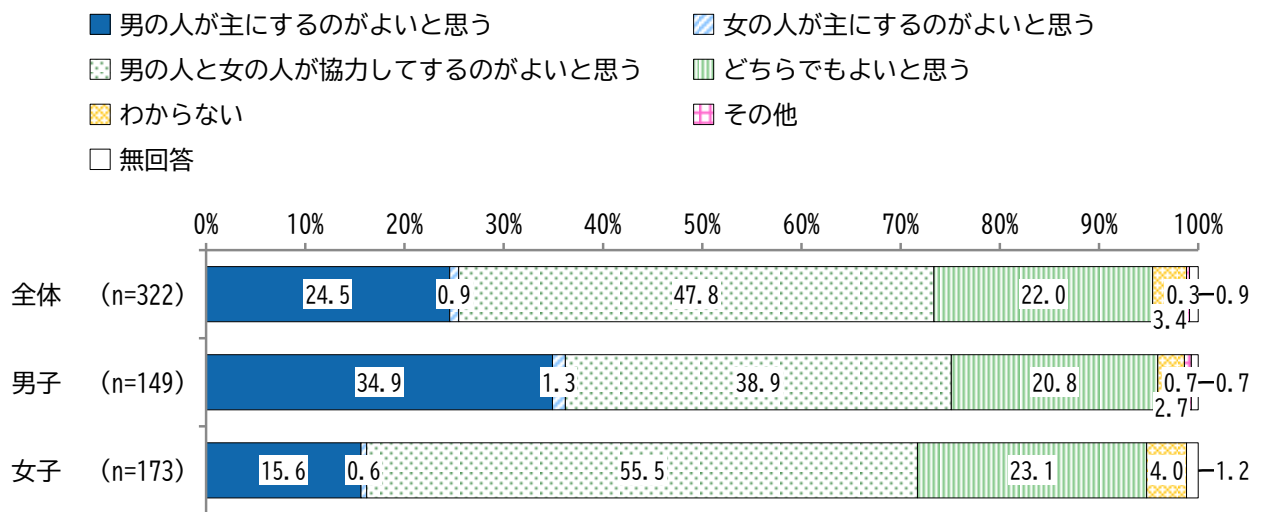
問3 あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのがよいと思いますか。（1つ）

- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 60.6%で最も高く、次いで「どちらでもよいと思う」が 17.7%、「女の人が主にするのがよいと思う」が 13.4%となっている。性別にかかわらず協力を重視する考え方が広く浸透している。
- 性別でみると、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」の割合は、女子が 70.5%で男子の 49.0%よりも 21.5 ポイント高く、女子の方が、子どもが小さい時期の育児についても男女が協力して行うことを望む傾向がみられる。一方で、男子では「どちらでもよいと思う」が 22.8%で、女子の 13.3%より高くなっている。



問4 あなたは、お金をかせぐ仕事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）

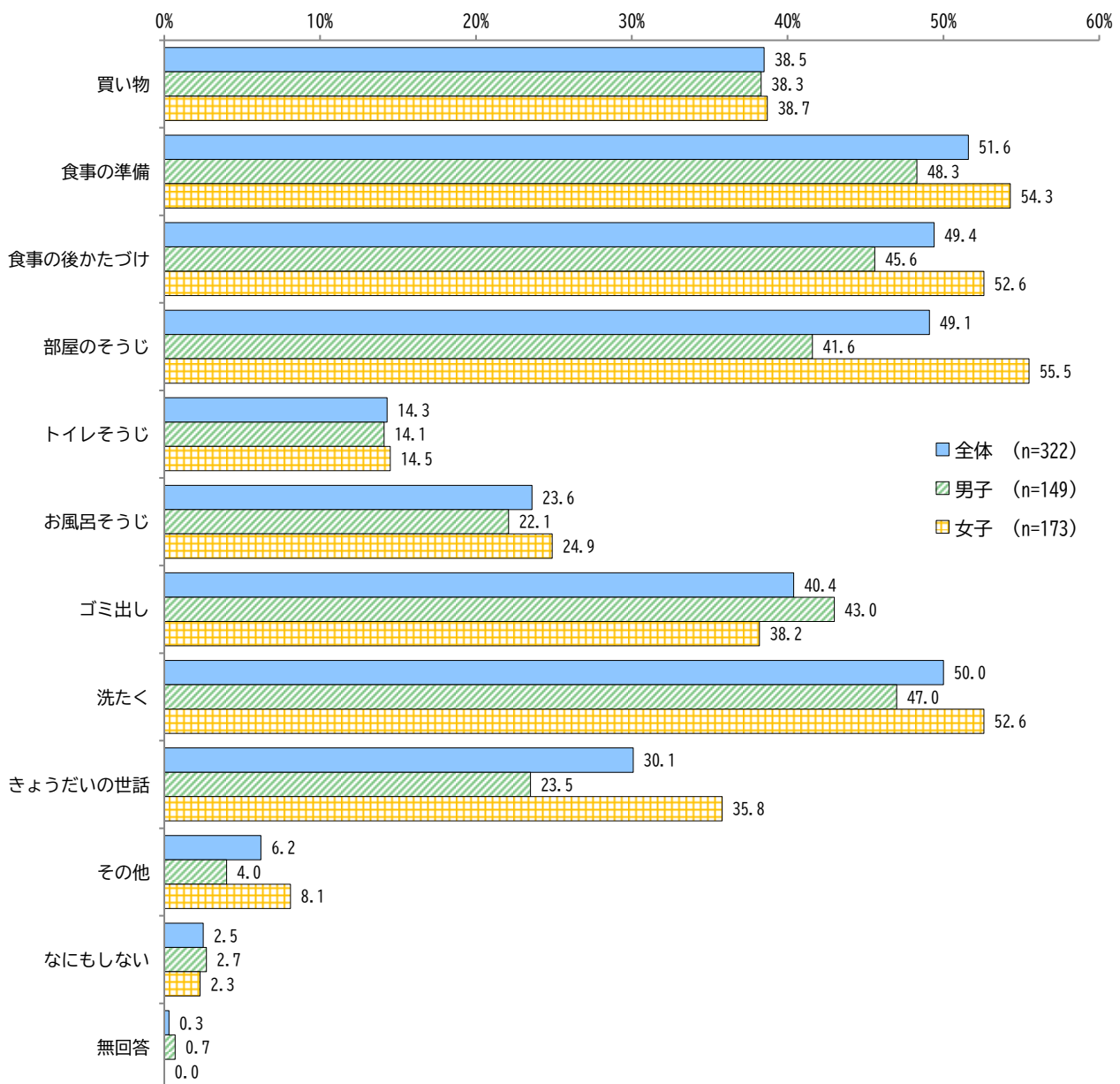
- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 47.8%で最も高く、次いで「男の人が主にするのがよいと思う」が 24.5%、「どちらでもよいと思う」が 22.0%となっている。男女ともに協力を基本としつつも、依然として男性中心の意識も一定程度みられる。
- 性別でみると、「男の人が主にするのがよいと思う」の割合は、男子が 34.9%で、女子の 15.6%より 19.3 ポイント高く、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」は女子が 55.5%で、男子の 38.9%よりも 16.6 ポイント高くなっている。



第4章 調査結果（こども意識調査 小学生）

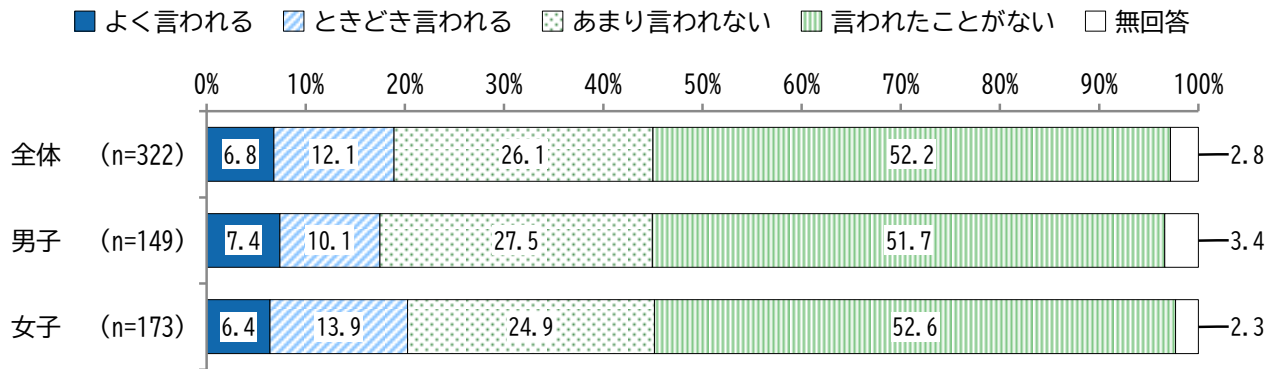
問5 あなたは家で、どのようなお手伝いをしていますか。（あてはまるものすべて）

- 全体では、「食事の準備」が51.6%で最も高く、次いで「洗たく」が50.0%と続く。家事の中でも日常的な作業に多く関わっていることがうかがえる。
- 性別でみると、「部屋のそうじ」の割合は、女子は55.5%で、男子の41.6%よりも13.9ポイント高くなっている。また、「食事の準備」(男子48.3%、女子54.3%)や「食事の後かたづけ」(男子45.6%、女子52.6%)でも女子の割合がやや高く、「ゴミ出し」では男子が43.0%で、女子の38.2%より4.8ポイント高くなっている。



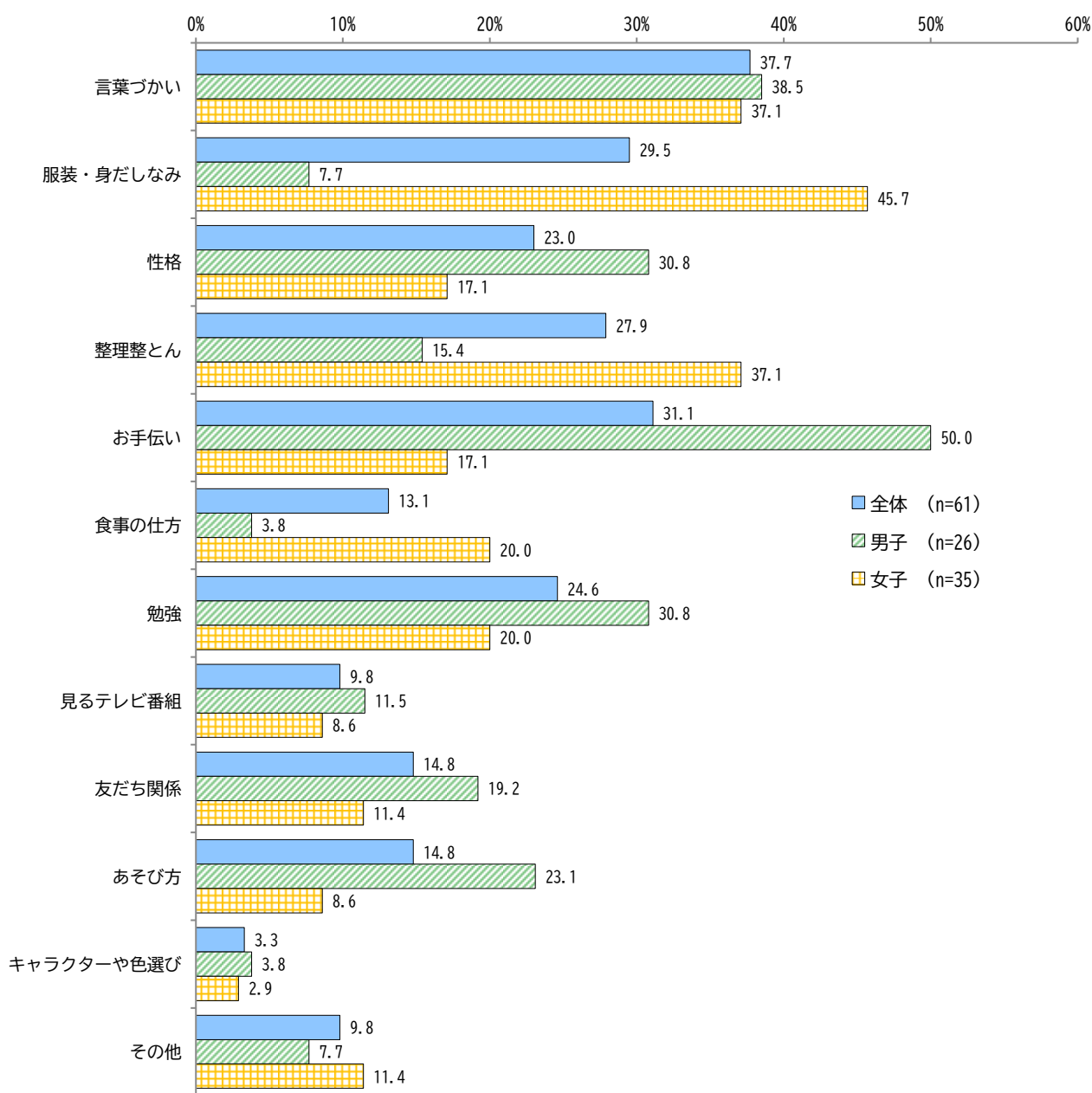
問6 あなたは、「男の子だから〇〇しなさい」や「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(1つ)

- 全体では、「言われたことがない」が52.2%、「あまり言われない」が26.1%と続いている。
- 性別でみると、「ときどき言われる」の割合は、女子は13.9%で男子の10.1%よりも3.8ポイント高くなっている。



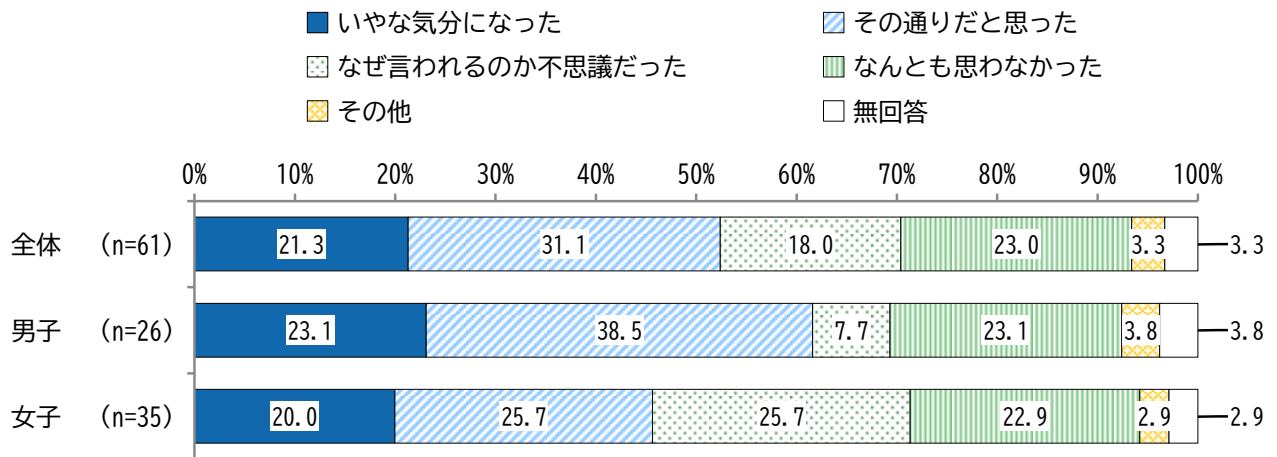
問7 問6で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんなことについて言われましたか。（あてはまるものすべて）

- 全体では、「言葉づかい」が37.7%で最も高く、次いで「お手伝い」が31.1%、「服装・身だしなみ」が29.5%と続き、性別に関係なく、行動面や身だしなみに関する注意が比較的高い。
- 性別でみると、「服装・身だしなみ」の割合は、女子は45.7%で、男子の7.7%よりも38.0ポイント高くなっている。女子の方が、身だしなみや服装に関して「女の子だから」といった指摘を受ける割合が高い傾向がみられる。「お手伝い」では、男子が50.0%で、女子の17.1%よりも32.9ポイント高く、男子の方が「男の子だから」として家の手伝いに関する声かけを受ける傾向がみられる。



問8 問6で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方に聞きます。あなたはその時どんな気持ちになりましたか。（1つ）

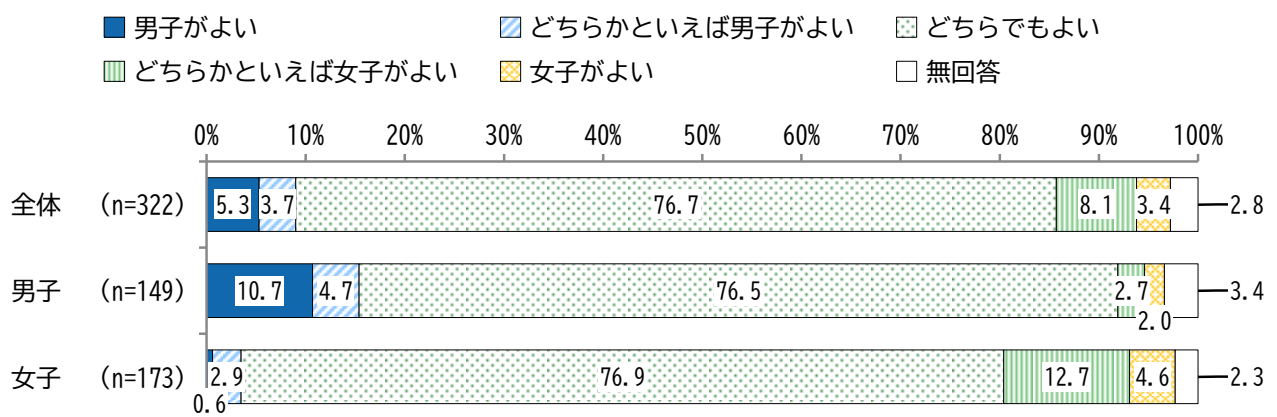
- 全体では、「その通りだと思った」が31.1%、「なんとも思わなかった」が23.0%となっている。
- 性別でみると、「なぜ言われるのか不思議だった」の割合は、女子が25.7%で男子の7.7%よりも18.0ポイント高くなっている。女子の方が、性別を理由にした声かけに対して疑問を感じる割合が高い傾向がみられる。一方で、「その通りだと思った」は男子が38.5%で女子の25.7%よりも12.8ポイント高く、男子の方が言われた内容を受け入れる傾向がうかがえる。



問9 あなたは、次の校内の代表者は男女どちらがよいと思いますか。

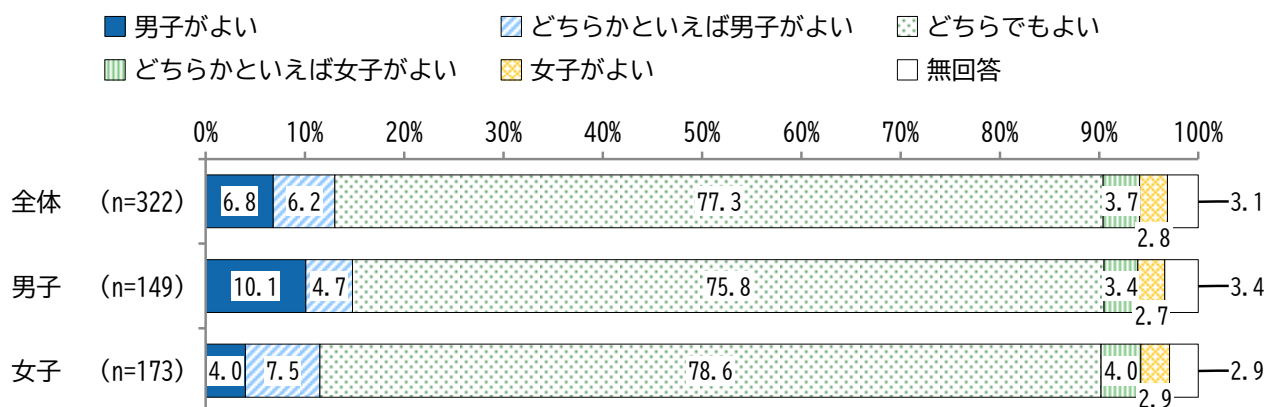
①児童会長

- 全体では、「どちらでもよい」が76.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば女子がよい」が8.1%、「男子がよい」が5.3%となっている。
- 性別でみると、「女子がよい」の割合は、女子は4.6%で、男子の2.0%よりも2.6ポイント高くなっている。また、「どちらかといえば女子がよい」でも女子は12.7%で、男子の2.7%より10.0ポイント高く、「男子がよい」は男子が10.7%で女子の0.6%よりも10.1ポイント高くなっている。



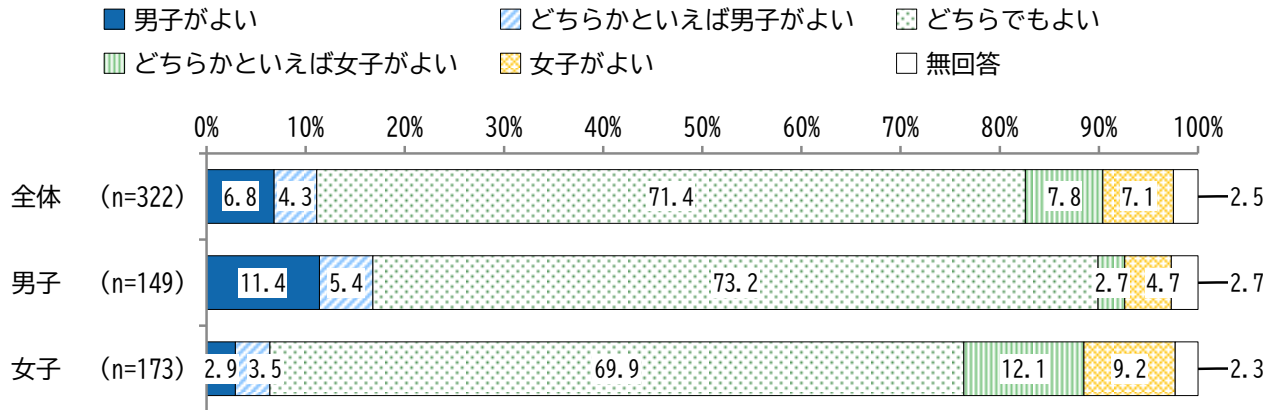
② 児童会副会長

- 全体では、「どちらでもよい」が77.3%で最も高く、次いで「男子がよい」が6.8%、「どちらかといえば男子がよい」が6.2%となっている。
- 性別でみると、「男子がよい」の割合は、男子は10.1%で女子の4.0%よりも6.1ポイント高くなっている。



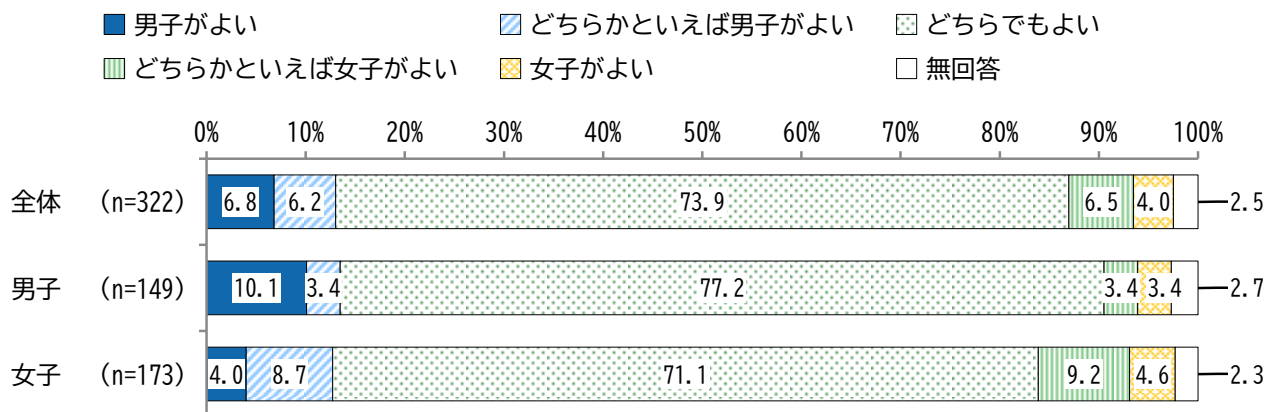
③ 学級委員長

- 全体では、「どちらでもよい」が71.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば女子がよい」が7.8%、「女子がよい」が7.1%となっている。
- 性別でみると、「男子がよい」の割合は、男子は11.4%で女子の2.9%よりも8.5ポイント高くなっている。



④ 学級副委員長

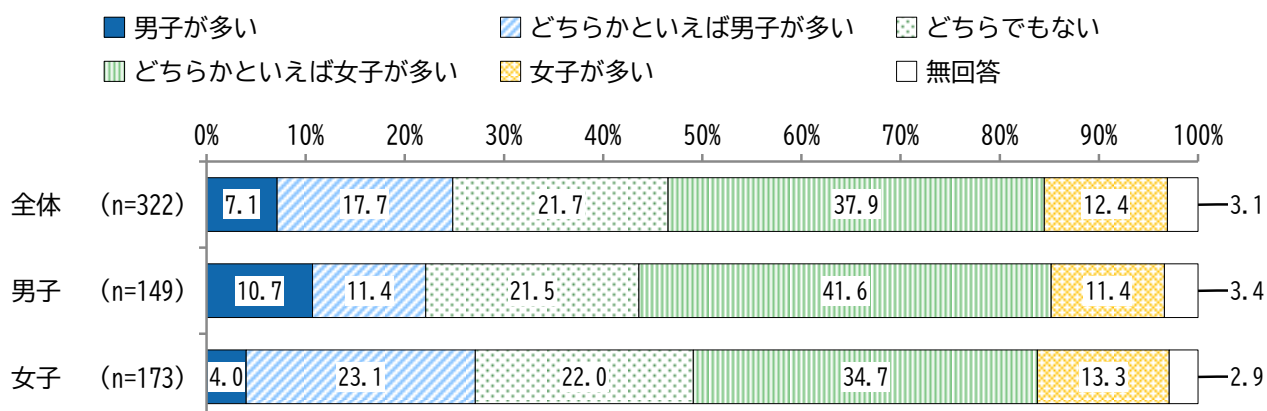
- 全体では、「どちらでもよい」が73.9%で最も高く、次いで「男子がよい」が6.8%、「どちらかといえば女子がよい」が6.5%となっている。
- 性別でみると、「男子がよい」の割合は、男子が10.1%で女子の4.0%よりも6.1ポイント高く、「どちらかといえば女子がよい」は、女子が9.2%で、男子の3.4%より5.8ポイント高くなっている。



問10 あなたは、次の授業での場面で、積極的に参加している児童は、男女どちらが多いと思いますか。（1つ）

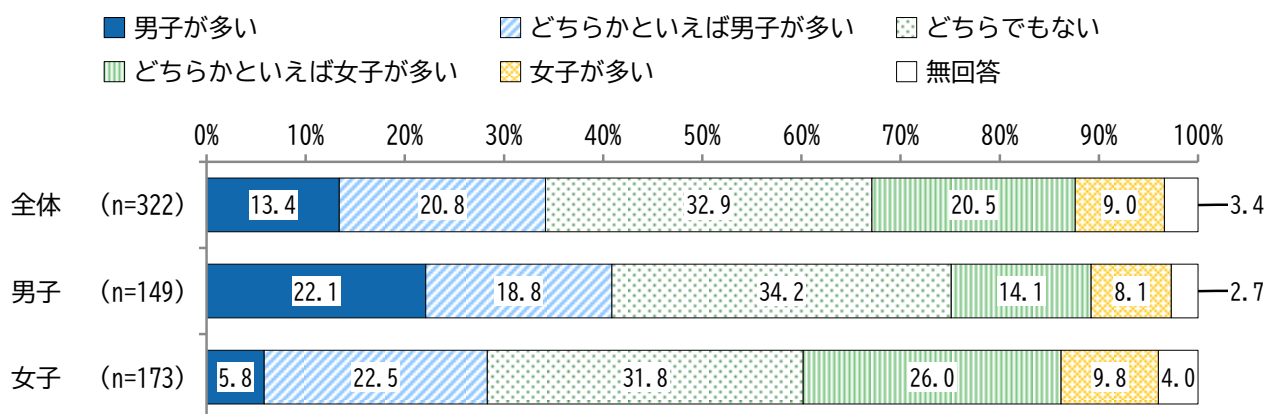
① 積極的に手を挙げたり、発言したりすること

- 全体では、「どちらかといえば女子が多い」が37.9%で最も高く、次いで「どちらでもない」が21.7%、「どちらかといえば男子が多い」が17.7%と続いている。
- 性別で見ると、「どちらかといえば男子が多い」の割合は、女子は23.1%で男子の11.4%よりも11.7ポイント高く、「どちらかといえば女子が多い」は男子は41.6%で女子の34.7%よりも6.9ポイント高くなっている。



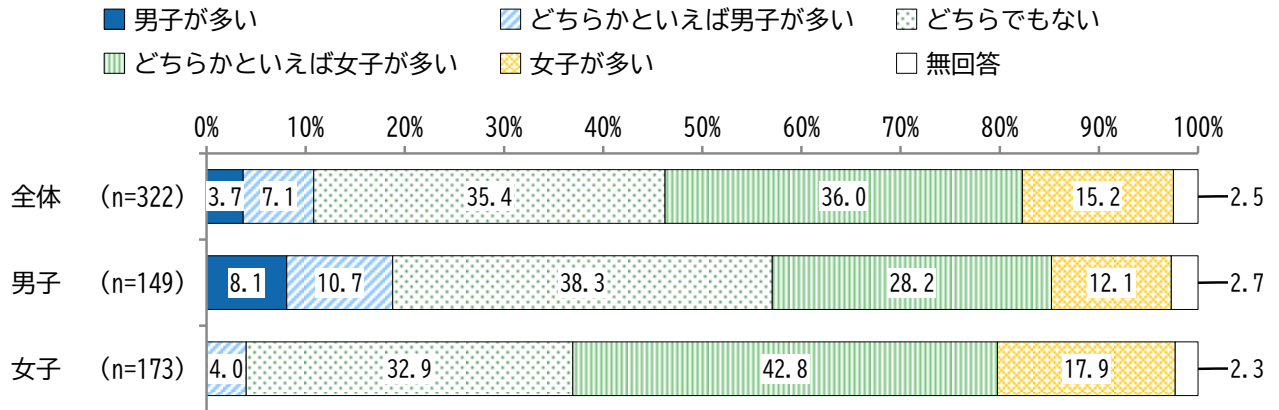
② 理科の実験

- 全体では、「どちらでもない」が32.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば男子が多い」が20.8%、「どちらかといえば女子が多い」が20.5%となっている。
- 性別で見ると、「男子が多い」の割合は、男子は22.1%で女子の5.8%よりも16.3ポイント高く、「どちらかといえば女子が多い」は女子は26.0%で男子の14.1%よりも11.9ポイント高くなっている。



③ 家庭科の調理実習

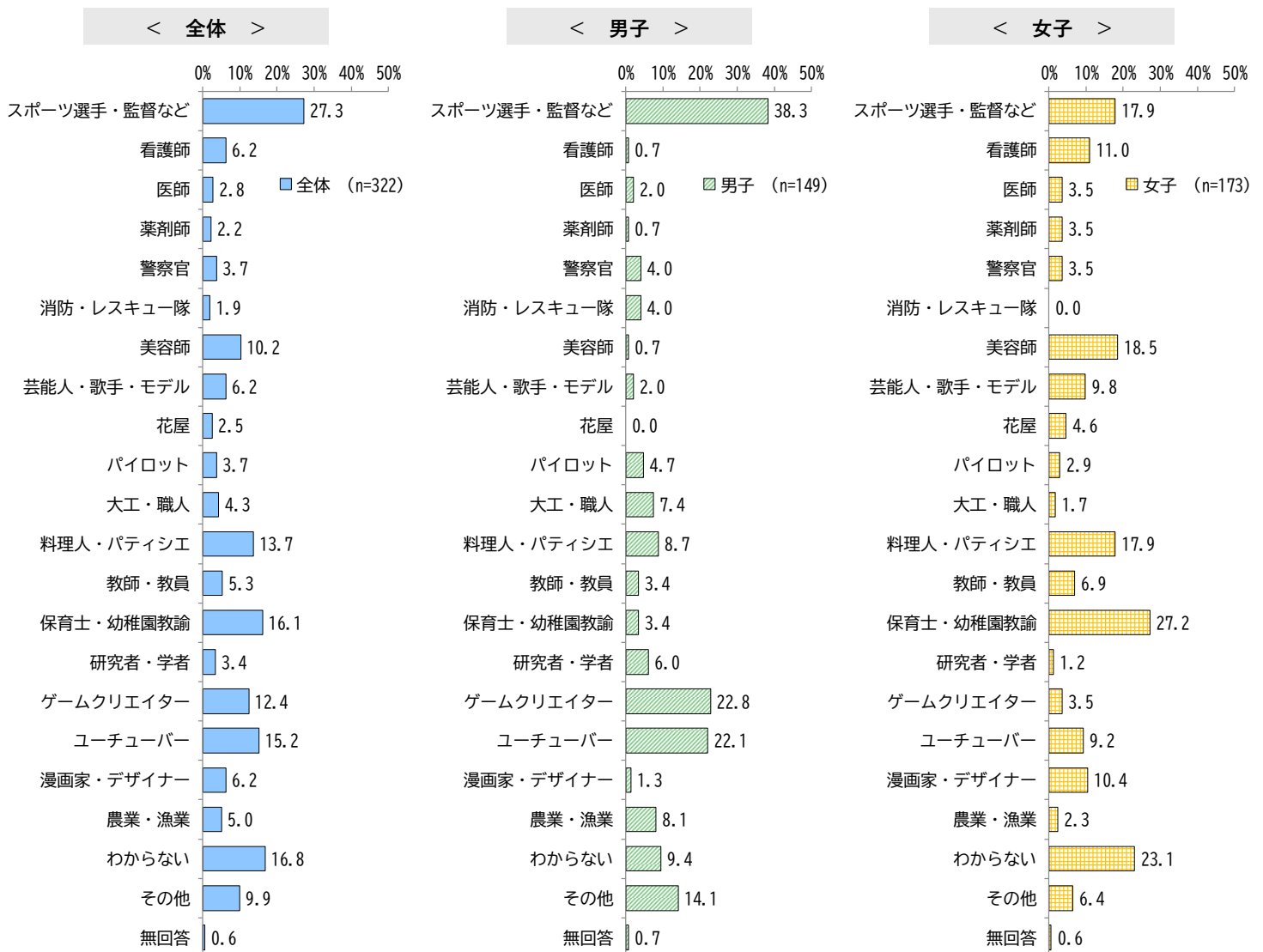
- 全体では、「どちらかといえば女子が多い」が36.0%で最も高く、次いで「どちらでもない」が35.4%、「男子が多い」が15.2%となっている。調理実習では女子が活発に参加しているとみられている。
- 性別でみると、「どちらかといえば女子が多い」の割合は、女子は42.8%で男子の28.2%よりも14.6ポイント高く、「男子が多い」は男子で8.1%と一定数みられる。



3. 将来について

問11 将来、どのような仕事に就きたいと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

- 全体では、「スポーツ選手・監督など」が27.3%で最も高く、次いで「保育士・幼稚園教諭」が16.1%、「ユーチューバー」が15.2%となっている。
- 性別でみると、「スポーツ選手・監督など」の割合は、男子は38.3%で女子の17.9%よりも20.4ポイント高くなっている。男子の方が、スポーツ分野での職業を志望する割合が高い傾向がみられる。一方で、「保育士・幼稚園教諭」は女子は27.2%で男子の3.4%よりも23.8ポイント高く、女子の方が子どもに関わる職業への関心が高い。また、「ゲームクリエイター」は男子で22.8%、女子では3.5%で、「ユーチューバー」では男子は22.1%、女子は9.2%と男子が高く、「美容師」では女子は18.5%、男子は0.7%、「看護師」では女子は11.0%、男子は0.7%と女子が高いなど、職業志望において性別で差がみられる。

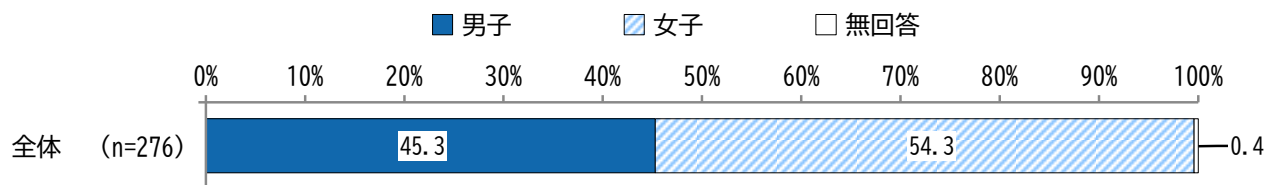


第5章 調査結果（こども意識調査 中学生）

1. 回答者の属性

問1 あなたの性別はどちらですか。（1つ）

- 全体では、「女子」が54.3%、「男子」が45.3%となっている。

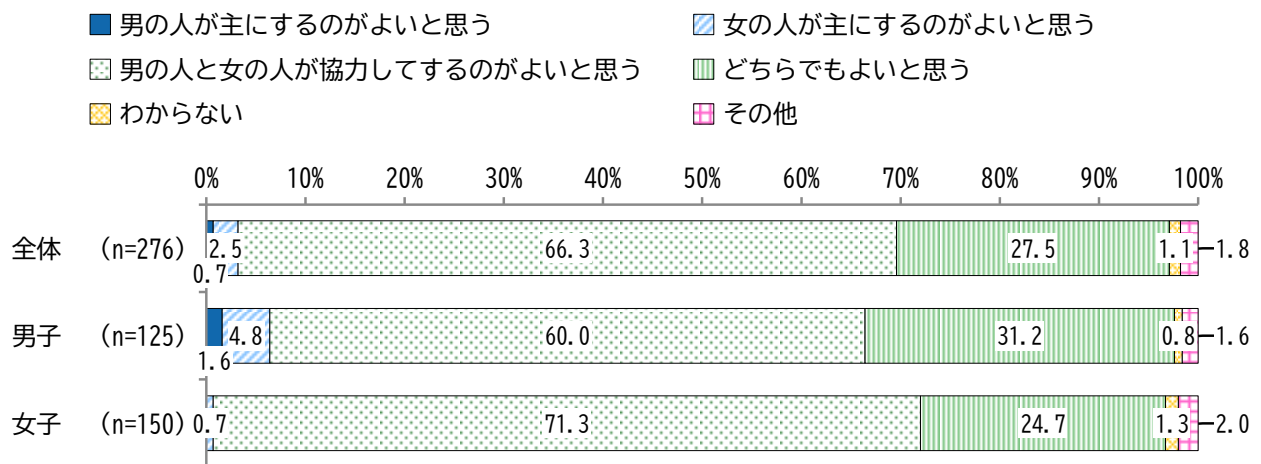


※ 問2以降、男女別集計においては、性別を回答されなかった方を個別の項目として表示せず、全体の人数（n）に含めて集計しています。そのため、男女別の合計人数（n）と全体人数（n）とは一致していません。あらかじめご了承ください。

2. 男女の役割などについて

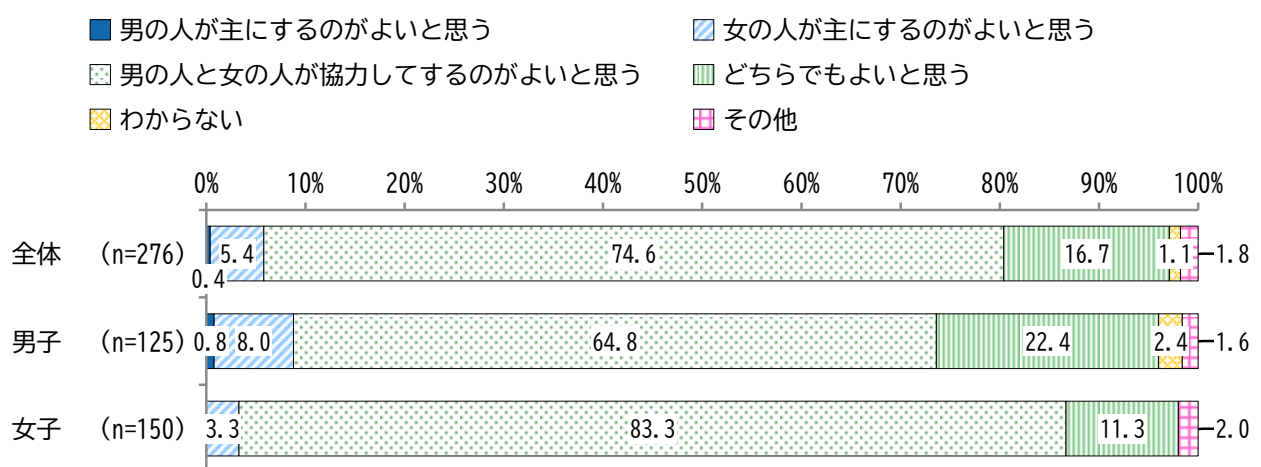
問2 あなたは家で、家事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）

- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 66.3%で最も高く、次いで「どちらでもよいと思う」が 27.5%、「女の人が主にするのがよいと思う」が 2.5%と続いている。
- 性別でみると、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」の割合は、女子は 71.3%で男子の 60.0%よりも 11.3 ポイント高く、「女の人が主にするのがよいと思う」は男子は 4.8%で女子の 0.7%よりも 4.1 ポイント高くなっている。



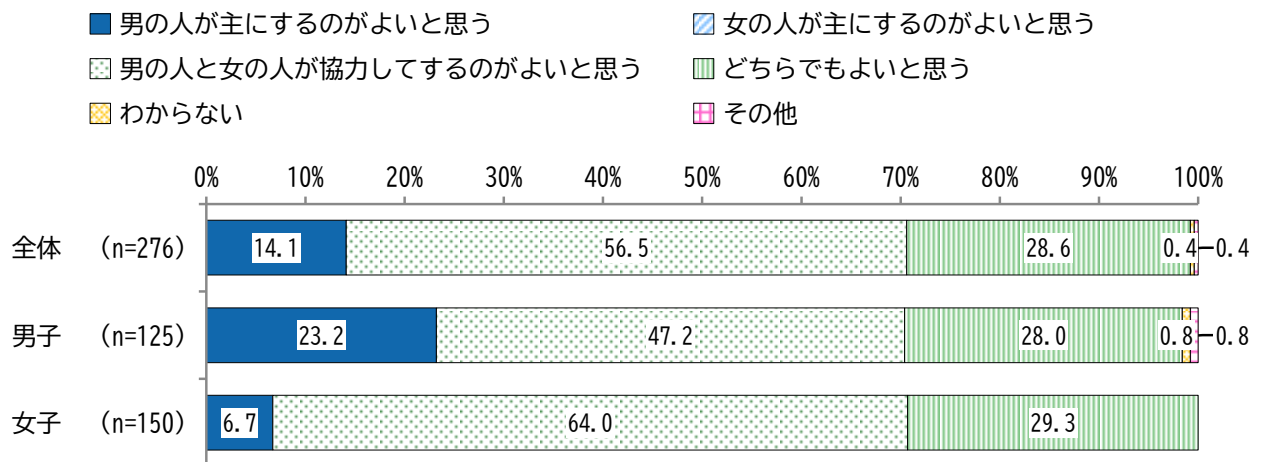
問3 あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのがよいと思いますか。（1つ）

- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 74.6%で最も高く、次いで「どちらでもよいと思う」が 16.7%、「女の人が主にするのがよいと思う」が 5.4%となっている。
- 性別でみると、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」の割合は、女子は 83.3%で男子の 64.8%よりも 18.5 ポイント高く、「どちらでもよいと思う」は男子では 22.4%で女子の 11.3%よりも 11.1 ポイント高くなっている。



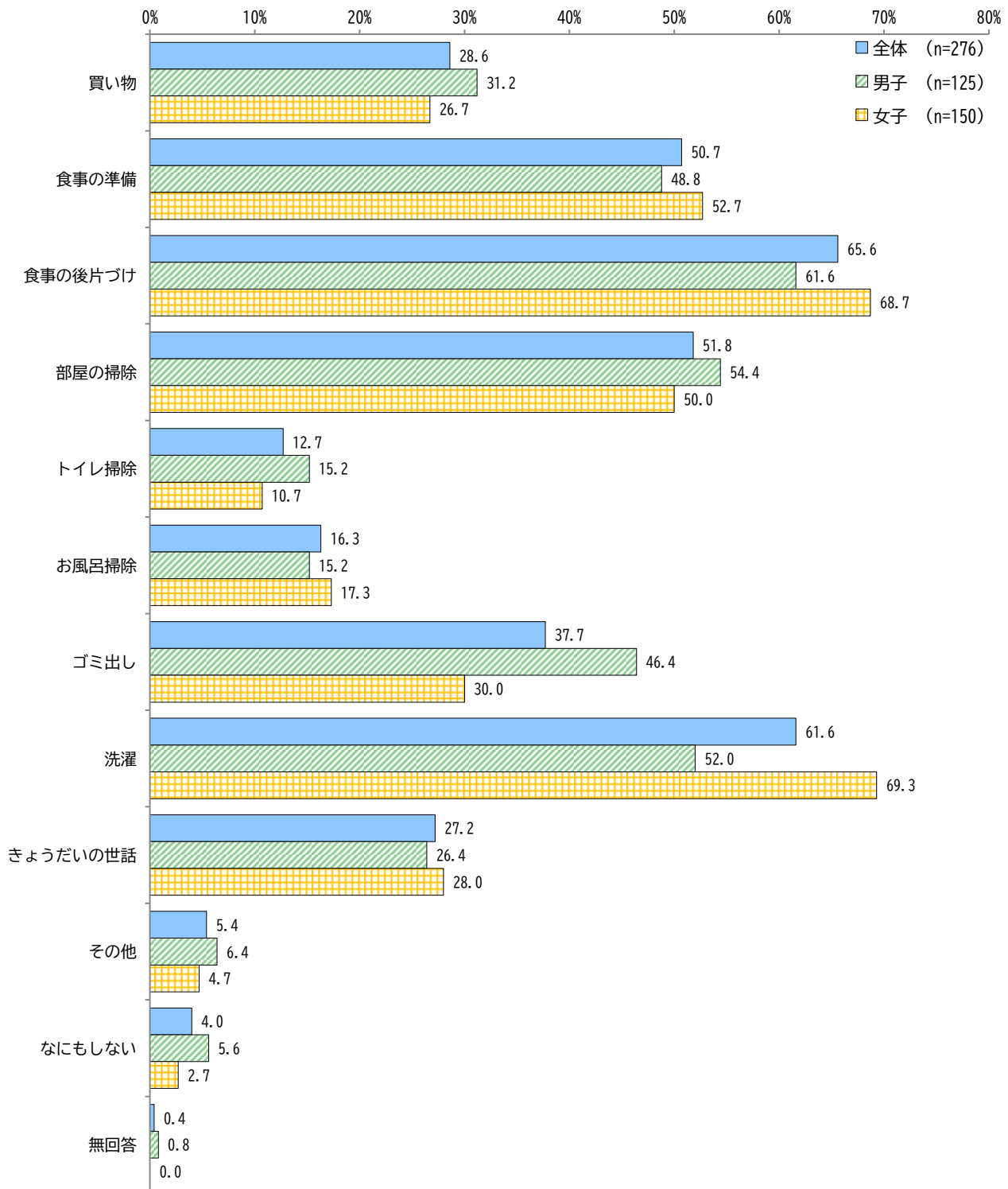
問4 あなたは、お金をかせぐ仕事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）

- 全体では、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」が 56.5%で最も高く、次いで「どちらでもよいと思う」が 28.6%、「男の人が主にするのがよいと思う」が 14.1%となっている。
- 性別でみると、「男の人と女の人が協力してするのがよいと思う」の割合は、女子は 64.0%で男子の 47.2%よりも 16.8 ポイント高く、「男の人が主にするのがよいと思う」は男子は 23.2%で女子の 6.7%よりも 16.5 ポイント高くなっている。



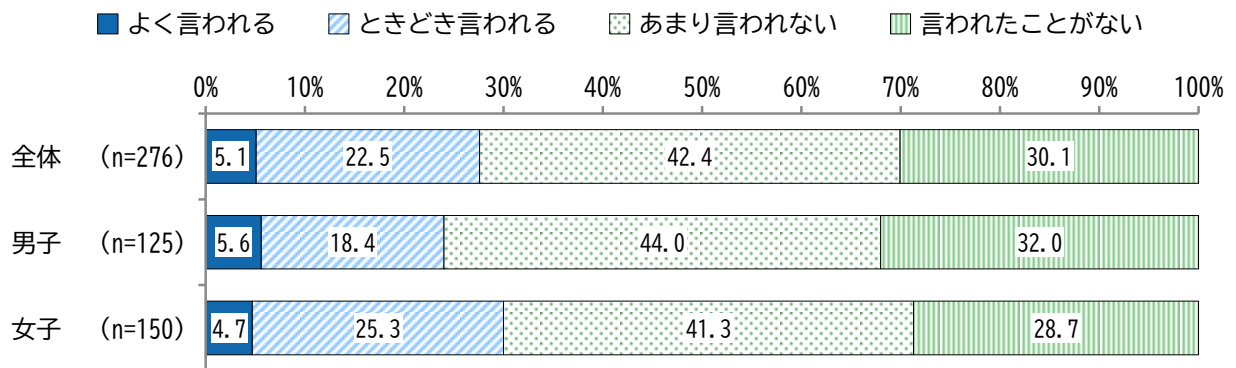
問5 あなたは家で、どのようなお手伝いをしていますか。（あてはまるものすべて）

- 全体では、「食事の後片づけ」が65.6%で最も高く、次いで「洗濯」が61.6%となっている。
- 性別でみると、「洗濯」の割合は、女子は69.3%で男子の52.0%よりも17.3ポイント高く、「ゴミ出し」は男子は46.4%で女子の30.0%よりも16.4ポイント高くなっている。



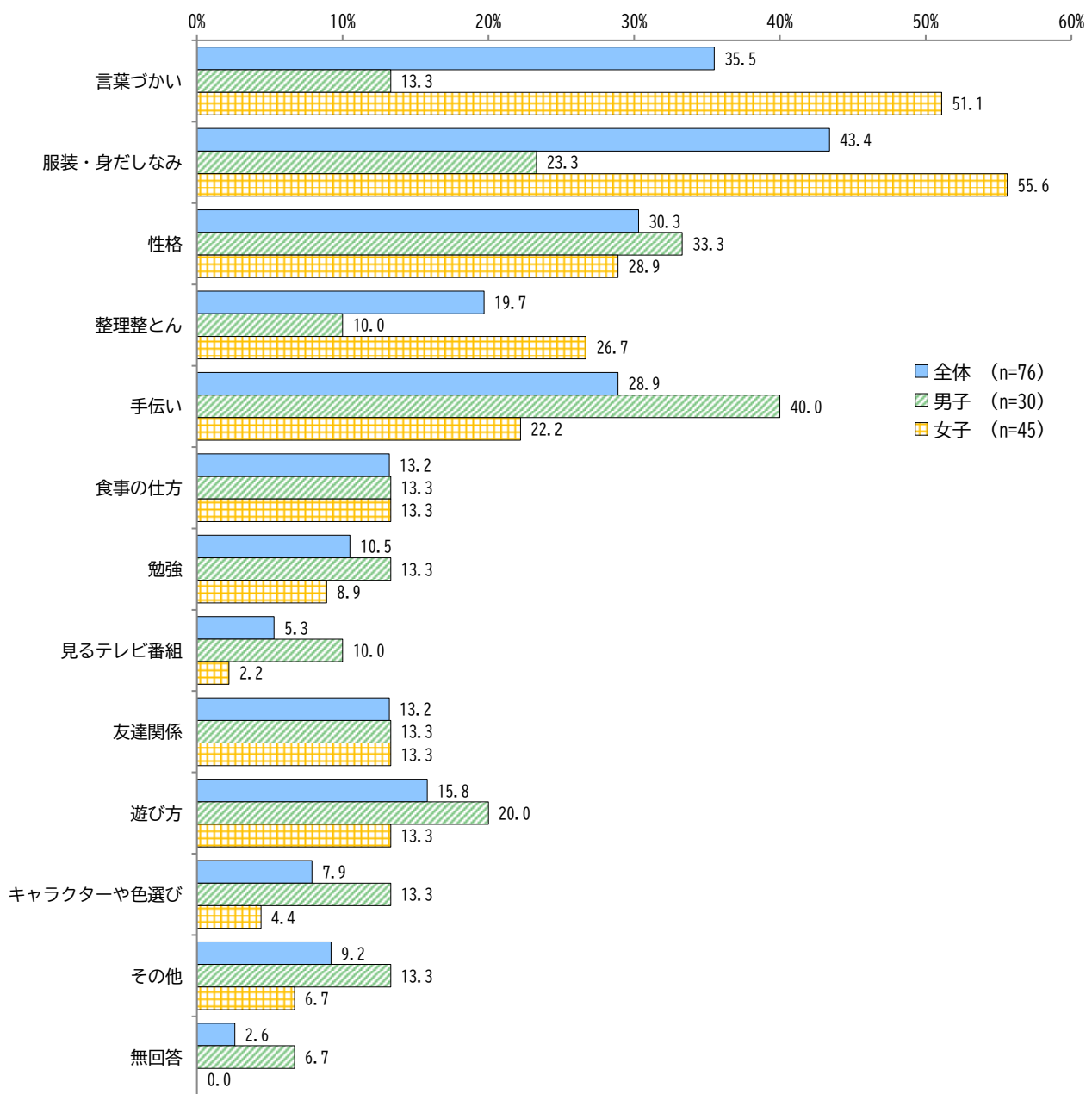
問6 あなたは、「男の子だから〇〇しなさい」や「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(1つ)

- 全体では、「あまり言われなさい」が42.4%、「言われたことがない」が30.1%となっている。
- 性別でみると、「ときどき言われる」の割合は、女子25.3%で、男子の18.4%よりも6.9ポイント高く、「言われたことがない」は男子が32.0%で、女子の28.7%よりも3.3ポイント高くなっている。



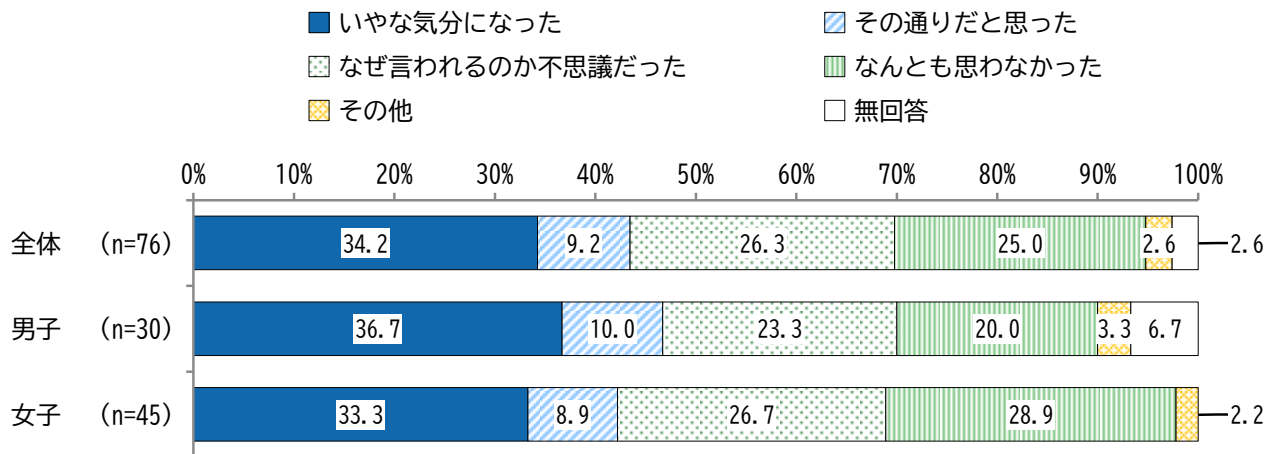
問7 問6で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんなことについて言われましたか。（あてはまるものすべて）

- 全体では、「服装・身だしなみ」が43.4%で最も高く、次いで「言葉づかい」が35.5%、「性格」が30.3%となっている。
- 性別でみると、「言葉づかい」の割合は、女子が51.1%で、男子の13.3%よりも37.8ポイント高くなっている。また、「服装・身だしなみ」でも女子は55.6%で、男子の23.3%より32.3ポイント高く、女子では身だしなみや外見に関する声かけが多いことがわかる。一方で、「手伝い」では男子が40.0%で、女子の22.2%より17.8ポイント高く、男子の方が家の手伝いに関する指摘を受ける割合が高くなっている。



問8 問6で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方に聞きます。あなたはその時どんな気持ちになりましたか。（1つ）

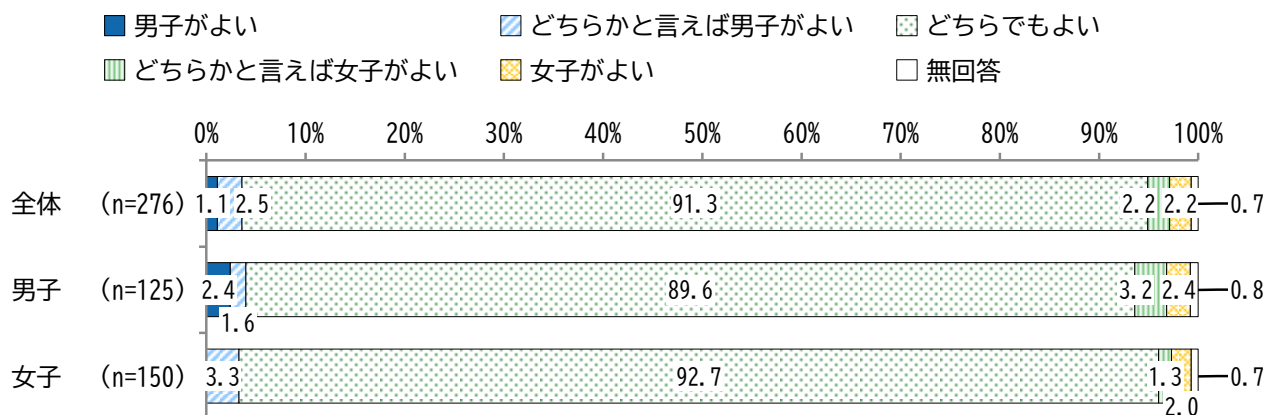
- 全体では、「いやな気分になった」が34.2%、「なぜ言われるのか不思議だった」が26.3%となっている。
- 性別でみると、「なんとも思わなかった」の割合は、女子が28.9%で、男子の20.0%よりも8.9ポイント高くなっている。



問9 あなたは、次の学校の各役割は男女どちらがよいと思いますか。（1つ）

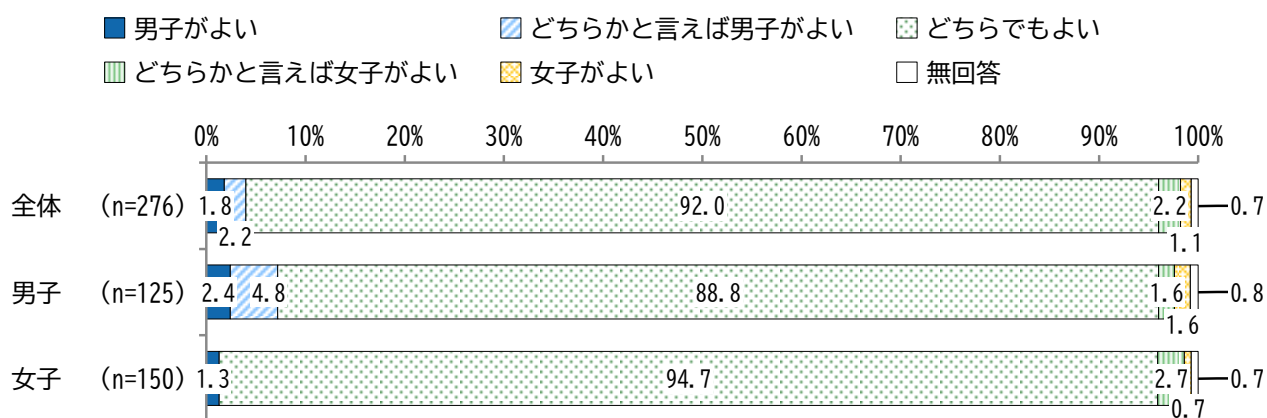
① 生徒会長

- 全体では、「どちらでもよい」が91.3%で最も高く、次いで「どちらかと言えば男子がよい」が2.5%、「どちらかと言えば女子がよい」「女子がよい」が2.2%となっている。
- 性別でみると、「どちらでもよい」の割合は、女子は92.7%で、男子の89.6%よりも3.1ポイント高くなっている。



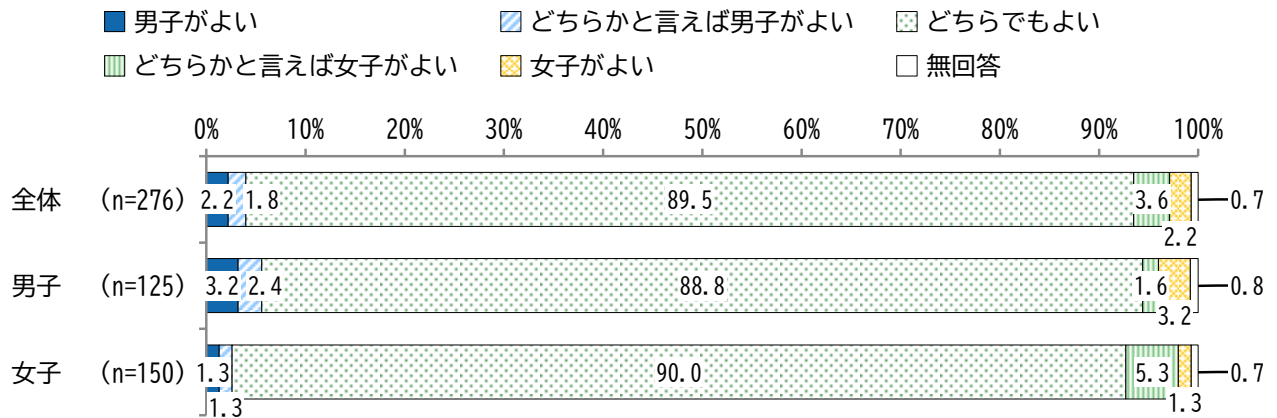
② 生徒会副会長

- 全体では、「どちらでもよい」が92.0%で最も高く、次いで「どちらかと言えば男子がよい」「どちらかと言えば女子がよい」が2.2%、「男子がよい」が1.8%となっている。
- 性別でみると、「どちらでもよい」の割合は、女子が94.7%で、男子の88.8%よりも5.9ポイント高くなっている。



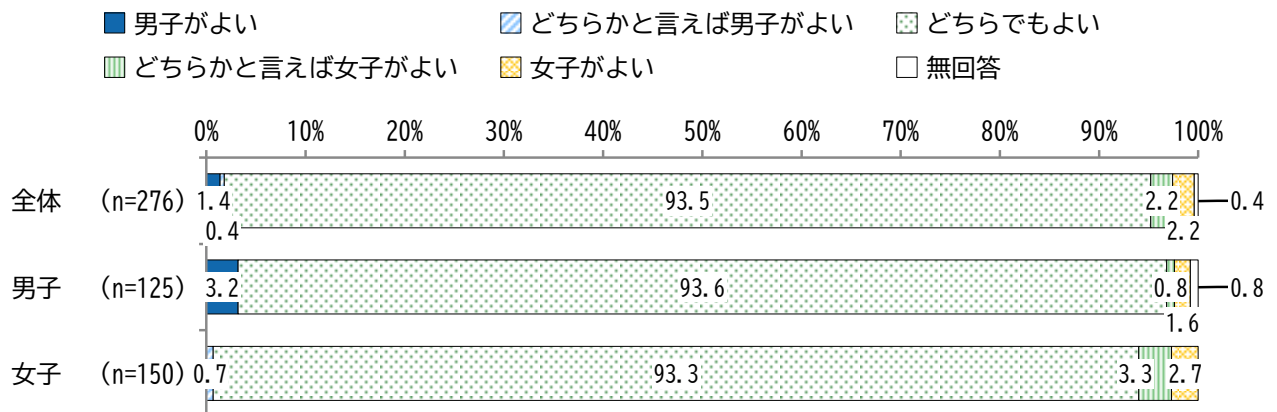
③ 学級委員長

- 全体では、「どちらでもよい」が89.5%で最も高く、次いで「どちらかと言えば女子がよい」が3.6%、「男子がよい」「女子がよい」が2.2%となっている。
- 性別でみると、「どちらでもよい」の割合は、女子は90.0%と、男子の88.8%よりも1.2ポイント高くなっている。一方で、「どちらかと言えば女子がよい」が女子は5.3%で、男子の1.6%よりも3.7ポイント高く、女子の方がわずかに女子を支持する傾向がみられる。



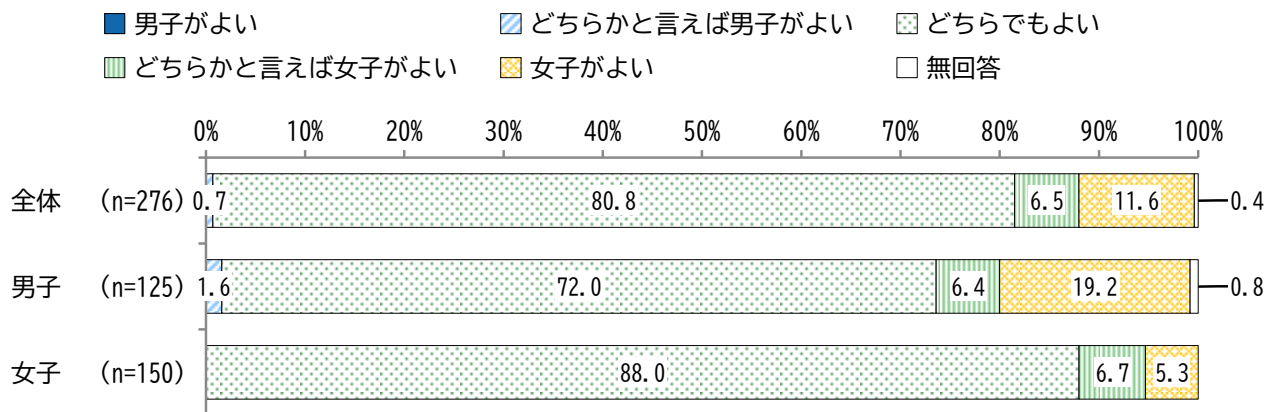
④ 学級副委員長

- 全体では、「どちらでもよい」が93.5%で最も高く、次いで「どちらかと言えば女子がよい」「女子がよい」が2.2%、「男子がよい」が1.4%となっている。
- 性別でみると、「どちらかと言えば女子がよい」の割合は、女子は3.3%、男子の0.8%よりも2.5ポイント高くなっている。



⑤ 部活のマネージャー

- 全体では、「どちらでもよい」が80.8%で最も高く、次いで「女子がよい」が11.6%、「どちらかと言えば女子がよい」が6.5%となっている。
- 性別でみると、「女子がよい」の割合は、男子は19.2%で、女子の5.3%よりも13.9ポイント高く、男子の方が、部活動のマネージャーについて女子を望む傾向が強く表れている。一方で、「どちらでもよい」は女子は88.0%で男子の72.0%よりも16.0ポイント高く、女子の方が性別を問わない傾向となっている。

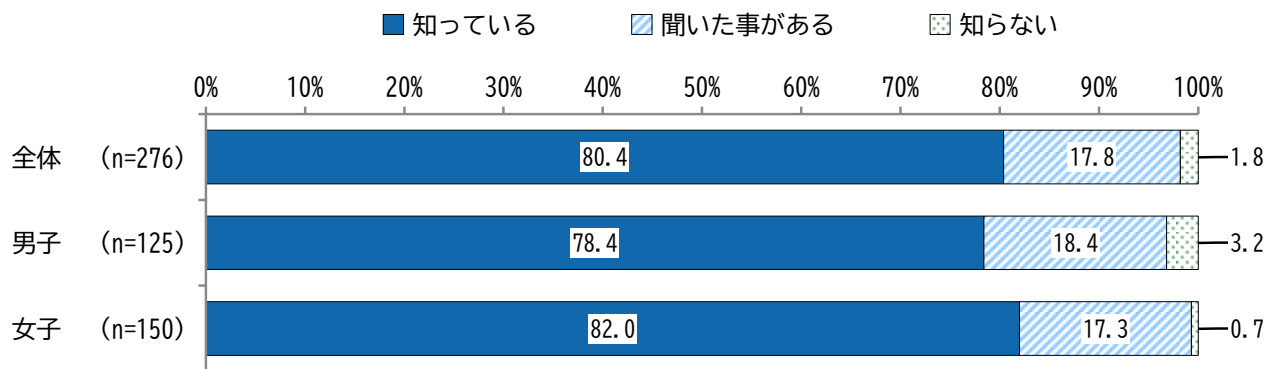


3. 男女共同参画について

問10 あなたは、次の言葉を知っていますか。（1つ）

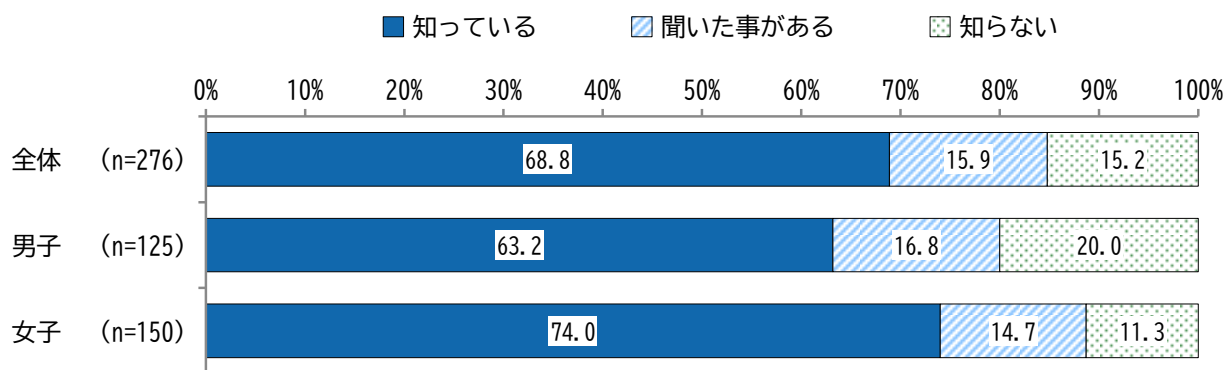
① セクハラ（セクシャル ハラスメント）

- 全体では、「知っている」が80.4%、「聞いた事がある」が17.8%と続いており、ほぼ全員が言葉自体を把握している状況である。
- 性別でみると、「知っている」は男子が78.4%で、女子の82.0%より3.6ポイントの差がある。



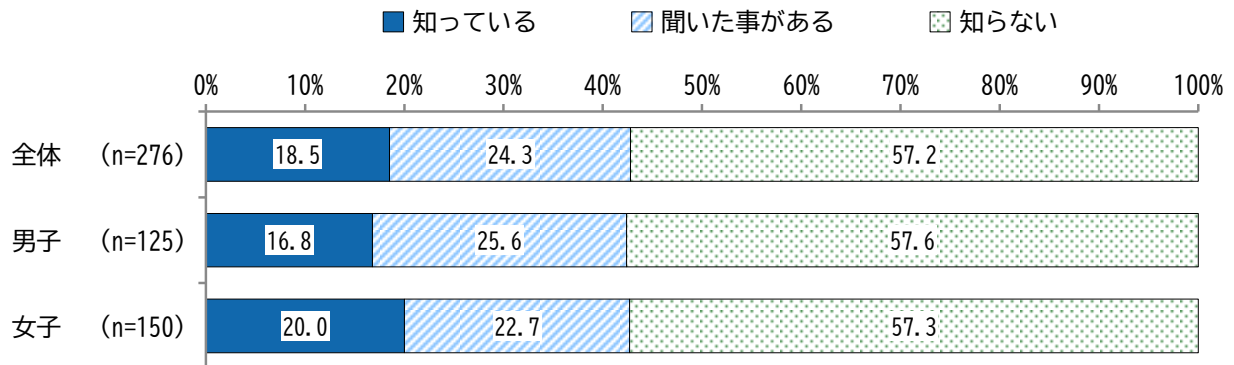
② DV（配偶者、交際相手などに対する身体的、精神的、性的な暴力）（ドメスティック バイオレンス）

- 全体では、「知っている」が68.8%、「聞いた事がある」が15.9%となっている。
- 性別でみると、「知っている」は女子が74.0%で、男子の63.2%よりも10.8ポイント高く、「知らない」の割合は、男子が20.0%で、女子の11.3%よりも8.7ポイント高くなっている。



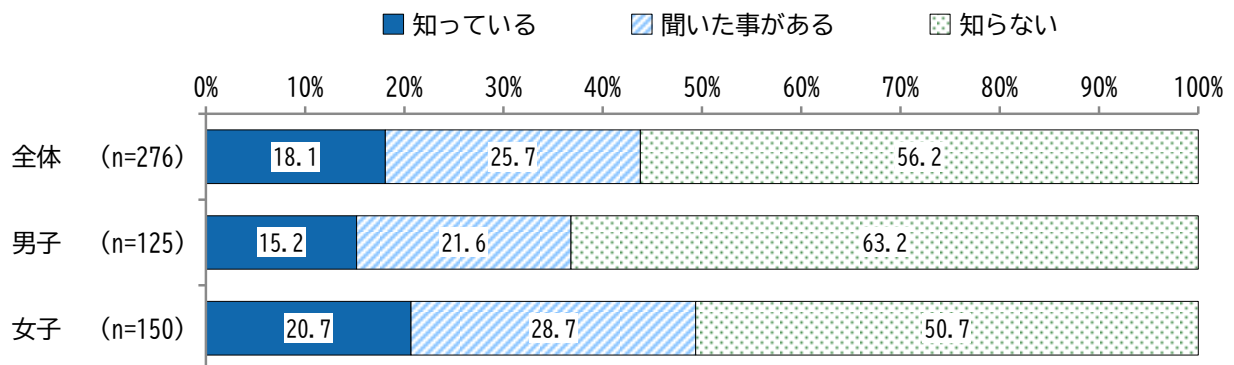
③ ワーク・ライフ・バランス

- 全体では、「知らない」が 57.2%、「聞いた事がある」が 24.3%となっている。
- 性別でみると、「知っている」の割合は、女子が 20.0%で、男子の 16.8%よりも 3.2 ポイント高くなっている。



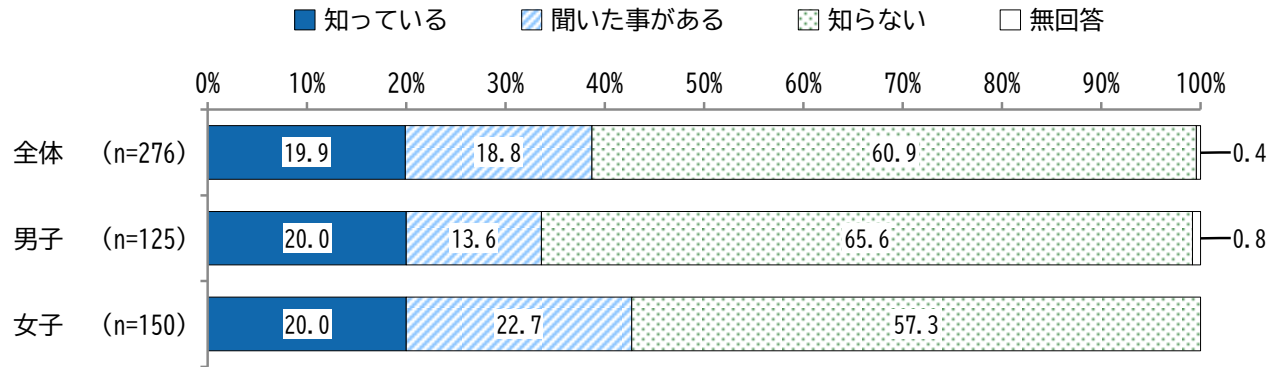
④ 男女共同参画社会

- 全体では、「知らない」が 56.2%、「聞いた事がある」が 25.7%となっている。
- 性別でみると、「知らない」の割合は、男子が 63.2%で、女子の 50.7%よりも 12.5 ポイント高くなっている。一方で、「知っている」は女子が 20.7%で、男子の 15.2%よりも 5.5 ポイント高く、「聞いたことがある」も女子は 28.7%で男子の 21.6%より 7.1 ポイント高くなっている。



⑤ デートDV

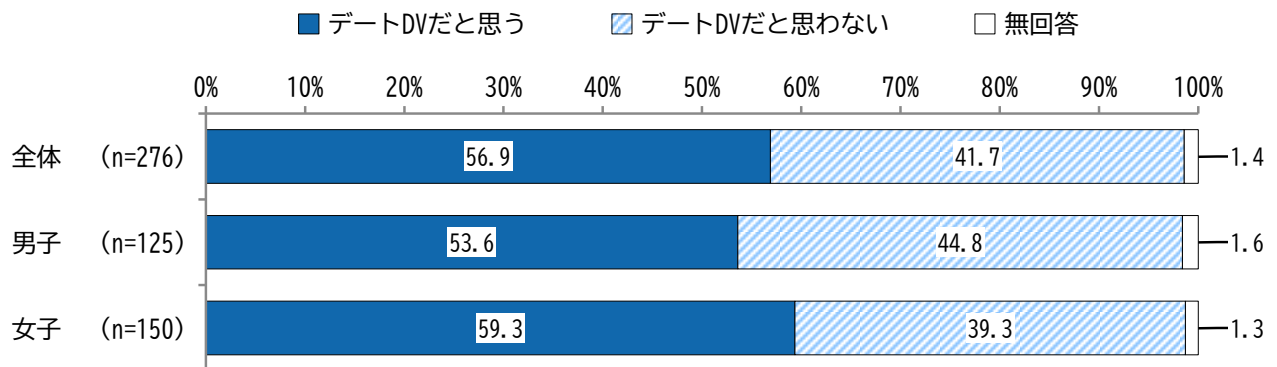
- 全体では、「知らない」が60.9%、「知っている」が19.9%となっている。
- 性別でみると、「知らない」は男子が65.6%で、女子の57.3%よりも8.3ポイント高く、「聞いたことがある」の割合は、女子は22.7%で男子の13.6%よりも9.1ポイント「高くなっている」。「知っている」については男女ともに20.0%と同じ割合となっている。



問11 デートDVだと思う行為について、①～⑦において、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。（1つ）

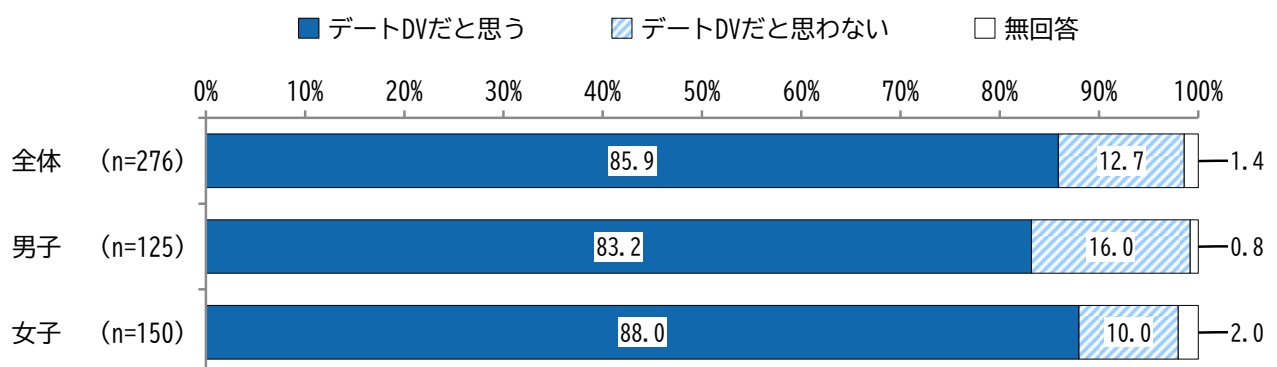
① 何を言っても無視する

- 全体では、「デートDVだと思う」が56.9%、「デートDVだと思わない」が41.7%となっている。
- 性別でみると、「デートDVだと思う」は、女子が59.3%で、男子の53.6%より5.7ポイント高くなっている。



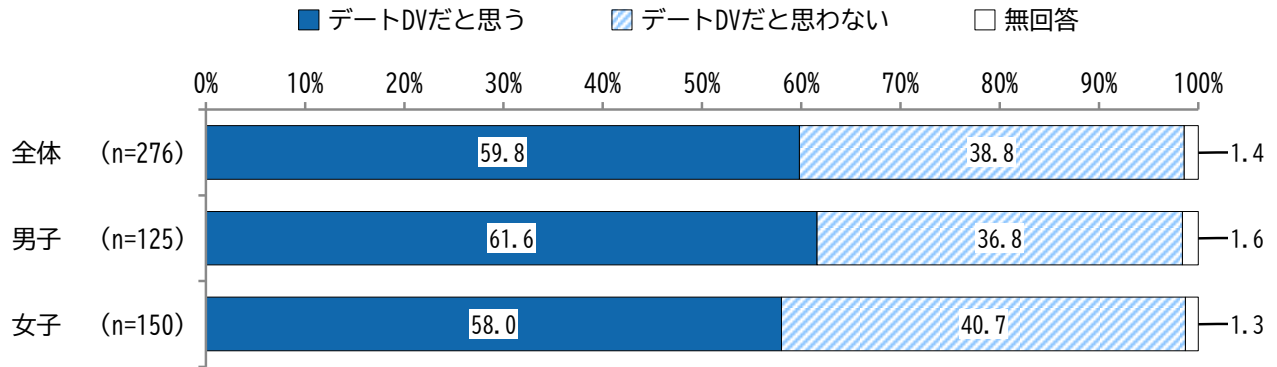
② 行動を監視したり、友人関係を制限する

- 全体では、「デートDVだと思う」が85.9%、「デートDVだと思わない」が12.7%となっている。
- 性別でみると、「デートDVだと思う」は、女子が88.0%で、男子の83.2%より4.8ポイント高くなっている。



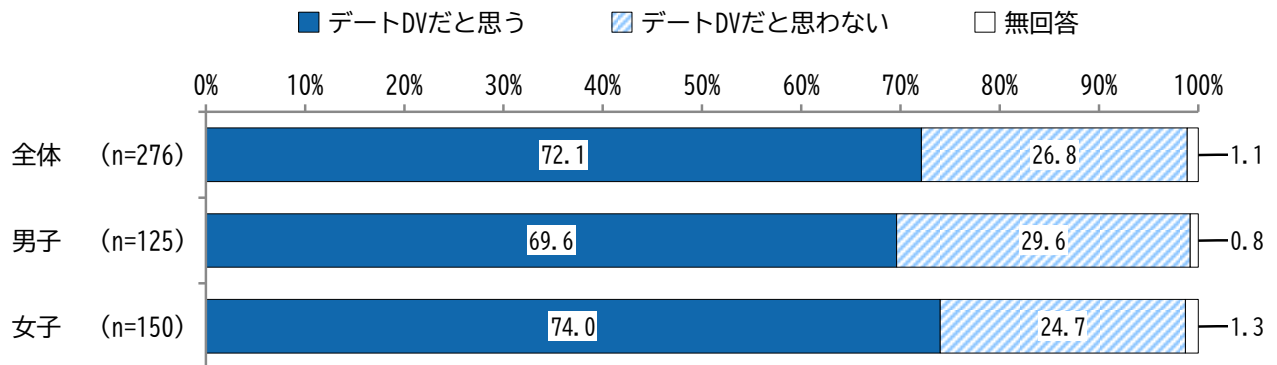
③ 服装を指示する

- 全体では、「デート DV だと思う」が 59.8%、「デート DV だと思わない」が 38.8%となっている。
- 性別でみると、「デート DV だと思う」は、男子が 61.6%で、女子の 58.0%より 3.6 ポイント高くなっている。



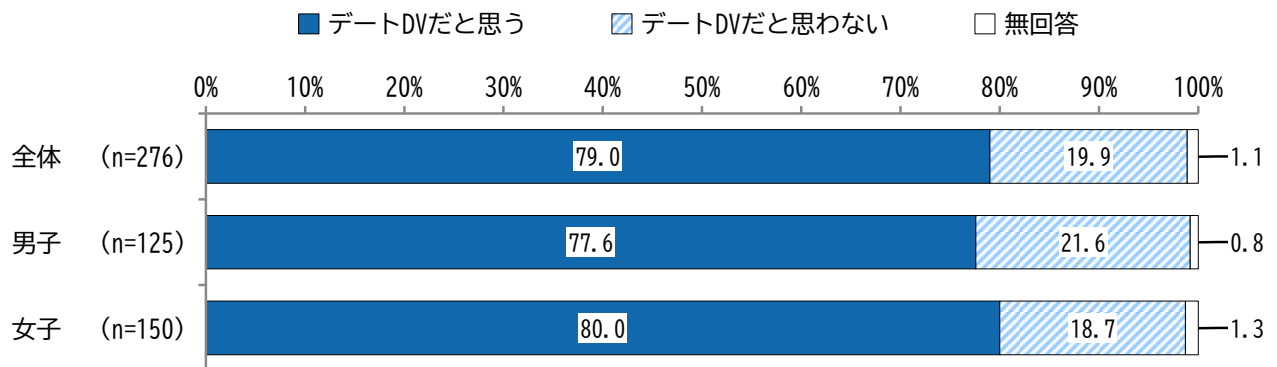
④ 交友関係やメールをチェックする

- 全体では、「デート DV だと思う」が 72.1%、「デート DV だと思わない」が 26.8%となっている。
- 性別でみると、「デート DV だと思う」は、女子が 74.0%で、男子の 69.6%より 4.4 ポイント高くなっている。



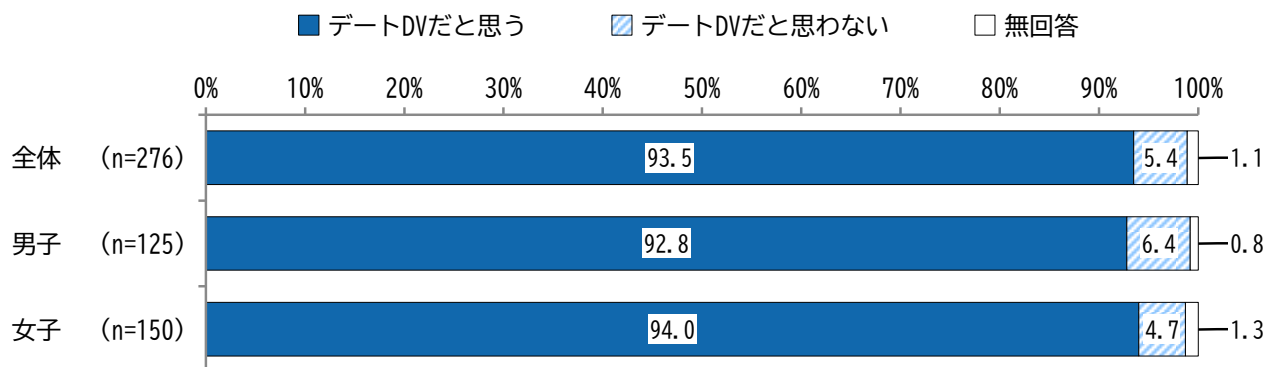
⑤ 人前でバカにする

- 全体では、「デート DV だと思う」が 79.0%、「デート DV だと思わない」が 19.9%となっている。
- 性別でみると、「デート DV だと思う」は、女子が 80.0%で、男子の 77.6%より 2.4 ポイント高くなっている。



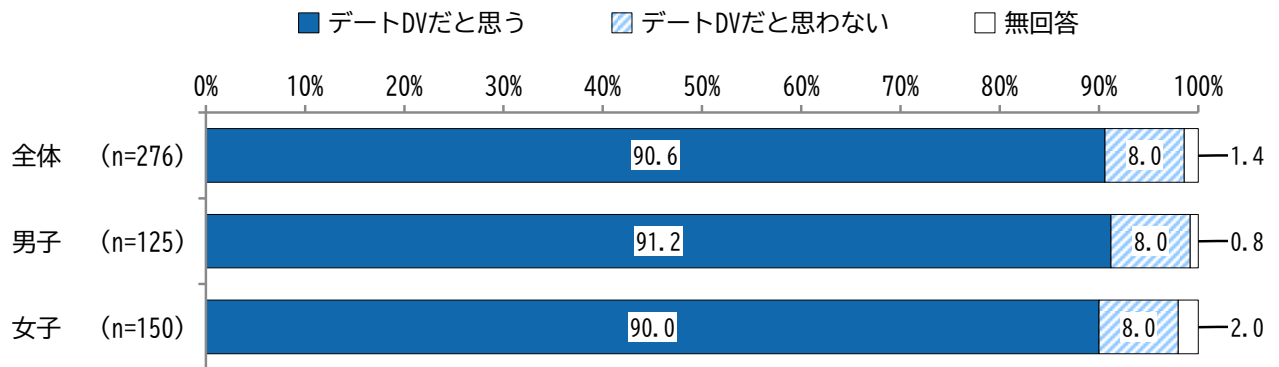
⑥ 殴るふりするなどをして脅す

- 全体では、「デート DV だと思う」が 93.5%、「デート DV だと思わない」が 5.4%となっている。
- 性別でみると、「デート DV だと思う」は、男子が 92.8%で、女子が 94.0%となっている。



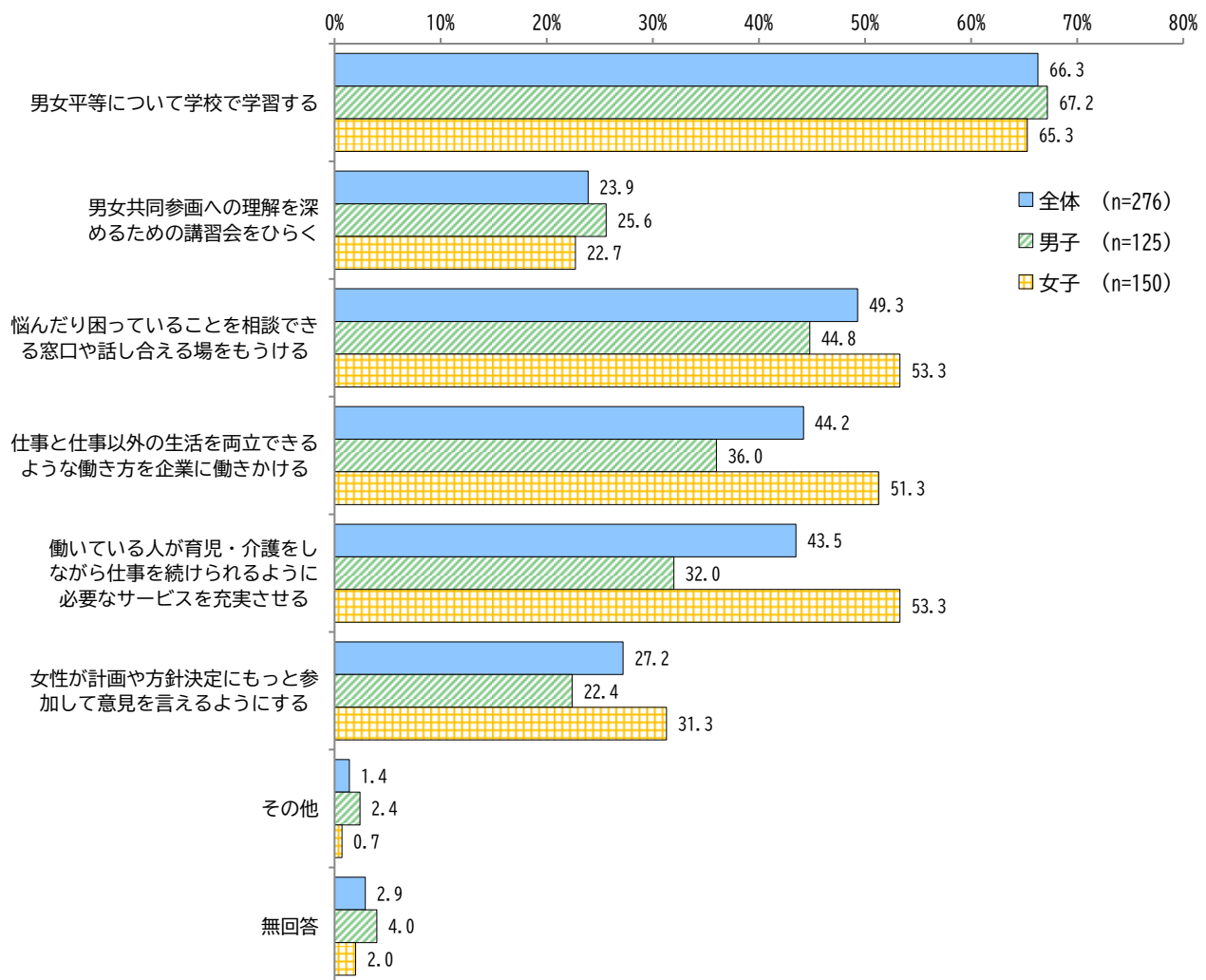
⑦ お金を出させたり、借りたお金を返さない

- 全体では、「デート DV だと思う」が 90.6%、「デート DV だと思わない」が 8.0%となっている。
- 性別でみると、「デート DV だと思う」は、男子が 91.2%で、女子が 90.0%となっている。



問12 あなたは、これから市がどのようなことに力を入れていくと良いと思いますか。（あてはまるものすべて）

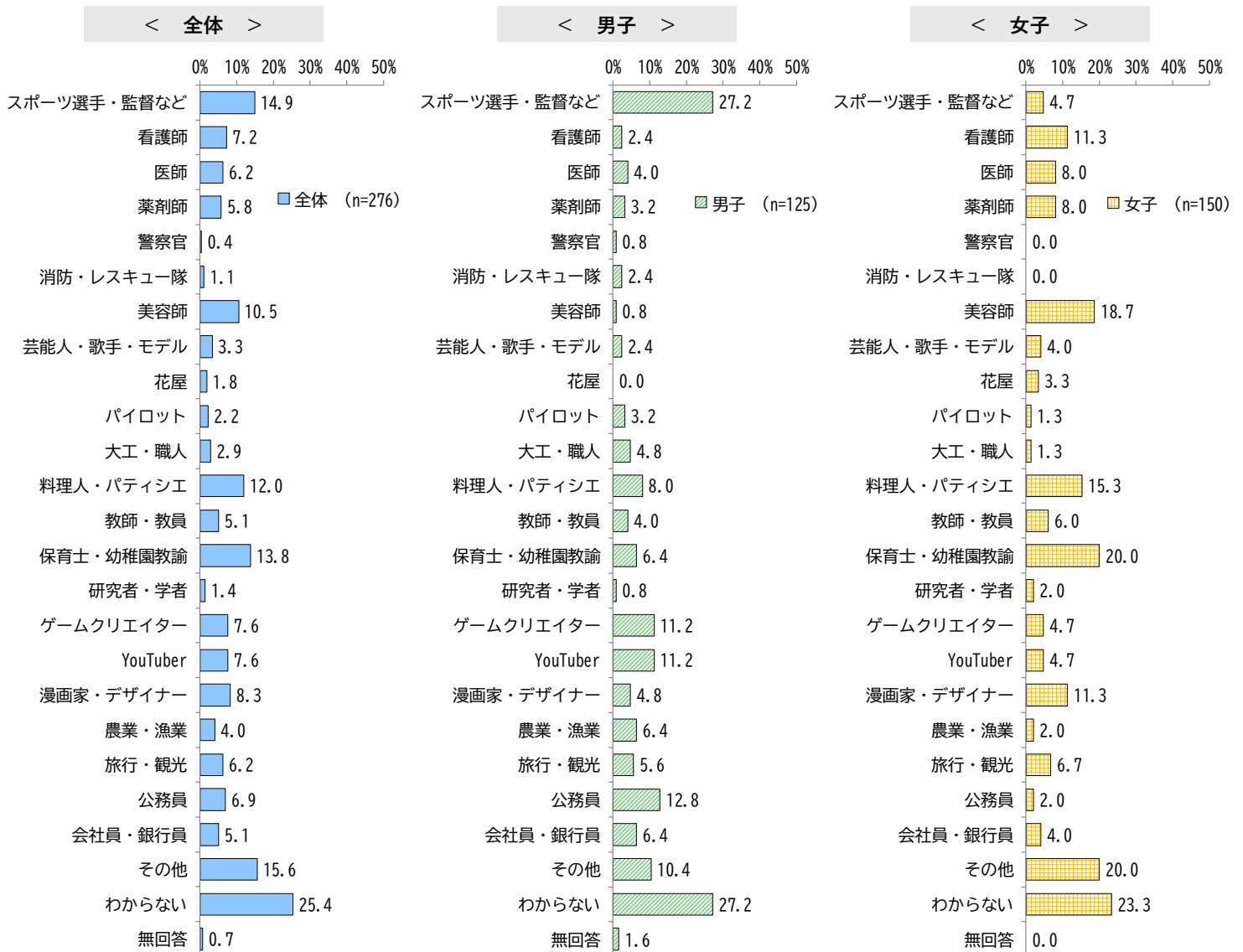
- 全体では、「男女平等について学校で学習する」が 66.3%で最も高く、次いで「悩んだり困っていることを相談できる窓口や話し合える場をもうける」が 49.3%、「仕事と仕事以外の生活を両立できるような働き方を企業に働きかける」は 44.2%、「働いている人が育児・介護をしながら仕事を続けられるように必要なサービスを充実させる」が 43.5%と続く。
- 性別でみると、女子は「悩んだり困っていることを相談できる窓口や話し合える場をもうける」、「働いている人が育児・介護をしながら仕事を続けられるように必要なサービスを充実させる」はともに 53.3%、「仕事と仕事以外の生活を両立できるような働き方を企業に働きかける」は 51.3%で、男子より割合が高く、将来の働き方やライフイベントとの両立支援に対する関心が高いことがうかがえる。また、「女性が計画や方針決定にもっと参加して意見を言えるようにする」は女子が 31.3%で、男子の 22.4%で 8.9 ポイント高く、女性の社会参画に関する意識についても女子の方が高い傾向がみられる。



4. 将来について

問13 将来、どのような仕事に就きたいと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

- 全体では、「わからない」が25.4%で最も高く、次いで「スポーツ選手・監督など」が14.9%、「保育士・幼稚園教諭」が13.8%となっている。
- 男子は「スポーツ選手・監督など」が27.2%で最も高く、「公務員」が12.8%、「ゲームクリエイター」「YouTuber」が11.2%と続く。一方女子は、「保育士・幼稚園教諭」「その他」が20.0%、「美容師」が18.7%、「料理人・パティシエ」が15.3%、「漫画家・デザイナー」「看護師」が11.3%と続く。

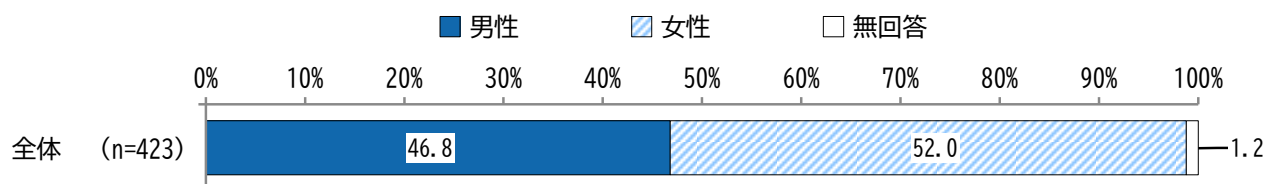


第6章 調査結果（市職員意識調査）

1. 回答者の属性

問1 あなたの性別を選んでください。（○は1つ）

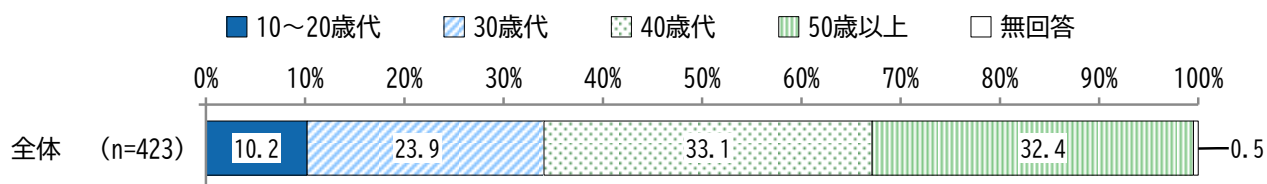
- 全体では、「女性」が52.0%、「男性」が46.8%となっている。



※ 問2以降、男女別集計においては、性別を回答されなかった方を個別の項目として表示せず、全体の人数（n）に含めて集計しています。そのため、男女別の合計人数（n）と全体人数（n）とは一致していません。あらかじめご了承ください。

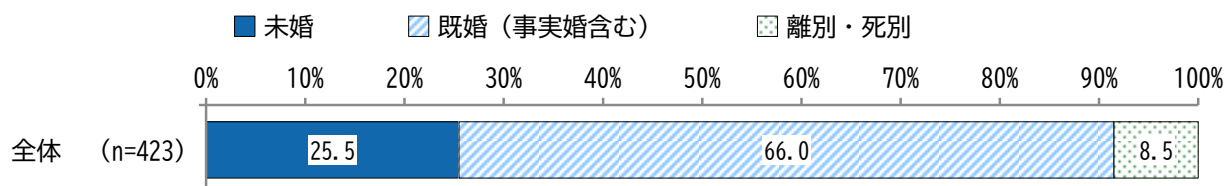
問2 あなたの年齢はいくつですか。（○は1つ）

- 全体では、「40歳代」が33.1%、「50歳以上」が32.4%となっている。



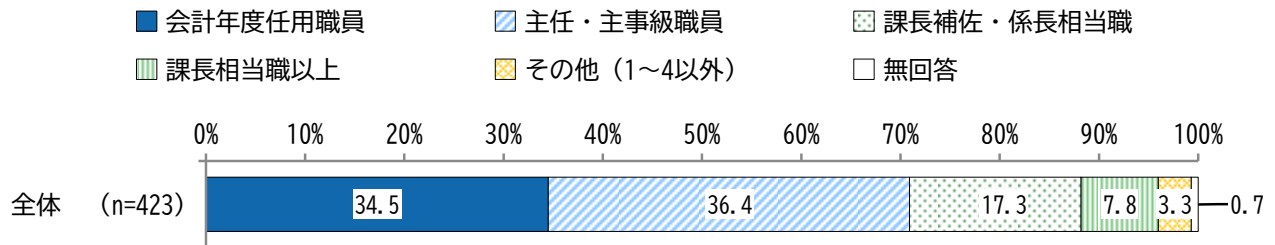
問3 あなたは、現在結婚していますか。（○は1つ）

- 全体では、「既婚（事実婚含む）」が66.0%、「未婚」が25.5%となっている。



問11 あなたの現在の職位をお答えください。（○は1つ）

- 全体では、「主任・主事級職員」が36.4%で最も高く、次いで「会計年度任用職員」が34.5%、「課長補佐・係長相当職」が17.3%となっている。
- 管理職層（課長補佐以上）は全体の約25%を占める一方、一般職層が多数を占める構成となっている。



（上段：実数、下段：割合）

	全体 (n)	会計年度任用職員	主任・主事級職員	課長補佐・係長相当職	課長相当職以上	その他（1～4以外）	無回答
全体	423	146	154	73	33	14	3
	100.0	34.5	36.4	17.3	7.8	3.3	0.7
性別							
男性	198	31	82	48	27	7	3
	100.0	15.7	41.4	24.2	13.6	3.5	1.5
女性	220	115	69	23	6	7	-
	100.0	52.3	31.4	10.5	2.7	3.2	-
年齢							
10～20歳代	43	20	22	-	-	1	-
	100.0	46.5	51.2	-	-	2.3	-
30歳代	101	30	69	1	-	1	-
	100.0	29.7	68.3	1.0	-	1.0	-
40歳代	140	39	50	45	3	3	-
	100.0	27.9	35.7	32.1	2.1	2.1	-
50歳以上	137	57	11	27	30	9	3
	100.0	41.6	8.0	19.7	21.9	6.6	2.2

第6章 調査結果（市職員意識調査）

問4 問3で「2.既婚（事実婚含む）」と答えた方にお尋ねします。あなたは共働きですか。（出産育児等で休業中の方は働いているものとみなします）（○は1つ）

- 全体では、「共働きである」が93.2%、「夫のみ働いている」が5.4%となっている。
- 性別でみると、男性は「共働きである」が88.5%に対し、「夫のみ働いている」が11.5%と一定の割合でみられる。女性は「共働きである」が97.9%とさらに高くなっている。
- 年齢別でみると、「共働きである」は、10～20歳代（n=7）で100.0%。30歳代は98.6%、40歳代は96.8%、50歳以上は86.3%と、年齢が上がるにつれて片働き世帯がやや増加している。
- 職位でみると、主任・主事級職員の96.9%、課長補佐・係長相当職の94.6%で「共働きである」が高い一方、課長相当職以上では85.2%と低く、「夫のみ働いている」の14.8%がやや高くなっている。

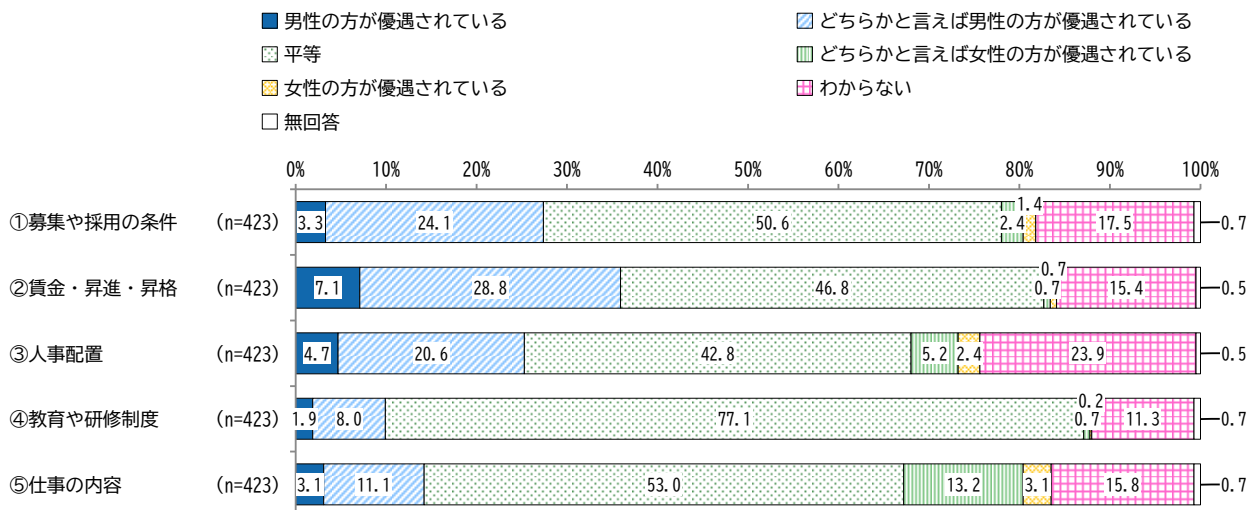
（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	共働きである	夫のみ働いている	妻のみ働いている	無回答
全体		279	260	15	3	1
		100.0	93.2	5.4	1.1	0.4
性別	男性	131	116	15	-	-
		100.0	88.5	11.5	-	-
性別	女性	143	140	-	3	-
		100.0	97.9	-	2.1	-
年齢	10～20歳代	7	7	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
	30歳代	73	72	1	-	-
		100.0	98.6	1.4	-	-
	40歳代	95	92	3	-	-
		100.0	96.8	3.2	-	-
年齢	50歳以上	102	88	11	3	-
		100.0	86.3	10.8	2.9	-
職位	会計年度任用職員	86	79	4	3	-
		100.0	91.9	4.7	3.5	-
	主任・主事級職員	97	94	2	-	1
		100.0	96.9	2.1	-	1.0
	課長補佐・係長相当職	56	53	3	-	-
職位		100.0	94.6	5.4	-	-
	課長相当職以上	27	23	4	-	-
		100.0	85.2	14.8	-	-
	その他（1～4以外）	11	10	1	-	-
		100.0	90.9	9.1	-	-

2. 男女平等に関する意識、慣習について

問5 次にあげる面で、性別によって差があると思いますか。①～⑤の各面において、あなたの考えに近いものを選んでください。（〇はそれぞれ1つ）

- 全体では、①～⑤すべての項目で「平等」が最も高く、「女性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」とする回答はおおむね 0.2～13.2%で少数にとどまっている。一方、「男性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」は、項目によってばらつきがあり、「②賃金・昇進・昇格」は 35.9%、「①募集や採用の条件」は 27.4%で比較的高い傾向がみられる。
- 「①募集や採用の条件」では、女性優遇と感じる回答（「女性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」の合計）は、男性が 6.0%で、女性の 1.4%より 4.6 ポイント高く、男性優遇と感じる回答（「男性の方が優遇されている」、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」の合計）は、年齢が高くなるほど、割合が高くなっている。
- 「②賃金・昇進・昇格」では、男性優遇と感じる回答は、女性が 44.1%で、男性の 27.8%よりも 16.3 ポイント高くなっている。
- 「③人事配置」では、男性優遇と感じる回答は、女性が 30.4%で、男性の 20.2%よりも 10.2 ポイント高い。また、年齢が高くなるほど割合も高くなり、職位別では、課長相当職以上で男性優遇と感じる回答が 30.3%で最も高くなっている。
- 「④教育や研修制度」では、男性優遇と感じる回答は、女性が 12.3%で、男性の 7.1%よりも 5.2 ポイント高くなっている。
- 「⑤仕事の内容」では、女性優遇と感じる回答は、男性が 23.3%で、女性の 10.0%よりも 13.3 ポイント高くなっている。



第6章 調査結果（市職員意識調査）

① 募集や採用の条件

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらか と言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらか と言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	423 100.0	14 3.3	102 24.1	214 50.6	10 2.4	6 1.4	74 17.5	3 0.7
性別								
男性	198 100.0	6 3.0	50 25.3	100 50.5	6 3.0	6 3.0	29 14.6	1 0.5
女性	220 100.0	8 3.6	51 23.2	113 51.4	3 1.4	- -	44 20.0	1 0.5
年齢								
10～20歳代	43 100.0	- -	5 11.6	26 60.5	1 2.3	- -	11 25.6	- -
30歳代	101 100.0	3 3.0	20 19.8	58 57.4	1 1.0	1 1.0	18 17.8	- -
40歳代	140 100.0	7 5.0	36 25.7	67 47.9	7 5.0	4 2.9	19 13.6	- -
50歳以上	137 100.0	4 2.9	41 29.9	63 46.0	1 0.7	1 0.7	25 18.2	2 1.5
職位								
会計年度任用職員	146 100.0	5 3.4	30 20.5	72 49.3	3 2.1	- -	35 24.0	1 0.7
主任・主事級職員	154 100.0	4 2.6	37 24.0	76 49.4	6 3.9	2 1.3	28 18.2	1 0.6
課長補佐・係長相当職	73 100.0	3 4.1	19 26.0	41 56.2	- -	3 4.1	6 8.2	1 1.4
課長相当職以上	33 100.0	1 3.0	10 30.3	19 57.6	- -	- -	3 9.1	- -
その他（1～4以外）	14 100.0	1 7.1	6 42.9	6 42.9	1 7.1	- -	- -	- -

② 賃金・昇進・昇格

（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらか と言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらか と言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	423 100.0	30 7.1	122 28.8	198 46.8	3 0.7	3 0.7	65 15.4	2 0.5
性別								
男性	198 100.0	5 2.5	50 25.3	113 57.1	1 0.5	3 1.5	26 13.1	- -
女性	220 100.0	25 11.4	72 32.7	83 37.7	1 0.5	- -	38 17.3	1 0.5
年齢								
10～20歳代	43 100.0	2 4.7	10 23.3	19 44.2	- -	- -	12 27.9	- -
30歳代	101 100.0	5 5.0	22 21.8	55 54.5	- -	- -	19 18.8	- -
40歳代	140 100.0	15 10.7	41 29.3	67 47.9	2 1.4	2 1.4	13 9.3	- -
50歳以上	137 100.0	8 5.8	49 35.8	57 41.6	1 0.7	1 0.7	20 14.6	1 0.7
職位								
会計年度任用職員	146 100.0	12 8.2	38 26.0	63 43.2	- -	- -	32 21.9	1 0.7
主任・主事級職員	154 100.0	9 5.8	47 30.5	71 46.1	- -	- -	26 16.9	1 0.6
課長補佐・係長相当職	73 100.0	5 6.8	20 27.4	40 54.8	3 4.1	2 2.7	3 4.1	- -
課長相当職以上	33 100.0	2 6.1	11 33.3	18 54.5	- -	- -	2 6.1	- -
その他（1～4以外）	14 100.0	2 14.3	6 42.9	4 28.6	- -	- -	2 14.3	- -

③ 人事配置

（上段：実数、下段：割合）

	全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	423 100.0	20 4.7	87 20.6	181 42.8	22 5.2	10 2.4	101 23.9	2 0.5
性別	男性	198 100.0	5 2.5	35 17.7	96 48.5	16 8.1	8 4.0	38 19.2
	女性	220 100.0	15 6.8	52 23.6	84 38.2	4 1.8	2 0.9	62 28.2
年齢	10～20歳代	43 100.0	1 2.3	5 11.6	21 48.8	-	-	16 37.2
	30歳代	101 100.0	4 4.0	16 15.8	48 47.5	3 3.0	4 4.0	26 25.7
	40歳代	140 100.0	8 5.7	29 20.7	56 40.0	11 7.9	5 3.6	31 22.1
	50歳以上	137 100.0	7 5.1	37 27.0	56 40.9	8 5.8	1 0.7	27 19.7
職位	会計年度任用職員	146 100.0	6 4.1	31 21.2	60 41.1	3 2.1	-	45 30.8
	主任・主事級職員	154 100.0	6 3.9	29 18.8	66 42.9	8 5.2	5 3.2	39 25.3
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	5 6.8	15 20.5	32 43.8	6 8.2	5 6.8	10 13.7
	課長相当職以上	33 100.0	2 6.1	8 24.2	18 54.5	3 9.1	-	2 6.1
	その他（1～4以外）	14 100.0	-	4 28.6	5 35.7	1 7.1	-	4 28.6

④ 教育や研修制度

（上段：実数、下段：割合）

	全体 (n)	男性の方が 優遇されて いる	どちらかと 言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらかと 言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	423 100.0	8 1.9	34 8.0	326 77.1	3 0.7	1 0.2	48 11.3	3 0.7
性別	男性	198 100.0	1 0.5	13 6.6	158 79.8	2 1.0	1 0.5	23 11.6
	女性	220 100.0	7 3.2	20 9.1	166 75.5	1 0.5	-	24 10.9
年齢	10～20歳代	43 100.0	1 2.3	1 2.3	34 79.1	-	-	7 16.3
	30歳代	101 100.0	3 3.0	4 4.0	84 83.2	1 1.0	-	9 8.9
	40歳代	140 100.0	3 2.1	13 9.3	112 80.0	2 1.4	1 0.7	9 6.4
	50歳以上	137 100.0	1 0.7	16 11.7	96 70.1	-	-	22 16.1
職位	会計年度任用職員	146 100.0	2 1.4	17 11.6	102 69.9	-	-	24 16.4
	主任・主事級職員	154 100.0	6 3.9	11 7.1	123 79.9	2 1.3	-	11 7.1
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	-	2 2.7	63 86.3	1 1.4	1 1.4	6 8.2
	課長相当職以上	33 100.0	-	3 9.1	29 87.9	-	-	1 3.0
	その他（1～4以外）	14 100.0	-	1 7.1	9 64.3	-	-	3 21.4

第6章 調査結果（市職員意識調査）

⑤ 仕事の内容

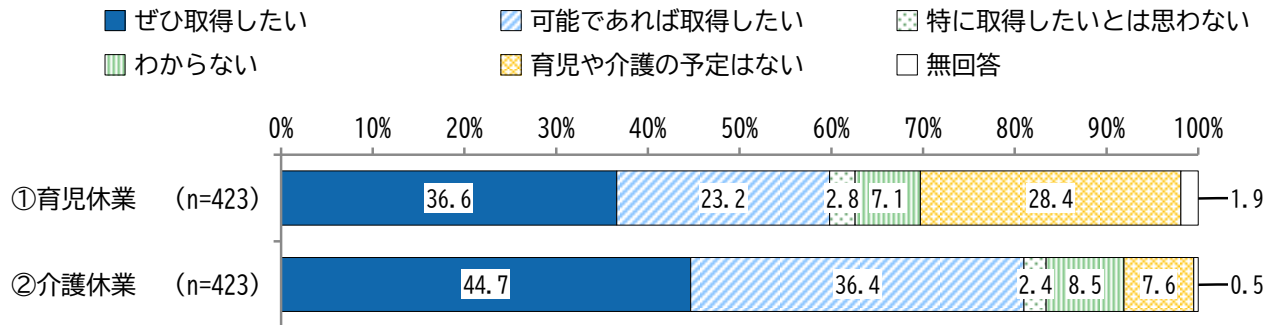
（上段：実数、下段：割合）

	全体（n）	男性の方が 優遇されて いる	どちらか と言えば男性 の方が優遇 されている	平等	どちらか と言えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
全体	423 100.0	13 3.1	47 11.1	224 53.0	56 13.2	13 3.1	67 15.8	3 0.7
性別	男性	198 100.0	6 3.0	19 9.6	105 53.0	33 16.7	13 6.6	22 11.1
	女性	220 100.0	7 3.2	27 12.3	118 53.6	22 10.0	- -	44 20.0
年齢	10～20歳代	43 100.0	1 2.3	3 7.0	28 65.1	3 7.0	1 2.3	7 16.3
	30歳代	101 100.0	5 5.0	9 8.9	50 49.5	13 12.9	2 2.0	22 21.8
	40歳代	140 100.0	2 1.4	19 13.6	67 47.9	24 17.1	7 5.0	20 14.3
	50歳以上	137 100.0	5 3.6	16 11.7	79 57.7	16 11.7	3 2.2	17 12.4
職位	会計年度任用職員	146 100.0	3 2.1	21 14.4	82 56.2	14 9.6	- -	25 17.1
	主任・主事級職員	154 100.0	7 4.5	16 10.4	69 44.8	25 16.2	7 4.5	28 18.2
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	1 1.4	8 11.0	41 56.2	11 15.1	5 6.8	7 9.6
	課長相当職以上	33 100.0	1 3.0	2 6.1	22 66.7	4 12.1	- -	4 12.1
	その他（1～4以外）	14 100.0	- -	- -	9 64.3	2 14.3	- -	3 21.4

3. 育児休業・介護休業の取得について

問6 あなたは、これから先機会があれば育児休業・介護休業を取得したいと思いますか。
（○はそれぞれ1つ）

- 「①育児休業」では、「ぜひ取得したい」が36.6%、「可能であれば取得したい」が23.2%で、合計59.8%で、取得意欲が相対的に高い。
- 「②介護休業」では、「ぜひ取得したい」が44.7%で育児休業よりも高く、「可能であれば取得したい」が36.4%と高くなっている。



第6章 調査結果（市職員意識調査）

① 育児休業

- 性別でみると、男性は「ぜひ取得したい」「可能であれば取得したい」がともに29.3%である一方、女性は「ぜひ取得したい」が43.2%で最も高い。
- 年齢別でみると、最も高いのは10～20歳代の「ぜひ取得したい」が69.8%であり、若い層ほど取得意向が非常に強い。30歳代も56.4%と高く、50歳以上では「育児や介護の予定はない」が51.1%と最も高い。
- 職位でみると、主任・主事級職員の「ぜひ取得したい」が51.3%で最も高い。一方、課長相当職以上では「育児や介護の予定はない」が48.5%で最も高い。

（上段：実数、下段：割合）

	全体 (n)	ぜひ取得したい	可能であれば取得したい	特に取得したいとは思わない	わからない	育児や介護の予定はない	無回答
全体	423	155	98	12	30	120	8
	100.0	36.6	23.2	2.8	7.1	28.4	1.9
性別	男性	198	58	58	10	17	52
		100.0	29.3	29.3	5.1	8.6	26.3
	女性	220	95	38	2	13	68
		100.0	43.2	17.3	0.9	5.9	30.9
年齢	10～20歳代	43	30	7	-	1	5
		100.0	69.8	16.3	-	2.3	11.6
	30歳代	101	57	27	1	4	12
		100.0	56.4	26.7	1.0	4.0	11.9
	40歳代	140	51	36	4	15	33
		100.0	36.4	25.7	2.9	10.7	23.6
	50歳以上	137	17	27	7	10	70
		100.0	12.4	19.7	5.1	7.3	51.1
職位	会計年度任用職員	146	53	33	3	10	42
		100.0	36.3	22.6	2.1	6.8	28.8
	主任・主事級職員	154	79	31	2	10	31
		100.0	51.3	20.1	1.3	6.5	20.1
	課長補佐・係長相当職	73	17	22	3	6	24
		100.0	23.3	30.1	4.1	8.2	32.9
	課長相当職以上	33	3	7	4	3	16
		100.0	9.1	21.2	12.1	9.1	48.5
	その他（1～4以外）	14	3	4	-	1	5
		100.0	21.4	28.6	-	7.1	35.7

② 介護休業

- 性別でみると、男性は「可能であれば取得したい」が 39.4%と最も高く、「ぜひ取得したい」が 35.9%となっている。一方、女性では「ぜひ取得したい」が 52.7%と突出して高く、男性と比べて取得意向がより強い。
- 年齢別でみると、最も高いのは 10～20 歳代の「ぜひ取得したい」で 67.4%となっており、30 歳代以降は年齢に比例して割合が低下し、50 歳以上で 29.9%となっている。また、50 歳以上は「可能であれば取得したい」が 46.0%と最も高く、他の年齢と比較して慎重な姿勢も見られる。
- 職位でみると、主任・主事級職員では「ぜひ取得したい」が 51.3%と高く、課長相当職以上では「可能であれば取得したい」が 60.6%で最も高い。管理職層では強い意向は示しつつも慎重な姿勢がうかがえる。また、会計年度任用職員でも「ぜひ取得したい」が 45.2%と高く、取得へのニーズが大きい。

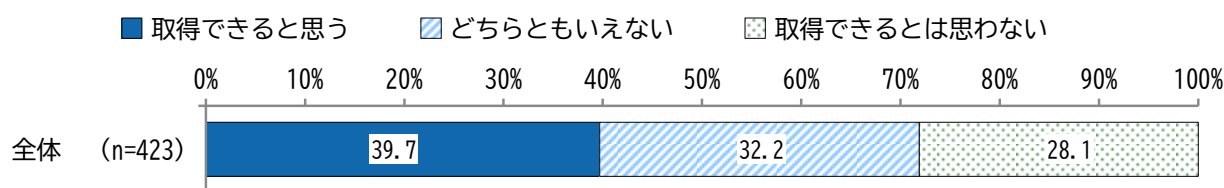
(上段：実数、下段：割合)

	全体 (n)	ぜひ取得したい	可能であれば取得したい	特に取得したいとは思わない	わからない	育児や介護の予定はない	無回答
全体	423	189	154	10	36	32	2
	100.0	44.7	36.4	2.4	8.5	7.6	0.5
性別	男性	71	78	8	25	15	1
	100.0	35.9	39.4	4.0	12.6	7.6	0.5
女性	220	116	74	2	11	17	-
	100.0	52.7	33.6	0.9	5.0	7.7	-
年齢	10～20歳代	43	29	8	-	2	4
	100.0	67.4	18.6	-	4.7	9.3	-
	30歳代	101	53	31	3	6	7
	100.0	52.5	30.7	3.0	5.9	6.9	1.0
	40歳代	140	66	51	2	17	4
	100.0	47.1	36.4	1.4	12.1	2.9	-
職位	50歳以上	137	41	63	5	11	17
	100.0	29.9	46.0	3.6	8.0	12.4	-
	会計年度任用職員	146	66	55	2	7	16
	100.0	45.2	37.7	1.4	4.8	11.0	-
	主任・主事級職員	154	79	50	2	14	7
	100.0	51.3	32.5	1.3	9.1	4.5	1.3
課長補佐・係長相当職	73	30	24	3	10	6	-
	100.0	41.1	32.9	4.1	13.7	8.2	-
	課長相当職以上	33	8	20	2	3	-
	100.0	24.2	60.6	6.1	9.1	-	-
	その他（1～4以外）	14	6	4	-	2	2
	100.0	42.9	28.6	-	14.3	14.3	-

第6章 調査結果（市職員意識調査）

問7 あなたは、現在の職場環境で 1 か月以上の育児休業・介護休業を取得できると思いますか。
(1つ)

- 全体では、「取得できると思う」が 39.7%、「どちらともいえない」が 32.2%となっている。
- 性別でみると、男性は「取得できると思う」が 35.4%で、「どちらともいえない」が 33.8%、「取得できるとは思わない」が 30.8%と拮抗しており、判断が分かれている。一方、女性では「取得できると思う」が 44.5%と最も高い。
- 年齢別でみると、「取得できると思う」が 10～20 歳代で 51.2%と最も高く、次いで 30 歳代が 44.6%と高い。一方、40 歳代では「取得できると思う」が 37.9%で最も高いものの、「取得できるとは思わない」が 35.0%となっている。50 歳以上では「どちらともいえない」が 39.4%と高くなっている。
- 職位でみると、会計年度任用職員では「取得できると思う」が 48.6%で最も高く、主任・主事級職員では「取得できるとは思わない」が 36.4%となっている。課長補佐・係長相当職では「取得できるとは思わない」が 35.6%で最も高い。課長相当職以上では「取得できると思う」が 39.4%と最も高いものの、「どちらともいえない」が 33.3%、「取得できるとは思わない」が 27.3%で一定程度みられる。

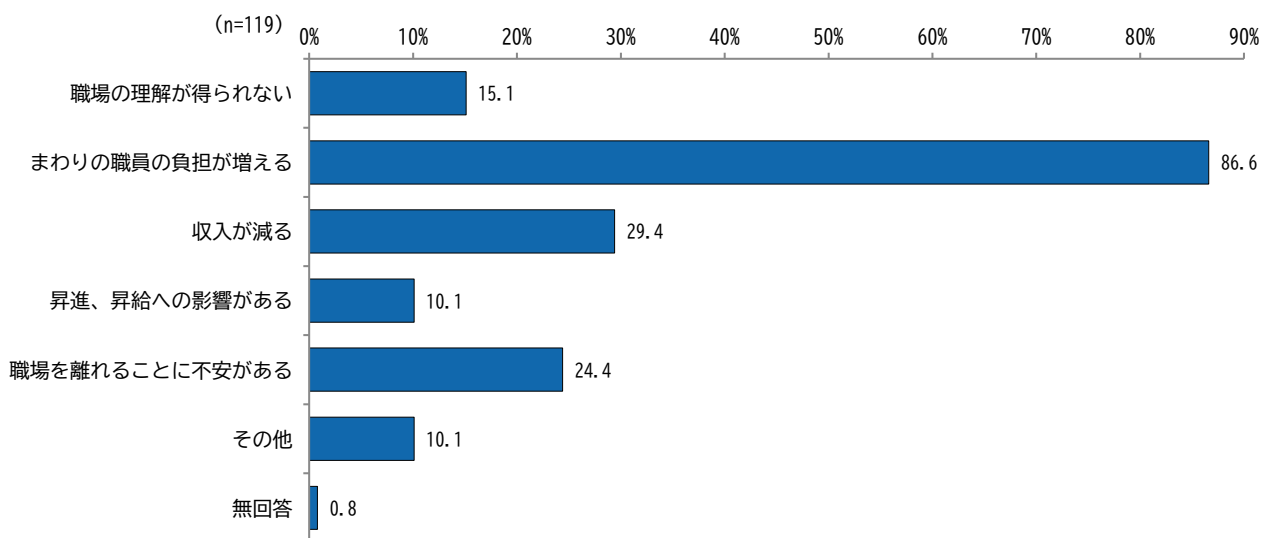


(上段：実数、下段：割合)

	全体 (n)	取得できる と思う	どちらとも いえない	取得できる とは思わ ない
全体	423	168	136	119
	100.0	39.7	32.2	28.1
性別				
男性	198	70	67	61
	100.0	35.4	33.8	30.8
女性	220	98	68	54
	100.0	44.5	30.9	24.5
年齢				
10～20歳代	43	22	14	7
	100.0	51.2	32.6	16.3
30歳代	101	45	30	26
	100.0	44.6	29.7	25.7
40歳代	140	53	38	49
	100.0	37.9	27.1	35.0
50歳以上	137	48	54	35
	100.0	35.0	39.4	25.5
職位				
会計年度任用職員	146	71	47	28
	100.0	48.6	32.2	19.2
主任・主事級職員	154	56	48	50
	100.0	36.4	31.2	32.5
課長補佐・係長相当職	73	24	23	26
	100.0	32.9	31.5	35.6
課長相当職以上	33	13	11	9
	100.0	39.4	33.3	27.3
その他（1～4以外）	14	4	6	4
	100.0	28.6	42.9	28.6

問8 （問7で「3. 取得できるとは思わない」と答えた方への質問）
あなたがそのように思う理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「まわりの職員の負担が増える」が86.6%で最も高く、次いで「収入が減る」が29.4%、「職場を離れることに不安がある」が24.4%となっている。
- 性別でみると、男性は「まわりの職員の負担が増える」が85.2%と最も高く、次に「収入が減る」が29.5%、「職場を離れることに不安がある」が24.6%と続いている。一方、女性でも「まわりの職員の負担が増える」が88.9%と最も高く、男女ともに他者への負担感が強い。ただし男性は「職場の理解が得られない」が23.0%で、女性の5.6%よりも高く、理解不足への懸念が相対的に大きい。
- 年齢別でみると、30歳代で「まわりの職員の負担が増える」が92.3%と最も高く、他の年齢は85.7%となっている。一方、10～20歳代では「収入が減る」が42.9%と他の年齢より比較的高く、50歳以上では「職場を離れることに不安がある」が31.4%と高くなっている。
- 職位でみると、会計年度任用職員では「まわりの職員の負担が増える」が92.9%で最も高く、課長補佐・係長相当職が92.3%と同様に高くなっている。一方、課長相当職以上では「まわりの職員の負担が増える」が66.7%と他の職位に比べ低い。また、「昇進・昇給への影響がある」では「主任・主事級職員」が14.0%、「課長補佐・係長相当職」は19.2%となっている。



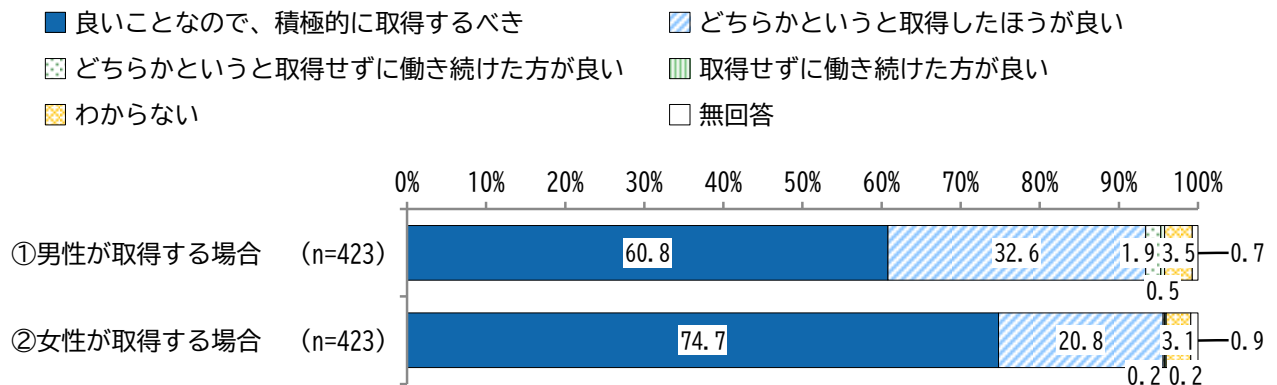
第6章 調査結果（市職員意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	職場の理解 が得られな い	まわりの職 員の負担が 増える	収入が減る	昇進、昇給 への影響が ある	職場を離れ ることに不 安がある	その他	無回答
全体		119	18	103	35	12	29	12	1
		100.0	15.1	86.6	29.4	10.1	24.4	10.1	0.8
性別	男性	61	14	52	18	8	15	6	-
		100.0	23.0	85.2	29.5	13.1	24.6	9.8	-
性別	女性	54	3	48	16	3	13	6	-
		100.0	5.6	88.9	29.6	5.6	24.1	11.1	-
年齢	10～20歳代	7	1	6	3	-	-	-	-
		100.0	14.3	85.7	42.9	-	-	-	-
	30歳代	26	3	24	12	2	7	2	-
		100.0	11.5	92.3	46.2	7.7	26.9	7.7	-
	40歳代	49	8	42	13	9	10	7	-
		100.0	16.3	85.7	26.5	18.4	20.4	14.3	-
年齢	50歳以上	35	6	30	7	1	11	3	-
		100.0	17.1	85.7	20.0	2.9	31.4	8.6	-
職位	会計年度任用職員	28	5	26	12	-	9	1	-
		100.0	17.9	92.9	42.9	-	32.1	3.6	-
	主任・主事級職員	50	7	44	15	7	10	4	1
		100.0	14.0	88.0	30.0	14.0	20.0	8.0	2.0
	課長補佐・係長相当職	26	4	24	5	5	8	4	-
		100.0	15.4	92.3	19.2	19.2	30.8	15.4	-
職位	課長相当職以上	9	1	6	1	-	2	1	-
		100.0	11.1	66.7	11.1	-	22.2	11.1	-
	その他（1～4以外）	4	-	3	1	-	-	1	-
		100.0	-	75.0	25.0	-	-	25.0	-

問9 同僚や部下、上司など、職場の仲間から育児休業や介護休業を取得したいと相談されたとき、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ1つ）

- 全体でみると、「良いことなので、積極的に取得すべき」は、「①男性が取得する場合」では 60.8%、「②女性が取得する場合」では 74.7%で、13.9 ポイントの差がある。「どちらかというとな取得したほうが良い」は、「①男性が取得する場合」では 32.6%、「②女性が取得する場合」では 20.8%となっている。男性、女性のいずれが取得する場合においても、休業の取得を勧める傾向がみられる。



第6章 調査結果（市職員意識調査）

① 男性が取得する場合

- 性別でみると、男性は「積極的に取得すべき」が 57.1%、「どちらかという取得したほうが良い」が 36.9%で、合計 94.0%となっている。女性も「積極的に取得すべき」が 64.5%、「どちらかという取得したほうが良い」が 28.6%で、合計 93.1%と高くなっている。
- 年齢別でみると、10～20 歳代では「良いことなので、積極的に取得すべき」が 86.0%と突出して高くなっている。30 歳代も 75.2%と高い水準で続く。40 歳代・50 歳以上では割合がやや下がるものの、「良いことなので、積極的に取得すべき」「どちらかという取得したほうが良い」の合計は依然として9割前後を維持している。
- 職位でみると、会計年度任用職員では「良いことなので、積極的に取得すべき」が 65.1%と最も高く、主任・主事級職員でも 63.0%となっている。課長補佐・係長相当職では肯定的割合がやや低下するものの 93%程度となっている。課長相当職以上では「良いことなので、積極的に取得すべき」が 48.5%、「どちらかという取得したほうが良い」が 45.5%となっている。

（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	良いことなので、積極的に取得すべき	どちらかという取得したほうが良い	どちらかという取得せずに働き続けたほうが良い	取得せずに働き続けたほうが良い	わからない	無回答
全体		423	257	138	8	2	15	3
		100.0	60.8	32.6	1.9	0.5	3.5	0.7
性別	男性	198	113	73	3	1	8	-
		100.0	57.1	36.9	1.5	0.5	4.0	-
性別	女性	220	142	63	5	1	7	2
		100.0	64.5	28.6	2.3	0.5	3.2	0.9
年齢	10～20歳代	43	37	6	-	-	-	-
		100.0	86.0	14.0	-	-	-	-
	30歳代	101	76	22	2	-	1	-
		100.0	75.2	21.8	2.0	-	1.0	-
	40歳代	140	75	54	2	1	8	-
		100.0	53.6	38.6	1.4	0.7	5.7	-
年齢	50歳以上	137	68	56	4	1	6	2
		100.0	49.6	40.9	2.9	0.7	4.4	1.5
職位	会計年度任用職員	146	95	41	2	-	7	1
		100.0	65.1	28.1	1.4	-	4.8	0.7
	主任・主事級職員	154	97	48	3	1	4	1
		100.0	63.0	31.2	1.9	0.6	2.6	0.6
	課長補佐・係長相当職	73	39	29	1	-	3	1
職位		100.0	53.4	39.7	1.4	-	4.1	1.4
	課長相当職以上	33	16	15	1	-	1	-
		100.0	48.5	45.5	3.0	-	3.0	-
	その他（1～4以外）	14	10	3	1	-	-	-
		100.0	71.4	21.4	7.1	-	-	-

② 女性が取得する場合

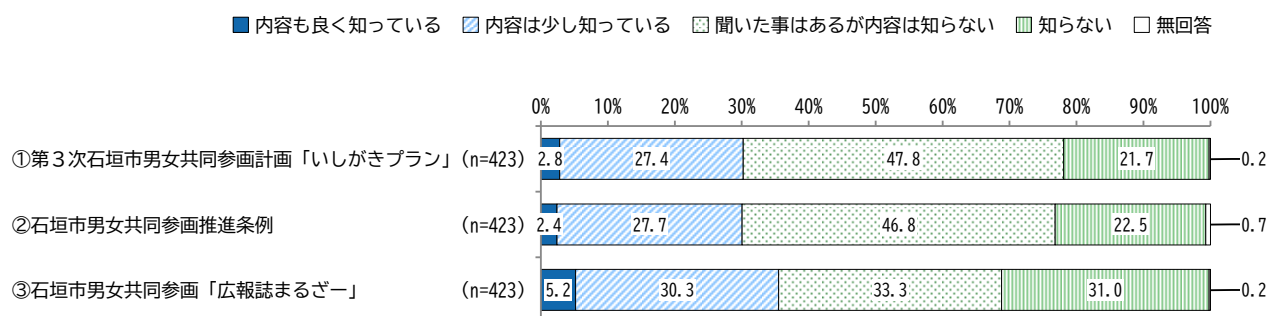
- 性別でみると、男性は「良いことなので、積極的に取得すべき」が71.2%、「どちらかといえば取得したほうが良い」が22.7%となっている。女性は「良いことなので、積極的に取得すべき」が78.2%とさらに高く、男性よりも強く支持する傾向がみられる。
- 年齢別でみると、10～20歳代は「良いことなので、積極的に取得すべき」が93.0%と突出して高くなっている。30歳代も85.1%と高く、若い世代ほど取得を支持する傾向がみられる。40歳代では70.0%とやや低下するものの高い割合を占めており、50歳以上では66.4%と比較的低くなっている。
- 職位でみると、会計年度任用職員、主任・主事級職員、課長補佐・係長相当職はいずれも「良いことなので、積極的に取得すべき」が75.3%と高い。課長相当職以上では66.7%とやや低くなっている。

(上段：実数、下段：割合)

		全体 (n)	良いことなので、積極的に取得すべき	どちらかという取得したほうが良い	どちらかという取得せずに働き続けたほうが良い	取得せずに働き続けたほうが良い	わからない	無回答
全体		423	316	88	1	1	13	4
		100.0	74.7	20.8	0.2	0.2	3.1	0.9
性別	男性	198	141	45	1	1	7	3
		100.0	71.2	22.7	0.5	0.5	3.5	1.5
性別	女性	220	172	42	-	-	6	-
		100.0	78.2	19.1	-	-	2.7	-
年齢	10～20歳代	43	40	3	-	-	-	-
		100.0	93.0	7.0	-	-	-	-
	30歳代	101	86	14	-	-	1	-
		100.0	85.1	13.9	-	-	1.0	-
	40歳代	140	98	38	-	-	4	-
		100.0	70.0	27.1	-	-	2.9	-
年齢	50歳以上	137	91	33	1	1	8	3
		100.0	66.4	24.1	0.7	0.7	5.8	2.2
職位	会計年度任用職員	146	110	29	-	-	7	-
		100.0	75.3	19.9	-	-	4.8	-
	主任・主事級職員	154	116	33	-	-	3	2
		100.0	75.3	21.4	-	-	1.9	1.3
	課長補佐・係長相当職	73	55	15	-	-	2	1
		100.0	75.3	20.5	-	-	2.7	1.4
職位	課長相当職以上	33	22	10	-	-	1	-
		100.0	66.7	30.3	-	-	3.0	-
	その他（1～4以外）	14	12	-	1	-	-	1
		100.0	85.7	-	7.1	-	-	7.1

問10 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

- 全体では、いずれの言葉も「聞いた事はあるが内容は知らない」「知らない」が高く、内容理解は限定的である。「①第3次石垣市男女共同参画計画『いしがきプラン』」では「聞いた事はあるが内容は知らない」が47.8%と最も高く、「知らない」も21.7%となっている一方、「内容は少し知っている」が27.4%、「内容も良く知っている」は2.8%となっている。「②石垣市男女共同参画推進条例」も同様に、「聞いた事はあるが内容は知らない」が46.8%、「知らない」が22.5%で、「内容は少し知っている」27.7%、「内容も良く知っている」は2.4%となっている。「③石垣市男女共同参画『広報誌まるざー』」では他より「内容は少し知っている」が30.3%、「内容も良く知っている」が5.2%とやや高いものの、「聞いた事はあるが内容は知らない」が33.3%、「知らない」が31.0%となっている。



① 第3次石垣市男女共同参画計画「いしがきプラン」

- 性別でみると、内容を知っている割合（「内容も良く知っている」、「内容は少し知っている」の合計）は、男性が34.3%、女性が26.3%となっている。
- 年齢別でみると、内容を知っている割合は、年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。
- 職位でみると、主任・主事級職員では「聞いた事はあるが内容は知らない」が57.1%と最も高くなっている一方、「内容は少し知っている」が課長補佐・係長相当職では49.3%で、同じく課長相当職以上では60.6%と最も高くなっている。

（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	内容も良く 知っている	内容は少し 知っている	聞いた事はあるが 内容は知らない	知らない	無回答
全体		423	12	116	202	92	1
		100.0	2.8	27.4	47.8	21.7	0.2
性別	男性	198	6	62	92	38	-
		100.0	3.0	31.3	46.5	19.2	-
性別	女性	220	6	52	108	54	-
		100.0	2.7	23.6	49.1	24.5	-
年齢	10～20歳代	43	-	4	22	17	-
		100.0	-	9.3	51.2	39.5	-
	30歳代	101	-	13	59	29	-
		100.0	-	12.9	58.4	28.7	-
	40歳代	140	1	43	72	24	-
		100.0	0.7	30.7	51.4	17.1	-
年齢	50歳以上	137	11	56	48	22	-
		100.0	8.0	40.9	35.0	16.1	-
職位	会計年度任用職員	146	1	16	71	58	-
		100.0	0.7	11.0	48.6	39.7	-
	主任・主事級職員	154	-	39	88	26	1
		100.0	-	25.3	57.1	16.9	0.6
	課長補佐・係長相当職	73	2	36	33	2	-
		100.0	2.7	49.3	45.2	2.7	-
職位	課長相当職以上	33	9	20	4	-	-
		100.0	27.3	60.6	12.1	-	-
職位	その他（1～4以外）	14	-	4	6	4	-
		100.0	-	28.6	42.9	28.6	-

第6章 調査結果（市職員意識調査）

② 石垣市男女共同参画推進条例

- 性別でみると、内容を知っている割合（「内容も良く知っている」、「内容は少し知っている」の合計）は、男性が36.8%、女性が24.6%となっている。
- 年齢別でみると、内容を知っている割合は、年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。
- 職位でみると、課長相当職以上で「内容は少し知っている」が66.7%で最も高く、主任・主事級職員では「聞いた事はあるが内容は知らない」が51.9%と高くなっている。

（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	内容も良く 知っている	内容は少し 知っている	聞いた事はあるが 内容は知らない	知らない	無回答
全体		423	10	117	198	95	3
		100.0	2.4	27.7	46.8	22.5	0.7
性別	男性	198	5	68	84	41	-
		100.0	2.5	34.3	42.4	20.7	-
	女性	220	5	49	110	54	2
		100.0	2.3	22.3	50.0	24.5	0.9
年齢	10～20歳代	43	-	5	20	18	-
		100.0	-	11.6	46.5	41.9	-
	30歳代	101	-	19	55	27	-
		100.0	-	18.8	54.5	26.7	-
	40歳代	140	2	40	73	25	-
		100.0	1.4	28.6	52.1	17.9	-
	50歳以上	137	8	53	49	25	2
		100.0	5.8	38.7	35.8	18.2	1.5
職位	会計年度任用職員	146	1	16	74	54	1
		100.0	0.7	11.0	50.7	37.0	0.7
	主任・主事級職員	154	-	42	80	30	2
		100.0	-	27.3	51.9	19.5	1.3
	課長補佐・係長相当職	73	2	31	36	4	-
		100.0	2.7	42.5	49.3	5.5	-
	課長相当職以上	33	7	22	4	-	-
		100.0	21.2	66.7	12.1	-	-
	その他（1～4以外）	14	-	5	4	5	-
		100.0	-	35.7	28.6	35.7	-

③ 石垣市男女共同参画「広報誌まるざー」

- 内容を知っている割合（「内容も良く知っている」、「内容は少し知っている」の合計）は、男性が38.8%、女性が32.3%となっている。
- 年齢別でみると、内容を知っている割合は、年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。
- 職位でみると、課長相当職以上で「内容は少し知っている」が60.6%で最も高く、「内容も良く知っている」についても24.2%と、他の職位に比べて高い割合となっている。一方、会計年度任用職員では「知らない」が51.4%で最も高い。

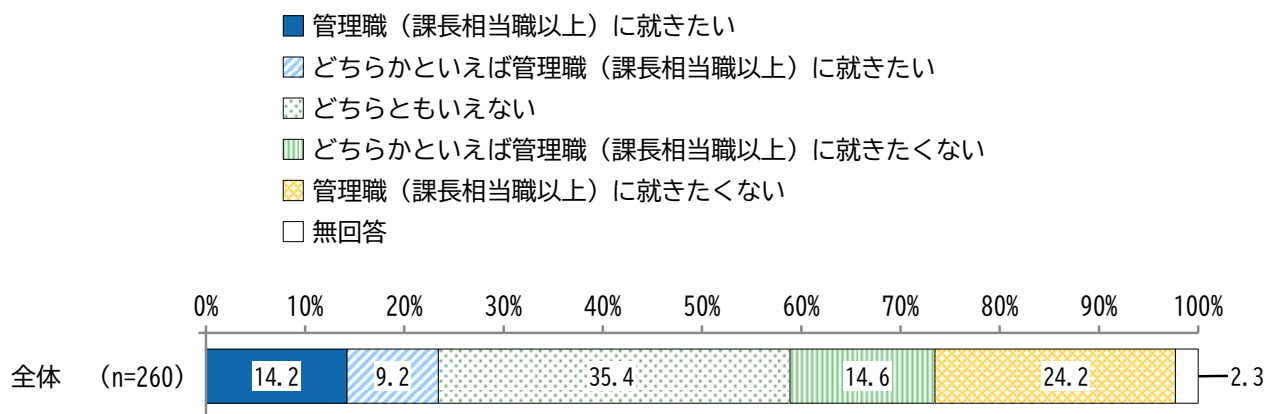
（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	内容も良く 知っている	内容は少し 知っている	聞いた事は あるが内容 は知らない	知らない	無回答
全体		423	22	128	141	131	1
		100.0	5.2	30.3	33.3	31.0	0.2
性別	男性	198	9	68	64	57	-
		100.0	4.5	34.3	32.3	28.8	-
性別	女性	220	13	58	76	73	-
		100.0	5.9	26.4	34.5	33.2	-
年齢	10～20歳代	43	1	4	10	28	-
		100.0	2.3	9.3	23.3	65.1	-
	30歳代	101	-	21	33	47	-
		100.0	-	20.8	32.7	46.5	-
	40歳代	140	8	50	54	28	-
		100.0	5.7	35.7	38.6	20.0	-
年齢	50歳以上	137	13	53	44	27	-
		100.0	9.5	38.7	32.1	19.7	-
職位	会計年度任用職員	146	3	20	48	75	-
		100.0	2.1	13.7	32.9	51.4	-
	主任・主事級職員	154	4	47	56	46	1
		100.0	2.6	30.5	36.4	29.9	0.6
	課長補佐・係長相当職	73	7	36	26	4	-
		100.0	9.6	49.3	35.6	5.5	-
職位	課長相当職以上	33	8	20	4	1	-
		100.0	24.2	60.6	12.1	3.0	-
	その他（1～4以外）	14	-	4	7	3	-
		100.0	-	28.6	50.0	21.4	-

問12 （問11で「2.主任・主事級職員」「3.課長補佐・係長相当職」「4.課長相当職以上」と答えた方への質問）

あなたは、管理職（課長相当職以上）に就きたいですか。（○は1つ）

- 全体では、「どちらともいえない」が35.4%で最も高く、次いで「管理職（課長相当職以上）に就きたくない」が24.2%、「どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたくない」が14.6%となっている。
- 性別でみると、「管理職（課長相当職以上）に就きたい」「どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたい」の合計は、男性が30.6%で、女性の10.2%を20.4ポイント上回り、女性では「管理職（課長相当職以上）に就きたくない」が37.8%と最も高い。
- 年齢別でみると、10～20歳代は「どちらともいえない」が27.3%で最も高いものの、「管理職（課長相当職以上）に就きたい」が22.7%と他の年代と比べると比較的高い割合でみられる。「どちらともいえない」が30歳代・40歳代で3割前後、50歳以上では50.0%と突出している。
- 職位でみると、課長相当職以上では「どちらともいえない」が45.5%で最も高く、「管理職（課長相当職以上）に就きたい」が36.4%と高くなっている。一方、「管理職に就きたい」が主任・主事級職員では12.3%、課長補佐・係長相当級では8.2%にとどまり、管理職への登用前の段階で意欲の伸び悩みがうかがえる。



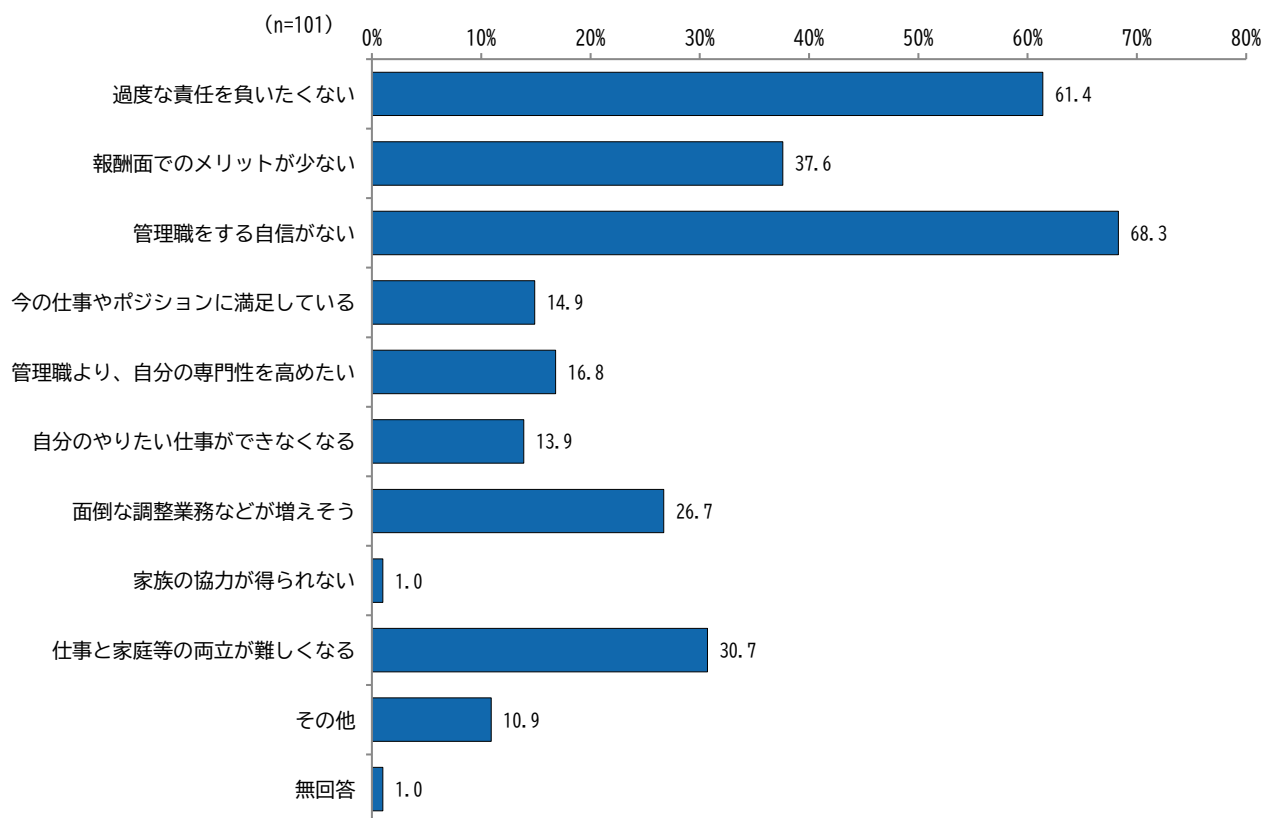
第6章 調査結果（市職員意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体 (n)	管理職（課長相当職以上）に就きたい	どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたい	どちらともいえない	どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたくない	管理職（課長相当職以上）に就きたくない	無回答
全体		260 100.0	37 14.2	24 9.2	92 35.4	38 14.6	63 24.2	6 2.3
性別	男性	157 100.0	29 18.5	19 12.1	59 37.6	22 14.0	25 15.9	3 1.9
	女性	98 100.0	6 6.1	4 4.1	33 33.7	15 15.3	37 37.8	3 3.1
年齢	10～20歳代	22 100.0	5 22.7	2 9.1	6 27.3	4 18.2	5 22.7	- -
	30歳代	70 100.0	9 12.9	8 11.4	20 28.6	15 21.4	17 24.3	1 1.4
	40歳代	98 100.0	10 10.2	13 13.3	32 32.7	15 15.3	26 26.5	2 2.0
	50歳以上	68 100.0	13 19.1	1 1.5	34 50.0	3 4.4	14 20.6	3 4.4
職位	主任・主事級職員	154 100.0	19 12.3	13 8.4	52 33.8	28 18.2	40 26.0	2 1.3
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	6 8.2	10 13.7	25 34.2	9 12.3	20 27.4	3 4.1
	課長相当職以上	33 100.0	12 36.4	1 3.0	15 45.5	1 3.0	3 9.1	1 3.0

問13 （問12で「4. どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたくない」「5. 管理職（課長相当職以上）に就きたくない」と答えた方への質問）
あなたがそのように思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 全体では、「管理職をする自信がない」が68.3%で最も高く、次いで「過度な責任を負いたくない」が61.4%、「報酬面でのメリットが少ない」が37.6%となっている。
- 性別でみると、男性は「管理職をする自信がない」が66.0%、「過度な責任を負いたくない」が57.4%で比較的高い。女性も同様に、「管理職をする自信がない」が71.2%で最も高く、「過度な責任を負いたくない」が65.4%と続く。
- 年齢別でみると、10～20歳代は「管理職をする自信がない」が88.9%で最も高く、30歳代は「過度な責任を負いたくない」が78.1%、「管理職をする自信がない」が62.5%、「報酬面でのメリットが少ない」が53.1%、「仕事と家庭等の両立が難しくなる」が37.5%など複数の要因が重なりやすい。40歳代では理由が分散しているが、「管理職をする自信がない」が70.7%と高くなっている。50歳以上では「管理職より、自分の専門性を高めたい」が35.3%で他の年齢より比較的高い。
- 職位でみると、主任・主事級職員で「管理職をする自信がない」が66.2%、「過度な責任を負いたくない」が69.1%と高く、課長補佐・係長級では「管理職をする自信がない」が72.4%とさらに高くなっている。



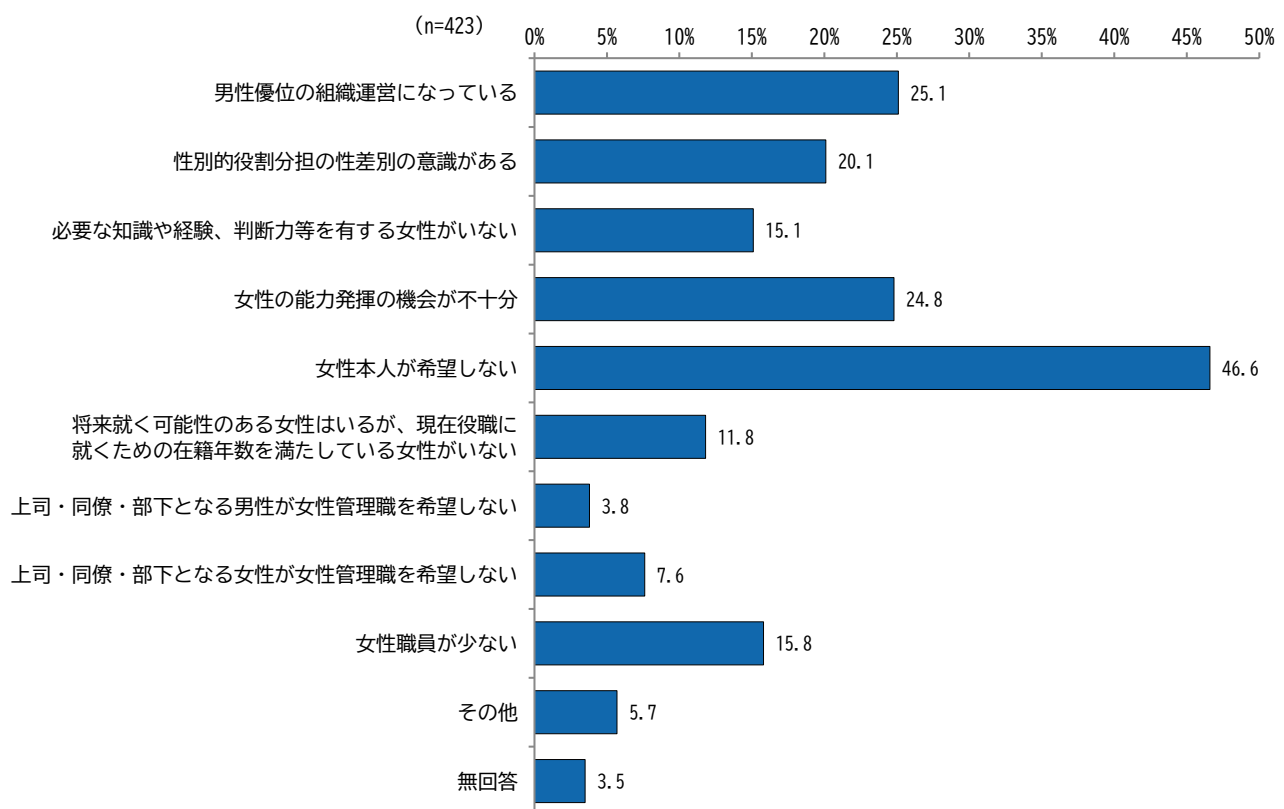
第6章 調査結果（市職員意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	過度な責任を負いたくない	報酬面でのメリットが少ない	管理職をする自信がない	今の仕事やポジションに満足している	管理職より、自分の専門性を高めたい	自分のやりたい仕事ができなくなる	面倒な調整業務などが増えそう
全体		101	62	38	69	15	17	14	27
		100.0	61.4	37.6	68.3	14.9	16.8	13.9	26.7
性別	男性	47	27	23	31	8	8	9	15
		100.0	57.4	48.9	66.0	17.0	17.0	19.1	31.9
性別	女性	52	34	15	37	7	8	4	12
		100.0	65.4	28.8	71.2	13.5	15.4	7.7	23.1
年齢	10～20歳代	9	5	1	8	-	-	1	1
		100.0	55.6	11.1	88.9	-	-	11.1	11.1
	30歳代	32	25	17	20	7	5	4	13
		100.0	78.1	53.1	62.5	21.9	15.6	12.5	40.6
	40歳代	41	26	14	29	6	5	5	8
		100.0	63.4	34.1	70.7	14.6	12.2	12.2	19.5
年齢	50歳以上	17	5	6	11	2	6	3	5
		100.0	29.4	35.3	64.7	11.8	35.3	17.6	29.4
職位	主任・主事級職員	68	47	26	45	10	11	13	20
		100.0	69.1	38.2	66.2	14.7	16.2	19.1	29.4
	課長補佐・係長相当職	29	13	10	21	5	5	-	6
		100.0	44.8	34.5	72.4	17.2	17.2	-	20.7
	課長相当職以上	4	2	2	3	-	1	1	1
		100.0	50.0	50.0	75.0	-	25.0	25.0	25.0
		全体（n）	家族の協力が得られない	仕事と家庭等の両立が難しくなる	その他	無回答			
全体		101	1	31	11	1			
		100.0	1.0	30.7	10.9	1.0			
性別	男性	47	-	12	6	-			
		100.0	-	25.5	12.8	-			
性別	女性	52	1	18	5	-			
		100.0	1.9	34.6	9.6	-			
年齢	10～20歳代	9	-	2	-	-			
		100.0	-	22.2	-	-			
	30歳代	32	1	12	2	-			
		100.0	3.1	37.5	6.3	-			
	40歳代	41	-	11	5	-			
		100.0	-	26.8	12.2	-			
年齢	50歳以上	17	-	5	4	-			
		100.0	-	29.4	23.5	-			
職位	主任・主事級職員	68	1	22	4	1			
		100.0	1.5	32.4	5.9	1.5			
	課長補佐・係長相当職	29	-	8	7	-			
		100.0	-	27.6	24.1	-			
	課長相当職以上	4	-	1	-	-			
		100.0	-	25.0	-	-			

問14 「第3次石垣市男女共同参画計画」では、市管理職（課長相当職以上）に占める女性の割合を令和7年度までに20%とすることを目標にしています。（令和6年度現在：12.9%）あなたは、市役所において女性の管理職登用が進んでいない理由はなぜだと思いますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「女性本人が希望しない」が46.6%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営になっている」が25.1%、「女性の能力発揮の機会が不十分」が24.8%となっている。
- 性別でみると、男性・女性ともに「女性本人が希望しない」が最も高い（男性が46.5%、女性が46.4%）点は共通しているが、男性は「男性優位の組織運営になっている」が20.2%、「性別的役割分担の性差別の意識がある」が16.7%と相対的に低い、一方で女性はそれらが高くなっている。
- 職位でみると、主任・主事級職員では「女性本人が希望しない」が50.0%で最も高く、次いで「性別的役割分担の性差別の意識がある」が24.0%と続く。課長補佐・係長相当級では「女性本人が希望しない」が63.0%と高く、「男性優位の組織運営になっている」が26.0%と続く。課長相当職以上では「女性本人が希望しない」が63.6%と最も高く、「女性の能力発揮の機会が不十分」が27.3%と続く。



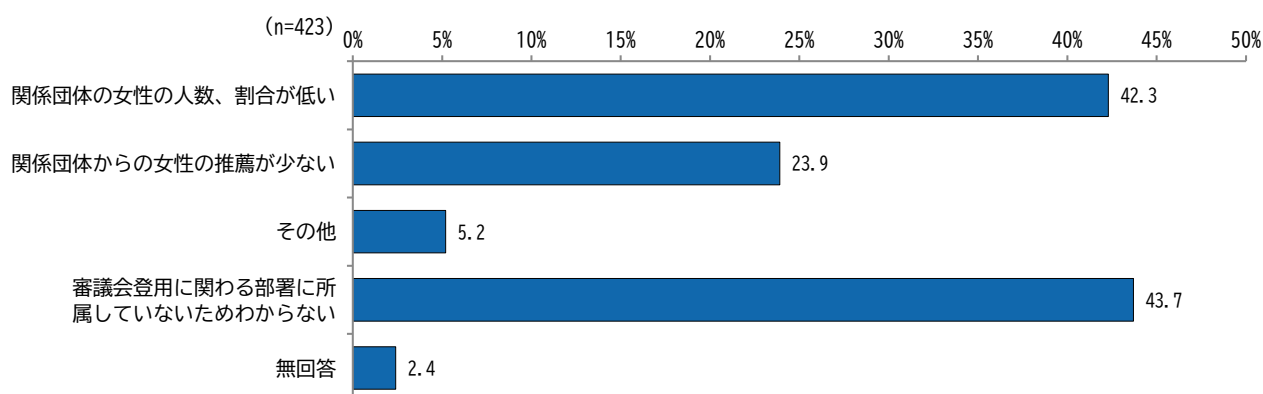
第6章 調査結果（市職員意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	男性優位の組織運営になっている	性別的役割分担の性差別の意識がある	必要な知識や経験、判断力等を有する女性がない	女性の能力発揮の機会が不十分	女性本人が希望しない	将来就く可能性のある女性はいるが、現在役職に就くための在籍年数を満たしている女性が少ない	上司・同僚・部下となる男性が女性管理職を希望しない
全体		423 100.0	106 25.1	85 20.1	64 15.1	105 24.8	197 46.6	50 11.8	16 3.8
性別	男性	198 100.0	40 20.2	33 16.7	27 13.6	45 22.7	92 46.5	24 12.1	6 3.0
	女性	220 100.0	66 30.0	51 23.2	36 16.4	59 26.8	102 46.4	26 11.8	10 4.5
年齢	10～20歳代	43 100.0	7 16.3	7 16.3	5 11.6	11 25.6	21 48.8	8 18.6	2 4.7
	30歳代	101 100.0	23 22.8	20 19.8	20 19.8	20 19.8	42 41.6	18 17.8	5 5.0
	40歳代	140 100.0	39 27.9	35 25.0	20 14.3	28 20.0	78 55.7	16 11.4	5 3.6
	50歳以上	137 100.0	37 27.0	23 16.8	18 13.1	45 32.8	55 40.1	8 5.8	4 2.9
職位	会計年度任用職員	146 100.0	39 26.7	29 19.9	19 13.0	41 28.1	45 30.8	14 9.6	5 3.4
	主任・主事級職員	154 100.0	35 22.7	37 24.0	27 17.5	33 21.4	77 50.0	30 19.5	8 5.2
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	19 26.0	12 16.4	10 13.7	16 21.9	46 63.0	3 4.1	2 2.7
	課長相当職以上	33 100.0	6 18.2	5 15.2	6 18.2	9 27.3	21 63.6	3 9.1	—
	その他（1～4以外）	14 100.0	5 35.7	2 14.3	1 7.1	5 35.7	7 50.0	—	—
		全体（n）	上司・同僚・部下となる女性が女性管理職を希望しない	女性職員が少ない	その他	無回答			
全体		423 100.0	32 7.6	67 15.8	24 5.7	15 3.5			
性別	男性	198 100.0	16 8.1	43 21.7	12 6.1	4 2.0			
	女性	220 100.0	16 7.3	24 10.9	12 5.5	10 4.5			
年齢	10～20歳代	43 100.0	4 9.3	7 16.3	2 4.7	—			
	30歳代	101 100.0	10 9.9	19 18.8	2 2.0	5 5.0			
	40歳代	140 100.0	13 9.3	18 12.9	9 6.4	3 2.1			
	50歳以上	137 100.0	5 3.6	23 16.8	11 8.0	6 4.4			
職位	会計年度任用職員	146 100.0	9 6.2	21 14.4	12 8.2	7 4.8			
	主任・主事級職員	154 100.0	13 8.4	23 14.9	6 3.9	6 3.9			
	課長補佐・係長相当職	73 100.0	7 9.6	12 16.4	4 5.5	1 1.4			
	課長相当職以上	33 100.0	1 3.0	8 24.2	1 3.0	1 3.0			
	その他（1～4以外）	14 100.0	2 14.3	2 14.3	1 7.1	—			

問15 「第3次石垣市男女共同参画計画」では、審議会等、方針決定の場に占める女性委員の割合を令和7年度までに35%～65%とすることを目標にしています。（令和6年度現在：28.1%）あなたは、審議会等での女性委員登用が進んでいない理由はなぜだと思いますか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「審議会登用に関わる部署に所属していないためわからない」が43.7%で最も高く、次いで「関係団体の女性の人数、割合が低い」が42.3%、「関係団体からの女性の推薦が少ない」が23.9%となっている。
- 性別でみると、男性は「関係団体の女性の人数、割合が低い」が48.5%、「関係団体からの女性の推薦が少ない」が27.8%となっている。
- 年齢別でみると、「審議会登用に関わる部署に所属していないためわからない」が10～20歳代で53.5%、30歳代で51.5%と高く、40歳代は「関係団体の女性の人数、割合が低い」が45.0%、「関係団体からの女性の推薦が少ない」が28.6%となっている。
- 職位でみると、主任・主事級では「関係団体の女性の人数、割合が低い」が46.1%と最も高い。課長補佐・係長相当職では「関係団体の女性の人数、割合が低い」が58.9%、「関係団体からの女性の推薦が少ない」が31.5%となっている。課長相当職以上では「関係団体の女性の人数、割合が低い」が78.8%と高く、会計年度任用職員では「審議会登用に関わる部署に所属していないためわからない」が66.4%と高くなっている。



第6章 調査結果（市職員意識調査）

（上段：実数、下段：割合）

		全体（n）	関係団体の 女性の人数、 割合が低い	関係団体から の女性の推薦が 少ない	その他	審議会登用 に関わる部署 に所属していない ためわからない	無回答
全体		423	179	101	22	185	10
		100.0	42.3	23.9	5.2	43.7	2.4
性別	男性	198	96	55	12	70	5
		100.0	48.5	27.8	6.1	35.4	2.5
女性		220	82	44	10	114	4
		100.0	37.3	20.0	4.5	51.8	1.8
年齢	10～20歳代	43	15	9	2	23	1
		100.0	34.9	20.9	4.7	53.5	2.3
	30歳代	101	42	18	2	52	2
		100.0	41.6	17.8	2.0	51.5	2.0
40歳代		140	63	40	12	51	1
		100.0	45.0	28.6	8.6	36.4	0.7
50歳以上		137	59	34	6	58	5
		100.0	43.1	24.8	4.4	42.3	3.6
職位	会計年度任用職員	146	34	24	4	97	4
		100.0	23.3	16.4	2.7	66.4	2.7
	主任・主事級職員	154	71	39	7	62	4
		100.0	46.1	25.3	4.5	40.3	2.6
	課長補佐・係長相当職	73	43	23	8	13	-
		100.0	58.9	31.5	11.0	17.8	-
課長相当職以上		33	26	11	1	6	-
		100.0	78.8	33.3	3.0	18.2	-
その他（1～4以外）		14	4	4	2	6	1
		100.0	28.6	28.6	14.3	42.9	7.1

第7章 参考資料（各種調査票）

1. 個人意識調査票

石垣市 男女共同参画に関する市民意識調査

市民の皆さまには日頃より、石垣市のまちづくりへのご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

石垣市では、性別にかかわらず、全ての人が互いを尊重し、共に責任を果たす男女共同参画社会をめざすために、数次にわたり「石垣市男女共同参画計画（いしがきプラン）」を策定し、各種取り組みを推進しています。

この調査は、令和8年度からスタートする「第4次石垣市男女共同参画計画」策定の基礎資料とするため、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握することを目的としており、調査対象につきましては、本市にお住まいの20歳以上の市民2,000人を無作為に抽出しています。

なお、ご回答いただきました調査の結果につきましては、統計資料作成のみに用いるもので個人の名前がでることは絶対にございませぬ。ご多忙のところ恐れ入りますが、住みよい石垣市、魅力ある石垣市をつくるための調査にご協力いただきますようお願いいたします。

令和7年9月 石垣市長 中山 義隆

◆ 記入上のお願ひ ◆

- 回答は、あて名のご本人がお答えください。
- 郵送またはインターネットのいずれかの方法でご回答ください。

① 郵送の場合

えんぴつまたは黒ボールペンでご記入いただき、調査票は三つ折りにし、同封の返送用封筒でご返信ください。※切手は不要です。

② インターネット回答の場合

下記 URL または QR コードより、WEB で入力をお願いします。

※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/ishigaki_citizen



アンケートの
ご回答期日

令和7年 10 月 10 日(金)まで

< アンケート調査に関するお問い合わせ先 >

石垣市 市民保健部 平和協働推進課（平和・男女共同係）

電話：0980-82-1253（直通）

1.あなた自身のことやご家族のことについて

問1 あなたの性別はどちらですか。（自認している性別）（○は1つ）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 年齢はおいくつですか。（○は1つ）

- | | |
|----------|----------|
| 1. 20 歳代 | 2. 30 歳代 |
| 3. 40 歳代 | 4. 50 歳代 |
| 5. 60 歳代 | |

問3 あなたは、現在結婚していますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている |
| 3. 離別 | 4. 死別 |
| 5. 未婚 | |

問4 ➡問3で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方への質問
あなたは共働きですか。（出産、育児などで休業中の方は働いているものとみなします）
（○は1つ）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 共働きである | 2. 夫のみ働いている |
| 3. 妻のみ働いている | 4. 夫婦とも無職 |

問5 あなたはお子さんがいますか。（○は1つ）

- | | |
|------------|----------|
| 1. 1 人 | 2. 2 人 |
| 3. 3 人 | 4. 4 人以上 |
| 5. 子どもはいない | |

問6 ➡問5で「1.1 人」「2.2 人」「3.3 人」「4.4 人以上」と答えた方への質問
お子さんはどちらにあたりますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 就学前 | 2. 小学生 |
| 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 18 歳以上 | |

問7 あなたは現在どのような家族構成ですか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦（パートナー） |
| 3. 夫婦と子ども | 4. 夫婦と親のみ |
| 5. 母子家庭 | 6. 父子家庭 |
| 7. 三世帯同居 | 8. 兄弟・姉妹の世帯 |
| 9. その他（ | ） |

問8 あなたの職業は何ですか。次の1～14の中から1つお選びください。（○は1つ）
（出産、育児などで休業中の方は働いているものとみなします）

雇用者	1. 正社員（一般職） 3. 管理職・会社役員 5. 契約社員、派遣社員 7. 臨時・アルバイト	2. 正社員（技術職） 4. 公務員 6. 常勤パートタイマー 8. 内職
事業主・家庭従業員	9. 農業・林業・漁業 11. 自由業（開業医師、弁護士、芸術家）	10. 商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店などサービス）
その他	12. 主夫・主婦 14. 無職	13. 学生

問9 ➡問8で「14.無職」と答えた方への質問
現在、仕事をしていない理由をお答えください。（○は1つ）

1. 定年退職	2. やりたい仕事がない
3. 就職活動中	4. 健康上の問題がある
5. 働く必要がない	6. その他（ ）

2.男女平等に関する意識、習慣について

問10 あなたは、次にあげる①～⑧の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
（○はそれぞれに1つ）

	男性の方が 優遇されている	男性が 優遇されている どちらかと言えば	平等	女性が 優遇されている どちらかと言えば	女性の方が 優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6

問11 男女の不平等が生じる原因は何だと思われますか。特に感じることを1つ選んで、○をつけてください。（○は1つ）

1. 男女の仕事内容の違い	2. 男女の役割の違い
3. 給与・賃金の男女差	4. 社会的なしきたりや習慣
5. 男女の能力の差	6. 男女の体力の差
7. 女性の認識が欠けている	8. 男性の認識が欠けている
9. 不平等の実態はない	10. その他（ ）

問12 あなたは今の石垣市が、性別にかかわらず個性や能力を発揮できる社会だと思いますか。（○は1つ）

1. そう思う	2. ややそう思う
3. どちらでもない	4. ややそう思わない
5. そう思わない	

3. 家庭生活などについて

【配偶者・パートナーのいる方にお尋ねします】該当されない方は⇒問16へお進みください。

問13 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の事गरを、現在主にどなたが行っていますか。（○はそれぞれに1つ）

	主に夫（男性）が行う	主に夫（男性）が行い、妻（女性）が一部負担	夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担	主に妻（女性）が行い、夫（男性）が一部負担	主に妻（女性）が行う	その他※1	該当しない※2
① 家計を支える（生活費をかせぐ）	1	2	3	4	5	6	7
② 家事をする（掃除・洗濯・炊事）	1	2	3	4	5	6	7
③ 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
④ こどもの世話・教育	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 病人・老親の世話（介護）	1	2	3	4	5	6	7
⑥ こどもの教育方針・進学の設定	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 高額商品の購入（不動産など）	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 家庭の問題の最終的な決定	1	2	3	4	5	6	7

※1 「その他」とは、その他の家族が行っていたり、家事支援サービスなどを利用する場合など

※2 「該当しない」とは、ご家庭に子どもや介護が必要な方がいない場合など

問14 あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の事がらを、今後主にどなたに行ってもらいたいと思いますか。（○はそれぞれに1つ）

	主に夫（男性）が行う	主に夫（男性）が行い、妻（女性）が一部負担	夫（男性）と妻（女性）が同じ程度負担	主に妻（女性）が行い、夫（男性）が一部負担	主に妻（女性）が行う	その他※1	該当しない※2
① 家計を支える（生活費をかせぐ）	1	2	3	4	5	6	7
② 家事をする（掃除・洗濯・炊事）	1	2	3	4	5	6	7
③ 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
④ こどもの世話・教育	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 病人・老親の世話（介護）	1	2	3	4	5	6	7
⑥ こどもの教育方針・進学の設定	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 高額商品の購入（不動産など）	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 家庭の問題の最終的な決定	1	2	3	4	5	6	7

※1 「その他」とは、その他の家族が行っていたり、家事支援サービスなどを利用する場合など

※2 「該当しない」とは、ご家庭に子どもや介護が必要な方がいない場合など

問15 あなたは、次のような事柄についてどのくらいの時間をかけていますか。①～⑥の各項目において、それぞれおよそ何時間ぐらい時間を割いているか、数字を記入してください。（※なしの場合は「0」、30分の場合は「0.5」などをご記入ください）

	平日	休日
① 家事（炊事・洗濯・買物など）	約()時間	約()時間
② 育児・こどもの学習など	約()時間	約()時間
③ 病人・老親などの世話（介護）	約()時間	約()時間
④ 睡眠	約()時間	約()時間
⑤ 就労時間（通勤・休憩時間含む）	約()時間	約()時間
⑥ 自由時間（余暇）	約()時間	約()時間

問16 結婚や家庭生活に関する①～④のことについて、あなたの考えに近いものを選んでください。
(○はそれぞれに1つ)

	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③ 夫婦が別々の姓を名乗ること（選択的夫婦別姓）を認める方がよい	1	2	3	4	5
④ 家事は男女の区別なく同じように行った方がよいと思う	1	2	3	4	5

問17 ➡問16「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方への質問

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに賛成の理由（○はいくつでも）

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから 2. 自分の両親も役割分担をしていたから 3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから 4. 妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから 5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから 6. その他（ ）

問18 ➡問16「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方への質問

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきに反対の理由（○はいくつでも）

1. 男女平等に反すると思うから 2. 自分の両親も外で働いていたから 3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから 4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから 5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから 6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから 7. その他（ ）
--

問19 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による育児・介護・家事などについても、その評価を高めること
6. 男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の育児・介護・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が育児・介護・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること
10. その他（ ）

4. 仕事のことについて

【現在働いている方（産休・育休中、パート・アルバイト含む）方にお尋ねします】
該当されない方は⇒問23へお進みください。

問20 あなたの職場では、次にあげる場面で、性別によって差があると思いますか。
（〇はそれぞれに1つ）

	優遇されている 男性の方が	優遇されている 男性の方かと言え ば	平等	優遇されている 女性の方かと言え ば	優遇されている 女性の方が	わからない
① 募集や採用時	1	2	3	4	5	6
② 賃金・昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
③ 人事配置	1	2	3	4	5	6
④ 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
⑤ 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
⑥ 全体的に	1	2	3	4	5	6

問21 あなたのキャリアアップ（管理職への昇進など）への考えについて教えてください。（〇は1つ）

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. キャリアアップしたい | 2. ややキャリアアップしたい |
| 3. あまりしたくない | 4. したくない |

問22 ➡問21で「3. (キャリアアップを)あまりしたくない」「4. したくない」と答えた方への質問理由をお答えください。(〇はいくつでも)

1. 家庭との両立が難しいから
2. 残業が増えるから
3. 過度な責任を負いたくないから
4. 管理職をする自信がないから
5. 転勤や出張が増えるから
6. 職場に研修などの能力向上の支援制度がないから
7. その他()
8. わからない

5.女性の活躍について

問23 あなたの職場での女性管理職（係長以上）登用状況について、1つだけ選んでください。(〇は1つ)

1. すでに女性の管理職がいる
2. 現在はいないが、別に女性が管理職になる障害はない
3. 女性が管理職になることは難しい
4. 管理職のない職場なので該当しない

問24 女性の社会進出は進みつつありますが、今後さらに、女性が社会進出するために、特に重要だと思うものを次の中から選んでください。(〇は2つまで)

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 女性自身が努力する | 2. 男性の理解と協力 |
| 3. 家事や育児の分担 | 4. 女性が社会活動に参加する |
| 5. 女性が経済力をもつ | 6. 女性の能力開発 |
| 7. 古い慣習やしきたりをなくす | 8. 家事労働を適正に評価する |
| 9. 仕事や賃金面の男女差をなくす | 10. 法律や制度を整える |
| 11. 女性を管理職・審議会などに積極的に登用する | 12. その他() |

問25 女性が仕事を続けていくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを次の中から選んでください。（○は3つまで）

1. 男性の家事・育児・介護などへの参加を促進させる
2. 育児や介護のための施設・サービスを拡充する
3. 育児休業・介護休業制度を普及・促進する
4. 結婚・出産・介護などの場合で、一度退職した人に利用しやすい環境の再雇用制度を普及・促進する
5. 雇用・労働条件での女性差別をなくす
6. 週休2日制や労働時間の短縮を進める
7. 能力開発や技術習得のための講座・研修会を実施する
8. 求人・職業情報を積極的に供給する
9. 職業に関する相談窓口を充実させる
10. これから起業しようとする人への支援を充実させる
11. 在宅勤務やリモートワーク、フレックスタイム制度などの柔軟な勤務制度を導入する
12. 家庭など周囲の理解と協力
13. その他（ ）
14. 特に環境整備は必要ない

6. 配偶者などからの暴力について

問26 あなたは、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1. 家族や知人などから相談されたことがある
2. 身近に当事者がいる
3. 身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある
4. その他（ ）
5. 身近で見聞きしたことはない

問27 ➡問26で「1. 家族や知人などから相談されたことがある」「2. 身近に当事者がいる」と答えた方への質問
そのことを知ってどうしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1. 被害者と一緒に病院や相談機関に行った
2. 被害者に相談機関を紹介した
3. 被害者をかくまったり、家を出ることを援助した
4. 配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した
5. 加害者に暴力をやめるように話をした
6. 被害者にがまんするように話をした
7. 何もできなかった
8. その他（ ）
9. 何もする必要はないと思った

問28 あなたは、夫婦や恋人の間で次の①～⑩のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。(○はそれぞれに1つ)

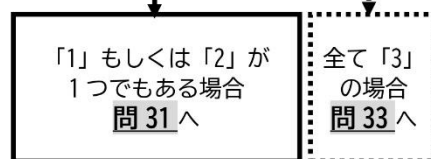
	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、あたらな場合もある	暴力にあたると思わない
① 平手で打つ	1	2	3
② 殴るふりをしておどす	1	2	3
③ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
④ 「誰のおかげで食べられるんだ」などと言下して言う	1	2	3
⑤ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
⑥ 避妊に協力しない	1	2	3
⑦ 生活費を渡さない	1	2	3
⑧ お金の使途を細かくチェックする	1	2	3
⑨ 親きょうだい、友人とのつき合いを禁止・制限する	1	2	3
⑩ 相手の交友関係や電話、メールなどをチェックする	1	2	3

問29 職場や学校でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）が問題になっていますが、あなたはセクシュアル・ハラスメントだと思うのは次のどれですか。該当するものすべてを選んでください。（〇はいくつでも）

1. 地位や権限を利用して、性的な関係を迫ること
2. さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること
3. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけること
4. ヌードポスターや雑誌、性的ジェスチャーを見せたりしてからかうこと
5. 接待や宴会の席で、お酌やデュエット、ダンスを強要すること
6. 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと
7. 目につきやすい場所に、ヌードポスターやカレンダーなどを置いておくこと
8. 体をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること
9. 「異性関係が派手だ」などと噂を流すこと
10. その他()
11. わからない

問30 あなたは、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手から、次の①～⑥のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれに1つ）

	1、 2 回 あ っ た	何 回 も あ っ た	ま っ た く な い
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言を受けた	1	2	3
③ あなた、もしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
④ 嫌がっているのに性的な行為を強要された、また、避妊に協力しないことがあった	1	2	3
⑤ 生活費を渡さない、借金を強いることをされた	1	2	3
⑥ 交友関係を細かく監視されたり、電話・メールをチェックされた	1	2	3



問31 ➡問30で「1.1、2回あった」「2.何回もあった」と答えた方への質問
あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1. 警察に連絡・相談した 2. 法務局や人権擁護委員に相談した 3. 配偶者暴力相談支援センター、女性相談所、男女共同参画センターなどに相談した 4. その他の公的機関に相談した 5. 民間（NPOを含む）の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルター）などに相談した 6. 医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した 7. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した 8. 家族や親せきに相談した 9. 友人・知人に相談した 10. その他（ ） 11. どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）
--

問32 ➡問31で「11.どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」と答えた方への質問
どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1. どこに（誰に）相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談してもムダだと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他（ ）

7.性の多様性について

問33 性の多様性について、どのようなお考えをお持ちですか。（○はいくつでも）

1. 性的少数者を性の多様性として認める必要がある
2. 理解に努めようと思う
3. 当たり前のことで特に意識していない
4. 個人の趣味、趣向の問題である
5. 違和感がある
6. 理解ができない
7. その他（ ）

問34 性の多様性に関する取組としてどのようなことが必要だと思えますか。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1. 市民全体に対する啓発 | 2. 幼少期からの教育 |
| 3. 相談窓口の設置 | 4. 社会制度（法制度など）の整備 |
| 5. 社会環境（トイレ・更衣室など）の整備 | 6. 教育現場における環境整備 |
| 7. 行政職員や教職員に対する研修 | 8. 企業などに対する啓発 |
| 9. 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書などの発行 | 10. その他（ ） |
| 11. 必要なものはない | |

8. 男女共同参画行政について

問35 あなたは次にあげる言葉を知っていますか。次の①～⑬の言葉について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれに1つ）

	内容も良く 知っている	内容は少し 知っている	聞いた事はあるが 内容は知らない	知らない
① 男女共同参画週間	1	2	3	4
② 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
③ 育児・介護休業法	1	2	3	4
④ 男女共同参画基本法	1	2	3	4
⑤ 女性活躍推進法	1	2	3	4
⑥ DV※1（配偶者、交際相手などに対する身体的、精神的、性的な暴力）	1	2	3	4
⑦ ジェンダー（社会的文化的に作られる性別）	1	2	3	4
⑧ アンコンシャス・バイアス※2（無意識の偏見）	1	2	3	4
⑨ 第3次石垣市男女共同参画計画「いしがきプラン」	1	2	3	4
⑩ 石垣市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑪ 石垣市男女共同参画「広報誌まるぞー」	1	2	3	4
⑫ 石垣市女性相談室・家庭児童相談室	1	2	3	4
⑬ 石垣市女性団体ネットワーク会議「まるぞーフェスティバル」	1	2	3	4

※1 DV＝ドメスティック・バイオレンス（domestic violence）の略称

※2 アンコンシャス・バイアス＝自分自身が気づいていないものの見方や捉え方のゆがみ・偏り

問36 男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. 学校現場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
2. 生涯学習の場における男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
3. 広報誌やパンフレットで男女の平等と相互の理解や協力についての啓発を充実する
4. 男性に対する意識啓発を充実する
5. 女性に対する意識啓発を充実する
6. 女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実する
7. 職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る
8. 育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する
9. 配偶者などに対する暴力（セクハラ・DV など）の根絶と被害者に対する支援を充実する
10. 女性の社会参画を促進するための研修などを充実する
11. 相談窓口を充実する
12. 市の審議会など、政策・方針を決定する場合への積極的な女性の登用を図る
13. 防災や感染症対策などにおいて、男女共同参画を推進する
14. その他（

9.自由意見

問37 これからの石垣市の男女共同参画行政について、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。

[illegible]

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。

2. 事業所意識調査票

石垣市 男女共同参画に関する事業所意識調査

市民の皆さまには日頃より、石垣市のまちづくりへのご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

石垣市では、性別にかかわらず、全ての人が互いを尊重し、共に責任を果たす男女共同参画社会をめざすために、数次にわたり「石垣市男女共同参画計画（いしがきプラン）」を策定し、各種取り組みを推進しています。

この調査は、令和8年度からスタートする「第4次石垣市男女共同参画計画」策定の基礎資料とするため、男女共同参画に関する市民の意識や実態を把握することを目的としており、調査対象につきましては、電話帳やホームページ等を参考に約300社を対象としています。

なお、ご回答いただきました調査の結果につきましては、統計資料作成のみに用いるもので個人及び事業所の氏名・名称等がでることは絶対にございませぬ。ご多忙のところ恐れ入りますが、住みよい石垣市、魅力ある石垣市をつくるための調査にご協力いただきますようお願いいたします。

令和7年9月 石垣市長 中山 義隆

◆ 記入上のお願い ◆

- 回答は、事業主様がお答えください。
- 郵送またはインターネットのいずれかの方法でご回答ください。

① 郵送の場合

えんぴつまたは黒ボールペンでご記入いただき、調査票は三つ折りにし、同封の返送用封筒でご返信ください。※切手は不要です。

② インターネット回答の場合

下記 URL または QR コードより、WEB で入力をお願いします。

※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/ishigaki_office



アンケートの
ご回答期日

令和7年10月10日(金)まで

< アンケート調査に関するお問い合わせ先 >

石垣市 市民保健部 平和協働推進課（平和・男女共同係）
電話：0980-82-1253（直通）

1. 事業所の概要について

問1 貴事業所の主な業種はなんですか。（○は1つ）

1. 飲食業	2. 卸売業
3. 漁業	4. 建設業
5. 小売業	6. サービス業
7. 宿泊業	8. 製造業
9. 農業	10. その他（ ）

問2 貴事業所の雇用状況と管理職数についてご回答ください。（いない場合は「0」人と記入してください。）

区分	①正規従業員（総数）	②非正規従業員（パート・アルバイト・嘱託・派遣社員）	③管理職（配下の従業員を指揮・監督する立場にある役職）
男性	人	人	人
女性	人	人	人

問3 事業主の性別はどちらですか。（○は1つ）

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問4 貴事業所には、労働組合がありますか。（○は1つ）

1. ある	2. ない
-------	-------

2. 事業所の男女共同参画への取り組みについて

問5 貴事業所では、職場において、女性も男性も平等に働ける環境づくりに向けてどのようなことに取り組んでいますか。（○はいくつでも）

1. 女性の活用に関する担当部局、担当者を設けるなど、企業内での推進体制を整備している 2. 女性の少ない職場・職種に女性従業員を配置したり女性を積極的に雇用したりするなどしている 3. 性別により評価することがないよう、人事評価基準を明確に定めている 4. 業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を、性別に関係なく実施している 5. 男性管理職に対し、女性活用の重要性についての啓発を行っている 6. 体力面での個人差を補う器具や設備等を設置する等、働きやすい職場環境づくりを行っている 7. 男女共に仕事と家庭を両立させるための制度を充実させている 8. その他（ ） 9. 特に何もしていない

問6 貴事業所では、女性も男性も同じような環境で働いていくために、特に女性にとって課題となっていることは何ですか。（〇はいくつでも）

1. 女性はすぐ辞めてしまうので、人材として育てられない
2. 女性には家事・育児等に伴い配置や残業に制約がある
3. 女性自身が、昇進・昇格を望まず、仕事に消極的である
4. 男性の認識、理解が不十分である
5. 業務の内容によっては、女性には任せられない、あるいは女性には向いていないことが多い
6. 将来管理職になる可能性のある女性はいるが、現在のところ在職年数などを満たしていない
7. 目標となる女性の先輩がいないので、イメージがつかめない
8. 顧客が女性管理職をいやがる
9. 管理職に女性を登用する機運がまだ低い
10. その他（ ）
11. 女性にとって課題となるものは特になし

問7 貴事業所では、次にあげる面で、性別によって差があると思いますか。（〇はそれぞれに1つ）

	男性の方が 優遇されている	男性が 優遇されている （どちらかといえば）	平等	女性が 優遇されている （どちらかといえば）	女性が 優遇されている	わからない
① 募集や採用時	1	2	3	4	5	6
② 賃金・昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
③ 人事配置	1	2	3	4	5	6
④ 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
⑤ 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
⑥ 全体的に	1	2	3	4	5	6

3. 仕事のことについて

問8 「ポジティブ・アクション」を知っていますか。（○は1つ）

1. 良く知っていて、具体的な取り組みもしている
2. 良く知っているが、具体的な取り組みはまだない
3. 言葉だけは聞いたことがある
4. 知らない

【ポジティブ・アクション とは】

これまでの慣行や性別による役割分担意識などから、男女の労働者の間に格差が生じている場合（例えば、営業職に女性がほとんどいない、課長以上の管理職は男性が大半であるなど）、このような格差を解消するために個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組をいいます。

問9 貴事業所では、男女がともに働きやすいような職場環境づくりのために、どのような取り組みを行っていますか。（○はいくつでも）

1. 女性のみにお茶くみや清掃その他雑用を課すといった慣行の見直し
2. ハラスメント防止のための取り組み
3. 結婚後も、希望による旧姓の使用承認
4. 女性が結婚後や出産後も勤続することの奨励
5. 男女共同参画をテーマにした研修や講演会、懇談会等
6. 職場環境改善についての従業員による提案の募集
7. その他（ ）
8. 特に取り組んでいない

問10 男女共同参画社会を形成していくために、今後、貴事業所としてどのように取り組んでいくべきだと考えますか。（○はいくつでも）

1. 労働時間短縮の枠組みづくりを進める
2. 男女がともに育児・介護休暇等を取得しやすい職場環境づくり
3. 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野等へ女性の登用を進めるため、職業教育や職業訓練を充実させる
4. 職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う
5. 女性を方針決定の場に積極的に登用する
6. 男女共同参画に関する社内研修・セミナー等の開催
7. その他（ ）

問11 貴事業所では、女性活躍推進法等に基づく「一般事業主行動計画」を策定していますか。
(○は1つ)

1. 行動計画を策定している
2. 行動計画のことは知っているが、策定はしていない（今後策定予定あり）
3. 行動計画のことは知っているが、策定はしていない（今後も策定予定なし）
4. 行動計画のことは知らなかった

【女性活躍推進法 一般事業主行動計画】

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）により、常時雇用する労働者の数が101人以上の事業主は、女性労働者の活躍推進に関する取組として「一般事業主行動計画」を策定し、公表することが義務づけられています。（労働者100人以下の事業主は努力義務）

4.ハラスメントについて

問12 あなたは以下のハラスメントを知っていますか。(○はそれぞれに1つ)

	内容も良く知っている	内容は少し知っている	聞いた事はあるが内容は知らない	知らない
① セクシャル・ハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4
② パワー・ハラスメント（パワハラ）	1	2	3	4
③ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）	1	2	3	4
④ パタニティ・ハラスメント（パタハラ）	1	2	3	4

【セクシャル・ハラスメント】

性的ないやがらせ。相手の意思に反して不快や不安な状態に追い込む性的な言動のこと

【パワー・ハラスメント】

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為のこと

【マタニティ・ハラスメント】

働く女性が妊娠・出産に関連し職場において受ける精神的・肉体的いやがらせのこと

【パタニティ・ハラスメント】

働く男性が育児をするに対して職場において受ける精神的・肉体的いやがらせのこと

問13 貴事業所では、ハラスメントの防止に向け取り組んでいることはありますか。（○はいくつでも）

1. 社内報やポスターにてハラスメントに関する方針等を記載、配布しPRしている
2. 管理職を含めた社員に対しハラスメント防止のための研修や講習を実施している
3. ハラスメント等に関する相談や苦情に対する窓口・担当者を定めている
4. その他（ ）
5. 特に実施していない

5. 育児・介護休業について

問14 貴事業所では、下記の①～④までの各種休業制度の規定がありますか。制度が「ある」場合は、取得できる職員の範囲（正社員、派遣・契約社員、パート・アルバイト）について、あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

	ある ⇒ 問 15 へ			ない ⇒ 問 16	検討中 ⇒ 問 16
	正社員	派遣・契約 社員	パート・ アルバイト		
① 産前・産後休業制度	1	2	3	4	5
② 育児休業制度	1	2	3	4	5
③ 介護休業制度	1	2	3	4	5
④ 子の看護休暇制度	1	2	3	4	5

問15 産前・産後休業、育児休業、介護休業の取得状況について、雇用形態別（正規雇用・非正規雇用）及び男女別にお答えください。（いない場合は「0」人と記入してください。）

昨年度（令和6年度）中に 出産した <u>女性</u> 従業員	正規（ ）人	昨年度（令和6年度）中に配 偶者が出産した <u>男性</u> 従業員	正規 （ ）人
	非正規（ ）人		非正規 （ ）人
うち、産前・産後休業を 取得した <u>女性</u> 従業員	正規（ ）人		
	非正規（ ）人		
うち、育児休業を 取得した <u>女性</u> 従業員	正規（ ）人	うち、育児休業を 取得した <u>男性</u> 従業員	正規 （ ）人
	非正規（ ）人		非正規 （ ）人
介護休業を 取得した <u>女性</u> 従業員	正規（ ）人	介護休業を 取得した <u>男性</u> 従業員	正規 （ ）人
	非正規（ ）人		非正規 （ ）人

問16 次の多様な働き方の実施状況と今後の導入意向について、次の①～③について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。(○はそれぞれに1つ)

	実施している	今後導入予定	導入予定なし	検討中
① リモートワーク（在宅勤務）	1	2	3	4
② 時差出勤	1	2	3	4
③ フレックスタイム制	1	2	3	4

【リモートワーク】

会社のオフィス以外で勤務にあたる働き方

【時差出勤】

始業時間を変更した働き方で、通勤に伴う諸問題の解決を目的とする制度

【フレックスタイム制】

従業員が始業時間と就業時間をある程度自由に選べることができる制度

問17 ➡問16で「3.導入予定なし」「4.検討中」と答えた方への質問

上記の働き方制度を導入・運用する際、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 業務の生産性やパフォーマンスの低下が懸念される
2. 勤務状況や労働時間の把握が難しい
3. 顧客対応や現場業務との調整が難しい
4. 社内コミュニケーションの不足が懸念される
5. システムやセキュリティ面の整備が不十分
6. 管理職層や従業員の理解・意識改革が必要
7. 制度設計や法規制への対応が大変
8. その他（ ）

問20 男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを次の中から選んでください。（○は3つまで）

1. 政策決定の場等への女性の積極的な登用
2. 生涯を通じた女性の健康支援
3. 職場における男女格差の是正、育児休業制度・介護休業制度の普及
4. 女性の就労機会づくりと職業訓練・教育の充実
5. 保育や介護にかかる施設・サービスの充実
6. 学校教育における男女共同参画意識の育成
7. 男女平等や相互理解協力についての学習機会の充実
8. DV等あらゆる暴力の根絶
9. 男女共同参画に関する情報提供や相談・交流などのセンターの設置
10. 国際交流の推進により、人種や性別に捉われず多様性を認め合う意識の育成
11. 「広報誌まるごと」やパンフレット等による意識啓発
12. その他（ ）
13. 特になし

問21 男女共同参画社会の実現を目指して取り組むうえで、今後、どのような後押し（制度等）があれば、貴事業所として取り組みを推進していくことができると思いますか。あてはまるものを次の中から選んでください。（○は3つまで）

1. 男女共同参画に力を入れている企業への優遇制度の創設（表彰、認定、助成金等）
2. ワーク・ライフ・バランスや育児休業制度、介護休業制度をはじめとする各種法制度、企業のポジティブ・アクションの事例等に関する出張講座・講演会の実施
3. 男女がともに働きやすい環境づくりのための専門家（コンサルタント等）派遣支援
4. その他（ ）
5. 特になし

7.自由意見

問22 これからの石垣市の男女共同参画行政について、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。

3. こども意識調査票（小学生）

問1	あなたの性別はどちらですか。（1つ）	1. 男子 2. 女子
問2	あなたは家で、家事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問3	あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問4	あなたは、お金をかせぐ仕事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問5	あなたは家で、どのようなお手伝いをしていますか。（あてはまるものすべて）	1. 買い物 2. 食事の準備 3. 食事の後かたづけ 4. 部屋のそうじ 5. トイレそうじ 6. お風呂そうじ 7. ゴミ出し 8. 洗たく 9. きょうだいの世話 10. その他 11. なにもしない
問6	あなたは、「男の子だから〇〇しなさい」や「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。（1つ）	1. よく言われる 2. ときどき言われる 3. あまり言われな 4. 言われたことがない

第7章 参考資料（各種調査票）

問7	どんなことについて言われましたか。（あてはまるものすべて）	1. 言葉づかい 2. 服装・身だしなみ 3. 性格 4. 整理整頓 5. お手伝い 6. 食事の仕方 7. 勉強 8. 見るテレビ番組 9. 友だち関係 10. あそび方 11. キャラクターや色選び 12. その他
問8	あなたはその時どんな気持ちがしましたか。（1つ）	1. いやな気分になった 2. その通りだと思った 3. なぜ言われるのか不思議だった 4. なんとも思わなかった 5. その他
問9	あなたは、次の校内の代表者は男女どちらがよいと思いますか。（1つ）（①～④）	
	① 児童会長	1. 男子がよい 2. どちらかといえば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかといえば女子がよい 5. 女子がよい
	② 児童会副会長	1. 男子がよい 2. どちらかといえば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかといえば女子がよい 5. 女子がよい
	③ 学級委員長	1. 男子がよい 2. どちらかといえば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかといえば女子がよい 5. 女子がよい
	④ 学級副委員長	1. 男子がよい 2. どちらかといえば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかといえば女子がよい 5. 女子がよい

問 10	あなたは、次の授業での場面で、積極的に参加している児童は、男女どちらが多いと思いますか。 (1つ) (①～③)	
	① 積極的に手を挙げたり、発言したりすること	1. 男子(だんし)が多い 2. どちらかと言(い)えば男子(だんし)が多い 3. どちらでもない 4. どちらかと言(い)えば女子(じょし)が多い 5. 女子(じょし)が多い
	② 理科の実験	1. 男子(だんし)が多い 2. どちらかと言(い)えば男子(だんし)が多い 3. どちらでもない 4. どちらかと言(い)えば女子(じょし)が多い 5. 女子(じょし)が多い
	③ 家庭科の調理実習	1. 男子(だんし)が多い 2. どちらかと言(い)えば男子(だんし)が多い 3. どちらでもない 4. どちらかと言(い)えば女子(じょし)が多い 5. 女子(じょし)が多い
問 11	将来、どのような仕事に就きたいと思いますか。(あてはまるもの3つまで)	1. スポーツ選手・監督など 2. 看護師 3. 医師 4. 薬剤師 5. 警察官 6. 消防・レスキュー隊 7. 美容師 8. 芸能人・歌手・モデル 9. 花屋 10. パイロット 11. 大工・職人 12. 料理人・パティシエ 13. 教師・教員 14. 保育士・幼稚園教諭 15. 研究者・学者 16. ゲームクリエイター 17. ユーチューバー (YouTuber) 18. 漫画家・デザイナー 19. 農業・漁業 20. その他 21. わからない
問 12	このアンケートに答えてみて気づいたことや意見があれば自由に書いてください。	

4. こども意識調査票（中学生）

問1	あなたの性別はどちらですか。（1つ）	1. 男子 2. 女子
問2	あなたは家で、家事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問3	あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問4	あなたは、お金をかせぐ仕事はだれがするのがよいと思いますか。（1つ）	1. 男の人が主にするのがよいと思う 2. 女の人が主にするのがよいと思う 3. 男の人と女の人が協力してするのがよいと思う 4. どちらでもよいと思う 5. わからない 6. その他
問5	あなたは家で、どのようなお手伝いをしていますか。（あてはまるものすべて）	1. 買い物 2. 食事の準備 3. 食事の後片づけ 4. 部屋の掃除 5. トイレ掃除 6. お風呂掃除 7. ゴミ出し 8. 洗濯 9. きょうだいの世話 10. その他 11. なにもしない
問6	あなたは、「男の子だから〇〇しなさい」や「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。（1つ）	1. よく言われる 2. ときどき言われる 3. あまり言われない 4. 言われたことがない

問7	どんなことについて言われましたか。（あてはまるものすべて）	1. 言葉づかい 2. 服装・身だしなみ 3. 性格 4. 整理整頓 5. お手伝い 6. 食事の仕方 7. 勉強 8. 見るテレビ番組 9. 友だち関係 10. 遊び方 11. キャラクターや色選び 12. その他
問8	あなたはその時どんな気持ちがしましたか。（1つ）	1. いやな気分になった 2. その通りだと思った 3. なぜ言われるのか不思議だった 4. なんとおもわなかった 5. その他
問9	あなたは、次の学校の各役割は男女どちらがよいと思いますか。（1つ）（①～⑤）	
	① 生徒会長	1. 男子がよい 2. どちらかと言えば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかと言えば女子がよい 5. 女子がよい
	② 生徒会副会長	1. 男子がよい 2. どちらかと言えば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかと言えば女子がよい 5. 女子がよい
	③ 学級委員長	1. 男子がよい 2. どちらかと言えば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかと言えば女子がよい 5. 女子がよい
	④ 学級副委員長	1. 男子がよい 2. どちらかと言えば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかと言えば女子がよい 5. 女子がよい
	⑤ 部活のマネージャー	1. 男子がよい 2. どちらかと言えば男子がよい 3. どちらでもよい 4. どちらかと言えば女子がよい 5. 女子がよい

第7章 参考資料（各種調査票）

問 10	あなたは、次の言葉を知っていますか。（1つ）（①～⑤）	
	① セクハラ（セクシャル ハラスメント）	1. 知っている 2. 聞いた事がある 3. 知らない
	② DV（ドメスティック バイオレンス）	1. 知っている 2. 聞いた事がある 3. 知らない
	③ ワーク・ライフ・バランス	1. 知っている 2. 聞いた事がある 3. 知らない
	④ 男女共同参画社会	1. 知っている 2. 聞いた事がある 3. 知らない
	⑤ デート DV	1. 知っている 2. 聞いた事がある 3. 知らない
問 11	デート DV だと思う行為について、①～⑦において、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。（1つ）	
	① 何を言っても無視する	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
	② 行動を監視したり、友人関係を制限する	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
	③ 服装を指示する	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
	④ 交友関係やメールをチェックする	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
	⑤ 人前でバカにする	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
	⑥ 殴るふりするなどをして脅す	1. デート DV だと思う 2. デート DV だと思わない
問 12	石垣市では、すべての人々が個人として尊重され、性別にとらわれることなくのびやかに暮らせる社会を目指しています。あなたは、これから市がどのようなことに力を入れていくと良いと思いますか。（あてはまるものすべて）	1. 男女平等について学校で学習する 2. 男女共同参画への理解を深めるための講習会をひらく 3. 悩んだり困っていることを相談できる窓口や話し合える場をもうける 4. 仕事と仕事以外の生活を両立できるような働き方を企業に働きかける 5. 働いている人が育児・介護をしながら仕事を続けられるように必要なサービスを充実させる 6. 女性が計画や方針決定にもっと参加して意見を言えるようにする 7. その他

問 13	将来、どのような仕事に就きたいと思いますか。（あてはまるもの3つまで）	1. スポーツ選手・監督など 2. 看護師 3. 医師 4. 薬剤師 5. 警察官 6. 消防・レスキュー隊 7. 美容師 8. 芸能人・歌手・モデル 9. 花屋 10. パイロット 11. 大工・職人 12. 料理人・パティシエ 13. 教師・教員 14. 保育士・幼稚園教諭 15. 研究者・学者 16. ゲームクリエイター 17. YouTuber 18. 漫画家・デザイナー 19. 農業・漁業 20. 旅行・観光 21. 公務員 22. 会社員・銀行員 23. その他 24. わからない
問 14	最後に、学校や家庭、地域の中で「男女平等」について気づいたことや意見があれば自由に書いてください。	

5. 市職員意識調査票

石垣市男女共同参画に関する職員意識調査

◆回答方法◆

① 調査票で回答する場合

えんぴつまたは黒ボールペンで記入いただき、ご提出ください。

② インターネット回答の場合

下記 URL または QR コードより、WEB で入力をお願いします。

※インターネット回答の場合、調査票の提出は不要です

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/ishigaki_staff



アンケートの
ご回答期日

令和7年10月10日(金)まで

F1 あなたの所属部署を選んでください。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. 総務部 | 2. 企画部 |
| 3. 市民保健部 | 4. 福祉部・こども未来局 |
| 5. 農林水産商工部 | 6. 建設部 |
| 7. 会計管理者・議会 | 8. 選挙管理委員会・監査委員・農業委員会 |
| 9. 教育部 | 10. 水道部・消防本部 |

問1 あなたの性別を選んでください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢はいくつですか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------------|----------|----------|-----------|
| 1. 10～20 歳代 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代 | 4. 50 歳以上 |
|-------------|----------|----------|-----------|

問3 あなたは、現在結婚していますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|--------------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚（事実婚含む） | 3. 離別・死別 |
|-------|--------------|----------|

問4 問3で「2. 既婚（事実婚含む）」と答えた方にお尋ねします。

あなたは共働きですか。(出産、育児等で休業中の方は働いているものとみなします)(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 共働きである | 2. 夫のみ働いている | 3. 妻のみ働いている |
|-----------|-------------|-------------|

問5 次にあげる面で、性別によって差があると思いますか。①～⑤の各面において、あなたの考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ1つ）

	男性の方が 優遇されている	男性の方が 優遇されている どちらかといえば	平等	女性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている どちらかといえば	わからない
① 募集や採用の条件	1	2	3	4	5	6
② 賃金・昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
③ 人事配置	1	2	3	4	5	6
④ 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
⑤ 仕事の内容	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、これから先機会があれば育児休業・介護休業を取得したいと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	ぜひ取得したい	取得できれば 可能であれば	特に取得したい とは思わない	わからない	育児や介護の予定 はない
① 育児休業	1	2	3	4	5
② 介護休業	1	2	3	4	5

問7 あなたは、現在の職場環境で1か月以上の育児休業・介護休業を取得できると思いますか。（○は1つ）

1. 取得できると思う	2. どちらともいえない	3. 取得できるとは思わない
-------------	--------------	----------------

問8 問7で「3. 取得できるとは思わない」と答えた方にお尋ねします。
あなたがそのように思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 職場の理解が得られない	2. まわりの職員の負担が増える
3. 収入が減る	4. 昇進、昇給への影響がある
5. 職場を離れることに不安がある	6. その他（ ）

問9 同僚や部下、上司など、職場の仲間から育児休業や介護休業を取得したいと相談されたとき、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	積極的な取得すべき	どちらかという取得したほうが良い	どちらかという取得せず働いたほうが良い	取得せず働いたほうが良い	わからない
① 男性が取得する場合	1	2	3	4	5
② 女性が取得する場合	1	2	3	4	5

問10 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

	内容も良く知っている	内容は少し知っている	聞いた事はあるが内容は知らない	知らない
① 第3次石垣市男女共同参画計画「いしがきプラン」	1	2	3	4
② 石垣市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
③ 石垣市男女共同参画「広報誌まるごー」	1	2	3	4

問11 あなたの現在の職位をお答えください。（○は1つ）

1. 会計年度任用職員 2. 主任・主事級職員 3. 課長補佐・係長相当職 4. 課長相当職以上
5. その他（1～4以外）

問11で「1. 会計年度任用職員」と「5. その他（1～4以外）」と答えた方は問14へお進みください。

問12 問11で「2. 主任・主事級職員」「3. 課長補佐・係長相当職」「4. 課長相当職以上」と答えた方にお尋ねします。

あなたは、管理職（課長相当職以上）に就きたいですか。（○は1つ）

1. 管理職（課長相当職以上）に就きたい
2. どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたくない
5. 管理職（課長相当職以上）に就きたくない

問13 問12で「4.どちらかといえば管理職（課長相当職以上）に就きたくない」「5.管理職（課長相当職以上）に就きたくない」と答えた方にお尋ねします。
あなたがそのように思う理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 過度な責任を負いたくない | 2. 報酬面でのメリットが少ない |
| 3. 管理職をする自信がない | 4. 今の仕事やポジションに満足している |
| 5. 管理職より、自分の専門性を高めたい | 6. 自分のやりたい仕事ができなくなる |
| 7. 面倒な調整業務などが増えそう | 8. 家族の協力が得られない |
| 9. 仕事と家庭等の両立が難しくなる | 10. その他（ ） |

問14 「第3次石垣市男女共同参画計画」では、市管理職（課長相当職以上）に占める女性の割合を令和7年度までに20%とすることを目標にしています。（令和6年度現在：12.9%）
あなたは、市役所において女性の管理職登用が進んでいない理由はなぜだと思いますか。（〇はいくつでも）

- | |
|--|
| 1. 男性優位の組織運営になっている |
| 2. 性別的役割分担の性差別の意識がある |
| 3. 必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない |
| 4. 女性の能力発揮の機会が不十分 |
| 5. 女性本人が希望しない |
| 6. 将来就く可能性のある女性はいるが、現在役職に就くための在籍年数を満たしている女性がいらない |
| 7. 上司・同僚・部下となる男性が女性管理職を希望しない |
| 8. 上司・同僚・部下となる女性が女性管理職を希望しない |
| 9. 女性職員が少ない |
| 10. その他（ ） |

問15 「第3次石垣市男女共同参画計画」では、審議会等、方針決定の場に占める女性委員の割合を令和7年度までに35%～65%とすることを目標にしています。（令和6年度現在：28.1%）
あなたは、審議会等での女性委員登用が進んでいない理由はなぜだと思いますか。（〇はいくつでも）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 関係団体の女性の人数、割合が低い |
| 2. 関係団体からの女性の推薦が少ない |
| 3. その他（ ） |
| 4. 審議会登用に関わる部署に所属していないためわからない |

ご協力ありがとうございました。

石垣市男女共同参画に関する意識調査 調査結果報告書

発行年：令和8（2026）年3月

発 行：石垣市 市民保健部 平和協働推進課（平和・男女共同係）

〒907-8501 沖縄県石垣市字真栄里 672 番地

TEL 0980 - 82 - 1253（直通）